

肩頸部ニ一箇又ハ數箇ノ凹部ヲ一直線上ニ環繞スヘキ形態ニ於テ設ケラレタリ此ノ如ク圓筒形ノ環頸部ニ直線ノ凹部ヲ繞ラス時ハ其ノ當然ノ結果トシテ半輪形ノ凹部ヲ形成ス之レ被請求人カ原審ニ於テ水平ノ凹部ト云ヘル所以ナリ又甲第二號證ノ物品ハ環頸部ニ斜メニ二條ノ凸條ヲ上方狹窄シテ八字形ニ顯ハシ此ニ球栓ヲ阻止スヘカラシメタルモノニ係リ該凸條ハ環頸部ニ對スル位置ノ關係上本件新案ノ如ク半輪形ノ凹部トナルコトナシ之レ兩者形態ノ著シキ差異ナリトス又本件新案ハ水平半輪形ノ凹部ナルカ故一箇ノ凹部ニテモ尚ホ球栓ヲ阻止シ得ルモ甲第二號證品ハ斜ノ凸條ナルニヨリ常ニ八字形ノ二條ナルコトヲ要ス本件新案品ハ水平ノ凹部ヲ比較的短線トナストキハ阻止ノ目的ヲ遂行シ得サルニ依リ斯ル場合ニハ數箇ヲ設ケ以テ一條ノ長キ半輪形凹部ト同一ナラシメントスルモノニシテ請求人ノ主張スル數箇ノ凹部トハ如斯目的ニ於テ設ケラレタルニ外ナラス要スルニ一ハ曲面ノ水平線上ニ設ケタル半輪形ノ凹部即チ單純ナル段階ニヨリ球栓ヲ阻止シ他ハ二條ノ八字形凹部ノ狹窄部ニ於テ阻止スルモノナルニヨリ兩者ノ形態及ヒ作用全然異ナルモノナリトス又原審決カ英國特許ヲ引證セラレタルハ之レ請求人カ環頸部ノ類似ヲ云爲セルコトニ對シ該環頸部ハ新規特殊ノ形狀ニアラサル所以ヲ例證セラレタルニ過キスシテ其ノ意ハ環頸部カ權利範圍ニ屬セスト判示セラレ結局爭點ニ關シ與ヘラレタル理由ナリト信ス云々ト云フニ在リ

審決ノ理由 本件第一三五〇六號登錄實用新案玉入環ハ其ノ請求範圍ニ依レハ凹入シタル半輪形又ハ數箇ノ凹部ヲ環頸部ニ設ケタル構造トアリ之ヲ圖面ト對照スルニ環頸部ニ添ヒ横ニ半輪形ノ一箇ノ凹部若クハ斷輪形ノ數箇ノ凹部ヲ設ケタル構造ニシテ環頸部ノ凸曲線ニ依リ球栓ヲ阻止スルモノナリ然ルニ被請求人ノ製造販賣スル甲第二號證ノ玉入環ハ肩頸部ニ八字形二條ノ凹入部ヲ設ケタル構造ニシテ八字形凸部ノ狹窄部ニ於テ球栓ヲ阻止ス故ニ二者ノ構造ハ同一若クハ互ニ相類似スルモノト云

フヘカラス請求人ハ玉入環ノ肩頸部ニ設ケタル半輪形又ハ數箇ノ凹部ノ方向又形狀ハ變更スルモ苟モ肩頸部ニ之レト同一考案ヨリ成ル構造ヲ有スルモノハ本件實用新案ノ權利範圍ニ屬スヘキモノナリト主張スルモ本件實用新案ハ環頸部ニ於ケル内方凸起ノ特別ノ構造ニ在ルヲ以テ之ト同一若クハ類似ニアラサル甲第二號證環ノ内方凸起ノ構造ハ同一若クハ類似ノ考案ニ基クモノト云フヘカラス要スルニ被請求人カ製造販賣スル甲第二號證ノ玉入環ハ前段説明セル如ク本件第一三五〇六號登錄實用新案ノ權利範圍ニ屬セサルモノトス其他當事者互ニ相爭フ所アルモ本件審決ニ影響ヲ及ホサルヲ以テ之ヲ説明セス

仍テ主文ノ如ク審決ス
大正二年四月十九日於特許局

審判長 特許局技師工學博士 阪田 貞一
特許局技師 增島 文次郎
特許局事務官 田中 鐵二郎

第三百六十三號

大阪市東區北久太郎町四丁目六十七番地 請求人 和田 末治郎
同 市東區横堀二丁目七十一番屋敷特許辦理士 右代理人 江田 邦太
東京市神田區淡路町一丁目一番地 右複代理人 名合 孟
東京府北豐島郡葉町大字葉町四丁目三番地 被請求人 田島 一號

右當事者間ノ第一九三九七號實用新案(戸車)登録無効審判請求事件ニ付明治四十五年四月八日當局ニ於テ爲シタル審決ニ對シ抗告審判請求ヲ爲シタルニ依リ審決スルコト左ノ如シ

主文 原審決ヲ破毀ス

抗告審判被請求人ノ審判請求ヲ却下ス

審判費用ハ原審及當審共抗告審判被請求人ノ負擔トス

申立ノ要領

當審請求人ハ原審決ヲ破毀シ抗告審判被請求人ノ負擔トス第一九三九七號實用新案登録ハ無効トセス審判費用ハ原審共抗告審判被請求人ノ負擔トストノ審決アリタシト申立テ其理由ノ要領ハ當審被請求人ハ本件審判請求ヲ爲スヲ得ヘキ利害關係人ニアラス甲第六號證ハ後日私人ノ作成シタルモノニシテ信憑スルニ足ラス當審被請求人カ其住所トシテ審判請求書ニ記載シタル場所ハ其住所ニモ其工場ニモアラス又當審被請求人ハ該地ニ於テ營業稅ヲ納メタルコトナシ故ニ當審被請求人カ戸車ヲ製造販賣シタル事實ハ之ヲ認ムルニ由無ク從テ同人ハ本件審判ヲ請求スルヲ得ヘキ利害關係人ニアラス仍テ本件審判請求ハ之ヲ却下スヘキモノナリ原審ニ於ケル證人ノ證言ハ甲第五號證送狀ノ記載ニ反シ信憑スルニ足ラサルヲ以テ本件實用新案登録出願前ニ同一構造ノ戸車ノ公知ニ屬シタルコトハ不明ニ歸シ本件實用新案登録ハ之ヲ無効ト爲スヘキ理由ナシト云フニ在リ

當審被請求人ハ抗告審判請求人ノ申立相立タス抗告審判費用ハ抗告審判請求人ノ負擔トストノ審決アリタシト申立テ其理由ノ要領ハ當審被請求人ノ住所トシテ審判請求書ニ記載シタル場所ハ當審被請求人ノ生活ノ中心タル居所ナルノミナラス此點ハ係争ノ要點ニアラス又營業稅ヲ納メサルコトニ依リテ製造販賣ヲ要サ、ルコトヲ斷定スルヲ得ス故ニ利害關係人ニアラストノ主張ハ當ヲ得ス從テ本件審判請求ヲ却下スヘキ理由ナシ又當審請求人カ證人伊藤常太郎ノ證言中文字ヲ挿入變更シテ之ヲ援用スル

ハ不當ナリ要スルニ原審決ハ正當ニシテ之ヲ破毀スヘキ理由ナシト云フニ在リ

審決ノ理由

當審ニ於テ參考ノ爲メニ訊問シタル證人鈴木富太郎ノ供述ニ依レハ審判請求書ニ當審被請求人ノ住所トシテ記載シアル場所ハ證人ノ製造工場ナルコト明カナリ又同證人ノ供述中證人カ該工場ニ於テ大正元年十一月十五日マテ當審被請求人ニ戸車製造ヲ請負ハシメタルコトアリテ其請負ハシメタリト云ヘルハ證人ヨリ材料及資本ヲ供給シ成品ヲ相當代價ニテ買取り其代價ノ幾分ヲ當審被請求人ニ與ヘ別ニ給料ヲ與ヘサリシヲ謂フト云ヘルニ徵スレハ當審被請求人ハ右工場ニ於テ證人鈴木富太郎ノ業務上ノ使用人トシテ戸車ノ製作ニ從事シタルコトアルニ止マルモノト認ムヘキノミナラス尙同證人ノ供述ニ依レハ當審被請求人カ大正元年十二月四日以後ニハ戸車ノ製造販賣ニ關スル業務ニ關係セルヤ否ヤサヘ之ヲ認ムルニ由ナキヲ以テ當審被請求人ハ本件第一九三九七號戸車實用新案ノ登録ヲ無効ト爲ス爲メ審判ヲ請求スルヲ得ヘキ利害關係ヲ有スル者ナリト認メ難シ從テ本件審判請求ハ特許法第六十九條第二項ニ基キ之ヲ却下スヘキモノトス

仍テ主文ノ如ク審決ス

大正二年五月十三日於特許局

審判長 特許局技師工學博士 阪田貞一
特許局技師 増島文次郎
特許局事務官 田中鐵二郎

第四百六十二號

* 二十六

大阪市南區末吉橋通三丁目三十五番地	請求人	平野吉次郎
同 市西區江戸堀南通四丁目十番地特許辨理士	右代理人	阿部直藏
同 市東區北久寶寺町四丁目二十八番地	被請求人	伊藤留吉
同 市南區安堂寺橋通四丁目七番地	同	池田辰吉
同 市東區北久太郎町四丁目二十三番地	同	米谷福松
同 市東區博勢町四丁目八十番屋敷	同	米谷新兵衛
同 市東區淡路町一丁目二十四番地特許辨理士	右四名代理人	佐々木高吉

右當事者間ノ第二三三三號實用新案(倭羅紗鼻緒)登録無効審判請求事件ニ付キ大正元年十二月十二日當局ニ於テ爲シタル審決ニ對シ抗告審判請求ヲ爲シタルニ依リ審決スルコト左ノ如シ

主文 抗告審判請求人申立相立タス

抗告審判費用ハ抗告審判請求人ノ負擔トス

申立ノ要領 抗告審判請求人申立ノ要領ハ原審決ヲ破毀ス抗告審判被請求人ノ申立相立タス原審及ヒ當審ノ審判費用ハ抗告審判被請求人ノ負擔トストノ審決ヲ求ム其ノ理由ハ原審ニ於ケル請求人申立ノ全部ヲ援用シ尙第二三三三號ノ倭羅紗ハ其ノ未タ鼻緒ニ構成セサル前ニ於テ既ニ全然之レト其ノ構造ヲ異ニセル「ネル」地ノ毛ヲ梳毛シテ伏倒シ適宜ノ膠着資料ヲ塗着シ糊層ヲ其ノ面ニ生セシメタル一枚ノモノナレハ其ノ登録請求範圍ノ構造カ偶々第一三九七九號實用新案ノ使用法説明ト符合スル所アルモ之ヲ以テ其ノ考案ハ容易ニ應用スルコトヲ得ル程度ニ刊行物ニ記載セラレタルモノト云フヲ得ス第

二三三三號實用新案ハ第一三九七九號實用新案ノ使用法説明ニ依リ容易ニ應用シ得ヘキ考案ナリト爲ス者ハ重複ヲ以テ鼻緒ト爲スコトヲ知ラハ單一ヲ以テ鼻緒トナスコトヲ知ルハ容易ナリト爲スモノノ如シ此ノ見解ハ綿布ヲ以テ鼻緒トナスコトヲ知ラハ皮革類ヲ以テ鼻緒トナスコトヲ知ルハ容易ナリト爲スニ均シクシテ正當ナル解釋ト云フヲ得ス云々ト云フニ在リ

抗告審判被請求人申立ノ要領ハ請求人申立相立タス抗告審判費用ハ請求人ノ負擔トストノ審決ヲ求ム其ノ理由ハ第二三三三號實用新案「ネル」地ノ毛ヲ倒シ之レニ膠着料ヲ塗布シテ糊層ヲ其ノ表面ニ生セシメタル地質ヲ以テ鼻緒トナシタル構造ニアリテ其ノ地質ハ第一三九七九號ノ倭羅紗ノ裏打ナキモノト同一ニシテ其ノ裏打アルモノヲ裏打ナキモノニ變改シタル點カ格段ノ思索ヲ要シタル考案トナスニアレハ必スヤ之カ説明ヲ第二三三三號實用新案ノ説明中ニ記載シアルヘキナリ夫レニ關スル説明ノ記載ナク單ニ「ネル」地ノ毛ヲ倒シテ膠着料ヲ塗布シテ糊層ヲ表面ニ生セシメタル地質ヲ鼻緒ニ使用スル點ヲ其ノ鼻緒ノ考案ナリトシ記載スルニ止マルヨリ見ルモノ一枚トナスコトカ格段ノ思索ヲ要セサルヤ明ナリ云々ト云フニ在リ

審決ノ理由 第一三九七九號登録實用新案倭羅紗ハ綿布ノ一面ヲ起毛シ其ノ裏面ニ他ノ綿布ヲ糊着シ起毛面ニハ糊料ヲ塗リ毛ヲ倒シ毛膜ヲ生セシメタルモノニシテ主トシテ鼻緒地ニ使用シ又第二三三三號登録實用新案倭羅紗鼻緒ハ一枚ノ「ネル」地ニ生セル毛ヲ梳毛シテ伏倒シ膠着資料ヲ塗リタル構造ナルコトハ共ニ其ノ登録請求範圍及ヒ圖面ノ説明ニ依リ明ナリ此ノ二者ノ地質ノ構造ヲ對比スルニ織布ノ一面ヲ起毛シ糊料ヲ用キテ毛ヲ一方ニ伏倒セシメタルコトハ共ニ同一ナリ第二三三三號實用新案ニ於テハ織布ニ裏打ヲ施サル、ノ相異アルモ斯ル相異ハ第一三九七九號實用新案ノ圖面及ヒ其ノ説明ニ依リ何人モ容易ニ考案シ得ルヲ以テ二者互ニ相類似スルモノト云ハサルヘカラス又第一三九七九號

* 二十七

實用新案ノ物品ハ擬羅紗ナルモ其ノ圖面ノ説明ニ依レハ本品ハ主トシテ鼻緒地ニ使用スト記載アルヲ以テ此ノ資料ヲ用キテ鼻緒ヲ製作スルコトハ何人モ容易ニ爲シ得ル所ナリ而シテ第二三三三三號登録實用新案ハ明治四十四年十一月二十五日ノ出願ニ係ルヲ以テ其ノ登録出願前帝國內ニ頒布セラレタル明治四十二年七月二十六日發行ノ實用新案公報掲載ノ第一三九七九號登録實用新案ニ容易ニ應用スルコトヲ得ル程度ニ記載セラレタル物品ト其ノ構造互ニ相類似スルモノニシテ實用新案法第三條第二號ニ該當シ同法第一條及ヒ第十一條ニ依リ其ノ登録ハ無効トスヘキモノナリ
仍テ主文ノ如ク審決ス

大正二年五月十三日於特許局

審判長 特許局技師工學博士 大竹多氣
特許局技師 增島文次郎
特許局事務官 田中鐵二郎

第四百六十三號

東京市本郷區本郷四丁目二十八番地 請求人 大正起業株式會社
同 市日本橋區吳服町二番地特許辦理士 右代理人 杉田金之助
大阪市西區薩摩堀東ノ町十七番地 被請求人 播木彦太郎
同 市西區江戸堀南通四丁目十番地特許辦理士 右代理人 阿部直藏
右當事者間ノ第一七九三三號實用新案(自動廣告器)權利確認審判請求事件ニ付大正元年十一月二十五日

當局ニ於テ爲シタル審決ニ對シ抗告審判請求ヲ爲シタルニ依リ審決スルコト左ノ如シ

主文 抗告審判請求人申立相立タス

抗告審判費用ハ抗告審判請求人ノ負擔トス

申立ノ要領 抗告審判請求人申立ノ要領ハ原審決ヲ破毀ス抗告被請求人申立相立タス審判費用ハ原審及

ヒ抗告審トモ抗告被請求人ノ負擔トストノ審決ヲ求ム其ノ理由ハ甲第一號證ノ看板カ本件登録新案ニ類似スル以上ハ前者カ後者ノ權利範圍ニ屬セスト云フヲ得ス又本件實用新案ト甲第一號證ノ廣告板ト異ナル點ハ補佐廣告板ノ有無ニアルモ該板ハ主要部ト結合ノ作用ヲナス斯ル部分ノ有無ニ依リ二者ノ考案ヲ異別ナリト云フヲ得ス云々ト云フニ在リ

抗告審判被請求人申立ノ要領ハ抗告ヲ棄却ス抗告審判費用ハ抗告審判請求人ノ負擔トストノ審決ヲ求ム其ノ理由ハ第一七九三三號實用新案ノ權利範圍ハ其ノ登録請求範圍ニ記載セラレタル特殊ノ構造ニ限定セラレタルモノニシテ之ト構造ヲ異ニスルモノハ權利範圍ニ屬セス云々ト云フニ在リ

審決ノ理由 本件第一七九三三號登録實用新案自働廣告器ハ其ノ登録請求範圍ヲ見ルニ圖面ニ示セル自働廣告器ノ構造トアリ其ノ圖面ノ説明ニ依レハ本件廣告器ハ縱杆(イ)ニ螺着セル第一橫杆(ロ)ノ一端ニ梓

(ハ)ヲ装着シ其ノ内ニ小球(ニ)ヲ駢列シ又縱杆(イ)ノ下方ニ第二橫杆(ホ)ヲ螺着シ其ノ一端ニ梓(ヘ)ヲ装着シ其ノ内ニ螺旋銀ノ頭部(ト)ヲ露出シ螺旋杆(ヌ)及ヒ(ル)ニ依リ上下ノ橫杆及ヒ梓(ハ)トニ接合シタル接續通孔ヲ有スル三枚ノ巴形廣告揭示板ト其ノ下部ニ設ケタル補佐廣告板(カ)トヨリ成リ補佐廣告板ハ廣告ノ主要部分ヲ摘載シ又ハ廣告ノ不備ヲ追加スル補充掲載ヲ爲スモノトアリ而シテ補佐廣告板ヲ除キタル部分カ本件登録出願ノ日タル明治四十三年六月二十二日前ヨリ普通ニ知ラル、コトハ顯著ナル事實ナルカ故ニ此部分ヲ新規ナル實用新案ナリトシテ登録シタルモノニアラスト認ム從テ本件實用新案ノ權

利ハ此部分ト補佐廣告板トノ組合ニ存在スルモノニシテ其各部分ニ權利ノ存在スルモノニアラス然ルニ被請求人ノ製造販賣スル甲第一號證ノ看板ハ軸①ヲ支杆②ノ孔ニ嵌入セル三枚ノ巴形自働廣告器ヨリ成ルモノニシテ補佐板ヲ缺如シ廣告ノ補充的掲載ヲ爲スコト能ハス二者此點ニ於テ其考案ヲ異ニシ互ニ相類似スルモノト云フヘカラス從テ甲第一號證ノ看板ハ第一七九三二號登錄實用新案ノ權利範圍ニ屬セス其ノ他當事者間互ニ相争フ所アルモ本件審決ニ影響ヲ及ホササルヲ以テ之ヲ説明セス仍テ主文ノ如ク審決ス

大正二年六月三十日於特許局

審判長 特許局事務官 村上隆吉
特許局技師 增島文次郎
特許局事務官 田中鐵二郎

第四百五號

東京市日本橋區通一丁目十三番地 請求人 田川柳助
同 市京橋區木挽町十丁目八番地特許辦理士 右代理人 乙部俊次
同 市日本橋區小傳馬土町十五番地 被請求人 小倉繁次
同 市京橋區彌左衛門町十五番地特許辦理士 右代理人 佐々木藤市郎
右當事者間ノ第二〇五七三號實用新案(廻轉式螺旋狀陳列裝置)登錄無效審判請求事件ニ付明治四十五年六月三日當局ニ於テ爲シタル審決ニ對シ抗告審判請求ヲ爲シタルニ依リ審決スルコト左ノ如シ

主文 請求人ノ申立相立タス

抗告審判費用ハ請求人ノ負擔トス

申立ノ要領 請求人ハ原審決ヲ廢棄シ第二〇五七三號實用新案登錄ヲ無効トス審判及抗告審判費用ハ被請求人ノ負擔トストノ審決アリタシト申立テ其理由ノ要領ハ原審決ニ於テ被請求人ノ申請ニ係ル證人ノ證言ノミニ付テ審案セラレ被請求人ノ提出シタル甲號各證及請求人ノ申請ニ係ル證人ノ證言ニ付テ審案セラレサリシハ遺憾ナリ被請求人ノ申請ニ係ル證人ハ被請求人ノ職工、出入人別ハ營業上ノ關係人ニシテ被請求人ノ爲メニ構言シタルノ形跡アリ甲號各證及請求人ノ申請ニ係ル證人ノ證言ヲ審案セラレ、ニ於テハ本件登錄實用新案カ請求人ノ考案ニ係ルモノニシテ被請求人カ之ヲ冒認シタルノ事實ヲ發見シ得ヘキモノナリト信スト云フニ在リ

被請求人ハ請求人ノ申立相立タス審判費用ハ請求人ノ負擔トストノ審決アリタシト申立テ其理由ノ要領ハ請求人ノ申請ニ係ル證人高野復一、恒川常吉ノ證言ニ徵スルモ白木屋吳服店ニ備付ケタル商品下降器ノ作成ニ關シ明治四十三年十月中證人山崎巳之吉カ其製作ニ干與シ小倉繁次カ金具ノ製作及取付ヲ爲シタル事實ヲ證明スルヲ得ヘクシテ被請求人カ本件實用新案ノ考案ヲ誘致スルニ足ルヘキ經驗ヲ有セリト認ムヘキ理由アリ又請求人ハ明治四十四年二月下旬ニ本件實用新案ノ考案ヲ被請求人ニ説明シ其模型ノ製作ヲ依頼シタリト主張スルモ此點ニ關スル請求人ノ唯一ノ立證タル證人河合和三郎ノ證言ニ徵スルモ如何ナル圖面ヲ示シテ如何ナル考案ヲ授ケタルヤノ證言ナク如何ナル圖面ヲ以テ小倉ニ注文シタルヤノ記憶ヲモ存セサル旨證言セルニ依ルモ當時請求人カ考案ヲ完成シ居ラサリシコト明カナリト云フニ在リ

審決ノ理由 甲第二號證〔葉書〕及甲第三號證〔見積書〕ニ依レハ請求人カ明治四十四年三月七日又ハ其以

前ニ本件登録第二〇五七三號實用新案回轉螺旋狀陳列裝置ト構造ヲ同フスル陳列棚ノ模型ノ製作ヲ被
 請求人ニ依頼シタル事實ヲ認ムルヲ得ルト雖被請求人ノ抗辯セル如ク製作依頼者カ被依頼者ヨリ物品
 ノ構造ノ考案ヲ聽取シタル上其物品ノ製作ヲ依頼スル事實ハ有リ得ヘキ事柄ナルヲ以テ製作依頼ノ際
 若ハ其以前ニ於テ依頼者ヨリ物品ノ構造ノ考案ヲ示シタル事實ヲ認ムルニ足ルヘキ證據アルニアラサ
 ル限リハ製作依頼品ノ構造ハ被依頼者ノ考案ニアラスト謂フコトヲ得ヌ甲第二號證ニハ本件登録實用
 新案ノ略圖及其説明ノ記載アリト雖該葉書ノ文面ニ依レハ其記載ハ被請求人ニ模型ノ製作ヲ依頼シタ
 ル後ニ係レルコト明カナルヲ以テ製作依頼前ヨリ請求人カ本件陳列棚ノ構造ノ考案ヲ有シタリシコト
 ヲ該葉書ニ依リテ認ムルコトヲ得ヌ林秀次郎ノ證言ニ依レハ請求人カ前示製作依頼前ヨリ回轉螺旋陳
 列棚ノ考案ヲ成サント欲シテ苦心ヲ爲シタル事實ハ之ヲ認ムルヲ得レトモ製作依頼前ニ請求人カ考案
 ヲ成シタルコトハ右證言ニ依リテハ之ヲ認ムルヲ得ヌ又證人河合和三郎ハ明治四十四年二月中請求人
 ノ代理人ト爲リテ被請求人ニ回轉螺旋狀陳列棚ノ模型ノ製作ヲ依頼シタル旨竝ニ右依頼ノ際其陳列棚
 ノ圖面ヲ被請求人ニ示シタル旨ヲ供述セリト雖原審ニ於テ訊問ヲ受クルノ際圖面ヲ示サレ被請求人ニ
 示シタル圖面カ其様ノモノナリシヤ否ヤ確カト覺ヘスト供述セルヲ以テ同證人ノ證言ニ依リテハ請求
 人若ハ同證人カ右模型製作依頼ノ前若ハ同證人カ右模型製作依頼ノ前若ハ其際ニ被請求人ニ回轉螺旋
 狀陳列棚ノ考案ヲ示シタルコトハ之ヲ認メ難シ證人相川太治郎ハ明治四十四年一月下旬ニ請求人ノ宅
 ニ於テ回轉螺旋狀陳列棚ノ考案ヲ請求人ヨリ聽キ同年二月下旬ニ其考案品ノ模型ヲ見タリト供述セリ
 ト雖甲第五號證ノ一ニ依レハ請求人カ回轉螺旋狀陳列棚ノ實用新案登録ヲ出願シタルニ對シ被請求人
 ノ先願ニ係ル本件實用新案登録ノ存在セル旨特許局ヨリ請求人ニ通知アリタルハ明治四十四年七月十
 一日ナルニ右證人ノ證言中請求人ノ實用新案登録願カ先願者アリタル爲メ拒絕セラレタルコトヲ同年

四月ノ中頃ニ請求人ヨリ聽キタル旨ノ供述アルニ徴スレハ年月ニ關スル證人ノ證言ハ之ヲ信シ難シ又
 以上ノ證據書類證人ノ證言竝ニ證人高野復一ノ證言及甲第四號證以下ノ甲號各證ヲ綜合スルモ請求人
 又ハ其代理人カ前示模型製作依頼前若ハ依頼ノ際ニ回轉螺旋狀陳列棚ノ構造ノ考案ヲ被請求人ニ示シ
 タルコトヲ認ムルニ足ラス從テ其考案ヲ被請求人ノ考案ニアラスト謂フコトヲ得ヌ而シテ本件登録實
 用新案ハ前示模型製作依頼ノ回轉螺旋狀陳列棚ト同一ナルカ故ニ被請求人カ請求人ノ考案ヲ冒認シタ
 リトノ理由ニ因リ其登録ヲ無効ト爲サント求ムルハ當ヲ得ヌ
 仍テ主文ノ如ク審決ス

大正二年七月一日於特許局

審判長 特許局技師工學博士 阪田 貞一
 特許局事務官 村上 隆吉
 同 田中 鐵二郎

第三百三十二號

大阪市南區日本橋筋東一丁目三千四十一番地	請求人	柳川 卯之松
同 市東區北濱五丁目六十三番屋敷特許辨理士	右代理人	淺村 三郎
同 市東區北濱五丁目六十三番屋敷特許辨理士	同	平岩 義一
同 市東區北濱五丁目六十三番屋敷特許辨理士	同	藤江 政太郎
同 市西區阿波座二番丁百九十五番屋敷	被請求人	川村 德藏

右當事者間ノ第一四〇二六號實用新案(無孔珠製造機械)登録無効審判請求事件ニ付明治四十五年一月二十三日當局ニ於テ爲シタル審決ニ對シ抗告審判請求ヲ爲シタルニ依リ審決スルコト左ノ如シ
主文 原審決ヲ廢棄ス

實用新案第一四〇二六號登録ヲ無効トス

審判費用ハ原審及抗告審共被請求人ノ負擔トス

申立ノ要領 請求人ノ原審決ヲ破毀ス第一四〇二六號實用新案登録ヲ無効トス審判及抗告審判費用ハ被

請求人ノ負擔トストノ審決アリタシト申立テ其理由ノ要領ハ本件登録實用新案ハ被請求人ノ考案シタルモノニアラス其登録出願前ヨリ公知公用ニ屬シタルモノナリ特ニ江名福松カ本件登録出願前本件無孔珠製造機械ヲ其工場ニ於テ製作シ之ヲ被請求人ニ賣渡シタル事實アリ被請求人ハ江名福松ヨリ買入レタル機械ヲ自ラ考案シタルモノ、如ク裝ヒ以テ本件登録ヲ受ケタルモノナリ又本件登録實用新案機械ト均等ナル機械カ本件登録出願前ヨリ公知公用ニ屬シタル事實アリト云フニ在リテ證人小西菊太郎、宮下友吉、田村善吉、九鬼友二郎及江名十三郎ノ證言ヲ援用セリ

被請求人ハ抗告審判請求ヲ棄却ストノ審決アリタシト申立テ其理由ノ要領ハ本件登録實用新案機械ハ被請求人カ十數年來苦心ノ結果考案シ其製作ヲ江名鐵工所主江名福松ニ依頼シタルモノニシテ登録出願前ヨリ公知公用ニ屬シタルモノニアラスト云フニ在リテ證人小西菊太郎、宮下友吉及江名福松ノ證言ヲ援用セリ

審決ノ理由 被請求人カ江名福松ヨリ同人ノ製作ニ係ル無孔珠製造機械ノ引渡ヲ受ケタルコト及其機械

カ本件第一四〇二六號實用新案機械ト同一構造ノモノナリシコトハ被請求人ノ認ムル所ニシテ其引渡カ明治三十七年八月頃ナリシコトハ證人江名十三郎ノ證言中其旨ノ供述アルニ依リ之ヲ認ム而シテ

請求人ハ右引渡機械ハ被請求人ノ考案シタルモノニアラスト主張シ被請求人ハ右引渡ヲ受ケタル機械ハ被請求人カ苦心考案ノ上其製作ヲ江名福松ニ依頼シタルモノナリト抗辯セルヲ以テ此爭點ニ付案スルニ證人江名十三郎ノ證言中明治三十五年頃被請求人カ貝釦ノ珠ヲ證人ノ父江名福松ノ鐵工所ニ持參シ之ヲ製造スル器械ヲ拵ヘ吳レト依頼シ福松カ之ヲ受諾シ甲第一號證圖面及説明書ニ示セル構造ノ機械ヲ製作シタル上明治三十七年八月頃之ヲ被請求人ニ引渡シタル旨ノ供述及其機械ハ江名福松ノ考案シタルモノニシテ被請求人ノ考案シタルモノニアラサル旨ノ供述アルト甲第一號證圖面及説明書ニ示セル機械ノ構造ト本件登録實用新案ノ圖面及説明ニ示セル機械ノ構造トカ對照上全ク同一ナルトニ依レハ被請求人カ江名福松ヨリ引渡ヲ受ケタル機械ハ被請求人ノ考案シタルモノニアラスト認メサルヲ得ス本件登録實用新案ハ右機械ノ引渡ヲ受ケタル後明治四十二年五月三十一日ニ其登録ヲ出願シタルモノナルカ故ニ被請求人カ自己ノ考案ニアラサルモノヲ自己ノ考案ナリトシテ實用新案登録ヲ出願シタルモノト認ムルヲ至當トス證人江名福松ノ證言中被請求人ノ援用スル第一項ノ供述ニ依リテハ江名福松カ被請求人ノ注文ニ依リ甲第一號證圖面及説明書ニ示セル構造ノ機械ヲ製作シ之ヲ被請求人ニ引渡シタルコトヲ認ムルヲ得レトモ其機械カ被請求人ノ考案ニアラストノ前示ノ認定ヲ覆ヘスニ足ラス被請求人ノ援用スル證人小西菊太郎及宮下友吉ハ甲第一號證ニ示セル如キ無孔珠製造機械ハ被請求人カ新規考案シタルモノナリヤ否ヤヲ知ラスト供述セルヲ以テ此等ノ證言モ亦以テ右機械カ被請求人ノ考案ニアラストノ前示ノ認定ヲ覆ヘスニ足ラス故ニ本件實用新案登録ハ實用新案法第一條ニ違反シ同法第十一條ニ依リ之ヲ無効ト爲スヘキモノトス
仍テ主文ノ如ク審決ス

大正二年七月七日於特許局

審判長 特許局技師工學博士 阪田 貞一
 特許局事務官 村上 隆吉
 同 田中 鐵二郎

第三百八十二號

岡山縣都窪郡中庄村大字鳥羽九百四十番地	請求人	八木 登揚
廣島市三川町八番地特許辨理士	右代理人	森保助三郎
廣島縣御調郡美ノ郷村三成千二百六十九番地	被請求人	武内 寅吉
同 縣御調郡實村字木原千九百四十四番地	同	天野 國松
同 縣御調郡栗原村五百五十五番屋敷	同	土屋 耕作
大阪市東區北濱五丁目六十三番屋敷特許辨理士	右代理人	淺村 三郎
同 市東區北濱五丁目六十三番屋敷特許辨理士	同	平岩 義一

右當事者間ノ第一五五八〇號實用新案(筵織機經絲緊張裝置)登録無効審判請求事件ニ付明治四十五年五月六日當局ニ於テ爲シタル審決ニ對シ抗告審判請求ヲ爲シタルニ依リ審決スルコト左ノ如シ

主文 抗告審判請求人ノ申立相立タス

抗告審判費用ハ抗告審判請求人ノ負擔トス

申立ノ要領 當審請求人ハ原審決ヲ廢棄シ抗告審判被請求人ノ請求ヲ却下ス審判費用ハ抗告審判被請求人ノ負擔トストノ審決アリタシト申立テ其理由ノ要領ハ當審被請求人等ハ本件ノ審判請求ヲ爲スヘキ

利害關係ヲ有セサルモノナリ假リニ之ヲ有セリトスルモ第一五五八〇號登録實用新案筵織機經絲緊張裝置ハ當審請求人カ登録ヲ受ケタル當時ニハ何人モ之ヲ用フルモノナカリシモノナリト云フニ在リ
 當審被請求人ハ抗告審判請求人ノ申立相立タス抗告審判費用ハ抗告審判請求人ノ負擔トストノ審決アリタシト申立テ其理由ノ要領ハ當審被請求人等ハ本件實用新案ト同一ナル裝置ヲ使用スルモノナルヲ以テ本件審判請求ヲ爲スヘキ利害關係ヲ有ス而シテ本件登録實用新案ハ其出願前ニ於テ廣島縣下ニ公用セラレタルモノナルヲ以テ實用新案法第三條第一號ニ該當シ其登録ハ同法第一條ニ違反シ同法第十條ニ依リ無効ト爲スヘキモノナリト云フニ在リ

審決ノ理由 證人横須芳太郎訊問調書ニ依レハ甲第二十一號證ノ圖面〔訊問ノ際證人ニ示シタル圖面ト同シ〕ニ示セル經絲緊張裝置ヲ有スル筵織機ヲ當審被請求人天野國松カ明治三十九年八月多田末吉ヨリ買受ケ爾來自宅ニ於テ之ヲ使用シ證人カ屢々之ヲ實見シタル事實ヲ認ムルヲ得ス又證人奥原生松訊問調書ニ依レハ甲第二十五號證ノ圖面〔訊問ノ際證人ニ示シタル圖面ト相同シ〕ニ示セル經絲緊張裝置ヲ有スル筵織機ヲ當審被請求人武内寅吉カ明治四十一年三月中葛原兼次郎ヨリ買受ケ爾來自宅ニ於テ之ヲ使用シ證人カ屢々之ヲ實見シタル事實ヲ認ムルヲ得而シテ甲第二十一號證ノ圖面ト本件第一五五八〇號登録實用新案ノ圖面トハ全然符合シ又甲第二十五號證ノ圖面ヲ本件登録實用新案ノ圖面ニ對照スルニ鐵杆〔前者ノ(ロ)ニ及(ロ)ニ後者ノ(4)ニ於ケル螺旋ノ位置ヲ異ニセルニ止マリ兩者同一ナル經絲緊張裝置ヲ示セリ故ニ當審被請求人天野國松及武内寅吉カ本件實用新案登録ヲ無効トスルコトニ付利害關係ヲ有スルコト勿論ニシテ本件登録實用新案カ其出願ノ日タル明治四十二年十月四日ヨリ公然用ヒラレタル經絲緊張裝置ト同一ナルコトモ亦明カナリ從テ本件實用新案ハ實用新案法第三條第一號ニ該當スルヲ以テ其登録ハ同法第一條ニ違反シ同法第十一條ニ依リ之ヲ無効ト爲スヘキモノトス又證人

小林米吉訊問調書ニ依レハ甲第二十二號證ノ圖面〔訊問ノ際證人ニ示シタル圖面ト同シ〕ニ示セル經絲
緊張裝置ヲ有スル筵織機ヲ當審被請求人土屋耕作カ明治四十年九月買受ケタルコトヲ認メ得ヘキカ故
ニ同人モ亦本件審判請求ヲ爲スヘキ利害關係スルモノトス
仍テ主文ノ如ク審決ス

大正二年七月七日於特許局

審判長 特許局技師工學博士 阪田 貞一
特許局事務官 村上 隆吉
同 田中 鐵二郎

第二百九十七號

京都市下京區新橋通大和路東へ入二丁目橋本町九番戶 請 求 人 吉澤 與三郎
同 市上京區下立賣通小川西入西大路町百三十八番地 右 代 理 人 岡田 信次郎
特許辨理士 同 市上京區柳馬場通二條南入特許辨理士 同 三浦 倫吉
大阪市東區南久寶寺町二丁目四十番屋敷 被 請 求 人 植實 源次郎
同 市東區南久寶寺町一丁目四十一番地 同 富田 丑松
同 市北區眞砂町二十九番地特許辨理士 右兩名代理人 奥 戶 善之助
右當事者間ノ第六四七五號實用新案(ライトリボン)權利確認審判請求事件ニ付明治四十五年四月十八日

當局ニ於テ爲シタル審決ニ對シ大審院ニ於テ破毀差戻ノ判決アリタルニ依リ審決スルコト左ノ如シ
主文 原審決ヲ廢棄ス

甲第一號證「リボン」ハ第六四七五號登錄實用新案權ノ範圍ニ屬ス
審判費用抗告審判費用及上告費用ハ被請求人ノ負擔トス
申立ノ要領 請求人ハ原審決ヲ廢棄ス甲第一號證「リボン」ハ第六四七五號登錄實用新案權ノ範圍ニ屬ス
審判費用ハ原審及當審共被請求人ノ負擔トストノ審決アリタシト申立テ其理由ノ要領ハ實用新案ノ登
録ヲ受クルコトヲ得ヘキモノハ物品ノ形狀構造又ハ組合ニシテ染模様ナルモノハ形狀構造組合セニ關
係ナキモノナリ而シテ本件「ライトリボン」ノ登錄請求範圍ハ圖面ニ示セル「ライトリボン」ノ構造ト記
載シアリテ構造ノ新規トスル要部ハ「リボン」地ニ金銀其他ノ色ヲナセル金屬小片及貝片ヲ糊着シタル
モノニ外ナラス假令圖面及說明中ニ偶々染模様ナル文字カ記載シアルモ登錄請求範圍ニ記載ナク且之
ヲ登錄請求範圍中ニ記載シタリトスルモ法律上登錄請求範圍トスヘカラサル事項ニシテ法律上無効ノ
事項ナリ從テ「リボン」地ニ染模様ノ存スルト否トニ拘ラス苟モ絹布綿布ノ「リボン」地ニ金銀其他ノ金
屬小片及貝片等總テ有光質ノ小片ヲ糊着シテ種々ノ模様ヲ施ス方法ノ如キハ本新案ノ權利ノ範圍ニ屬
スルモノト謂ハサルヲ得ス本實用新案權ヲ獲得シタル當時ハ未タ「リボン」地ニ金銀其他ノ色ヲナセル
金屬小片及貝片ヲ糊着シテ裝飾セルモノハ絶エテ存在セザリシモノナリ若シ出願當時ヨリ前記ノ方
法カ既ニ公知公用ノモノトシテ存在セハ單ニ染模様ノ縁ニ有光粉ノ裝飾ヲ施スノミノ特色ヲ以テシテ
ハ實用アル新規ノ考案トシテ登錄セラル、ニ足ラス本新案ノ特色ハ「ライトリボン」ノ構造ニ存シ染模
樣ノ縁云々ハ單ニ圖面ノ說明ニ止マリ登錄請求ノ範圍ニ關係ナキモノナリ故ニ被請求人等カ製造シタ
ル甲第一號證ノ「リボン」ハ實用新案第六四七五號「ライトリボン」ノ權利範圍ニ屬スルモノナリト云フ

ニ在リ

被請求人ハ請求人ノ申立相立タス審判費用ハ請求人ノ負擔トストノ審決アリタシト申立テ其理由ノ要領ハ第六四七五號登録實用新案ニ付曩ニ被請求人ヨリ請求人ニ對シ權利範圍確認審判ヲ請求シテ勝訴シ〔審判第一六四三號抗告審判第五七號〕本件ハ之ト全ク内容ヲ同フスルモノナリ又第六四七五號登録實用新案權ハ「リボン」地ニ染模様ヲ施スコト及其染模様ノ縁ニ金屬小片又ハ貝片ヲ糊着スルコトニ在リ故ニ甲第一號證ノ如ク染模様ナキ無地ノ「リボン」ニ「ダイヤ」粉ヲ散布シテ或種ノ形狀ヲ現ハスモノトハ構造ニ於テ差異アリ而カモ染模様ナキ無地ノ布帛ニ金屬又ハ貝類ノ粉末ヲ糊着シテ模様ヲ現ハスコトハ從來各種ノ織物又ハ髮掛「リボン」等ニ廣ク用ヒラレタル所ナレハ該實用新案ノ主眼ハ「リボン」地ニ金屬小片又ハ貝片ヲ糊着シテ模様ヲ現出スル點ニ在ラスシテ染模様ト染模様ノ縁ニ金屬貝類ヲ糊着シテ裝飾スル點ニ在リ故ニ甲第一號證ハ本件權利ノ範圍ニ屬セス又模様自體カ新規ナルニアラスシテ之ヲ或物品ニ應用シ其模様ヲ基礎トシテ或加工ヲ爲シタル場合ニハ模様ハ實用新案ノ一部ヲ構成スルコトヲ得ルモノナリ又染模様ノ縁カ單ニ「リボン」ニ金屬粉ヲ糊着スヘキ位地ヲ示ス爲メノモノナリトスレハ何ノ爲メニ特ニ縁ナル文字ヲ用ヒタルヤ全然金屬粉ヲ以テ模様ヲ蔽ヒタル場合ノ如キハ染模様ハ何ノ用ヲカ爲スヘキ墨ヲ以テ下繪ヲ畫クモ可ナリ形紙ノ類ヲ以テ糊ヲ布クモ結果ハ同シ然ルニ特ニ染模様ノ縁ト云フハ其染模様ヲ「リボン」ニ存シテ金屬貝片ヲ其縁ニ糊着シテ裝飾スルカ故ナリ然ラサレハ染模様ナル文字ハ無意味ト爲ルヘシ又登録請求範圍ニ記載ナキ事項ヲ圖面ニ記載シ若ハ圖面ノ說明中ニ加フルモ之カ爲メニ權利範圍ヲ擴大スルノ效ナキコトハ勿論ナレトモ本件登録請求範圍ハ圖面ニ示セル「ライトリボン」ノ構造トアリテ其圖面ニ示セル構造ハ圖面ノ說明ト相俟テ始メテ知ルヲ得ヘク此場合ニ於テハ圖面ノ說明ハ即チ登録請求範圍ヲ説明スルモノナリト云フニ在リ

審決ノ理由

本件第六四七五號登録實用新案ハ「リボン」地ニ金屬其他ノ金屬ノ小片及貝殼ノ小片等ノ光澤アル物質ヲ糊着シテ裝飾ヲ爲シ其糊着ヲ染模様ノ縁ナル位地ニ於テシタル「リボン」ノ構造ノ考案ナルコト登録請求範圍ノ記載圖面及其說明ニ依リ明ナリ而シテ本件甲第一號證ハ染模様ナキ「リボン」地ニ形紙ヲ用ヒテ糊ヲ置キ「ダイヤ」粉ト稱スル光澤物質ヲ糊着シテ模様ヲ現ハシタルモノニシテ之ヲ本件登録實用新案ニ比スルニ染模様ナキ「リボン」地ヲ用ヒテ從テ光澤物質ヲ糊着ヲ染模様ノ縁ニ於テセサルノ點ニ於テ差異アリ然レトモ甲第一號證ニ於ケルカ如ク「リボン」地ニ光澤物質ヲ糊着シテ模様ヲ現ハス考案ハ本件登録實用新案ニ於テ既ニ登録請求範圍ヲ示セル圖面ニ記載セラル、所ナルノミナラス甲第一號證「リボン」ニ於テハ此以外何等ノ考案ヲ附加シタルモノニアラス從テ甲第一號證「リボン」ハ本件第六四七五號登録實用新案ト此點ニ於テ考案及構造ヲ同フシ該實用新案權ノ範圍ニ屬スルモノトス請求人ハ無地ノ布帛ニ金屬貝類等ノ光澤物質ヲ糊着シテ模様ヲ現ハスコトハ從來各種ノ織物又ハ髮掛「リボン」等ニ用ヒラレタル所ニシテ本件登録實用新案ハ從來廣ク行ハレタルコト即チ布帛ニ光澤物質ヲ糊着スルコトヲ染模様ノ縁ニ應用シタル點ノミノ考案ナリト主張シ從テ本件登録實用新案權ハ此點ノミニ付テ存在スルモノ、如ク論セリト雖モ該新案ハ此點ノミヲ登録請求範圍ト爲シタルモノト認メ難キノミナラス布帛ニ光澤アル物質ヲ糊着スルコトカ本件登録出願ノ日タル明治四十年三月十七日以前ニ公然用ヒラレタルコトハ本件ニ於テハ之ヲ肯定スヘキ證據ナシ乙第一號證ノ一及二ノ査定書ニ記載セル出願第二七九七八號實用新案ハ明治四十一年十二月十九日ノ出願ニ係リ又乙第二號證審決書ニ記載セル第一二四八六號登録實用新案ハ明治四十二年三月十二日ノ出願ニ係リ孰レモ其出願日カ本件第六四七五號實用新案登録ノ日タル明治四十年八月二十四日ヨリ後ニ屬スルヲ以テ乙第一號證ノ一二及乙第二號證ニ於テ光澤物質ヲ布帛ニ糊着シテ模様ヲ現ハシタルモノカ第二七九七八號及第一二四

八六號登錄實用新案ノ登録前ヨリ公然用ヒラレタル旨ノ記載アレハトテ之ニ依リ之ト同一ノモノカ本件第六四七五號登錄實用新案ノ出願ノ日タル明治四十年三月十七日以前ニ公然用ヒラレタルコトノ證據ト爲スヲ得ヌ又被請求人ハ本件審判事件ハ審判第一六四三號「抗告審判第五七號」事件ト其請求ノ内容ヲ同フスルモノナリト主張スレトモ該審判事件ニ於ケル係争ノ甲第二號證ハ無地ノ「リボン」ニ光澤アル物質ヲ不規則ニ撒布糊着シタルモノニ過キスシテ本件係争ノ甲第一號證ノ如ク形紙ヲ用ヒテ一定ノ模様ヲ現ハシタルモノトハ其考案ヲ異ニセリ從テ該審判事件ト本件トハ請求ノ内容ヲ同フスルモノニアラス

以上ノ理由ニ依リ主文ノ如ク審決ス
大正二年七月九日於特許局

審判長 特許局技師工學博士 阪田 貞一
特許局事務官 村上 隆吉
同 田中 鐵二郎

第四百五十八號

東京市日本橋區横山町三丁目八番地 請求人 上條 長次郎
同 東京府豊多摩郡澁谷町下澁谷千三百九番地 右代理人 池田 季雄
東京市神田區仲猿樂町十七番地特許辨理士 被請求人 金子 佐一郎
東京市神田區仲猿樂町十七番地特許辨理士 右代理人 田島 熊太

同 市神田區仲猿樂町十七番地特許辨理士

同

堀内 健治

右當事者間ノ第九〇一三號實用新案(瓣付護謄球栓)登録無效審判請求事件ニ付大正元年十一月二十日當局ニ於テ爲シタル審決ニ對シ抗告審判請求ヲ爲シタルニ依リ審決スルコト左ノ如シ

主文 抗告審判請求人申立相立タス

抗告審判費用ハ抗告審判請求人ノ負擔トス

申立ノ要領 抗告審判請求人申立ノ要領ハ原審決ヲ破毀ス第九〇一三號登錄實用新案瓣付「ゴム」球栓ハ無効トス審判費用ハ全部抗告審判被請求人ノ負擔トストノ審決ヲ求ム其ノ理由ハ球栓ノ開口ヲ薄「ゴ

ム」片ヲ以テ球狀ニ蔽塞スルコトハ其ノ構造上一ノ考案タルヲ失ハス其主眼トスル所ハ「ニ」ゴム片ノ緊張ニ存ス而シテ其ノ栓面ヲ稍漏斗狀ト爲スコトハ考案ノ稍複雑ナルモノニシテ第二步タルヘク栓面ノ平面ナルハ其ノ第一歩タルコト自明ノ理ナリ今本件ニ付テ謂ハハ甲號證ノ漏斗狀球栓ヲ完形スル工程ニハ先ツ平面狀ヲ作り然レ後特ニ之ヲ漏斗狀トナスノ第二工程ヲ要スルナリ前述ノ如クナル上ハ單ニ其ノ面ノ平窪ノ差ヲ以テ異レル構造トシテ類否甄別スルノ基準トスヘカラス又叫聲ノ有無排氣ノ難易ノ如キハ實ニ程度ノ問題ニシテ何レモ早晚氣洩ニ終ルモノニシテ一ハ稍迅速ニ洩出シ他ハ稍時間ヲ要スルノ差アルニ過キス云々ト云ヒ原審提出ノ甲第一號證乃至甲第四號ヲ援用セリ

抗告審判被請求人申立ノ要領ハ請求人申立相立タス抗告審判費用ハ請求人ノ負擔トストノ審決ヲ求ム其ノ理由ハ第九〇一三號實用新案ノ請求範圍及ヒ其ノ圖面ト請求人提出ノ甲第一號證ノ二乃至第三號證ヲ對比實驗スレハ兩者全ク別異ノモノナルコトハ何人ト雖之ヲ知了スルニ難カラス從テ右各號證ニ依リ本件實用新案ヲ無効トスルヲ得ヌ又物品ノ同一物ナルヤ將タ別異ノモノナルヤヲ甄別スヘキ標準ハ其ノ物自體ノ形狀其ノ物ノ目的タル效果竝ニ其ノ構造組合セニ依リ之ヲ區別スヘキモノナルコトハ

普通ニ行ハル、常則ナリ然ルニ請求人カ工程ノ前後ノ關係ヨリ觀察シテ本件球栓ノ平面狀ノ漏斗狀ト異同ヲ決セント企圖シタルハ是レ前述ノ常則ヲ度外視シタル謬見ナリト云ハサルヘカラス甲號證ノ球栓ハ其ノ形狀構造漏斗狀トナリ登錄第九〇一三號ニ於ケル球栓ハ平面狀ナリ斯ク兩者ハ形狀竝ニ構造ニ於テ相異スルノミナラス其ノ目的タル效果ニ於テ甲號證ハ空氣ノ排出ヲ目的トシ本件實用新案ニ於テハ空氣ノ洩出ヲ防止スルヲ目的トスルモノニシテ此等ノ目的ヲ達センカ爲メ特ニ球栓ノ形狀構造ヲシテ一ハ平面タラシメ一ハ漏斗狀タラシムルモノニシテ兩者全ク別異ナルコト明ナリ云々ト云フニ在リ

審決ノ理由 本件第九〇一三號登錄實用新案ハ「ゴム」球ヲ膨脹セシムレハ瓣ノ球内ノ空氣ニ壓迫セラレテ暫ク球ノ膨脹ヲ保持スル球栓ノ構造ナルコトハ其登錄請求範圍及ヒ圖面ノ説明ニ依リ明ナリ請求人提出ノ甲第二號證及甲第三號證ノ球栓ハ栓ノ一面ヲ漏斗形ニ削リ其ノ中央ヲ薄キ「ゴム」片ニテ蔽ヒ「ゴム」片ノ兩端ヲ球栓ニ結ヒ止メタル構造ナリ此ノ二者ヲ對比スルニ前者ハ瓣ヲ結合セル球栓ニシテ其ノ目的タル球内空氣ノ排出ヲ防止スルニ在リ之ニ反シテ甲第二號證及第三號證ノ物品ハ中央ニ「ゴム」片ヲ縮着シタル球栓ニシテ此ノ「ゴム」片ハ瓣ノ作用ヲナサスシテ其ノ左右ノ間隙ヨリ空氣ヲ排出セシメ以テ一種ノ銳音ヲ發スルノ目的ニ供セラル、ヲ以テ二者ノ構造同シカラサルノミナラス其ノ目的モ全然相異ス又甲第四號證ハ單ニ「ゴム」玩具ノ圖面及記事ヲ記載シ球栓ノ構造明ナラサルヲ以テ何等立證スル所ナシ故ニ本件實用新案ノ登錄出願前即チ明治四十一年四月七日前ニ於テ假リニ甲第二號及第三號證ノ物品カ帝國内ニ於テ公然知ラレ公然用キラレタリトスルモ又甲第四號證ノ刊行物カ帝國内ニ頒布セラレタリトスルモ本件實用新案ノ登錄ヲ無効トスルニ足ラス又甲第一號證ノ二ノ球栓カ本件登錄出願前ヨリ公知公用ニ屬セシコトハ之ヲ認ムヘキ證據ナク甲第一號證ノ一ノ物品ハ如何ナル構

造ノ球栓ヲ有セシモノナルヤ之ヲ知ルニ由ナシ從テ此等ノ證據物モ亦本件登錄實用新案ノ球栓カ其登錄出願前ヨリ公知公用ニ屬セシコトヲ證スルニ足ラス
仍テ主文ノ如ク審決ス

大正二年七月十日於特許局

審判長 特許局技師 湯淺藤市郎
同 增島文次郎
特許局事務官 田中鐵二郎

第五百十六號

大阪市東區南久寶寺町一丁目四番地 請求人 萬代龜藏
同 市東區瓦町一丁目五番地特許辨理士 右代理人 廣井代藏
同 市西區江戸堀下通一丁目七番地 被請求人 生島サト
同 市西區江戸堀上通一丁目百五番屋敷 同 竹村柳藏
同 市東區北濱五丁目六十三番屋敷特許辨理士 右兩名代理人 淺村三郎
同 市東區北濱五丁目六十三番屋敷特許辨理士 同 平岩義一
右當事者間ノ第一六〇五九號實用新案(蠟燭製造用二枚合セ眞鍮「パイプ」權利確認審判請求事件ニ付大正二年四月八日當局ニ於テ爲シタル審決ニ對シ抗告審判請求ヲ爲シタルニ依リ審決スルコト左ノ如シ
主文 原審決ヲ破毀ス
抗告審判被請求人ノ製作販賣セル甲第一號證蠟燭製造用型管ハ登錄實用新案第一六〇五九號蠟燭製造

用二枚合セ眞鍮「パイプ」ノ權利範圍ニ屬ス

審判及ヒ抗告審判費用ハ抗告審判被請求人ノ負擔トス

申立ノ要領 抗告審判請求人申立ノ要領ハ原審決ヲ破毀ス甲第一號證蠟燭製造用型管ハ登録實用新案第

一六〇五九號蠟燭製造二枚合セ眞鍮「パイプ」ノ權利範圍ニ屬ス審判費用竝ニ抗告審判費用ハ抗告審判被請求人ノ負擔トストノ審決ヲ求ム其理由ハ内外兩管ノ間ニ「ペンキ」蠟ノ類ヲ塗附スルコトハ内管ト外管トヲ可成的密着セシムル爲メノ一手段ニ過キサルモノニシテ塗料ヲ塗附スルコトハ其物ノ構造上ニ何等ノ影響ヲ及ホスモノニアラサルナリ殊ニ抗告審判請求人ノ本件實用新案ハ其出願當時ニ於テハ一般蠟燭製造業者ハ鍍力又ハ眞鍮ヲ以テ製シタル一重ノ型管ノミヲ專ラ使用シ居リタルモノニシテ一重ノ型管ハ動モスレハ接合ハセ目カ破損シ蠟液カ型管外ニ漏ル、コトアルノミナラス型管ノ周圍ハ直接水ニ浸サル、ニヨリ速カニ腐蝕セラル、ノ缺點アリタルニヨリ抗告審判請求人ハ種々苦心ノ結果本件實用新案權ノ如キ二重「パイプ」ヲ考案シ從來ノ型管ニ比シ數倍ノ耐久力ヲ保持セシムヘクナシタルモノニシテ本新案權ノ主眼點即考案ノ要素ハ單ニ二枚合セ「パイプ」ニ存スルモノタルヤ明カナリトス加之其登録請求範圍ハ圖面ニ示セル蠟燭製造用二枚合セ「パイプ」トアリテ單ニ「パイプ」ヲ二重トナシタルコトノミカ權利ノ主體トナリ居レハナリ云々ト云ヒ原審ニ提出シタル書類竝ニ證據物件全部ヲ本審ニ援用セリ

抗告審判被請求人申立ノ要領ハ抗告審判請求人ノ申立相立タス抗告審判費用ハ抗告審判請求人ノ負擔トストノ審決ヲ求ム其理由ハ本件第一六〇五九號實用新案ノ權利範圍トスル所ハ内管イノ繼目ヲ掩版(ロ)ヲ以テ掩ヒ眞鍮製外管ハ内ニ挿入シ其兩管ノ中間ニハ「ペンキ」蠟類ヲ塗附シテ間隙ヲ存セサラシメ之レニ添管ニ、型管本等ヲ組合セテ成ル構造ニアルコト登録請求範圍及圖面ノ說明ニ徴シテ明カナリ

就中外管ト内管トノ中間ニ「ペンキ」蠟ノ類ヲ塗附シテ兩管ノ間隙ヲ生セサラシメタルコトハ從來ノ蠟燭製造用「パイプ」ニ對シテ改良ヲ加ヘタル點ニシテ即チ本件實用新案ノ要部ナリト云ハサルヘカラス而シテ此點カ原審決ニ於テ言明セルノミナラス第一六〇五九號實用新案權利範圍ニ關スル明治四十三年十一月十八日附特許局ノ確定審決ニヨリテ本件實用新案ノ權利範圍ハ已ニ確定セルモノナリ而シテ被請求人ノ甲第一號證蠟燭製造用型管ハ内管イノ接合目ヘ掩版(ロ)ヲ固着シ之レニ外管ハヲ被着セシメテ成ルモノニシテ固ヨリ内管イト外管ハトノ中間ニハ毫モ「ペンキ」蠟其他ノ填充料ヲ使用セサルモノトス從テ此型管カ本件實用新案權ノ範圍内ニ屬スヘカラサルコト寔ニ明カナリトス二重「パイプ」ノ型管ハ從來當業者普通ニ使用セル所ニ屬シ本件實用新案ノ出願當時ニ於テ決シテ新規ノ考案ニアラサルナリ即チ請求人ノ有スル第一一五九八號實用新案蠟燭製造用管(明治四十一年十月二十八日出願)ノ圖面ノ說明ニ徴シ明白ナリ云々ト云ヒ原審ニ提出シタル甲號證及特許局審決例全部特許局保管ニ係ル第一一五九八號實用新案蠟燭製造用管ノ出願書類全部及明治四十二年二月二十六日發行實用新案公報第一二〇二號第五頁ヲ本件ニ援用セリ

審決ノ理由 本件第一六〇五九號蠟燭製造用二枚合セ眞鍮「パイプ」ハ其ノ登録請求範圍ニ依レハ圖面ニ示セル蠟燭製造用二枚合セ眞鍮「パイプ」ノ構造トアルヲ以テ其權利ハ内外二枚ノ「パイプ」ヲ重合シタル組合セニ存スルコト明ナリ之レヲ被請求人カ製造販賣スル甲第一號證ノ型管ニ對比スルニ後者ハ被請求人カ原審ニ提出シタル圖面及說明ニ明カナル如ク内管ノ接合目ニ掩版ヲ固着シ之ニ外管ヲ被着シタルモノニシテ本件實用新案ノ「パイプ」ト同一考案ヨリ成ル二枚ノ「パイプ」ノ組合セナルヲ以テ二者全然同一ナリ故ニ甲第一號證ノ型管ハ本件登録實用新案ノ權利範圍ニ屬スルモノトス被請求人ハ二重「パイプ」ノ型管ハ新規ノ考案ニアラスト主張スレトモ此點ハ本件權利確認事件ニ於テ審判スヘキ限ニ

アラス又抗告審判被請求人ハ本件實用新案權ノ範圍ハ明治四十三年十一月十八日ノ確定審決ニ依リテ
既ニ確定シタリト主張スレトモ該審決ハ該事件ノ甲第一號證即チ一箇ノ外管ノ代リニ數片ヲ挿合シテ
成レル外管ヲ固着シタルノ點ニ於テ本件甲第一號證ト構造ヲ異ニセル蠟燭製造用「バイブ」カ本件實用
新案權ニ屬セサルコトヲ確定スル效力アルニ止マリ本件實用新案權ノ範圍ノ解釋ヲ確定スルノ效力ナ
シ其他當事者間相爭フ所アルモ本件審決ニ影響ヲ及ホサルヲ以テ之ヲ説明セス
仍テ主文ノ如ク審決ス

大正二年七月十九日於特許局

審判長 特許局事務官 村上隆吉
特許局技師 増島文次郎
特許局事務官 田中鐵二郎

第五百十七號

大阪市東區南久寶寺町一丁目四番地

請求人 萬代龜藏

同 市東區瓦町一丁目五番地特許辨理士

右代理人 廣井代藏

神戸市池田村字大道六番地

被請求人 合資會社日本蠟燭製
造所

右代表者

大阪市東區北濱五丁目六十三番屋敷特許辨理士

右代理人 槌橋末吉
淺村三郎

同 市東區北濱五丁目六十三番屋敷特許辨理士

同 平岩義一

右當事者間ノ第一六〇五九號實用新案(蠟燭製造用二枚合セ眞鍮「バイブ」)權利確認審判請求事件ニ付大
正二年四月八日當局ニ於テ爲シタル審決ニ對シ抗告審判請求ヲ爲シタルニ依リ審決スルコト左ノ如シ

主文 原審決ヲ破毀ス

抗告審判被請求人ノ製作使用セル甲第一號證蠟燭製造用型管ハ登録實用新案第一六〇五九號蠟燭製造
用二枚合ハセ眞鍮「バイブ」ノ權利範圍ニ屬ス

審判及ヒ抗告審判費用ハ抗告審判被請求人ノ負擔トス

申立ノ要領

抗告審判請求人申立ノ要領ハ原審決ヲ破毀ス甲第一號證蠟燭製造用型管ハ登録實用新案第

一六〇五九號蠟燭製造用二枚合ハセ眞鍮「バイブ」ノ權利範圍ニ屬ス審判費用並ニ抗告審判費用ハ抗告
審判被請求人ノ負擔トストノ審決ヲ求ム其理由ハ内外兩管ノ間ニ「ペンキ」蠟ノ類ヲ塗附スルコトハ内
管ト外管トヲ可成の密着セシムル爲メノ一手段ニ過キササルモノニシテ塗料ヲ塗附スルコトハ其物ノ構
造上ニ何等ノ影響ヲ及ホスモノニアラサルナリ殊ニ抗告審判請求人ノ本件實用新案ハ其出願當時ニ於
テハ一般蠟燭製造業者ハ眞鍮又ハ眞鍮ヲ以テ製シタル一重ノ型管ノミヲ專ラ使用シ居リタルモノニシ
テ一重ノ型管ハ動モスレハ接合ハセ目カ破損シ蠟液カ型管外ニ漏ル、コトアルノミナラス型管ノ周圍
ハ直接水ニ浸サル、ニヨリ速カニ腐蝕セラル、ノ缺點アリタルニヨリ抗告審判請求人ハ種々苦心ノ結
果本件實用新案權ノ如キ二重「バイブ」ヲ考案シ從來ノ型管ニ比シ數倍ノ耐久力ヲ保持セシムヘクナシ
タルモノニシテ本新案權ノ主眼點即考案ノ要素ハ單ニ二枚合セ「バイブ」ニ存スルモノタルヤ明カナリ
トス加之其登録請求範圍ハ圖面ニ示セル蠟燭製造用二枚合セ「バイブ」トアリテ單ニ「バイブ」ヲ二重ト
ナシタルコトノミカ權利ノ主體トナリ居レハナリ云々ト云ヒ抗告審判請求人カ原審ニ提出シタル書類

竝ニ證據物件ヲ全部本審ニ援用セリ
 抗告審判被請求人申立ノ要領ハ抗告審判請求人ノ申立相立タス抗告審判費用ハ抗告審判請求人ノ負擔トストノ審決ヲ求ム其理由ハ本件第一六〇五九號實用新案ノ權利範圍トスル處ハ内管イノ繼目ヲ掩版(ロ)ヲ以テ掩ヒ眞鍮製外管ハ内ニ挿入シ其兩管ノ中間ニハ「ペンキ」蠟類ヲ塗附シテ間隙ヲ存セサラシメ之レニ添管ニ、型管ホ等ヲ組合セテ成ル構造ニアルコト登録請求範圍及圖面ニ徴シテ明カナリ就中外管ト内管トノ中間ニ「ペンキ」蠟ノ類ヲ塗附シテ兩管ノ間隙ヲ生セサラシメタルコトハ從來ノ蠟燭製造用「パイプ」ニ對シテ改良ヲ加ヘタル點ニシテ即チ本件實用新案ノ要部ナリト云ハサルヘカラス而シテ此點ハ原審決ニ於テ言明セルノミナラス第一六〇五九號實用新案權利範圍ニ關スル明治四十三年十一月十八日付特許局ノ確定審決ニヨリテ本權實用新案ノ權利範圍ハ已ニ確定セルモノナリ而シテ被請求人ノ甲第一號證蠟燭製造用型管ハ内管イノ接合目ヘ掩版(ロ)ヲ固着シ之レニ外管ハヲ被着セシメテ成ルモノニシテ固ヨリ内管イト外管ハトノ中間ニハ毫モ「ペンキ」蠟其他ノ填充料ヲ使用セサルモノトス從テ此型管カ本件實用新案權ノ範圍内ニ屬スヘカラサルコト寔ニ明カナリトス二重「パイプ」ノ型管ハ從來當業者普通ニ使用セル處ニ屬シ本件實用新案ノ出願當時ニ於テ決シテ新規ノ考案ニアラサルナリ即チ請求人ノ有スル第一一五九八號實用新案蠟燭製造用管(明治四十一年十月二十八日出願)ノ圖面ノ說明ニ徴シテ明白ナリト云ヒテ原審ニ提出シタル甲號證及特許局審決例ノ全部特許局保管ニ係ル第一一五九八號實用新案蠟燭製造用管ノ出願書類全部及明治四十二年二月二十六日發行實用新案公報第二〇二號第五七頁ヲ本件ニ援用セリ

審決ノ理由 本件第一六〇五九號蠟燭製造用二枚合セ眞鍮「パイプ」ハ其ノ登録請求範圍ニ依レハ圖面ニ示セル蠟燭製造用二枚合セ眞鍮「パイプ」ノ構造トアルヲ以テ其ノ權利ハ内外二枚ノ「パイプ」ヲ重合シ

タル組合セニ存スルコト明ナリ之ヲ被請求人カ製造使用スル甲第一號證ノ型管ニ對比スル後者ハ被請求人カ原審ニ提出シタル圖面及說明ニ明ナル如ク内管ノ接合目ニ掩版ヲ固着シ之ニ外管ヲ被着シタルモノニシテ本件實用新案ノ「パイプ」ト同一考案ヨリ成ル二枚ノ「パイプ」ノ組合セナルヲ以テ二者全然同一ナリ故ニ甲第一號證ノ型管ハ本件登録實用新案ノ權利範圍ニ屬スルモノトス被請求人二重「パイプ」ノ型管ハ新規ノ考案ニアラスト主張スレトモ此點ハ本件權利確認事件ニ於テ審判スヘキ限ニアラス又抗告審判被請求人ハ本件實用新案權ノ範圍ハ明治四十三年十一月十八日ノ確定審決ニ依リテ既ニ確定シタリト主張スレトモ該審決ハ該事件ノ甲第一號證即チ一箇ノ外管ノ代リニ數片ヲ挿合シテ成レル外管ヲ固着シタルノ點ニ於テ本件甲第一號證ト構造ヲ異ニセル蠟燭製造用「パイプ」カ本件實用新案權ノ範圍ニ屬セサルコトヲ確定スルノ效力アルニ止マリ本件實用新案權ノ範圍ノ解釋ヲ確定スルノ效力ナシ其他當事者間相爭フ所アルモ本件審決ニ影響ヲ及ホサ、ルヲ以テ之ヲ說明セス
 仍テ主文ノ如ク審決ス

大正二年七月十九日於特許局

審判長 特許局事務官 村上 隆 吉
 特許局技師 増島 文 次 郎
 特許局事務官 田中 鐵 二 郎

第五百八號

京都市下京區六角通新町西入西六角町七番戶

請 求 人 吉 田 彌 之 助

亞米利加合衆國ニユリシヤリ州ユニオン區エリサベス市
横濱市山下町二十三番地

被請求人

* 五十二

シンガ、ソ、イ、ン、グ、メ、シ
ン、コ、ム、バ、ニ、

右代表者

ルーフ、ア、ス、シ、ド、マ、ン、
コ、ー、ル

東京市京橋區宗十郎町一番地特許辨理士
同 市京橋區宗十郎町一番地特許辨理士

右代理人 岸 清 一
堀江 專 一 郎

右當事者間ノ第二三三六號實用新案(立浪縫)登録無効審判請求事件ニ付大正二年三月二十六日當局ニ於テ爲シタル審決ニ對シ抗告審判請求ヲ爲シタルニ依リ審決スルコト左ノ如シ

主文 抗告審判請求人ノ申立相立タス

抗告審判費用ハ抗告審判請求人ノ負擔トス

申立ノ要領

當審請求人ハ原審決ヲ破毀シ本件審判請求ヲ却下ス審判費用及抗告審判費用ハ抗告審判被

請求人ノ負擔トストノ審決アリタシト申立テ其理由トシテ審判請求書ニ於テ本件實用新案登録出願年及當審請求人ノ住所町名ノ記載ニ相違アリシコト及其出願年記載ノ訂正申出前ニ當審請求人カ本件實用新案權ヲ拋棄シ其登録ヲ受ケタルコトニ關シテ絮述シ尙甲各號證及證人大竹銀次郎ノ證言カ孰レモ當審被請求人ノ主張事實ヲ證スルニ足ラサルコトヲ論シ結局原審決ハ不當ニシテ特ニ審判費用ニ付テハ當請求人ニ於テ之ヲ負擔スヘキ理由ナシト陳述セリ

當審被請求人ハ抗告審判請求人ノ申立相立タス抗告審判費用ハ抗告審判請求人ノ負擔トストノ審決アリタシト申立テ其理由ノ要領ハ審判請求書ニハ本件ノ目的タル登録實用新案ノ表示ニ缺クル所ナキヲ以テ登録出願年月日ニ誤記アレハトテ審判請求カ無効ト爲ルヘキ理由ナシ當事者ノ記載ハ他人ト區別

シ得ヘキ程度ニ記載シアリ本件審判請求ハ實用新案ノ登録ヲ無効ト爲スニ在ルヲ以テ新案權ノ存續セ
ルヤ否ヤニ關スルコトナシ訴訟費用ハ敗訴者ニ於テ負擔スヘキコト勿論ナリ又甲各號證ハ當審請求人
ノ主張事實ヲ立證スルニ足り少クトモ證人大竹銀次郎ノ證言ハ明治四十四年二月頃ヨリ立浪縫ノ縫方
ヲ同人カ實施シタルコトヲ證明スルニ足レリト云フニ在リ

審決ノ理由

本件第二三三六號登録實用新案ハ「ミシン」縫ノ裏絲ノ調子ヲ強クシテ千鳥ニ掛ケテ表絲

ヲ引キ寄セ爲メニ織布ハ空布間ヲ生シテ表面ニ隆起ヲ生シ「ミシン」ニテ縫フニ從ヒ突起線ヲ任意ノ形
狀ニ現ハシタル構造ナリ又甲第三號證ノニナル證明書ニ添付セル布片ニハ前示ト同一ノ縫方ヲ施シア
リ而シテ證人大竹銀次郎ノ訊問調書ニ依レハ該布片ニ於ケル縫方ヲ證人カ中西商店ノ注文ニ依リ明治
四十四年二月頃多數ノ布片ニ施シ之ヲ同商店ニ引渡シタル事實ヲ認ムルヲ得從テ本件登録實用新案ハ
其出願ノ日タル明治四十四年七月一日前ニ公然知ラレタルモノト同一ニシテ實用新案法第三條第一號
ニ該當シ其登録ハ同法第十一條ニ依リ之ヲ無効ト爲スヘキモノトス審判請求書ニ於ケル記載中本件實
用新案登録出願ノ年及相手方ノ住所ノ町名ニ相違ノ廉アリシコトハ當審請求人ノ指摘スル所ノ如シト
雖審判請求ノ目的タル登録實用新案ヲ表示スル爲メニハ其登録番號ヲ記載シアリ相手方ノ住所ヲ表示
スル爲メニハ其住所ヲ認ムルニ足ルヘキ程度ニ於テ町ノ所在位置ヲ記載シアリヲ以テ如上ノ記載ノ相
違ハ審判請求ノ瑕疵ト爲ラス又登録ヲ無効ト爲サンコトヲ求ムル審判請求ハ拋棄ニ因リ實用新案權ノ
消滅シタル後ト雖之ヲ爲スヲ得ルコト實用新案法ノ規定スル所ナルノミナラス當審被請求人ハ相手方
ノ請求ヲ認證シタルニアラサルヲ以テ敗審者トシテ審判費用ヲ負擔スヘキハ勿論ナリ

仍テ主文ノ如ク審決ス

大正二年八月八日於特許局

審判長 特許局技師工學博士 大竹 多氣
 特許局技師 增島 文次郎
 特許局事務官 田中 鐵二郎

*五十四

第五百五號

大阪市東區南久寶寺町四丁目	請 求 人	藤 森 源 之 助
同 市南區順慶町二丁目四十九番地	同	井 上 清 次 郎
同 市東區博愛町四丁目四十二番地	同	駒 井 伊 八
同 市東區北久寶寺町三丁目五十四番屋敷	同	鈴 木 勘 右 衛 門
同 市東區唐物町二丁目二十七番屋敷	同	川 瀨 正 七
同 市東區平野町二丁目五番地特許辨理士	右 五 名 代 理 人	吉 田 音 松
同 市東區備後町五丁目十五番地	被 請 求 人	丸 井 宇 三 郎
同 市東區道修町五丁目一番地	右 代 理 人	大 澤 二 十 三

右當事者間ノ第二四九八〇號實用新案(化粧具兼錢入)登録無効審判請求事件ニ付大正二年三月十七日當局ニ於テ爲シタル審決ニ對シ抗告審判請求ヲ爲シタルニ依リ審決スルコト左ノ如シ
 主文 原審決ヲ廢棄ス
 第二四九八〇號實用新案登録ヲ無効トス

審判費用ハ原審及當審共被請求人ノ負擔トス
 申立ノ要領 請求人ハ原審決ヲ廢棄ス第二四九八〇號實用新案登録ヲ無効トス審判費用ハ被請求人ノ負擔トストノ審決アリタシト申立テ其理由ノ要領ハ第二四九八〇號實用新案ハ明治四十五年七月二十六日登録ヲ受ケタルモ斯ル物品ハ出願前數年來帝國内ニ於テ製造販賣セラル、公知公用ノモノナリ本件登録實用新案ハ其登録請求範圍ニ示ス如ク普通錢入ニ(一)乃至(九)ノ構造ヲ附加シタル化粧具兼用錢入ニシテ櫛、耳搔等構造ノ各部ヲ合シテ一ノ新案ヲ構成スルモノナレハ横ニ挿入セル鏡ヲ縦ニ直立スル如キハ何人モ容易ニ推考シ得ヘキコトナリト云フニ在リ

被請求人ハ請求人ノ申立相立タス審判費用ハ原審共請求人ノ負擔トストノ審決アリタシト申立テ其理由ノ要領ハ本件登録實用新案ハ從來慣用ノ錢入ヲ基トシ之ニ本新案ノ要旨タル二重囊(2)(3)ノ構造ヲ増設シタルモノニシテ此構造ヲ除キタル物品ニ付實用新案權ヲ主張スルニアラス此構造ハ決シテ出願前類例アルニアラス請求人カ容易ニ推考シ得ル構造ナリト云フハ後日他人ノ成效ヲ羨望シ妄リニ批評セラルモノナリト云フニ在リ

審決ノ理由 本件第二四九八〇號登録實用新案ハ其圖面及登録請求範圍ニ依レハ三折ト爲シタル普通ノ錢入ノ内面ニ二重囊(2)(3)、囊(4)及切缺孔(5)四箇ヲ設ケタル構造ノ化粧具入兼用ノ錢入ニシテ囊(2)ニハ鏡ヲ收容シ鏡ヲ使用スル際ニハ之ヲ囊(3)ニ直立セシメ又囊(4)ニハ櫛、切缺孔(5)ニハ耳搔及耳刷子ヲ收容スヘク作りタルモノナリ然ルニ原審證人竹口安吉ノ訊問調書ニ依レハ同人カ諸方ヨリノ注文ニ依リ明治四十二年及四十三年中ニ於テ本件登録實用新案ニ於ケル囊(3)ヲ除キタル以外ノ構造ノ全部ヲ以テ成レル化粧具入兼用錢入ヲ多數製作シ且之ヲ各注文者ニ引渡シタル事實ヲ認ムルヲ得從テ本件登録實用新案ニ於ケル囊(3)ヲ除キタル以外ノ構造ノ全部ヲ以テ成レル化粧具入兼用錢入ハ本件登録出願ノ日タ

*五十五

ル明治四十五年一月二十七日以前ヨリ公然知ラレ公然用ヒラレタルモノナリ而シテ該公知公用ノ化粧具入兼用錢入ニ囊③ヲ附加シ鏡ヲ使用スル際之ヲ囊②ヨリ取出シテ囊③ニ直立セシムヘキ構造ト爲スカ如キハ何人モ容易ニ考案シ得ヘキ所ナルヲ以テ本件登録實用新案ハ其登録出願前ヨリ公然知ラレ公然用ヒラレタル前示ノ物品ニ類似シ其登録ハ實用新案法第三條第一號第一條及第十一條ニ依リ之ヲ無効ト爲スヘキモノトス
仍テ正文ノ如ク審決ス

大正二年八月十五日於特許局

審判長 特許局技師工學博士 阪田 貞一
特許局技師 増島 文次郎
特許局事務官 田中 鐵二郎

第五百六號

京都市上京區葎屋町通元誓願寺下ル晴明町三十番地 請求人 山本卯之次郎
同市上京區中立賣通智惠光院東入多門町四百四十一番地特許辨理士 右代理人 森田 茂
同市上京區葎屋町六軒町西入葎屋五丁目四十三番戶 被請求人 田中 富吉
右當事者間ノ第一六七二五號實用新案(織物)登録無効審判請求事件ニ付大正二年三月十一日當局ニ於テ爲シタル審決ニ對シ抗告審判請求ヲ爲シタルニ依リ審決スルコト左ノ如シ

主文 原審決ヲ破毀ス

抗告審判被請求人ノ申立相立タス

審判費用ハ原審及當審共抗告審判被請求人ノ負擔トス

申立ノ要領

當審請求人ハ原審決ヲ破毀ス審判費用ハ原審及當審共抗告審判被請求人ノ負擔トストノ審決アリタシト申立テ其理由ノ要領ハ本件登録實用新案ハ其說明書ニ明記セル如ク緯ニ起毛シ易キ絲ヲ用ヒテ凸模様ヲ造リ該模様部分ヲ起毛機ニ掛ケテ起毛シ以テ天鵝絨狀若ハ毛織物狀ノ織模様ヲ現出セシメタルモノナリ然ルニ原審決ニ於テハ本件新案ヲ以テ平地ニ起毛模様ヲ現ハシタルモノト速斷セラレ說明書中ニ經絲ヲ多ク表ハス組織ト明記シタル事實ヲ閑却セラレタルモ平織ハ經緯ヲ表裏均等ニ現ハス組織ナルカ故ニ之ヲ以テ經絲ヲ多ク現ハス組織トナス可ラス改訂特許第六四號ノ織物ハ其明細書ニ記載セラレ、如ク地質即チ模様ナキ部分ニハ毛ヲ生シ模様ノ部分ニハ毛ヲ生スルコトナカラシムルノ目的ニ於テ地部分ヲ綾地ニ模様部分ヲ平地ニ織成シテ起毛シタル紋「ネル」ニシテ本件新案ノ凸模様ニ成レル起毛模様及經絲ヲ多ク現ハス地合ナルモノハ該特許ノ織物ニ於テ見ルコトヲ得ス綾地ニ織成シタル部分ニ毛ヲ生シ平地ノ部分ニ毛ヲ生セスト云フモ該特許ノ組織ニ依リテ成レル紋「ネル」素地ヲ取テ起毛スルニ於テハ其織毛ニ長短多少ノ差異コソアレ全面何レモ毛ヲ生ス故ニ該特許ノ織物ハ明細書ニ記載セル手段方法ニ依リ其目的ヲ達シ得ヘキモノニアラスシテ單一ノ目的即チ空想タルニ止マル又沈下地合ト稱シ凸模様ト稱シ浮織ト稱スルハ綾織對平織等ノ關係ヨリ稱スル名稱ニアラス未タ綾地ヲ以テ浮織ト稱シ平地ヲ以テ沈下地合ト稱シ平地ニ綾地模様ヲ現ハセルモノヲ以テ浮織ト稱セルコトヲ聞カス要スルニ本件登録新案ハ改訂第六四號ノ特許織物ニ依リ容易ニ應用シ得ラルヘキモノニアラサルカ故ニ該特許織物ヲ以テ本件新案ヲ無効トスルノ理由ト爲スヲ得スト云フニ在リ

當審被請求人ハ指定ノ期間内ニ答辯書ヲ提出セス

審決ノ理由 當審被請求人カ本件第一六七二五號實用新案登録ヲ無効トスル爲メ原審ニ於テ主張シタル理由ノ要領ハ本件登録實用新案ノ織物ハ起毛シ易キ緯絲ヲ紋模様部分ニ多ク現ハシ地ニハ多ク經絲ヲ現ハシテ組成シ起毛工程ニ依リテ紋模様部ノミニ起毛ヲ生セシメ任意ノ起毛模様ヲ顯出シタルモノナリ詳言スレハ紋模様部ヲ起毛シテ任意ノ起毛模様ヲ顯出スルカ又ハ起毛シ易キ部分ヲ起毛シテ起毛セラレサル素地部ヲ以テ任意ノ模様ヲ顯出スルモノナリ然ルニ其登録出願前ノ公刊ニ係ル特許公報第一七四號ニ掲載セル改訂特許第六四號織物「ネール」ノ明細書ニ依レハ該特許織物ハ綾地即チ地合柔滑ニシテ緯絲ノ多ク現ハル、部分ニ起毛シ平地即チ經絲ノ多ク現ハレ緯絲ノ少ク現ハル、部分ニハ起毛ヲ爲サス以テ起毛部ト不起毛部トニ依リ任意ノ模様ヲ顯出シタルモノナリ此兩者ヲ比較スルニ其構造全ク同一ニシテ唯前者ハ起毛シタル部分ヲ以テ模様部ヲ形成シ後者ハ起毛セサル部分ヲ以テ模様部ヲ形成シタルノ點ニ於テ差異アルカノ如クナルモ實ハ然ラス此方法ヲ棒縞等ニ應用スレハ起毛シタル部分ヲ模様ト見ルヘキヤ又ハ起毛セサル部分ヲ模様ト見ルヘキヤハ見方ニ依リテ如何様ニモ定マルモノナリ

從テ本件登録實用新案ハ右改訂特許ヨリ容易ニ推考シ得ラルヘキモノナリト云フニ在リ仍テ案スルニ本件登録新案ハ其登録請求範圍及圖面ノ說明ニ依レハ紋織組織ニ依リ多ク經絲ヲ現ハス如クシテ沈ミタル素地部ト起毛シ易キ緯絲ヲ用ヒテ凸狀ヲ爲セル模様部トヲ織成シ模様部ヲ起毛シタル起毛織物ノ構造ニシテ第六四號改訂特許ハ其明細書ニ依レハ地部即チ模様無キ部分ヲ綾織ト爲シ模様部分ヲ平地ニ織成シ地部ヲ起毛シタル起毛織物ノ構造ナリ此兩者ヲ比較スルニ紋織組織ニ依リ模様ト地トカ凸凹ヲ成セル織物ヲ起毛シタル構造ナルコトニ於テハ兩者同一ナリ又本件登録新案ニ於テ模様部ヲ起毛シ

テ地部ヲ起毛セサルト第六四號改訂特許ニ於テ地部ヲ起毛シテ模様部ヲ起毛セサルトノ差異ノ如キハ地部ト模様部ト起毛ノ部分ヲ交換シタルニ過キサルカ故ニ之ヲ以テ兩者ニ於ケル構造ノ差異ト爲スニ足ラス又本件登録新案ノ圖面ノ說明ニ於テ起毛スヘキ部分ニ起毛シ易キ緯絲ヲ多ク現ハス旨ノ記載アリト雖斯ノ如キ手段ハ起毛織物ノ製織ニ於テ從來普通ノモノタルニ過キス然レトモ第六四號改訂特許ニ於テハ起毛セサル部分ヲ平地ト爲シ而シテ平地ハ經緯均等ノ絲數ヲ現ハスモノナルカ故ニ地部ヲ起毛スルニ際シ平地ニ於ケル緯絲モ亦自然多少起毛セラレ從テ起毛後地部ト模様部トノ區別判明ナラサルノ結果ヲ生スルモノトス之ニ反シ本件登録新案ニ於テハ起毛セサル部分即チ地部ニ多ク經絲ヲ現ハセルヲ以テ模様部ヲ起毛スルニ際シ地部カ自然起毛セラル、カ如キコト無ク從テ起毛後地部ト模様部トノ區別判明ナルコトヲ得ルモノトス而シテ兩者ニ於テ如上ノ差異ヲ生スルハ起毛セサル部分ノ織成ヲ異ニセルコト前示ノ如クナルニ因ルモノナルカ故ニ本件登録新案ハ第六四號改訂特許ニ比シ織物全體ノ構造ヲ異ニスルノミナラス當業者ノ之ヨリシテ容易ニ推考シ得ヘキ程度ノモノニアラスト認ム從テ本件實用新案登録ヲ無効ト爲サンコトヲ求ムル當審被請求人ノ主張ハ理由無シ

大正二年九月二十六日於特許局

審判長

特許局技師工學博士

大竹

多氣

特許局技師

增島

文次郎

特許局事務官

田中

鐵二郎

第四百九十九號

右當事者間ノ第二二七三三號實用新案登録無效審判請求事件ニ付大正二年三月十四日當局ニ於テ爲シタ

兵庫縣津名郡假屋町二千三百五十番地	請求人	島圓次郎
大阪市南區順慶町四丁目七十三番地特許辨理士	右代理人	山内香
兵庫縣津名郡江井村ノ内柳澤村	被請求人	壽谷清吉
同 縣津名郡浦村ノ内浦村	同	伊藤忠吉
同 縣津名郡浦村ノ内中山村	同	正井周平
同 縣津名郡假屋村ノ内宇島田	同	廣田コウ
同 縣津名郡假屋村ノ内假屋町	同	相田龜藏
同 縣津名郡佐野村ノ内宇佐野村	同	高谷茂吉
同 縣津名郡佐野村ノ内宇佐野村	同	向田幸吉
同 縣津名郡佐野村ノ内小井	同	田邊太郎
同 縣津名郡淺野村ノ内淺野村	同	森田新助
同 縣三原郡賀集村ノ内八幡村	同	正木定市
同 縣三原郡賀集村ノ内八幡村	同	榎本鬼餘門
同 縣三原郡神代村ノ内神稻村	同	赤穂利平
同 縣三原郡神代村ノ内神稻村	同	木下和吉
同 縣三原郡神代村ノ内神稻村	同	大野清茂
神戶市下山手通六丁目五番地特許辨理士	右代理人	

ル審決ニ對シ抗告審判請求ヲ爲シタルニ依リ審決スルコト左ノ如シ

主文 抗告審判請求人申立相立タス

抗告審判費用ハ抗告審判請求人ノ負擔トス

申立ノ要領 抗告審判請求人申立ノ要領ハ原審決ヲ破毀シ抗告審判被請求人ノ申立相立タス審判費用ハ原審及抗告審共抗告審判被請求人ノ負擔トストノ審決ヲ求ム其理由ハ第一、俵若クハ籾ニ於テ古來行ハレタル交叉編ナルモノト本案ノ編方トハ同一ニアラス本案ノ編方ハ第一ノ編目ニ於テハ一ノ藁若ハ麥若ハ麥稈ヲハ同一ノ編目ニ入ラシメ第二ノ編目ニ於テハ一ノ藁若ハ麥若ハ麥稈ノ外側ニアル部分ト同一ノ編目ニ入ラシムルニ在リ之レニ反シテ俵若ハ籾ニ於テ古來行ハレタリト稱スル交叉編ナルモノハ第一ノ編目ニ編込マレタル數本ノ藁ヲ第二ノ編目ニ於テ之ヲ兩分シ其一ト之ニ隣接セル他ノ一トヲ同一ノ編目ニ入ラシメタルニ過キスシテ本案ノ如ク第二ノ編目ニ於テ藁若クハ麥稈ノ内側ニアル部分ト外側ニアル部分ト同一ノ編目ニ入ラシメタルニアラス第二、壘ノ出入口ノ周圍ニ芯ヲ巻包シタル構造ノ全ク新規ノ考案ニ屬スルコトハ抗告被請求人モ亦原審ニ於テ之ヲ認ムル所ナリ第三、證人平松仙太郎ノ證言ハ虛偽ナリ抗告請求人ハ曩ニ證人ニ對シ偽證ノ告訴ヲ爲サントスルニ際シ證人ハ人ヲ介シテ謝罪シ且ツ乙第一號證ノ謄書ヲ提供シタリ唯タ當審ニ於ケル證人松下善藏ノ供述ニヨレハ本案ノ如キ編方ヲ施シタル壘苞ハ本案登録出願前公知公用ナリシカ如ク又本案ノ如ク芯ヲ壘口ノ周圍ニ巻包シタル壘苞「本案ト同一構造ヲ有スルモノ」モ同人ニ於テ二三回製作シタル事實アルカ如キモ是レ全然信憑スルニ足ラス蓋シ證人此等ノ供述ハ其隣佑ニシテ日夜相往來セ

ル原審證人平松仙太郎ノ供述ヲ基礎トシタルモノナリ故ニ本事件ノ焦點ハ原審證人平松仙太郎ノ供述ノ眞否如何ニ係ルモノナリ云々ト云ヒ證人訊問ノ申請ヲナセリ

被請求人申立ノ要領ハ本案抗告ハ之ヲ棄却ス抗告費用ハ抗告審判請求人ノ負擔トストノ審決ヲ求ム其理由ハ益又ハ簀ハ塚苞ト同シク藁ニ折返シアルヲ以テ第二ノ編目ニ於テ内部ノ藁ト外部ノ藁トヲ同一ノ編目ニ入ル、モノナレハ抗告審判請求人ノ攻撃ハ何等根據ナシ又抗告審判請求人ハ塚ノ出入口ノ周圍ニ芯ヲ巻包シタル構造ハ審判番號第二四七八號實用新案登録範圍確認請求審判事件ニ於テ本實用新案ノ從屬部分ニ過キストテ自ラ其重要ノ關係ナキコトヲ主張シ居ルニ付抗告審判被請求人ハ事實ノ陳述ヲ省略シタルモノニ過キス而シテ抗告審判被請求人ハ大正元年十一月六日付事實補充書ニ於テ塚ノ出入口ニ芯ヲ入ル、構造ハ明治三十七八年頃ニ考案セラレ爾來各農家ニ於テ製造販賣シツ、アルコトヲ主張セリ尙ホ抗告審判請求人ハ原審證人平松仙太郎ノ證言ハ虛偽ナリトシ證人ノ文字ナキト質朴ナルニ乘シ騙シテ詭狀ナルモノニ拇印セシメタル由ナルニ付如此書面ハ信ヲ措クニ足ラス云々ト云ヒ證人訊問ノ申請ヲ爲セリ

審決ノ理由 本件第二一七三二號登録實用新案島式改良塚苞ハ藁ヲ二ツニ折リタル間ニ芯ヲ挾ミ芯ニ近キ編絲中ニ同一ノ藁ヲ同一編目ニ入ラシメ芯ニ遠キ編絲中ニ一ノ藁ノ内側ニアル部分ト之ニ隣接セル藁ノ外側ニアル部分トヲ同一ノ編目ニ入ラシメタル構造ナルコトハ其登録請求範圍及ヒ圖面ノ説明ニ依リ明ナリ然ルニ此レト同一構造ノ塚苞即乙第八號證ノ如キ塚苞ハ明治三十六七年頃ヨリ兵庫縣津名郡浦村ノ内浦村ニ於テ松下善藏ノ家族等カ製作販賣シ其事實ハ證人松下善藏ノ證言ニ依リ之ヲ認ムルコトヲ得從テ本件登録實用新案ノ塚苞ハ其登録出願前公然知ラレ公然用キラレタルモノニシテ實用新案法第三條第一號ニ該當シ同法第一條及第十一條ニ依リ其登録ハ無効トナスヘキモノナリ仍テ主文ノ如ク審決ス

大正二年十月二十一日於特許局

審判長 特許局技師工學博士 阪田 貞一
特許局技師 増島 文次郎
特許局事務官 田中 鐵二郎

第二百六十五號

東京市本郷區湯島天神下同朋町一番地 請求人 清水 藤右衛門
同 市神田區五軒町五番地特許辨理士 右代理人 日山 豊次郎
同 市赤坂區青山南町六丁目百四十七番地 被請求人 常見 誠一
同 市京橋區采女町二十一番地特許辨理士 右代理人 飯田 治彦

右當事者間ノ第二〇八三三號實用新案(精穀機)登録無効審判請求事件ニ付明治四十四年十月十二日當局ニ於テ爲シタル審決ニ對シ抗告審判請求ヲ爲シタルニ依リ審決スルコト左ノ如シ

主文 請求人ノ申立相立タス

抗告審判費用ハ請求人ノ負擔トス

申立ノ要領 請求人ハ原審決ヲ破毀ス第二〇八三三號實用新案登録ヲ無効トス審判費用ハ原審及當審共被請求人ノ負擔トストノ審決アリタシト申立テ其理由ノ要領ハ本件登録第二〇八三三號實用新案精穀機ノ構造ハ筒狀承^②及^⑩ノ周壁ニ螺旋釘^⑪^⑫及^⑬^⑭ヲ螺着シテ其内側ニ在ル管狀筒體^①ノ外周壁面ヲ支持押壓シ且ツ該各螺旋釘ヲ調整シテ管狀筒體ニ於ケル前後ノ中心位置ヲ變移調整スルモノニシテ請求人カ製造販賣シタル甲第一號證精米機ハ後方ニ三箇ノ押螺旋ヲ設ケテ摩擦筒ノ後方ノミヲ押壓

シテ前後ノ中心位置ヲ調整スルモノナルモ精米機ノ管狀筒體ノ如キハ全長僅カニ八「インチ」位ニシテ之ヲ筒狀承内ニ深く嵌入シテ押壓スレハ甲第一號證ノ如ク後方ノ一箇所ノミニテ前後ノ中心位置ヲ意ノ如ク調整シ得ヘキモノナリ本件登錄實用新案ニ於ケル如ク前端ニ設ケタル裝置ハ必要ナク製作ヲ複雑ナラシムルニ過キス假令多少ノ働キアリトスルモ後方ニ設ケタル公知公用ノ裝置ヲ重複シテ前方ニ設ケルカ如キハ何人モ容易ニ設計シ得ヘキ所ナリト云フニ在リ

被請求人ハ請求人ノ申立相立タス審判費用ハ請求人ノ負擔トストノ審決アリタシト申立テ其理由ノ要領ハ長サヲ有スルモノ、中心位置ヲ確實ニ調節保持スルニハ其支持點ハ六點以上ナラサルヘカラス本件登錄實用新案ハ前後三點宛合セテ六點ニ於テ支持スヘク爲シタルモノナリ請求人ノ述フル如キ一端ニ於ケル三點ノミニテハ其目的ヲ達スル能ハス又請求人ノ述フル如ク深く承内ニ筒ヲ嵌入スルモ承ト筒トハ接觸セス若シ接觸點アリトスレハ調節不可能ナリト云フニ在リ

審決ノ理由 本件第二〇八三三號登錄實用新案ハ其登錄請求範圍圖面及説明書ニ依レハ轉軸ノ外周ニ於ケル管狀筒體ノ前部及後部ニ筒狀承ヲ有スル精穀機ニ於テ各筒狀承ノ周壁ニ三箇ノ螺旋杆ヲ螺着シテ其内側ニ在ル管狀筒體ノ外周壁面ヲ支持押壓シ且各螺旋杆ヲ調整シテ該管狀筒體ニ於ケル前後ノ中心位置ヲ移變調節スル構造ナリ精穀機ニ於テハ轉軸ノ急速ナル回轉ニ因リ軸受ニ於ケル磨耗ヲ生シ之カ爲メニ轉軸ノ中心線ノ位地及方向ニ變動ヲ生シ轉軸ノ中心線ト管狀筒體ノ中心線トカ其位置及方面ヲ同フセサルニ至リ從テ轉軸ノ外周ト管狀筒體ノ内周ト間ニ於ケル環狀空隙ノ各部ニ廣狹ヲ生シ其結果精穀作用ヲ不良ナラシムルニ至ルカ故ニ本件登錄實用新案ノ精穀機ニ於テハ使用ニ依リ轉軸ノ中心線ノ位置及方向ノ變動スルニ從ヒ前後ノ筒狀承ノ周壁ニ於ケル各螺旋杆ヲ調整シ以テ管狀筒體ノ中心線ノ位地及方向ヲ移變調整シ之ヲシテ轉軸ノ中心線ノ位地及方向ニ適合セシムルモノナリ請求人ノ提

出セル甲第一號證精穀機ニ於テハ唯一箇ノ筒狀承ヲ有シ其内方ニ摩擦筒即チ管狀筒體ヲ嵌入スヘク爲シ其筒狀承ノ周壁ニ三箇ノ螺旋杆ヲ螺着シ之ニ依リ管狀筒體ノ外周壁面ヲ支持押壓スヘク爲シタルモノニシテ精穀機ノ使用ニ依リテ管狀筒體内ニ於ケル轉軸ノ中心線ノ位地及方向ニ變動ヲ生シタル場合ニ各螺旋杆ヲ調整シテ管狀筒體ノ該螺旋杆ノ位置ニ於ケル中心點ヲ調整シ之ヲ該位置ニ於ケル轉軸ノ中心點ニ適合セシムルコトヲ得レトモ管狀筒體ノ中心線ノ方向ヲ任意ニ調整シテ之ヲ轉軸ノ中心線ノ方向ニ適合セシムルコト能ハス管狀筒體カ全長僅カニ八「インチ」ナル場合ニ於テモ亦然リ故ニ本件登錄實用新案ノ構造ハ甲第一號證精穀機ノ構造ニ比シ同一若ハ類似ニアラス又甲第一號證ヨリシテ直ニ推考シ得ヘキ程度ノモノニモアラス

仍テ主文ノ如ク審決ス

大正二年十一月十二日於特許局

審判長 特許局技師工學博士 阪田 貞一
特許局技師 増島 文次郎
特許局事務官 田中 鐵二郎

第四百二十六號

東京市下谷區御徒町二丁目三十六番地 請求人 富久 則寬
同 市下谷區御徒町二丁目三十六番地 同 石田 春太郎
同 市芝區愛宕町二丁目十四番地特許辨理士 右兩名代理人 齋藤 二郎

東京市下谷區御徒町一丁目三十一番地 被請求人 川崎末松
同 市麴町區有樂町三丁目一番地特許辨理士 右代理人 秋山襄

右當事者間ノ第三〇四〇號實用新案(活動「ブック」)登録無効審判請求事件ニ付大正元年十月十六日當局ニ於テ爲シタル審決ニ對シ抗告審判請求ヲ爲シタルニ依リ審決スルコト左ノ如シ

主文 抗告審判請求人申立相立タス

抗告審判費用ハ抗告審判請求人ノ負擔トス

申立ノ要領 抗告審判請求人申立ノ要領ハ原審決ヲ破毀ス第三〇四〇號實用新案ニ對スル被請求人ヨリノ登録無効審判請求ハ之レヲ却下ス審判及ヒ抗告審判費用ハ被請求人ノ負擔トストノ審決ヲ求ム其ノ理由ハ原審ノ證人ハ孰レモ虛偽ノ申立ヲ爲シ居ルモノニシテ本件實用新案ト類似セル活動「ボンチ」ナルモノハ請求人ノ登録以後ニ於テ之レニ模倣シ製造販賣シタルモノニシテ却テ被請求人ニ於テ請求人ノ新案權ヲ害シタルモノト云フヘク公知ノモノニアラサルナリ又元來玩具商人又ハ製造者等ノ習慣トシテ先ツ玩具問屋ニ於テ試賣シ而シテ後夜店商人ニ賣捌クカ常例ナリ然ルニ被請求人カ玩具問屋ニ活動「ボンチ」ノ賣捌キヲ依頼シタルハ明治四十五年ナルニ拘ラス其ノ以前緣日ニ於テ賣出シタリト云フカ如キハ全ク矛盾ニシテ被請求人ノ主張カ虛偽ナルコトヲ認ムルニ足ル云々ト云ヒ證人訊問ノ申請ヲナセリ

抗告審判被請求人申立ノ要領ハ請求人ノ申立相立タス審判費用ハ請求人等ノ負擔トストノ審決ヲ求ム其ノ理由ハ請求人ハ原審證人ノ證言ハ信スルニ足ラスト謂フニアルカ如シト雖何等ノ根據ナキヲ以テ被請求人ノ申立ヲ覆スニ足ラス又玩具問屋ニ於テ試賣シ而シテ後夜店商人ニ賣捌クト又ハ先以テ夜店商人若クハ呼賣商人ヲシテ販賣セシメ其ノ賣行ノ良好ナルヲ見計ヒタル後始メテ玩具問屋ニ出荷シ以

テ賣出サシムルトハ一ニ發賣人ノ商略如何ニ在リ何ソ斯クノ如キ點ニ迄劃「ナル習慣ノ下ニ彼等ヲシテ守株ノ愚ヲ強フルヲ得ンヤ要スルニ請求人ノ此ノ點ニ關スル主張ハ採ルニ足ラス云々ト云ヒ原審ノ申立ヲ援用シ更ニ證人訊問ノ申請ヲナセリ

審決ノ理由 本件第三〇四〇號登録實用新案活動「ブック」ハ其登録請求範圍及圖面ノ說明ニ記載セル如ク圖書ヲ印刷セル原紙片ヲ遞進狀ニ脊紙片ニ貼付シ兩面ニ厚紙ノ表紙ヲ附シタル構造ノ玩具ニシテ

明治四十四年十月二十日其登録ヲ出願シタルモノナリ然ルニ證人白井吉五郎及堀口熊太郎ノ供述ニ依レハ抗告審判被請求人カ前示ト同一ノ構造ヲ有スル玩具ヲ製造スル目的ヲ以テ堀口熊太郎ヲシテ描畫セシメタル上印刷ニ付シ白井吉五郎ニ材料ヲ交付シテ前示ノ構造ヲ有スル玩具二萬箇以上ヲ製作セシメテ其引渡ヲ受ケタルコト竝ニ其引渡カ明治四十四年五月中頃ヨリ同年六月初メマテニ製品出來ノ都度數回ナリシコトヲ認定スルヲ得而シテ原審證人堀梅吉ハ甲第五號證ト同一ノ構造ノ玩具約二萬箇ヲ明治四十四年五月二十二日ニ抗告審判被請求人ヨリ買取リ賣子ヲシテ淺草公園等ニテ同月中ニ悉皆販賣セシメタル旨供述シ又甲第五號證玩具ハ本件登録實用新案ト同一ノ構造ヲ有スルモノナルヲ以テ前示認定ノ事實ト證人堀梅吉ノ供述トヲ綜合シテ考察スレハ本件登録實用新案ト同一構造ノ玩具カ其登録出願ノ日ヨリ以前ニ公然知ラレタルコトヲ認定スルニ十分ナリ證人竹平吉藏及萩野清一ノ供述ハ以テ以上ノ認定ヲ覆スニ足ラス從テ本件登録實用新案ハ實用新案法第三條第一號ニ該當シ同法第一條及第十一條ニ依リ其登録ヲ無効ト爲スヘキモノトス
仍テ主文ノ如ク審決ス

大正二年十一月二十日於特許局

審判長 特許局技師工學博士 阪田貞一

特許局技師 增島文次郎
特許局事務官 田中鐵二郎

*六十八

第五百八十六號

大阪市北區梅田町三百四十八番地

請求人 山崎 照親

同 市南區順慶町四丁目七十三番地特許辨理士

右代理人 山内 香

名古屋市西區鹽町二丁目百六番戶

被請求人 服部 萬吉

同 市西區長島町三丁目百十五番戶特許辨理士

右代理人 織田 了

右當事者間ノ第二〇一四五號實用新案(經濟煉炭)權利確認審判請求事件ニ付大正二年七月三十一日當局

ニ於テ爲シタル審決ニ對シ抗告審判請求ヲ爲シタルニ依リ審決スルコト左ノ如シ

主文 抗告審判請求人申立相立タス

抗告審判費用ハ抗告審判請求人ノ負擔トス

申立ノ要領 抗告審判請求人申立ノ要領ハ原審決ヲ破毀ス抗告審判被請求人ノ製造販賣ニ係ル甲第一號

證煉炭ハ第二〇一四五號登錄實用新案ノ權利範圍ニ屬ス審判費用ハ原審及當審共抗告審判被請求人ノ

負擔トストノ審決ヲ求ム其理由ハ本件實用新案ノ主要部ハ該煉固炭(一)ニ存スルモノト謂ハサルヘカラ

ス然ルニ原審ハ本件登錄實用新案權ハ該煉固炭(一)ニ存セスト爲シ恰モ點火包(三)、條線(四)ノミカ本件實

用新案權ヲ構成スルモノナルカノ如クニ解シ而カモ該煉固炭(一)カ本件實用新案權ノ範圍ニ屬セサル所

以テ毫モ明ニセス又上述點火包(三)、條線(四)ノミカ本件實用新案タルヘキ理由ヲモ明ニセサルナリ實用

新案ハ其主要部ニ於テ抵觸スルトキハ縱令其附隨部分ニ於テ相違スル所アリトスルモ兩者ハ權利上相
抵觸スルモノナルコトハ解釋上異論ナキ所ナリ而シテ本件實用新案ハ前段所說ノ如ク其構造上ノ說明
ハ該煉固炭(一)ニ付キテノミ存シ點火包(三)、條線(四)ノ構造ニ關シ何等具體的說明ナキノミナラス物品其
物ノ性質上該煉固炭(一)ナルモノカ本件實用新案ノ主要部分ヲ爲スルモノナルコト言フ俟タス然ラハ則
チ既ニ此主要部分ニ於テ兩者同一ナルコトヲ認メタル以上ハ其當然ノ結論トシテ兩者ハ相抵觸スルモ
ノト斷定スルコトヲ要ス更ニ甲第一號證ノ煉炭ニ於ケル環狀ノ臺(八)、空氣送入管(二)ノ如キハ該煉固炭
ノ使用方法ノ一例ニ過キス恰モ焔爐若クハ五徳ニ比スヘキ使用器具ニシテ從テ甲第一號證ノ煉炭ハ
此等器具ト組合セノモノニアラサルコト物品ノ性質上極メテ明瞭ナル事理ニ屬ス云々ト云フニ在リ
抗告審判被請求人申立ノ要領ハ抗告審判請求人ノ申立相立タス抗告審判費用ハ抗告審判請求人ノ負擔
トストノ審決ヲ求ム其ノ理由ハ原審決ニ於テ本件實用新案經濟煉固炭構造中ノ一部分タル煉固炭(一)カ
其ノ權利範圍ニ屬セサルコト又點火包(三)、條線(四)ノミカ權利範圍ニ屬スルコトヲ特ニ明示スルノ必
要ナシ何トナレハ甲第一號證ノ煉炭ト本件實用新案ノ兩者カ構造若クハ組合セノ全體ニ於テ全然相違
スル趣旨ヲ判示シタル以上部分的理由ヲ明示スルノ要ナケレハナリ從テ原審決ハ本件請求人主張ノ如
キ理由不備ノ違法アルコトナシ本件實用新案及ヒ甲第一號證ノ物品カ其ノ構造若クハ組合セノ全體ニ
於テ全然相違スルモノト認メタル以上其構造ノ一部分タル煉固炭カ互ニ同一ナルモノ之レカ爲メ全體ノ
構造ヲ分割シテ同一部分ハ實用新案權利範圍ニ屬シ其以外ノ相違セル部分ハ其權利範圍外ナリトノ理
由ヲ付スルノ必要ナシ又之レカ開示ヲ命シタル法規ノ存スルモノナシ本件被請求人ハ甲第一號證ヲ提
示シタルハ使用方法ノ一例トシテ提示シタルニアラスシテ自ら製造販賣スル煉固炭ノ組合セノ一物品
トシテ提示シタルモノナリ然ラハ原審決ハ事實ヲ不當ニ認定シタルモノニアラス本件請求人ノ主張コ

*六十九

ソ却テ事實ヲ不當ニ曲解スル謬見タルヲ免レス云々ト云ヒ原審ニ提出シタル書類及ヒ甲號各證ヲ援用セリ

*七十

審決ノ理由 本件第二〇一四五號登録實用新案經濟煉炭ハ其ノ登録請求範圍ニハ『別紙圖面ニ示ス經濟煉炭ノ構造』トアリ而シテ其ノ構造ハ添附圖面及ヒ說明ニ明記スルカ如ク「コークス」粉末無烟炭粉末ヲ「フキリ」液ト泥土液トヲ混シタル液ニテ固メ其下端ニ消炭ノ粉末ヲ固メ附着シ孔②ヲ穿テ下面ヲ凹クシタル煉固炭①ト點火包③及ヒ上端ヲ環狀ニシタル條線④トノ組合ヨリ成ルヲ以テ本件實用新案ノ權利ハ前記全部ノ構造ニ存スルコト明ナリ又被請求人カ製造販賣スル甲第一號證ノ煉炭ハ其ノ周邊ニ導火粉末ヲ附着シ氣孔ヲ穿テ下面ヲ凹クシタル煉固炭ト圓形ノ臺及ヒ通風筒トノ組合セヨリ成ルコトハ其ノ圖面及ヒ說明ニ依リ明ナリ而シテ被請求人ハ該組合セカ本件實用新案ノ權利範圍ニ屬セストノ審決ヲ請求セルヲ以テ此二者ヲ對比スルニ煉固炭ノ形狀ハ二者共ニ同一ナルモ本件實用新案ノ權利ハ前段說明セル如ク煉固炭ト點火包及ヒ條線トヨリ成ル全部ノ組合ニ存シ其ノ各部分ニ存スルモノニアラサルヲ以テ甲第一號證ニ於ケル煉固炭ノミカ本件實用新案權ノ範圍ニ屬セサルハ勿論甲第一號證ノ煉固炭即煉固炭ト圓形ノ臺及ヒ通風筒ヨリ成ル煉炭ハ本件實用新案ノ煉炭即煉固炭ト點火包及ヒ條線ヨリ成ル煉炭トハ全然其ノ組合セテ異ニス從テ甲第一號證ノ煉炭ハ本件實用新案ノ權利範圍ニ屬セサルモノトス請求人ハ本件實用新案ハ煉固炭ヲ以テ其ノ主要部分トシ點火包條線ノ如キハ附隨物ニ過キスト主張スルモ實用新案ノ權利範圍ヲ確認スルニハ其登録請求範圍ヲ基礎トシ之レニ依リ解釋スルコト當然ナルヲ以テ本件ノ場合ニ於テ其ノ權利範圍ハ前段說明セル如ク煉炭全部ノ組合ヨリ成ルモノト解釋スルヲ至當トシ煉炭ヲ部分的ニ區分シ其一部分ヲ以テ權利ナリトノ請求人ノ主張ハ不當ナリ其ノ他當事者間相爭フ所アルモ本件審決ニ關係ヲ及ホサ、ルヲ以テ之ヲ說明セス

仍テ主文ノ如ク審決ス

大正二年十一月二十九日於特許局

審判長 特許局事務官 村上隆吉
特許局技師 增島文次郎
特許局事務官 田中鐵二郎

第五百四十八號

東京市京橋區南傳馬町二丁目八番地	請求人	溝口萬吉
同 市日本橋區吳服町二番地特許辨理士	右代理人	杉田金之助
同 市下谷區池ノ端仲町九番地	被請求人	野尻雄三
同 市神田區鍛冶町二十五番地特許辨理士	右代理人	竹本曜二

右當事者間ノ第二二二〇八號實用新案(裝飾用指輪箱)登録無效審判請求事件ニ付大正二年七月二十九日當局ニ於テ爲シタル審決ニ對シ抗告審判請求ヲ爲シタルニ依リ審決スルコト左ノ如シ

主文 原審決ヲ破毀ス

實用新案第二二二〇八號登録ヲ無効トス
審判費用ハ原審及當審共抗告審判被請求人ノ負擔トス
申立ノ要領 當審請求人ハ原審決ヲ破毀シ實用新案第二二二〇八號登録ヲ無効トス審判費用ハ原審及當審共抗告審判被請求人ノ負擔トストノ審決アリタシト申立テ其理由ノ要領ハ原審證人平野已之助カ甲

*七十一

第二號證ノ物品ヲ購入シタリト供述シ其物品カ本件登録實用新案ノ指輪「サック」ト同一構造ナル以上ハ本件實用新案ハ其登録出願前公知ニ屬シタルモノナリ其他原審ニ於ケル主張ヲ援用スト謂フニ在リ

當審被請求人ハ抗告審判請求人申立相立タス審判費用ハ原審及當審共抗告審判請求人ノ負擔トストノ審決アリタシト申立テ其ノ理由ノ要領ハ原審證人カ甲第二號證物品ヲ購買シタリト供述シタルハ該物品ノ外形ノミヲ看取シテ答ヘタルニ過キス内部ノ構造ニ關シテハ單ニ商品トシテ扱ヒシノミナルカ故ニ内部ノ構造ヲ知悉セスト答ヲ爲シタルハ至當ナリ故ニ該證言ハ當審請求人ノ主張ヲ立證スヘキ價値ナシ當審請求人ハ證人松本徳太郎、滑川源次郎等ノ訊問ヲ申請シタリト雖右證人ヲ以テ炭産商店ニ於ケル賣買ノ有無ヲ立證セントセルニ過キス然ルニ炭産商店ニ於テ「バネ」上「サック」ヲ購入シタルハ小澤倉吉一人ノミヨリナルコトハ原審證人平野巳之助ノ供述ニ依リ明カニシテ小澤倉吉ハ明治四十四年八月中初メテ該「バネ」上「サック」ヲ製造シタルモノニシテ其以前ニ製造シタルコトナシ其他原審ニ於ケル答辯ヲ援用スト云フニ在リ

審決ノ理由 彈機ヲ裝置シタル指輪箱五打ヲ其製造人小澤倉吉ヨリ東京市日本橋區油町炭産商店カ明治四十三年六月二十七日ニ買入レタルコトハ當審證人松本徳太郎原審證人平野巳之助ノ供述及甲第三號證ノ記載ニ依リ之ヲ認ムルヲ得而シテ其買入レニ係ル指輪箱カ甲第二號證指輪箱ニ比シ撥條ノ裝置及其他ノ點ニ付キ全ク同一ノ構造ヲ有スルモノナリシコトハ當審證人松本徳太郎ノ供述及明治四十三年夏炭産商店ヨリ指輪箱一箇ヲ買受ケタル當審證人滑川源次郎ノ供述ニ依リ之ヲ認ムルヲ得仍テ甲第二號證指輪箱ノ構造ヲ檢スルニ蓋ヲ開閉シ得ヘク箱ニ蝶着シ箱ノ内部ニ彈條ヲ裝設シ其上ニ布ヲ張り布ノ外面ニ環狀突起ヲ設ケテ指輪ノ挿置部トナシ蓋ト下箱トハ掛金ニテ密閉スルヲ得ヘク爲シ蓋ヲ閉チ

タルトキハ指輪ノ挿置部ヲ下方ニ陥没セシムヘク又蓋ヲ開キタルトキハ彈條ニ依リテ指輪ノ挿置部ヲ上方ニ突出セシムヘク爲シタルモノナリ然ルニ本件登録實用新案ハ其圖面及説明ニ依レハ甲第二號證ニ於ケル前示ノ構造ト異ル所ナキ指輪箱ノ構造ナルノミナラス其登録出願ハ明治四十四年四月一日ナルカ故ニ其登録ハ實用新案法第三條第一號第一條及第十一條ニ依リ之ヲ無効ト爲スヘキモノトス仍テ主文ノ如ク審決ス

大正二年十二月四日於特許局

審判長 特許局事務官 村上隆吉
特許局技師 増島文次郎
特許局事務官 田中鐵二郎

第四百八十號

京都市上京區岡崎町字入江八十二番地 請求人 榎垣多七
大阪市北區真砂町十一番地特許辨理士 右代理人 甘糟勇雄
同 市東區備後町三丁目百九番地特許辨理士 同 被請求人 鈴木千代吉
群馬縣山田郡毛里田村吉澤乙十八番地 同 被請求人 岡部幸吉
東京市下谷區竹町二十八番地特許辨理士 右代理人 新井要太郎

右當事者間ノ第二四四九四號實用新案(織物)登録無効審判請求事件ニ付大正二年二月二十四日當局ニ於テ爲シタル審決ニ對シ抗告審判請求ヲ爲シタルニ依リ審決スルコト左ノ如シ

主文 原審決ヲ破毀ス

本件審判請求ヲ却下ス

審判費用ハ原審及當審共請求人ノ負擔トス

申立ノ要領 請求人ハ原審決ヲ廢棄ス第二四四九四號實用新案登録ヲ無効トス審判費用ハ原審及當審共被請求人ノ負擔トストノ審決アリタシト申立テ其理由ノ要領ハ請求人ハ普通ノ撚絲ヲ絹目ノ兩端ニ按排シテ立紹縮緬ヲ製織シタル事實アルノ故ヲ以テ本件新案登録ヲ無効ト爲サンコトヲ求ムルニアラス地組織〔平絲〕ト別種ナル撚絲ヲ絹目ノ兩端ニ按排シタル立紹縮緬即チ精練ニ因リ其撚絲收縮シ以テ絹目ヲ整然タラシムヘキ組織ノ織布ノ製織セラレタル事實アルコトニ依リテ本件登録ヲ無効ト爲サンコトヲ求ムルモノナリ請求人カ利害關係人ニアラストノ被請求人ノ抗辯及係爭權利ノ範圍ノ問題ニ付テハ原審決ノ判示最明截ナリト云フニ在リ

被請求人ハ請求人ノ申立相立タス審判費用ハ請求人ノ負擔トストノ審決アリタシト申立テ其理由ノ要領ハ(一)請求人カ原審ニ於テ主張セサリシ事項ヲ當審ニ於テ主張スルハ不合法ナリ請求人ハ原審ニ於テ單ニ緯絲二條ツ、織込ムハ拙劣ナリ又絹目ノ兩端ニ強撚絲ヲ配置シ且緯絲ニモ撚絲ヲ用ヒンカ之ヲ練ルニ必ス上下左右ノ收縮ヲ來タシ而カモ上下左右ノ度ト相違アルヲ以テ絹目ニ於テ不整ナル皺襞ヲ生シ絹目ノ透徹ヲ妨クルヤ明カナリト主張シ撚絲ヲ用ユルコトヲ攻撃シタリ然ルニ當審ニ於テハ被請求人ノ原審ニ於ケル主張ヲ採リテ請求人ノ主張ト爲セリ(二)請求人カ嘗テ丹後地方ニ於テ緞絲ニ普通ノ撚絲ヲ用ヒタルコトカ公知ナリト假定スルモ被請求人ノ使用スル撚絲ハ最高度ノ強撚ヲ施セルモノナレハ成品ノ成績ト效力トニ於テ著シキ相違アリテ此特色ニ對シ登録ヲ與ヘラレタルモノナルヲ以テ無効トセラレヘキ理由無シ(三)請求人ハ登録第八八五六號清瀧織實用新案權ヲ有スト雖全部平絲ヲ用ユル組

織ニシテ撚絲ヲ使用スルモノニアラス故ニ被請求人ノ立紹縮緬ノ構造トハ抵觸スル所無ク又利害關係ナシ即チ請求人ハ絹目ノ兩端ニ撚絲二條ヲ用ヒタル立紹縮緬ヲ製造販賣シ居ラサルカ故ニ被請求人カ立紹縮緬ヲ製造販賣スルトモ何等ノ影響無ク本件審判ヲ請求スルヲ得ヘキ利害關係人ナリト謂フヲ得スト云フニ在リ

審決ノ理由 被請求人ハ請求人カ本件審判請求ノ理由トシテ當審ニ於テ新タナル主張ヲ爲スハ不合法ナリト抗辯セルヲ以テ先ツ此點ニ付テ案スルニ請求人ノ當審ニ於ケル主張ハ立紹ノ絹目ノ兩端ニ撚絲トシテ撚絲ヲ用フルコトハ本件實用新案登録出願前ヨリ公然知ラル、所ニシテ本件登録實用新案ニ於テ立紹ノ絹目ノ兩端ニ強撚セル二條ノ撚絲ヲ使用スルハ其撚絲ノ撚ノ程度ニ多少ノ差異アルニ止マリ畢竟登録出願前ヨリ公然知ラル、所ノモノト同一ナルヲ以テ本件登録實用新案ハ實用新案法第三條第一號ニ該當セリト云フニ在リ而シテ請求人ノ原審ニ於ケル主張モ亦此趣旨ニ外ナラサルコトハ原審判請求書理由第二項ノ記載ニ依リ明カナリ從テ被請求人ノ右抗辯ハ理由ナシ

次ニ請求人カ本件審判ヲ請求スルヲ得ヘキ利害關係人ナルヤ否ヤノ爭點ニ付テ案スルニ實用新案登録出願前ニ公知公用ニ屬シタル考案ト同一若ハ類似ナル考案ハ最早世上一般何人ト雖自由ニ之ヲ使用シ得ヘキモノト爲レルヲ以テ其後ニ至リ其登録ヲ出願スル者アリトモ登録ヲ受クルコトヲ得サルモノトス〔實用新案法第一條及第二條〕若シ此場合ニ於テ考案カ登録セラレタルトキハ他人ハ公知公用ノ考案ヲ使用スルコトニ付既ニ得タル自由ヲ妨ケラルヘク從テ登録後其考案ヲ使用セル者ハ勿論之ヲ使用セント欲スル者モ亦其使用ノ自由ヲ回復スル爲メ登録無効審判ヲ請求スルヲ得ヘク實用新案法第十八條第二項ノ利害關係人ニ該當スルモノトス然レトモ登録後其考案ヲ使用セルニアラサルノミナラス之ヲ使用セントスル意思ヲモ有セサル他人ニ在テハ其登録ノ存在ニ依リ何等利害ノ影響ヲ受クヘキ謂ハレ

無ク從テ其登録ヲ無効トスル爲メ審判ヲ請求スルヲ得ヘキ利害關係人ナリト謂フヲ得ス請求人ノ本件
 審判請求ノ理由ハ本件第二四四九四號登録實用新案ハ出願前ヨリ公然知ラル、所ノモノニ比シ搦絲ノ
 撚ノ程度ヲ多少異ニスルニ過キスシテ畢竟同一考案ニ外ナラスト云フニ在リト雖請求人ハ該考案ヲ登
 録後自己ニ於テ使用セルコトヲ主張スルニアラサルノミナラス之ヲ使用セントスルノ意思ヲモ有セサ
 ルモノナリ請求人カ原審ニ於テ本件登録新案ハ實用アルモノニアラス第八八五六號登録實用新案清瀧
 織ニ於テハ縞目整然トシテ偏倚ノ虞無キモ本件登録新案ニ於テハ縞部ニ不整ナル皺襞ヲ生シ縞目ノ透
 徹ヲ妨ケ清瀧織ニ比シテ劣等ナリト主張シ〔原審辯駁書第二項〕且當審口頭審理ニ於テ曩ニ縞目ノ兩端
 ニ撚絲ヲ使用シタルコトアルモ近來ハ使用セスト陳述セルヲ以テ見ルモ縞目ノ兩端ニ撚絲若ハ強撚絲
 ヲ撚絲トシテ使用スル考案即チ本件第二四四九四號登録實用新案ヲ請求人ニ於テ使用セントスルノ意
 思ヲモ有セサルコト明カナリ故ニ本件登録實用新案カ出願前公知公用ニ屬シタリシト假定スルモ請求
 人ハ本件登録ノ存在ニ關シ何等利害關係ヲ有セス從テ其登録ヲ無効トスル爲メ審判ヲ請求スルヲ得ヘ
 キ利害關係人ナリト謂フヲ得ス又請求人ノ第八八五六號登録實用新案清瀧織ト本件登録實用新案トヲ
 比較スルニ本件登録實用新案ハ強撚セル二條ノ撚絲ヲ使用シテ縞ヲ組織シタル立縞織物ノ構造ニシテ
 清瀧織ニ於テハ立縞ノ縞目ノ兩端ニ二條ノ撚絲ヲ使用セリト雖其撚絲ニ撚ヲ施スコトニ付テハ登録請
 求範圍、圖面及説明中ニ何等記載スル所無シ加之請求人カ清瀧織ノ製品ナリトシテ提出シタル甲第三
 號證ノ一ト請求人カ被請求人ノ本件登録實用新案ノ製品ナリトシテ提出シタル甲第八號證トヲ比較ス
 ルニ前者ハ撚絲ニ平絲ヲ使用シタル結果織布平滑ナルモ後者ハ撚絲ニ強撚ヲ施シタル結果撚絲ノ部分
 ニ於テ織布面ニ突起ヲ生ス從テ織物ノ構造上兩者考案ヲ異ニシ實用新案權相抵觸スルコト無シ請求人
 ニ於テモ當審口頭審理ニ於テ訊問ニ對シ被請求人カ本件登録實用新案通リノモノヲ販賣スレハ差支無

シト陳述セリ故ニ請求人カ清瀧織ノ登録實用新案權者タルノ事實モ亦請求人ヲシテ本件審判ヲ請求ス
 ルヲ得ヘキ利害關係人タラシムヘキ理由ト爲ラス若シ夫レ被請求人カ第二四四九四號登録實用新案通
 リノモノヲ製造販賣セスシテ第八八五六號登録實用新案ニ類似スルモノヲ製造販賣セル結果請求人ニ
 於テ損害ヲ被ルノ事實アリトスルモ斯ノ如キ事項ハ本件第二四四九四號實用新案登録ノ存否ト相關セ
 サルヲ以テ是亦請求人ヲシテ本件審判ヲ請求スルヲ得ヘキ利害關係人タラシムヘキ理由ト爲ラス
 故ニ本件審判請求ハ實用新案法第十八條第二項前段ニ依リ之ヲ却下スヘキモノトス
 仍テ主文ノ如ク審決ス

大正二年十二月九日於特許局

審判長 特許局技師工學博士 大竹 多氣
 特許局技師 增島 文次郎
 特許局事務官 田中 鐵二郎

第五百八十九號

神戸市御幸通一丁目三十八番地ノ一 請求人 行松 勝次郎
 大阪市東區北濱五丁目六十三番屋敷特許辨理士 右代理人 淺村 三郎
 同 市東區北濱五丁目六十三番屋敷特許辨理士 同 平岩 義一
 神戸市榮町三丁目十番地 被請求人 寺島 半藏
 大阪市東區淡路町一丁目二十四番地特許辨理士 右代理人 佐々木 高吉

右當事者間ノ第二四四九五號登録實用新案權利範圍確認審判請求事件ニ付大正二年七月十九日當局ニ於テ爲シタル審決ニ對シ抗告審判請求ヲ爲シタルニ依リ審決スルコト左ノ如シ

主文 原審決ヲ破毀ス

甲第一號證洋傘及杖ノ握柄ノ構造ハ登録第二四四九五號實用新案權ノ範圍ニ屬セス
審判費用ハ原審及當審共被請求人ノ負擔トス

申立ノ要領

請求人ハ原審決ヲ破毀ス甲第一號證洋傘及杖ノ握柄ノ構造ハ登録第二四四九五號實用新案權ノ範圍ニ屬セストノ審決アリタシト申立テ其理由ノ要領ハ本件實用新案ハ其登録請求範圍ニ記載セラレアル如ク中空ヲ有セサル眞竹ノ把柄ヲ彎曲シ其先端ニ破竹若ハ矢竹ノ球根ヲ螺釘ニ依テ接合シタル洋傘及杖ノ握柄ニシテ(一)中空ヲ有セサル眞竹ノ把柄ヲ彎曲スルコト(二)把柄ノ先端ニ破竹若ハ矢竹ノ球根ヲ接合スルコト(三)其接合ニ螺釘ヲ使用スルコトノ三條件ヲ具備セサルヘカラス而シテ甲第一號證洋傘及杖ノ握柄ハ中空ヲ有セサル眞竹ノ把柄ヲ彎曲シ其先端ニ竹ノ球根ヲ柄子ニ依リテ捻回スルコトナク膠其他ノモノヲ用ヒテ固ク嵌合セシメテ成ルモノニシテ前記各條件ヲ具備セサルヲ以テ本件實用新案權ノ範圍ニ屬セスト謂フニ在リ

被請求人ハ請求人ノ申立相立タストノ審決アリタシト申立テ其理由ノ要領ハ本件實用新案ハ其圖面ノ說明ニ記載セル如ク元來眞竹ノ主根ハ中空ヲ有セサルモ球根ナク又破竹矢竹ノ類ハ主根ヲ有セサルモ球根ヲ有シ球根ノ上部ハ直チニ中空ヲ爲セリ故ニ破竹若ハ矢竹ヲ以テ握柄全體ヲ作ル能ハサルト同時ニ眞竹ノ主根ノミヲ以テ之ヲ造ルモ其體裁醜シ本件實用新案ハ兩者ノ各長所ヲ採テ接合シタルモノニシテ其接合ノ資料タル釘ノ如何ヲ考案ノ要點ト爲シタルモノニアラス而シテ甲第一號證ハ本件實用新案ノ考案ヲ全然使用セルヲ以テ接合ノ釘ニ螺條ノ有無ノ相異アリトスルモ本件實用新案權ノ範圍ニ屬

スト謂フニ在リ

審決ノ理由 本件第二四四九五號登録實用新案ハ其登録請求範圍ノ記載ニ依レハ中空ヲ有セサル眞竹ノ把柄ヲ彎曲シ其先端ニ破竹若クハ矢竹ノ球根ヲ螺釘ニ依テ接合シタル洋傘及杖ノ握柄ノ構造ナリ而シテ竹根ヲ彎曲シテ其ノ先端ニ凸所ヲ設ケ他ノ竹ノ球根ニ凹所ヲ設ケ之ニ依リ兩者ヲ接合シテ洋傘及杖ノ把柄部ヲ作ルコトハ本件實用新案權ノ請求範圍及圖面ノ說明ニ照ラシ本件實用新案權ノ效力ノ及フ限リニアラスト認ム蓋シ此場合ニ在リテハ螺釘ヲ用ヒテ之ヲ接合スルモノニアラサレハナリ然ルニ請求人ノ提出セル甲第一號證ハ前示ノ構造ヲ有スルニ止マリ接合ノ爲メニ螺釘ヲ使用シタルモノニアラス從テ甲第一號證ノ握柄ノ構造ハ本件實用新案權ノ範圍ニ屬セサルモノトス
仍テ主文ノ如ク審決ス

大正二年十二月二十七日於特許局

審判長 特許局事務官 村上隆吉
特許局技師 増島文次郎
特許局事務官 田中鐵二郎

第五百五十二號

神戸市榮町三丁目十番地
大阪市東區淡路町一丁目二十四番地特許辦理士
神戸市御幸通一丁目三十八番地ノ一

請求人 寺島半藏
右代理人 佐々木高吉
被請求人 行松勝次郎

大坂市東區北濱五丁目六十三番屋敷特許辨理士 右代理人 淺村三郎
同 市東區北濱五丁目六十三番屋敷特許辨理士 同 平岩義一

* 八十

右當事者間ノ第二四四九五號實用新案登録無効審判請求事件ニ付大正二年七月十九日當局ニ於テ爲シタル審決ニ對シ抗告審判請求ヲ爲シタルニ依リ審決スルコト左ノ如シ

主文 原審決ヲ破毀ス

抗告審判被請求人ノ申立相立タス

審判費用ハ原審及當審共抗告審判被請求人ノ負擔トス

申立ノ要領 當審請求人ハ原審決ヲ破毀ス抗告審判被請求人ノ申立相立タストノ審決アリタシト申立テ其理由ノ要領ハ眞竹ノ主根ニ竹ノ球根ヲ繼合セタル構造ノ洋傘及杖ノ握柄ハ當審請求人ニ於テ之ヲ考案シ明治四十五年五月十日實用新案ノ登録ヲ出願シ其後ニ於テ當審被請求人ニ見本ト材料トヲ供シ創メテ製作ヲ試マシメタル處技術未タ熟セス殆ト商品ト爲スヲ得ルモノヲ製シ能ハス再三失敗ヲ繰返シ當審請求人ハ爲メニ多大ノ損害ヲ被リタリ其以前ニ同一若ハ類似ノ物品カ公然知ラレ若ハ公然用ヒラレタルコトナシト謂フニ在リ

當審被請求人ハ抗告審判請求人ノ申立相立タストノ審決アリタシト申立テ其理由ノ要領ハ當審請求人ノ第二四四九五號實用新案洋傘及杖ノ握柄ハ明治四十五年五月十日ノ出願ニシテ其登録請求範圍ハ中空ヲ有セサル眞竹ノ把握ヲ彎曲シ其先端ニ破竹若ハ矢竹ノ球根ヲ螺釘ニ依テ接合シタル洋傘及杖ノ握柄ナリ然ルニ之ト類似ノ構造ヨリ成ル洋傘及杖ノ握柄即チ中空ヲ有セサル眞竹ノ把握ヲ彎曲シ其先端ニ竹ノ球根ヲ柄子ニ依リテ捻回スルコトナク嵌合セシメテ成ル洋傘及杖ノ握柄ハ當審被請求人ニ於テ明治二十五年頃ヨリ製作販賣シ公知公用ニ屬シタル所ナリ加之本件實用新案ト同一構造ノ物品即チ接

合ニ螺旋釘ヲ用ヒタルモノモ亦本件登録出願前ヨリ公知公用ニ屬シタリ從テ本件實用新案ハ實用新案法第三條ニ該當シ其登録ヲ無効ト爲スヘキモノナリト謂フニ在リ

審決ノ理由

本件第二四四九五號登録實用新案ハ其登録請求範圍ノ記載ニ依レハ中空ヲ有セサル眞竹ノ把握ヲ彎曲シ其先端ニ破竹若ハ矢竹ノ球根ヲ螺釘ニ依テ接合シタル洋傘及杖ノ握柄ノ構造ナリ而シテ竹根ヲ彎曲シテ其ノ先端ニ凸所ヲ設ケ他ノ竹ノ球根根ニ凹所ヲ設ケ之ニ依リ兩者ヲ接合シテ洋傘及杖ノ把握部ヲ作ルコトハ本件實用新案權ノ請求範圍及圖面ノ說明ニ照ラシ本件實用新案權ノ效力ノ及フ限リニアラスト認ム蓋シ此場合ニ在リテハ螺釘ヲ用ヒテ之ヲ接合スルモノニアラサレハナリ原審證人清水清太郎ハ本件登録新案ニ於ケル如ク螺旋釘ニテ接合シタル傘及杖ノ握柄カ明治十三年頃ヨリ製造販賣セラレ且外國ヨリモ輸入セラレタル旨ヲ供述セリト雖同人ハ其供述ニ關シ偽證罪ニ問ハレ處罰セラレタルモノニシテ其證言ハ信スルニ足ラス甲第三號證ニハ根鞭ノ彎曲シタル一端へ竹ノ球根ヲ捻釘ニテ繼合シタルモノカ明治二十五年頃ニ取引セラレタル旨ノ記載アリト雖該證ハ一人ノ證明書ニ過キササルヲ以テ是亦信スルニ足ラス當審ニ於ケル證人向井文次郎及小林末吉ノ證言ハ竹根ヲ彎曲シテ其先端ニ凸所ヲ設ケ他ノ竹ノ球根根ニ凹所ヲ設ケ之ニ依リテ兩者ヲ接合シタル洋傘及杖ノ把握カ本件登録出願前ニ公知公用ニ屬シタルコトヲ證スルヲ得ヘキニ止マリ本件實用新案ニ於ケル如ク其接合ヲ螺釘ニテ爲シタルモノカ本件登録出願前ニ公知公用ニ屬シタルコトヲ證スルニ足ラス其他ノ證人及證據ハ孰レモ信ヲ置クニ足ラス從テ當審被請求人ノ本件請求ハ理由ナシ

仍テ主文ノ如ク審決ス

大正二年十二月二十七日於特許局

審判長 特許局事務官 村上隆吉

* 八十一

意匠抗告審決錄

實用新案抗告審決錄 終

特許局技師
特許局事務官

增島文次郎
田中鐵二郎

* 八十二

意匠抗告審決錄目次

審決要旨	抗告審判番號	件名	當事者	審決年月日	頁數
	第五九三號	第八一三七號 意匠(懷中電燈玩具)登 錄無效事件 (大正二年九月二十三日審 決參照)	(請)川西花二郎 (被)豐田音次郎	二二二五	△一

意匠抗告審決録

第五百九十三號

東京市淺草區諏訪町三番地	請求人	川西花二郎
同 市日本橋區本石町一丁目五番地特許辨理士	右代理人	清水連一郎
同 市麴町區麴町七丁目三番地特許辨理士	同	大橋誠一
東京府南葛飾郡龜戸町三千八百八十二番地	被請求人	豊田音次郎
東京市京橋區采女町二十七番地特許辨理士	右代理人	木戸傳寛
同 市京橋區采女町二十七番地特許辨理士	同	市川寛

右當事者間ノ第八一三七號意匠登録無効審判請求事件ニ付大正二年九月二十六日當局ニ於テ爲シタル審決ニ對シ抗告審判請求ヲ爲シタルニ依リ審決スルコト左ノ如シ

主文 抗告審判請求人ノ申立相立タス

抗告審判費用ハ抗告審判請求人ノ負擔トス

申立ノ要領 當審請求人ハ原審決ヲ破毀シ抗告審判被請求人ノ申立相立タストノ審決アリタシト申立テ其理由ノ要領ハ(一)當審被請求人ハ第八一三七號類似意匠第一號ニ付告訴及假處分ノ申請ヲ受ケ居ルモ其原意匠ニ付テハ未タ何等ノ法律關係ヲモ生シタルコトナキヲ以テ本件審判請求ヲ爲スヘキ利害關係ヲ有セス從テ其請求ハ之ヲ却下スヘキモノナリ(二)本件意匠ノ登録請求範圍ニハ容器内容品及兩者ノ關係ヲ記載シアルニ容器ノミヲ要部ナリト謂フハ不當ナリ(三)本件意匠ハ第十五類玩具ノ意匠ニシテ第六

類容器ノ意匠ニアラス故ニ容器ノミニ付類否ヲ論スヘカラス玩具トシテ類否ヲ論セサルヘカラス(四)意匠ノ考案ハ外觀の形態ニ係リ機械的構造ニアラス故ニ容器同シキモ内容品ヲ異ルトキハ全體ニ於ケル外觀の形態ハ從テ異ル其一部タル容器ノミニ類似ヲ以テ意匠ノ類似ナリト謂フヘカラス(五)桃實内ニ四肢ヲ擴ケタル人形ト布ヲ被ヒテ作レル蛇様ノモノトハ意匠同一ナラス此兩者ヲ單ニ飛出物ト謂フハ飛出ナル機械的構造ヲ主トシ意匠ト實用新案トヲ混同セサルモノナリト謂フニ在リ

當審被請求人ハ抗告審判請求人ノ申立相立タストノ審決アリタシト申立テ其理由ノ要領ハ(一)當審請求人ハ當審被請求人ニ對シ第八一三七號原意匠ニ付意匠權侵害ノ通知書ヲ送付シタルカ故ニ當審被請求人ハ本件審判請求ヲ爲スヲ得ヘキ利害關係人ナリ(二)本件意匠ノ内容品ハ從來普通ノモノニシテ本件意匠ハ圓筒鞘ヲ懷中電燈形ト爲シ飛出物ヲ包容スヘク爲シタル形狀ニ在リ又其他ノ點ニ關スル當審請求人ノ所論ハ枝葉ノ議論若ハ立證ナキ主張ナルカ故ニ之ニ對シテハ答辯セスト謂フニ在リ

審決ノ理由 當審請求人カ當審被請求人ニ對シ本件意匠權侵害行爲ノ停止ヲ要求シタルコトハ甲第五號證ニ依リ明カニシテ當審被請求人ハ本件登錄意匠カ出願前ヨリ公知ニ屬シ專用權ノ設定セラルヘキモノニアラサルコトヲ主張シテ其登錄ヲ無効ト爲サンコトヲ求ムルモノナルヲ以テ當審被請求人カ本件審判ヲ請求シ得ヘキ利害關係人ナルコト勿論ナリ仍テ本案ニ付キ審理スルニ螺狀彈線ニ布ヲ被ヒ其一端ニ蛇頭ニ擬シタル物ヲ附着シテ全體ヲ蛇様ノ形狀ニ作り押子ノ俯仰ニ依リ開閉自在ナル蝶着蓋ヲ有スル小サキ容器内ニ壓縮收容シ押釦ヲ押スト同時ニ蛇様物ノ彈力ニ依リ蝶着蓋ヲ開放シ同時ニ舵様物ヲ容器外ニ飛出サシムヘキ構造ノ玩具カ數年以前ヨリ普通ニ用ヒラル、コトハ顯著ナル事實ナリ請求人ノ本件第八一三七號登錄意匠ハ大正元年十二月二十日ノ出願ニ係リ右構造ノ玩具ノ容器ヲ圓筒形ト爲シ其蓋ヲ凸面「レンズ」形ノ硝子ニテ作り以テ容器ノ外形ヲ懷中電燈ニ象リタル意匠ナリ登錄請求範

圍ノ記載中圓筒内ニ收容スル物體ヲ桃實内ニ四肢ヲ擴ケタル人形ト爲シ圓筒内ニ裝置セル螺狀彈線ニ依リテ飛出サシムルコトノ記載アリト雖モ本願ハ最初收容物ノ形狀ヲ任意ノモノト爲シ審查官ノ指示ニ基キ其形狀ヲ前示ノ如ク定メタルモノニシテ意匠ノ要點ハ押釦ヲ押スト同時ニ螺狀彈線ニ依リ收容物ヲ飛出サシムル玩具ノ容器ノ外形ヲ懷中電燈ノ形狀ト爲シタルニ在リトス本件登錄意匠ノ類似第一號ノ登錄請求範圍ノ記載ニ於テ收容物ヲ蛇様ノ形狀ト爲シ原意匠ニ比シ收容物ノ形狀ヲ異ニセルニ拘ハラス容器ノ外形カ圓筒狀懷中電燈ノ形狀ナル爲メ類似意匠トシテ登錄ヲ受ケタルニ徴スルモ本件登錄意匠ノ要點カ前示ノ如クナルコトヲ知ルニ足ルヘシ然ルニ原審證人海野幸治ノ供述ニ依レハ證人カ甲第一號證ト同一ノ構造及形狀ヲ有スル玩具ヲ考案シテ二百箇ヲ製作シ明治四十三年十二月一日ヨリ同月三十日迄ノ間ニ東京市京橋區吉川玩具店ニ賣却シタル事實ヲ認ムルニ足ル而シテ甲第一號證ヲ本件登錄意匠ニ對比スルニ收容物ノ形狀ヲ異ニセルニ止マリ其他ノ點ニ於テハ構造及形狀ヲ同フス故ニ本件登錄意匠ハ出願前ヨリ公然知ラレタルモノニシテ意匠法第三條第一項第一號ニ該當シ之ヲ新規ナリト謂フヲ得ス從テ其登錄ハ同法第一條ニ違反シ同法第十二條ニ依リ之ヲ無効ト爲スヘキモノトス仍テ主文ノ如ク審決ス

大正二年十二月十五日於特許局

審判長 特許局事務官 村上隆吉

特許局技師 增島文次郎

特許局事務官 田中鐵二郎

意匠抗告審決錄 終

商標抗告審決錄

商標抗告審決錄

大正二十二年十二月十五日

商標法第三十條第一項之規定，係指商標之註冊人，對於他人之商標，有侵害其權利者，得向商標審判官提起抗告，請求撤銷該商標之註冊。此項規定之目的，在於保護商標權人之合法權益，並維護市場之公平競爭。凡有侵害商標權之事實，經商標審判官查明屬實者，應予撤銷該商標之註冊。此項規定之適用，應以侵害事實之存在為要件。若無侵害事實，則不得提起抗告。此項規定之適用，應以侵害事實之存在為要件。若無侵害事實，則不得提起抗告。

商標抗告審決録目次

審決要旨	抗告審判番	件名	當事者	審決年月日	頁數
<p>第四二五號 <small>一商標ヨリ偶然ニ生シタ ル稱呼ト雖世人ニ周知 セラルハ至リタル場 合ニ於テハ之ヲ其商標 ノ稱呼ニテラシムルコ トヲ得セラレザルモ 人ニ周知セラレザル ナリト謂フヲ得ス</small></p>	第三四三號 第三四四號	第二二六三一號 第四六七五號 <small>商標登録無効事件 (明治四十五年二月十五日 審決参照)</small>	シヨン、テイッキン ソンド、コム パニー、リミテッド (請) 福井 庄次郎 (被)	二年一月六日	〇一頁
	第三九一號	第八〇六二三號 <small>商標登録願拒絶再査定 不服事件</small>	(請) 福井 武四郎 (被)	二年一月四日	〇三頁
	第三六七號	第四一三六四號 <small>商標登録無効事件 (明治四十五年四月十九日 審決参照)</small>	(請) 山瀬 俊賢 (被)	二年一月七日	〇五頁
	第四二五號	第九六六七號 <small>商標登録無効事件 (大正元年十月七日審決參 照)</small>	(請) セ、ネッスレ、アン ド、コンゲロス (被) パニー、 藤井 長次郎	二年一月七日	〇八頁
	第四三九號	第一一九七五號 <small>商標登録無効事件 (大正二年十月二十八日審 決参照 大正二年十月二十八日大 審院判決参照)</small>	(請) ライオン、グサン (被) 石油株式會社 長谷川 寅吉	二年一月三十一日	〇二頁

審決要旨

第三九六號
一營業ノ承継アリタル場
合ニハ被承継者ノ商標
使用ハ商標法上之ヲ承
繼者ノ商標使用ト看做
スヘキモノトス
二商品タル藥劑ノ方名ヲ
表示スル文字ハ一面ニ
於テ其藥劑ノ商標タル
コトヲ妨ケサルモノト

抗告審判
番號

件名

當事者

審決
年月日

頁數

第四四〇號

第八八〇八號
商標登錄無効事件
（大正元年十月二十八日審
決參照）
（大正二年十月二十八日大
審院判決參照）

（請）ライオンケサン
石油株式會社
（被）長谷川寅吉

二、三、二〇

〇四頁

第三九六號

第二八三四一號
商標登錄無効事件
（明治四十五年六月二十六
日審決參照）

（請）福井忠次郎
（被）横尾兼太郎

二、三、二五

〇七

第四一六號

第五〇三六九號
商標登錄無効事件
（大正元年八月二十日審決
參照）

（請）松山紡績株式
會社
（被）福島紡績株式
會社

二、三、二六

〇二

第四三八號

第八三一四三號
商標登錄願拒絕再査定
不服事件

（請）佐野チヨ
（被）會社

二、四、一五

〇四

第三七一號

第三六二五三號
登錄商標權利確認事件
（明治四十五年四月二十二
日審決參照）
（大正二年十一月二十日大
審院判決參照）

（請）前田常次郎
（被）立井勤藏

二、四、二六

〇六

第三八八號

第七七八一八號
聯合商標登錄願拒絕再
査定不服事件

（請）田中豐吉
（被）外一名

二、六、二五

〇三

第四六八號

第八四四七號
商標登錄願拒絕再査定
不服事件

（請）ヨット、ヨット、
レーバツハ

二、六、二五

〇四

第四七〇號

第四〇六二二號
商標登錄無効事件
（大正二年一月二十一日審
決參照）

（請）吉川豊助
（被）セーセツヒ、チー
ルガリン、アキ
フ、ニ、ゲゼルシヤ

二、六、二六

〇三

第四八三號

第五一六八二號
商標登錄無効事件
（大正二年二月十七日審決
參照）

（請）森田尙
（被）日本蠶業株式
會社

二、六、二六

〇三

第四二八號

第三〇五七二號
登錄商標權利確認事件
（大正元年十月四日審決參
照）

（請）萩原辰藏
（被）稻葉潤吉

二、六、二六

〇四

第四八五號

第五二〇四九號
登錄商標權利確認事件
（大正二年二月十七日審決
參照）

（請）廣田辰次郎
（被）相澤留造

二、六、三〇

〇四

第四四九號
第四六〇九號
第四六一〇九號

第五〇二七〇號
第五二四九三號
第五二四六三號
商標登錄無効事件
（大正元年十一月二十日審
決參照）

（請）清水政兵衛
（被）有限責任ツヨナス
ブルック兄弟商會

二、六、三〇

〇四

第四四〇號
第四四一〇號
第四四二〇號
第四四三〇號
第四四四〇號
第四四五〇號

第五〇二六九號
第五二四四四號
第五二四四四號
第五二四四四號
第五二四四四號
第五二四四四號
商標登錄無効事件
（大正元年十一月十六日審
決參照）

（請）有限責任ツヨナス
ブルック兄弟商會
（被）清水政兵衛

二、六、三〇

〇五

第四四九號
第四六〇九號
第四六一〇九號
一商標ノ主要部分ハ相
似スル場合ニ於テハ其
商標ハ相類似スルモノ
トモテ假令モ勿論ナリ
トモテ假令モ勿論ナリ
ニ於テ混同誤認セラレ
ル虞アルコトヲ標識モ
似ルモノトス

審決要旨

抗告審判 番號 事件 名 當事者 審決年月日 頁數

第四五五號 第五一八六一號 商標登錄無効事件 (大正元年十一月六日審決) (請) 有限責任ジョナスブルック兄弟商會 (被) 澤村治三郎 二、六三〇 〇五四

第四九三號 第四七二五四號 商標登錄無効事件 (大正二年二月十七日審決) (請) 平山利三久 (被) 森田尙 二、七二二 〇五

第五〇四號 第五二一五三號 商標登錄無効事件 (大正二年三月十四日審決) (請) 合名會社島久商店 (被) カルレ、ウアント、コムパニ、アクト、コングゼルシヤフト 二、七三二 〇五九

第四三〇號 第四二二三四號 商標登錄無効事件 (大正元年十月七日審決) (請) 藤井長次郎 (被) ゼ、ネッス、スレ、アングロス、キス、コルケ、コム、パニ 二、七三三 〇六三

第四一二號 第八三〇〇七號 商標登錄願拒絕再査定不服事件 (請) ショセフ、ルーカス、リミテッド 二、七三三 〇六六

第七六號 第二二一三三六號 商標登錄無効事件 (明治四十三年二月四日審決) (請) 春元 檜次 (被) アルフレッド、シユ、イ、マッククリュー 二、七三四 〇六八

第五二三號 第三八五二二號 商標登錄無効事件 (大正二年三月二十日審決) (請) 蟹江大次郎 (被) 北村岩太郎 二、七三六 〇七四

第四九三號 一商標法施行細則第二十條ニ依リ準用セラルル第三項ハ出願人自ラ見本ノ訂正ヲ爲シテ特ニ關スル規定ニシテ特許局長又ハ審判長カテ正命スル同條第一項ノ場合ト異リ出願ノ要旨ヲ變更セザル範圍ニ於テハ自由ニ訂正ヲ爲スヲ得ル趣旨ナリトス

第五〇三號 第六二〇九號 商標登錄願拒絕再査定不服事件 (請) 小林健次郎 二、七三六 〇七六

第五三五號 第一三七八號 商標登錄願拒絕再査定不服事件 (請) 網野哲一郎 二、七三九 〇七六

第五三四號 第五三八四三號 商標登錄無効事件 (大正二年四月二十九日審決) (請) 山本 壽 (被) 秋山 定一 二、七八八 〇八〇

第五三六號 第五三九九四號 商標登錄無効事件 (大正二年四月二十九日審決) (請) 田中寅之助 (被) バイゲツシエ、アニリン、フアン、ト、ツ、イダ、フアアリツク 二、七八八 〇八四

第五一一號 第五二七三五號 商標登錄無効事件 (大正二年二月二十七日審決) (請) 野村 文次 (被) 明 珍村 宗之 二、八二二 〇八七

第五一二號 第一八二一一號 商標登錄無効事件 (大正二年二月二十七日審決) (請) 野村 文次 (被) 明 珍村 宗之 二、八二二 〇九〇

第五一三號 第四六九一七號 商標登錄無効事件 (大正二年二月二十七日審決) (請) 野村 文次 (被) 明 珍村 宗之 二、八二二 〇九二

第四七一號 第四二一八七號 商標登錄無効事件 (大正二年二月二十三日審決) (請) 三平株式會社 (被) 柴垣鐵次郎 二、九二六 〇九五

第五三四號 一商品力商標法ノ意義ニ於ケル同一商品ナルヤ否ヤハ其商品ノ性質、形狀、用途等諸般ノ情態ヲ綜合シテ之ヲ判定スヘキモノトス

第五三六號 一簡ノ商標登錄ヲ無効ト爲サントシテ其理由トシテ之ニ於テ其請求トシテ之ニ抵触スル先願商標ノ登録ノ多數アルコトヲ主張スルハ毫モ不適法ニアラス

第四七一號 一商標權ハ商標ヲ指定商品ニ使用スル權利ナリ故ニ該權利ハ商標自

審決要旨

體、指定商品及使用する
三點ニ付成立スルモノ
ナリ從テ商標權範圍確
認ノ問題モ此三點ノ全
部得ルモノトス
シ得ルモノトス
二商標權者カ自己ノ登錄
商標ヲ自己ノ製造ニ係
ル商品又ハ其商品ノ容
器若ハ包装ニ表出シテ
ニ於テ他人カ單ニ其商
品ヲ請實ハ其商品ニ商
標者ノ商標ヲ得用ス
雖其商品ノ實質ヲ變更
シ又ハ其容器若ハ包裝
販賣スルハ商標權ノ侵
害ナリトス

抗告審判

番號

件名

當事者

審決年月日

頁數

第三八六號

第三一八二〇號
商標登錄無効事件
(明治四十五年四月二十六日審決參照)

(請) 井上 鍵太郎
(被) 宅間 千吉

二、一九二六

〇二一

第五七二號

第五〇三七號
商標登錄願拒絕再査定
不服事件

(請) 合名會社鶴谷
商會 外一名

二、一九三三

〇二六

第五七九號

第八一〇〇號
商標登錄願拒絕再査定
不服事件

(請) 野村 七兵衛

二、一九三三

〇二七

第五五四號

第五四二六九號
商標登錄無効事件
(大正二年六月二十八日審決參照)

(請) 田中 鹿子吉
(被) 瀧川 辨藏

二、一九二六

〇二八

第五九四號

第七五八五號
商標登錄願拒絕再査定
不服事件

(請) 三浦 長三

二、一九三一

〇三一

第五九〇號

第三六〇一號
商標登錄願拒絕再査定
不服事件

(請) 陳 朝 駿

二、一九二六

〇二三

第五五八號

第三〇三二五號
登錄商標權利確認事件

(請) 日野 筆吉
(被) ウィクトル、ク
ロート

二、一九二七

〇二四

第五五八號

一千九百二十年十二月十四日
菲律賓及千九百二十一年
六月二日華盛頓ニ於テ

改正セラレタル工業所
有權保護ニ關スル條
約第三十條第六款ハ
ノバニ同條約第六款
ノ規定ニ徴スルトキハ
外國文字ト雖モ標法
上ニ於テハ商標權ノ
ラ字ニシテ認メサル
可カラズ

第五八七號

第五六六三二號
商標登錄無効事件
(大正二年七月二十九日審決參照)

(請) 井上 鍵太郎
(被) 宅間 千吉

二、一九二七

〇二七

第五七五號

第四七九九號
商標登錄無効事件
(大正二年七月二十九日審決參照)

(請) 杉本 小三郎
(被) 小野 宇一郎
外三名

二、一九二四

〇二〇

第五五九號

第五三八七一號
商標登錄無効事件
(大正二年四月二十三日審決參照)

(請) 有限責任ジョナス
ブルック兄弟商會
(被) 清水 政兵衛

二、一九二八

〇二三

第六〇一號

第九九二八號
商標登錄願拒絕再査定
不服事件

(請) 菅原 至誠堂

二、一九二八

〇二五

第五六五號

第一〇一三八號
商標登錄願拒絕再査定
不服事件

(請) 戴 財 谷

二、一九二七

〇二六

第四七二號

第一一三三〇號
商標登錄願拒絕再査定
不服事件

(請) 三輪 善兵衛

二、一九二五

〇二八

第六〇五號

第八五五一號
商標登錄願拒絕再査定
不服事件

(請) 合名會社清力
商店

二、一九二五

〇三〇

第五六三號

第五四六九九號
商標登錄無効事件
(大正二年六月二十七日審決參照)

(請) 合資會社二葉
屋
(被) 芳永 定藏

二、一九二五

〇三三

審決要旨		抗告審判	件名	當事者	審決年月日	頁數
第五九七號	第三六一九號	商標登録願拒絶再査定不服事件	（請） ゼ、ロイド、モータ ンク、エンジニヤリ ンク、コムパニー、 リミテッド	二、二、二六 〇二六		
第六〇三號	第一一八四八號	商標登録願拒絶再査定不服事件	（請） 齋藤省三	二、二、二六 〇三七		

商標抗告審決録

第三四三號

英吉利國龍動市ガールド、ベリリー六十五番

請求人

ジョン、テイックンソン、ア
ンド、コムパニー、リミテッ
ド

右代表者

アイサー、ジエームス、カ
ウドレー

東京市京橋區采女町十五番地特許辨理士

右代理人

秋山源藏

大阪市東區平野町二丁目四十四番地

被請求人

福井庄次郎

同 市東區北濱三丁目六十三番屋敷特許辨理士

同

松岡歸之

右當事者間ノ第二二六三號、第四六七五號商標登録無効審判請求事件ニ付明治四十五年二月十五日當局ニ於テ爲シタル審決ニ對シ抗告審判請求ヲ爲シタルニ依リ審決スルコト左ノ如シ

主文 原審決ヲ左ノ如ク變更ス

商標第二二六三一號及第四六七五五號登録ハ印刷用洋紙、罫洋紙及其他ノ書字用洋紙ニ付テハ之ヲ無効トス

審判費用ハ原審及當審其被請求人ノ負擔トス
申立ノ要領 請求人ハ原審決ヲ變更シ被請求人ノ商標第二二六三一號及第四六七五五號登録ハ印刷用洋

紙〔着色紙ヲ包含ス〕野洋紙及其他ノ書字用洋紙〔着色紙ヲ包含ス〕ニ付テハ之ヲ無効トス審判費用ハ原
審及當審共被請求人ノ負擔トスト審決アリタシト申立テ其理由ノ要領ハ原審ニ於テハ請求人カ特ニ野
紙類一切ニ付テモ無効審決アリタシト申立テタルニ拘ハラズ野紙類ニ限リ申立テ却下シタリ然レトモ
書字用紙中ニハ野洋紙ト稱スル普通横線引ノ野紙ヲ包含セルノミナラス請求人ハ被請求人ノ本件商標
登録ノ出願前ヨリ請求人ノ第一一四〇〇號登録商標ト同一ナル商標ヲ印刷用洋紙野洋紙及其他ノ書字
用洋紙ニ使用シ且世人ニ周知セラレタリ故ニ被請求人ノ本件商標登録ハ以上ノ商品ニ付テハ之ヲ無効
ト爲スヘキモノナリト云フニ在リテ證人岡田來吉ノ訊問ヲ申請シタリ

被請求人ハ本件抗告ヲ却下シ抗告審判費用ハ請求人ノ負擔トスト審決アリタシト申立テ其理由ノ要領
ハ野紙ハ紙面ニ野線ヲ施シタル一種ノ加工品ナレハ書字用ノ紙トハ別殊ノモノナリ又被請求人ノ本件
商標登録出願前ヨリ請求人ノ商標カ書字用洋紙ニ使用セラレ世人ニ周知セラレタリトノ事實ハ之ヲ
認メスト云フニ在リテ證人梅田幸吉外一人ノ訊問ヲ申請シタリ

審決ノ理由 證人岡田來吉ノ供述ニ依レハ請求人カ野洋紙及其他ノ書字用洋紙竝ニ印刷用洋紙ニ第一一
四〇〇號登録商標ニ於ケル獅子ノ圖形ト同一ナル圖形ヲ以テ成レル商標ヲ付シテ明治十八年頃ヨリ之
ヲ帝國內ニ輸入シ其當時以來其商標カ廣ク世上ニ知ラレ以テ引續キ現今ニ及ヘルコトヲ認ムルコトヲ
得從テ請求人ノ使用セル該商標ハ如上ノ商品ニ付テハ第四六七五號商標登録出願ノ日タル明治四十
四年四月二日以前ヨリハ勿論第二二六三一號商標登録出願ノ日タル明治三十七年十月二十六日以前ヨ
リ世人ニ周知セラレタルモノナリ而シテ獅子ノ圖形ヲ以テ成ル商標ヨリシテ獅子標及「ライオン」標ナ
ル稱呼ノ自然ニ生スヘキコトハ勿論ナリ被請求人ノ第二二六三一號登録商標ハ「HON」ナル文字ヲ以テ
成レルモノナルカ故ニ其自然ノ稱呼カ「ライオン」標ナルコト言フ俟タヌ又被請求人ノ第四六七五號

登録商標ニ於ケル獅子ノ圖形ハ世人ノ周知スル前示請求人ノ商標ニ於ケル獅子ノ圖形ニ比シ多少異レ
ル所アリト雖等シク獅子ノ圖形ニ外ナラサルカ故ニ第四六七五號登録商標ヨリシテ獅子標及「ライ
オン」標ナル稱呼ノ自然ニ生スヘキコト亦疑ナシ故ニ第二二六三一號及第四六七五號登録商標ハ世
人ノ周知スル請求人ノ前示商標ニ稱呼上類似スルモノトス從テ右二箇ノ登録商標ハ其指定商品中ニ包
含セラル、印刷用洋紙、野洋紙及其他ノ書字用洋紙ニ付テハ商標法第二條第五號及第十一條ニ依リ其
登録ヲ無効ト爲スヘキモノナリ而シテ紙類ハ着色ノ爲メニ同一商品タルコトヲ妨クヘキモノニアラサ
ルカ故ニ如上ノ洋紙中ニ着色紙ヲ包含スルコト言フ俟タヌ

仍テ主文ノ如ク審決ス

大正二年一月六日於特許局

審判長 特許局事務官 宿利英治
特許局技師 增島文次郎
特許局事務官 田中鐵二郎

第二百九十一號

京都市上京區二條通烏丸東へ入仁王門町十番地

請求人 福井武四郎

右第八〇六二三號商標登録願拒絕再査定不服抗告審判請求事件ニ付審決スルコト左ノ如シ
主文 原査定ヲ左ノ如ク變更ス

登録願第八〇六二三號商標ハ指定商品中振出劑、浸劑及煎劑ニ付之ヲ登録スヘキモノトス其他ノ商品

ニ付テハ請求人ノ申立相立タス

申立ノ要領 請求人ハ原査定ハ不服ニ付審理ノ上本願商標ハ登録スヘキモノト審決アリタシト申立テ其理由ノ要領ハ本願商標ハ旭ニ鳥ノ飛行スル圖形ニシテ吉井熊藏ノ第二四〇八八號登録商標ハ鳥獸何レトモ判別シ難キ三疋ノ動物ノ地上ニ靜止スル圖形ナリ加之放射線ノ有無ノ差アリテ兩商標ハ容易ニ甄別セラル尙又本願商標ハ請求人カ明治三十二年七月一日前ヨリ各指定商品ニ善意ニ使用シ來リタルモノナリト云フニ在リ

審査官答辯ノ要領ハ本願商標ハ第二四〇八八號登録商標ニ類似セルノミナラス請求人カ明治三十二年七月一日前ヨリ善意ニ之ヲ使用シタル證據無キヲ以テ本願商標ハ登録ヲ受クルコトヲ得ヘキモノニアラスト云フニ在リ

審決ノ理由 本件登録願第八〇六二三號商標ハ商品類別第一類化學品、藥劑及醫療補助品一切ニ專用スル爲メ明治四十五年一月二十二日其登録ヲ出願シタルモノナリ而シテ之ヲ岡田銀次郎カ明治二十八年五月一日出願シ煎劑及振出劑ニ付專用權ヲ有スル第六五三號登録商標ニ比較スルニ前者ハ太陽ニ象リタル圓周欄内ニ一羽ノ鳥ノ飛翔セル圖形ヲ描キ後者ハ光線ヲ放射セル太陽ノ半形ノ面上ニ一羽ノ鳥ノ飛翔セル圖形ヲ描キタルモノナルカ故ニ兩商標ハ外觀上相類似ス又本願商標ヲ吉井熊藏カ明治三十八年五月二十日出願シ石鹼竝ニ化學品、藥劑又醫療補助品中煎劑及振出劑ヲ除キタル以外ノ商品ニ付專用權ヲ有スル第二四〇八八號登録商標ニ比較スルニ第二四〇八八號登録商標ハ光線ヲ放射セル太陽ノ面前ニ一羽ノ鳥カ翼ヲ擴ケテ靜止セル圖形ヲ描キタルモノナルヲ以テ本願商標ハ之トモ亦相類似ス而シテ證人久保田庄左衛門ノ供述ニ依レハ請求人ノ先代カ本願商標ヲ第二四〇八八號登録商標ノ登録出願ノ日ハ勿論第六五三五號登録商標ノ登録出願ノ日以前ヨリ批把葉湯ト稱スル藥劑ニ使用シ請求人カ

先代ノ營業ヲ承繼シテ引續キ本願商標ヲ批把葉湯ニ使用シ以テ現今ニ及ヒタル事實ヲ認ムルニ足ル從テ先代及請求人ノ本願商標ノ使用ハ善意ナリト認定ス而シテ請求人ノ提出シタル現品ニ依レハ批把葉湯ト稱スル藥劑カ振出劑、煎劑及浸劑ニ該當スルコトヲ認定スルコトヲ得故ニ本願商標ハ其指定商品中ノ振出劑、煎劑及浸劑ニ付テハ商標法第三條第二項ニ依リ登録ヲ受クルコトヲ得ヘキモノトス然レトモ其他ノ指定商品ニ付テ請求人カ明治三十二年七月一日前ヨリ本願商標ヲ使用シタリトノ請求人ノ主張ニ係ル事實ハ證人久保田庄左衛門ノ供述及其他ノ證據ヲ綜合スルモ之ヲ認ムルコトヲ得ス從テ本願商標ハ振出劑、煎劑及浸劑以外ノ商品ニ付テハ商標法第三條第一項ニ依リ其登録ヲ拒絕スヘキモノトス

仍テ注文ノ如ク審決ス

大正二年一月二十四日於特許局

審判長 特許局事務官 宿利英治
同 同 村上隆吉
同 同 田中鐵二郎

第三百六十七號

東京市本所區向島小梅町二百三十一番地
同 市麴町區麴町二丁目十四番地特許辨理士

請求人 山瀬俊賢
右代理人 大内成美

獨逸國伯林市ローテル街八番地乃至十二番地

被請求人

ドイッチエカスグリユー、リ
ヒト、アクチエン、ゲゼル
シャフト

〇六

右代表者

リッハルド、フォイエ
ル

横濱市山下町二十四番地特許辨理士

右代理人

カール、フォーグト

右當事者間ノ第四一三六四號商標登録無効審判請求事件ニ付明治四十五年四月十九日當局ニ於テ爲シタル審決ニ對シ抗告審判請求ヲ爲シタルニ依リ審決スルコト左ノ如シ

主文 抗告審判請求人ノ申立相立タス

抗告審判費用ハ抗告審判請求人ノ負擔トス

申立ノ要領

當審請求人ハ原審決ヲ取消シ商標第四一三六四號登録ハ無効ト爲スヘカラス審判費用及抗告審判費用ハ抗告審判請求人ノ負擔トストノ審決アリタシト申立テ其理由ノ要領ハ第一、商標法第

二條第五號ニ云ヘル世人トハ商標法ノ行ハルル範圍内ニ於ケル當該商品需要者ノ義ナリ假リニ之ヲ當業者ノ義ナリトスルモ抗告審判被請求人ノ商標ハ未タ當業者ニスラ周知セラレサリシモノナリ第二、

原審請求人ハ本件商標登録ノ全部ヲ無効ト爲サンコトヲ請求シ原審決ニ於テ其一部分ヲ無効ト爲シタルニ原審被請求人ニ對シ審判費用ノ全部ヲ負擔セシメタルハ違法ナリト云フニ在リ

當審被請求人ハ抗告審判請求人ノ申立相立タスト審決アリタシト申立テ其理由ノ要領ハ第一、當審被請求人ノ商品ハ明治四十一年一月中東京瓦斯株式會社ヘ横濱市山下町「ツェー、ワインベルゲル、ウン

ト、コムバニー」ノ手ヲ經テ販賣セラレ其數四千箇ナルヲ以テ當該需要者ニ擴布セラレタルハ多言ヲ要セス其他同年頃ニ於テ横濱瓦斯局及岡山地方ヘモ販賣擴布セラレタルヲ以テ當審請求人ノ商標登録前

ニ於テ當審被請求人ノ商標ハ世人ニ周知セラレタリ故ニ本件登録ハ原審決ノ如ク之ヲ無効ト爲スヘキモノナリ第二、登録指定商品中主要ナルモノタル「マントル」其他一切カ燭臺ヲ除ク外無効ト爲サレタル以上ハ審判費用ノ全部ヲ原審被請求人ニ負擔セシムルモ不當ニアラスト云フニアリ

審決ノ理由

證人熊谷卯之助ノ供述ニ依レハ證人カ「ワインベルゲル」商會ニ勤務中被請求人會社ヨリ三十九年ノ末ヨリ四十年ノ始迄ノ間ニ於テ DEGEA ナル文字商標ヲ付シタル瓦斯「マントル」ノ見本一

折及其商品目錄凡六冊ヲ同商會ニ送付シ來リ同商會ニ於テ其ノ需用者ヲ求ムル爲東京瓦斯株式會社、横濱瓦斯株式會社及瓦斯器具商ニ配布シ明治四十年末頃被請求人會社ヨリ DEGEA ノ文字商標ヲ付

シタル瓦斯「バーナー」七八種各種二折位及瓦斯「マントル」大中小各三四百箇位ヲ同商會ニ送付シ來リ同商會ニ於テ之ヲ東京横濱兩瓦斯會社等ニ試用セシムル爲配布シ本件請求人ハ當時横濱瓦斯株式會社

購買掛勤務中其ノ試験ヲ爲シタルコト明治四十年中「ワインベルゲル」商會ニ於テ被請求人會社ヨリ輸入シタル瓦斯「バーナー」千箇瓦斯「マントル」三千箇及屋外燈即屋外用瓦斯「ランプ」二十箇ヲ賣却シ其

瓦斯器具中 DEGEA ナル文字商標ヲ付シタルモノ多數アリシコト東京瓦斯株式會社カ右買受タル瓦斯器具ヲ其時ヨリ營業所内ニ陳列シテ需要者ノ觀覽ニ供シ且之ヲ販賣シタルコト及本件請求人カ「ワ

インベルゲル」商會ノ輸入ニ係ル DEGEA ノ文字商標ヲ付シタル瓦斯「マントル」及瓦斯「バーナー」ヲ買受ケ明治四十一年、二年頃東洋印刷株式會社ニ賣却シタルコトヲ認ムルコトヲ得以上ノ事實ヲ綜合シ

テ之ヲ考覈スレハ被請求人ノ製造販賣ニ係ル DEGEA ナル文字商標ヲ付シタル瓦斯「マントル」、瓦斯「バーナー」及瓦斯「ランプ」ハ明治四十三年二月十八日即チ本件登録商標出願以前帝國內ニ於テ當業者

及需要者間ニ周知セラレタルモノニシテ本件請求人ハ其ノ事實ヲ熟知シ居リナカラ自己ノ商標トシテ登録ヲ出願シ登録セラレタルモノニシテ瓦斯「マントル」、瓦斯「バーナー」及瓦斯「ランプ」ニ付テハ本

〇七

件第四一三六四號登錄商標ノ登錄ハ商標法第二條第五號及第十一條ニ依リ無効ト爲スヘキモノトス從テ請求人主張ノ第一點ハ理由ナシ又審判費用ニ關シテハ當審被請求人ノ原審ニ於ケル要求格外ニ過分ナリシニアラス且別段ノ費用ヲ生セザリシカ故ニ原審ニ於テ當審被請求人ノ申立ノ一分ヲ排斥シタルニ拘ハラズ當審請求人ニ審判費用ノ全部ヲ負擔セシメタルハ明治四十二年勅令第三百一號ニ依リ當局審判事件ニ準用セラル、民事訴訟法第七十三條第二項ニ照シテ至當ナリ從テ當審請求人主張ノ第二點モ亦理由ナシ

仍テ主文ノ如ク審決ス

大正二年二月二十七日於特許局

審判長 特許局事務官 宿利英治
 同 村上隆吉
 同 田中鐵二郎

第四百二十五號

瑞西國ブリガ郡カン町及同國ヴォー郡ヴェー町

請求人

ゼ、ネッスレ、アンド、アン
 アロス、ホス、コンデンスド、
 ミルク、ゴムバニー

右代表者

ダブルユー、テキー、ビ
 ルソン

東京市京橋區采女町十五番地特許辨理士

右代理人

秋山源藏

同 市日本橋區本石町二丁目十七番地
 同 市京橋區西紺屋町三番地特許辨理士

被請求人 藤井長次郎
 右代理人 岡崎正也

右當事者間ノ第九六六七號商標登錄無効審判請求事件ニ付大正元年十月七日當局ニ於テ爲シタル審決ニ對シ抗告審判請求ヲ爲シタルニ依リ審決スルコト左ノ如シ

主文 請求人ノ申立相立タス

抗告審判費用ハ請求人ノ負擔トス

申立ノ要領 請求人ハ原審決ヲ廢棄シ被請求人ノ第九六六七號商標登錄ヲ無効トストノ審決ヲ求ムト申立テ其理由ノ要領ハ被請求人ノ第九六六七號登錄商標ノ稱呼ハ花人形標ナリ請求人ノ第九四八七號登錄商標ノ稱呼ハ人物標又ハ人形標ニシテ自然ニ生シタル稱呼ナリ被請求人ハ僅カニ花ノ一字ヲ加ヘテ模倣ノ商標ヲ作成シ以テ不正競争ノ手段ト爲シタルモノニシテ混同誤認ノ虞アリ請求人ノ商標ヲ付シタル凝乳ハ明治十八九年前ヨリ盛シニ輸入セラレ其頃ヨリ一般ニ人形標ノ凝乳トシテ知ラレ現ニ被請求人ノ如キモ取引者ノ一人タリシモノナリ請求人ノ商標カ事實上人形標ナル一種特別ノ稱呼ヲ得タル歴史アルニ方リ被請求人カ特ニ人形ノ文字ヲ使用シ且圖形ニ於テモ人形ヲ現ハシタル以上ハ被請求人ノ商標ハ實際ニ於テ請求人ノ商標ト混同セラル、ノ虞アリ「圖形稱呼共ニ箇々獨立ニ類似スルモノナレトモ概括的ニ觀察シテ然リトス」係爭商標ノ類否ハ人形標ナル名稱ノ沿革、模倣ノ情況、手段等ヲ考察シテ判定スヘキモノナレハ圖形ノ外觀相異レリトスルモ商標ノ類似ヲ免ル、能ハス被請求人ノ商標ノ圖形ノ花車ハ之ヲ人形ノ部ニ比スレハ人ノ注意ヲ惹ク程度甚タ輕ク寧ロ附隨ノモノタルニ過キス人形ヲ主トシ之ニ加フルニ僅カニ花ノ一字ヲ加ヘタル花人形ナル文字ヲ以テシタル被請求人ノ商標ハ請求人ノ商標ニ類似スルモノナリ假リニ圖形ノ外觀異レリトスルモ稱呼上ノ類否ハ之ニ拘泥セス果シ

テ紛ラハシキヤ否ヤヲ判定スヘキモノナリ其他ノ事實關係及事情等ハ原審ニ於テ陳述シタル所ノ如シト云フニ在リテ審判第二三六七號事件ノ甲號各證ヲ援用シ證人日比野房吉外四名ノ訊問ヲ申請セリ被請求人ハ本件抗告審判請求ヲ棄却ス抗告審判費用ハ請求人ノ負擔トストノ審決ヲ求ムト申立テ其理由ノ要領ハ被請求人ノ商標ハ花車ト二人ノ唐子ヲ圖形ノ主眼ト爲シ外觀ニ於テモ觀念ニ於テモ請求人ノ商標ノ主眼タル搾乳婦カ頭上ニ手桶ヲ持チ右手ニ同一容器ヲ提ケタル圖形ト至ク異リ一見明瞭ニ區別セラル、モノナリ被請求人ノ商標ハ明治三十年登錄當時ヨリ現今ニ至ルマテ市場ニ於テ一般ニ花人形標トシテ認メラレ且請求人ノ搾乳婦「ミルクメイド」標略稱人物標ト相竝ンテ區別セラレ來レリ請求人ノ商標ハ元來搾乳婦「ミルクメイド」標ニシテ之ヲ稱呼ト爲シ來リ唯文字六ケシキ爲メ後ニ至リ人物標ト明稱スルニ至リタルモノナリ然ルニ被請求人ノ花人形標即チ唐子人形ノ商標ヲ附シタル商品カ關稅改正ノ結果賣行盛大トナリシニ際シ偶人物標ヲ誤テ人形標ト記シタルモノアリシヨリ請求人ノ橫濱代理店ノ者之ヲ奇貨トシ一兩年來商略上故意ニ人形標ト稱セントシツ、アルモノナリト云フニ在リテ審判第二三六七號事件ノ乙號各證ヲ援用セリ

審決ノ理由 被請求人ノ本件第九六七號登錄商標ハ二人ノ唐子及花車ヲ描キ上方ニ花人形ナル三字ヲ記シタルモノニシテ請求人ノ第九四八七號登錄商標ハ一人ノ搾乳婦カ頭上ニ牛乳容器ヲ載セ左手ヲ以テ之ヲ支持シ右手ニモ同一容器ヲ提ケタル圖形ナルヲ以テ兩商標ノ圖形ハ一見容易ニ甄別セラル故ニ兩商標カ圖形ノ外觀ニ於テ相類似セリトノ請求人ノ主張ハ當ヲ得ス而シテ證人日比野房吉及川井敬次郎ノ供述ニ依レハ請求人カ第九四八七號登錄商標ヲ付シテ販賣セル凝乳カ明治十九年ヨリ帝國內ニ輸入販賣セラレ明治三十年頃ヨリ其商標カ廣ク凝乳營業者及需要者ノ間ニ知ラル、ニ至リタルト及其商標カ人形標ト呼ハレ時トシテハ人物標ト呼ハル、コトヲ認ムルヲ得然レトモ右二證人ノ供述ニ依レハ

該商標ハ普通ニ人物標ト呼ハレ該商標カ人形標ト呼ハル、コトハ少數ノ場合ニ過キサレコトヲ認ムルヲ得從テ右二證人ノ證言及其他請求人ノ援用スル證據ヲ綜合スルモ該商標カ人形標トシテ被請求人ノ第九六七號登錄商標ノ出願日タル明治三十年七月二十七日以前ニ於テ世人ニ周知セラレタルコトハ之ヲ認ムルヲ得ス加之第九四八七號登錄商標ヨリシテ自然ニ生スヘキ稱呼ハ人物標ニシテ人形標ハ該商標ヨリ自然ニ生スヘキ稱呼ニアラサルコトハ該商標カ世人ニ周知セラレシニ拘ハラス人形標ト稱呼セラレシ場合ノ甚タ少カリシコト前示ノ如クナルニ徴シテ之ヲ知ルコトヲ得而シテ商標ヨリ偶然ニ生シタル稱呼ト雖世人ニ周知セララル、ニ至リタル場合ニ於テハ之ヲ其商標ノ稱呼ニアラスト謂フコトヲ得スト雖偶然ノ稱呼ニシテ只未タ世人ニ周知セラレサルモノハ之ヲ其商標ノ稱呼ナリト謂フヲ得ス故ニ請求人ノ商標ノ稱呼カ人形標ナルコトヲ前提トシテ兩商標カ稱呼上相類似セルモノナルコトヲ論斷セル請求人ノ主張モ亦理由ナシ其他尙請求人ニ於テ論スル所アルモ之ニ對シテハ一々説明ヲ爲スノ要ナシ

仍テ主文ノ如ク審決ス
大正二年三月十七日於特許局

審判長 特許局事務官 宿利英治
同 村上隆吉
同 田中鐵二郎

横濱市山下町五十八番地

請求人

ライジングサン石油株式會社

右代表者

エー、ビー、スコット

右代理人

中村 弘

被請求人

長谷川 寅吉

右代理人

乙部 俊次

東京市京橋區宗十郎町二十一番地特許辨理士

同 市日本橋區箱崎町四丁目一番地

同 市京橋區木挽町十丁目八番地特許辨理士

右當事者間ノ第一一九七五號商標登録無効審判請求事件ニ付大正元年十月二十八日當局ニ於テ爲シタル審決ニ對シ抗告審判請求ヲ爲シタルニ依リ審決スルコト左ノ如シ

主文 請求人ノ申立相立タス

抗告審判費用ハ請求人ノ負擔トス

申立ノ要領 請求人ハ原審決ヲ廢棄シ第一一九七五號商標登録ヲ無効トス審判及抗告審判費用ハ被請求人ノ負擔トストノ審決アリタシト申立テ其理由ノ要領ハ被請求人ノ第一一九七五號登録商標ハ陸軍聯隊軍旗及軍艦旗竝ニ海軍大少將旗ニ類似スルヲ以テ商標法第二條第二號ニ該當シ登録ヲ受クルコトヲ得サルモノナリ横長方形タルト方形タルト縦長方形タルトハ幾何學上ノ差別トシテハ之ヲ認識シ得ヘキモ商標甄別ノ標準ト爲スニ足ラス波ノ圖形ヲ有スルト有セサルトノ差異モ亦商標類似ノ觀念ヲ排斥スルニ足ラス草書ニテ現ハセル長ノ字ハ本件商標ノ要部ヲ構成セス軍旗ヲ旗竿ニ附着スルハ掲揚ノ一方法タルニ過キス國旗軍旗ヲ帆索ニ繫クモ其國旗タリ軍旗タルコトヲ觀誤ル者無シ是レ軍旗ナル觀

念カ光線ヲ發射セル太陽ニ外ナラサルヲ以テナリ光線ヲ發射スル太陽ノ圖ト云ハ抽象的ニ明白ナル觀念ヲ喚起スルモ其描寫ノ方法ノ如何ニ依リテハ之ヲ幾多ノ様式ニ細別スルコト難キニアラス故ニ其描寫ノ方法ノ著シク相異レルモノ、間ニ在テハ或ハ別箇ノ觀念ヲ生シ商取引上混同誤認ヲ避ケ得ヘキ異別ノ商標ヲ構成シ得サルニアラス然レトモ我軍旗ニ採用セラレタル光線ヲ發射スル太陽ノ描寫ノ方法ハ一定ノ様式ヲ存シ此様式ハ全然人爲的ニシテ特種ノ圖案の性質ヲ帶ヒ何人ト雖一見此特種ノ様式ヲ觀取スルコトヲ得ヘシ而シテ本件商標ヲ構成スル圖形ハ正シク此特種ノ様式ヲ模倣シテ光線ヲ發射スル太陽ヲ描寫シタルモノナルヲ以テ其間ニ明確ナル區別ヲ認メ難キノミナラス世人ハ之ヲ一見シテ直チニ軍旗ヲ描寫シタルモノト做スコト疑ナシ請求人モ本件商標ヲ目シテ軍旗ナリト云フニアラス唯其外觀軍旗ニ酷似シ専用ヲ許スヘカラストシ登録無効ノ宣言ヲ求ムルモノナリト云フニ在リ

被請求人ハ請求人ノ申立相立タス抗告審判費用ハ請求人ノ負擔トストノ審決アリタシト申立テ其理由

ノ要領ハ軍旗ハ旗タルノ形狀ヲ具備スルモノナラサルヘカラス單純ナル太陽ノ圖形カ軍旗ト看做サルヘキモノニアラス特ニ本件登録商標ハ下方ニ波紋ヲ描キ太陽ノ面上ニ草書ニテ長ノ字ヲ記シタルモノナレハ請求人ノ主張ハ不當ナリト云フニ在リ

審決ノ理由

本件第一一九七五號登録商標ハ圓ノ周邊ヨリ線ヲ射出シテ旭日ニ象リタル圖形ヲ描キ旭日ノ下端ヲ波紋ニテ蔽ヒ以テ海面ヨリ出現スル旭日ニ象リ且其ノ日章ノ面上ニ長ノ字ヲ崩シタルモノヲ記シタルモノナリ而シテ陸軍歩兵聯隊軍旗、騎兵聯隊軍旗、軍艦旗、海軍大將旗中將旗及少將旗ハ何レモ圓ノ周邊ヨリ線ノ射出シテ旭日ニ象リタル圖形ヲ旗面ニ描ケリト雖モ本件登録商標ニ於ケルカ如キ波紋ナク又日章面上ニハ何等記載セラレアルモノナキヲ以テ本件登録商標ハ以上軍旗ノ何レトモ混同誤認セラル、ノ虞ナク從テ之ニ類似スルモノニ非ラス商標ト商標トノ間ニ在テハ本件登録商標ニ於

ケルカ如キ波紋及長ノ字ヲ崩シタルモノ、有無ニ依リテ類似商標タルヲ免ル、能ハサルノ例尠カラサルコト洵ニ請求人所論ノ如シト雖嚴格ナル法規ニ依リテ制定セラレタル軍旗ニ關シテハ以上ノ差異ニ依リテ軍旗ト軍旗ニアラサルモノトハ容易ニ甄別セラル、モノナリ故ニ本件登録商標カ軍旗ト類似ニシテ商標法第二條第二號ニ該當セリトノ請求人ノ主張ハ理由ナシ
仍テ主文ノ如ク審決ス

大正二年三月十七日於特許局

審判長 特許局事務官 宿利英治
同 村上隆吉
同 田中鐵二郎

第四百四十號

橫濱市山下町五十八番地

請求人 ライジングサン石油株式會社

右代表者 エー、ビー、スコット

東京市京橋區宗十郎町二十一番地特許辨理士 右代理人 中村弘

同 市日本橋區箱崎町四丁目一番地 被請求人 長谷川寅吉

同 市京橋區木挽町十丁目八番地特許辨理士 右代理人 乙部俊次

右當事者間ノ第八八〇八號商標登録無効審判請求事件ニ付大正元年十月二十八日當局ニ於テ爲シタル審

決ニ對シ抗告審判請求ヲ爲シタルニ依リ審決スルコト左ノ如シ

主文 請求人ノ申立相立タス

抗告審判費用ハ請求人ノ負擔トス

申立ノ要領 請求人ハ原審決ヲ廢棄シ第八八〇八號商標登録ヲ無効トス審判及抗告審判費用ハ被請求人ノ負擔トストノ審決アリタシト申立テ其理由ノ要領ハ被請求人ノ第八八〇八號登録商標ハ陸軍聯隊軍旗及海軍軍艦旗並ニ大中少將旗ニ類似スルヲ以テ商標法第二條第二號ニ該當シ登録ヲ受クルコトヲ得サルモノナリ橫長方形タルト方形タルト縱長方形タルトハ幾何學上ノ差別トシテハ之ヲ認識シ得ヘキモ商標甄別ノ標準ト爲スニ足ラス軍旗ヲ旗竿ニ附着スルハ掲揚ノ一方法タルニ過キス國旗、軍旗ヲ帆索ニ繫クモ其國旗タリ軍旗タルコトヲ觀誤ル者無シ是レ軍旗ナル觀念カ光線ヲ發射セル太陽ニ外ナラサルヲ以テナリ光線ヲ發射スル太陽ノ圖ト云ヘハ抽象的ニ明白ナル觀念ヲ喚起スルモ其描寫ノ方法ノ如何ニ依リテ之ヲ幾多ノ様式ニ細別スルコト難キニアラス故ニ其描寫ノ方法ノ著シク相異レルモノ、間ニ在テハ或ハ別箇ノ觀念ヲ生シ商取引上混同誤認ヲ避ケ得ヘキ別異ノ商標ヲ構成シ得サルニアラス然レトモ我軍旗ニ採用セラレタル光線ヲ發射スル太陽ノ描寫ノ方法ハ一定ノ様式ヲ存シ此様式ハ全然人爲的ニシテ特種ノ圖案の性質ヲ帶ヒ何人ト雖一見此特種ノ様式ヲ觀取スルコトヲ得ヘシ而シテ本件商標ヲ構成スル圖形ハ正シク此特種ノ様式ヲ模倣シテ光線ヲ發射スル太陽ヲ描寫シタルモノナルヲ以テ其間ニ明確ナル區別ヲ認メ難キノミナラス世人ハ之ヲ一見シテ直チニ軍旗ヲ描寫シタルモノト做スコト疑ナシ請求人モ本件商標ヲ目シテ軍旗ナリト云フニアラス唯其外觀軍旗ニ酷似シ專用ヲ許スヘカラストシ登録無効ノ宣言ヲ求ムルモノナリト云フニ在リ
被請求人ハ請求人ノ申立相立タス抗告審判費用ハ請求人ノ負擔トストノ審決アリタシト申立テ其理由

ノ要領ハ軍旗ハ旗タルノ形狀ヲ具備スルモノナラサルヘカラス單純ナル太陽ノ圖形カ軍旗ト看做サルヘキモノニアラスト云フニ在リ

審決ノ理由 陸軍歩兵聯隊軍旗、騎兵聯隊軍旗、軍艦旗、海軍大將旗、中將旗及少將旗ハ何レモ圓ノ周邊ヨリ線ヲ射出シテ旭日ニ象リタル圖形ヲ旗面ニ現ハセリト雖陸軍歩兵聯隊軍旗及騎兵聯隊軍旗ハ旗ノ周圍ニ「モール」及線ヲ有シ海軍大將旗、中將旗及少將旗ハ旭日ノ光線數カ八條ニ限定セラレ且其光線ノ間隔カ光線ノ幅ニ比シ著シク大〔三倍大〕ナリ然ルニ本件第八八〇八號登錄商標ハ單ニ旭日ノ圖形ヲ描キタルニ止マリ其周圍ニ於ケル子母線モ亦商標ニ普通ニ慣用セラル、輪廓タルニ過キサルヲ以テ以上各種ノ軍旗ノ圖形ト混同誤認セラル、ノ虞ナク從テ之ニ類似スルモノニアラス又軍艦旗ハ日章ノ中心カ旗面ノ中心ヨリ風上ノ方ニ偏スルコトヲ要スルモノナリ然ルニ本件第八八〇八號登錄商標ハ旭日章ヲ長方形欄内中央ニ描キタルモノナルヲ以テ軍艦旗ノ圖形ト混同誤認セラル、ノ虞ナク從テ之ニ類似スルモノニアラス商標ト商標トノ間ニ在テハ以上諸種ノ軍旗ト本件第八八〇八號登錄商標トノ圖形上ノ差異ノ如キ程度ノ差異ニ依リテ類似商標タルヲ免ル、能ハサルノ例尠カラスト雖嚴格ナル法規ニ依リテ制定セラレタル軍旗ニ關シテハ如上ノ差異ニ依リテ軍旗ト軍旗ニアラサルモノトハ容易ニ甄別セラル、モノナリ故ニ本件第八八〇八號登錄商標カ軍旗ト類似ニシテ商標法第二條第二號ニ該當スルモノナリトノ請求人ノ主張ハ理由ナシ
仍テ主文ノ如ク審決ス

大正二年三月二十日於特許局

審判長 特許局事務官 宿利英治
同 村上隆吉

同 田中鐵二郎

第三百九十六號

山口縣厚狹郡須惠村大字小野田七百十八番屋敷

大阪市東區備後町二丁目三十六番地特許辦理士

佐賀縣藤津郡鹽田村大字馬場下甲千九百四十五番地

大阪市東區高麗橋二丁目百二十六番屋敷特許辦理士

請求人 福井忠次郎

右代理人 堤他彦

被請求人 横尾兼太郎

右代理人 岡田謙三郎

右當事者間ノ第二八三四一號商標登錄無效審判請求事件ニ付明治四十五年六月二十六日當局ニ於テ爲シタル審決ニ對シ抗告審判請求ヲ爲シタルニ依リ審決スルコト左ノ如シ

主文 原審決ヲ廢棄ス

商標第二八三四一號登錄ハ指定商品中水劑ニ付テハ之ヲ無効トス

審判費用ハ原審及當審共被請求人ノ負擔トス

申立ノ要領 請求人ハ原審決ヲ破毀ス商標第二八三四一號登錄ハ水劑ニ對シ無効トス審判費用ハ原審及

當審共被請求人ノ負擔トストノ審決アリタシト申立テ其理由ノ要領ハ被請求人ノ第二八三四一號登錄

商標ハ明治三十九年十一月十八日出願シ明治四十年一月十九日登錄セラレ水劑外二十九種ヲ指定商品

トシタルモノニシテ不可飲ナル文字ヲ以テ成レリ然ルニ請求人ノ先代忠次郎ハ自己ノ製劑販賣スル塗

布水藥ノ方名ヲ不可飲トシ且不可飲ナル文字ヲ商標ト爲シ明治十一年ヨリ之ヲ該製劑ニ使用シ營業ノ

幼稚ナリシ明治十五年頃ニ於テモ十數萬劑ノ製藥ヲ爲シ受賣人ノ手ヲ經テ汎ク諸府縣ニ販賣シ不可

飲ナル商標ハ明治三十二年七月前ヨリ世人ニ周知セラレタリ先代忠次郎ハ明治二十六年八月二十五日

隱居シ營業ハ尙之ヲ繼續シ明治三十九年二月七日死亡シタリ請求人ハ先代忠次郎ノ隱居ニ因リ家督相續ヲ爲シ隱居者忠次郎ノ死亡ニ因リ其營業ヲ相續シ引續キ不可飲ナル商標ヲ水劑ニ使用シ來レリ故ニ被請求人ノ本件商標ハ水劑ニ付テハ商標法第二條第五號ニ該當シ其登錄ハ同法第十一條ニ依リ之ヲ無効ト爲スヘキモノナリト云フニ在リ

被請求人ハ請求人ノ申立相立タス抗告審判費用ハ請求人ノ負擔トストノ審決アリタシト申立テ其理由ノ要領ハ第一、請求人カ明治十一年以來不可飲ナル商標ヲ付シタル賣藥ノ製造販賣ヲ爲シタルコトヲ認メス甲第二號證ニ依レハ明治十三年二月乃至明治十七年五月ノ頃ニ於テ單ニ殘品ノ販賣ヲ差許サレタルノミニシテ其後引續キ營業ヲ爲シタルモノニアラス殘品賣捌ノ終了ト同時ニ營業ヲ廢止シタルモノナリ從テ商標ノ使用モ廢絶シタルモノナリ又甲第四號證ニ依レハ明治二十五年四月當分販賣ヲ許サレタルモノニシテ繼續的ノモノト見ルヲ得ス第二、請求人ノ使用セシ商標ハ鬼面ノ圖形ヲ主腦トシテ周圍ニ『一滴千金』不可飲『清淨塗藥』等用法效能ヲ表示スル文字ヲ加ヘ圓形周欄ヲ施シタルモノニシテ不可飲ナル文字ハ其主要部分ニアラス其中央ニ在ル鬼面ノ圖形コソ其要部ヲ占ムルモノト謂ハサルヘカラス不可飲ナル文字ト鬼面ノ圖形トハ結合又ハ聯合シタル所ナク請求人ハ不可飲ナル方名ノ賣藥ニ鬼面ノ商標ヲ使用シタルモノナリ從テ不可飲ノ三字ノミヲ以テ成ル被請求人ノ商標ハ請求人ノ商標ニ類似スルモノニアラス第三、請求人ハ其商標ヲ水劑ニ使用セリト云フモ水劑トハ内服藥ナリ然ルニ請求人ノ販賣セリト稱スル藥劑ハ塗布藥ニシテ内服藥ニアラス從テ水劑ニアラス第四、請求人ノ使用スル商標カ被請求人ノ商標ノ登錄出願前ヨリ世人ニ周知セラル、コトヲ認メス第五、不可飲ナル賣藥ノ免許ヲ内務省ヨリ受ケタル者ハ請求人ノ前戶主福井忠次郎ニシテ同人ハ明治二十六年八月二十五日隱居シ明治三十九年二月七日ニ死亡シ其隱居又ハ死亡ト同時ニ同人ノ營業ハ消滅シ從テ商標ノ使用モ

消滅セリ請求人ハ前戶主忠次郎ノ養嗣子ニシテ前戶主隱居ノ日ニ相續ヲ爲シ明治三十九年三月二十六日其名次郎ヲ忠次郎ト改メタルモノナリ不可飲ナル藥劑ノ營業ヲ以前ヨリ自ラ爲シ來リタルモノ、如ク主張スルハ事實ニ反スルモノナリト云フニ在リ

審決ノ理由 甲第四號證〔賣藥免許鑑札〕、甲第十四號證〔山口縣廳ノ證明書〕、乙第一號證〔戶籍抄本〕、甲第十二號證〔相續開始届ノ認證アル謄本〕及甲第十五號證〔舟木稅務署長ノ證明書〕ヲ綜合シテ考察スレハ請求人ノ先代忠次郎カ明治十五年七月二十八日官廳ノ免許ヲ受ケテ不可飲ナル方名ヲ付シタル賣藥ノ製劑及販賣ノ營業ヲ開始シ明治二十六年八月二十五日隱居ヲ爲シ請求人カ家督相續ヲ爲シタル際該營業ハ隱居者之ヲ留保シテ繼續シ明治三十九年二月七日隱居者忠次郎死亡シタルニ付請求人カ遺產相續ニ因リ隱居者ノ前示營業ヲ承繼シ爾來繼續シテ現今ニ至リタルコト明カナリ被請求人ノ提出シタル證據及其援用スル證據ハ請求人ノ先代忠次郎ノ營業カ中絶若ハ廢絶シタルコトヲ證明スルニ足ラス又甲第十四號證〔山口縣廳ノ證明書〕ニ依レハ前示不可飲ナル藥劑カ液體ニシテ水劑ナルコト明カナリ被請求人ハ水劑ト稱スヘキモノハ内服藥ニ限リ外用藥ハ水劑ニアラスト論スレトモ其所論ノ根據ナキノミナラス日本藥局法ニ於テモ内服用ニアラサル水劑ノ記載セラル、モノ尠カラサルヲ以テ被請求人ノ前示所論ハ失當ナリ又證人鹽見伊八郎ノ供述ニ依レハ隱居者忠次郎カ前示營業中明治三十五年及三十六年ニ於テ藥劑不可飲ノ販賣ヲ廣告スル爲メ甲第七號證ノ二ニ示セル商標〔圓周内ニ於ケル圖形及文字ヲ以テ成ルモノ〕ト同一ノモノヲ證人ニ託シテ新聞紙ニ掲載セシメタル事實ヲ認メ得ヘク從テ請求人カ明治三十五年以來甲第七號證ノ二ニ示セル商標ト同一ノモノヲ水劑ニ使用セルコトヲ認ムルコトヲ得又被請求人ハ賣藥不可飲ノ營業者ハ請求人ノ先代忠次郎ニシテ請求人ニアラス從テ請求人ハ右商標ノ使用者ニアラスト論スレトモ營業ノ承繼アリタル場合ニハ被承繼者ノ商標使用ハ商標法上之ヲ承

繼者ノ商標使用ト看做スヘキモノトス而シテ甲第六號證ノ二及三(谷回春堂商業帳簿)ニ依レハ明治三十七年二月二十三日ヨリ同年十一月二十八日迄ニ不可飲一萬二百餘瓶、三十八年一月二十一日ヨリ十一月十九日迄ニ不可飲一萬三千四百瓶ヲ請求人ノ先代忠次郎ヨリ谷回春堂ニ賣渡シ谷回春堂ニ於テ廣ク世上ニ之ヲ販賣シタル事實ヲ認メ得ヘク甲第十一號證(谷回春堂商業帳簿)ニ依レハ明治三十九年一月六日ヨリ同年十一月六日迄ノ間ニ於テ不可飲八千七百餘瓶ヲ請求人ノ先代忠次郎及請求人ヨリ谷回春堂ニ賣渡シ谷回春堂ニ於テ廣ク世上ニ之ヲ販賣シタル事實ヲ認ムヘク證人森平兵衛ノ訊問調書ニ依レハ證人カ明治二十九年以來引續キ請求人ノ先代忠次郎及請求人ヨリ右水劑不可飲ヲ買取り世上ニ廣ク販賣シタル事實ヲ認ムルヲ得、故ニ甲第七號證ノ二ニ示セル商標ハ請求人カ水劑ニ使用スル商標トシテ本件登録出願前即チ明治三十九年十一月十八日前ヨリ賣藥營業者及需要者間ニ周知セラレタルモノト認ム而シテ甲第七號證ノ二ニ示セル商標ハ圓周内中央ニ鬼面ヲ描キ其上方ニ不可飲ト書シ其左右及下方ニ他ノ文字ヲ記シタルモノニシテ不可飲ナル文字ハ特ニ世人ノ注意ヲ惹クニ足レリ不可飲ナル文字カ請求人ノ水劑ノ方名ヲ表示スルモノナルコトハ勿論ナレトモ藥劑ノ方名ヲ表示スル文字ハ一面ニ於テ其藥劑ノ商標タルコトヲ妨ケサルモノトス而シテ以上舉示シタル認定事實及證人森平兵衛ノ訊問調書中證人カ請求人ノ先代及請求人ヨリ賣藥不可飲ヲ買受クルニ當リ鬼面ノ圖形ヨリモ不可飲ナル文字ヲ目標ト爲シタル旨ノ供述アルニ徴スレハ甲第七號證ノ二ニ示セル商標ニ於ケル不可飲ナル文字ハ請求人カ之ヲ該商標ノ主要部分トシテ使用シタルハ勿論、世人モ亦之ヲ該商標ノ主要部分ナリト思惟シタリト認定スルヲ妥當トス故ニ不可飲ナル文字ハ本件登録出願前ヨリ請求人ノ商標トシテ世人ニ周知セラレタル商標ノ主要部分ナリト謂ハサルヘカラス而シテ被請求人ノ本件登録商標ハ不可飲ノ三字ヲ以テ成リ水劑及其他ノ商品ヲ指定商品トシ明治三十九年十一月十八日出願シテ登録ヲ受ケタルモ

ノナルヲ以テ水劑ニ關シテハ登録出願前ヨリ世人ノ周知スル請求人ノ商標ニ類似シ商標法第二條第五號ニ該當ス從テ同法第十一條ニ依リ其登録ヲ無効ト爲サンコトヲ求ムル請求人ノ主張ハ至當ナリ仍テ主文ノ如ク審決ス

大正二年三月二十五日於特許局

審判長 特許局事務官 宿利英治
同 村上隆吉
同 田中鐵二郎

第四百十六號

松山市大字味酒百九十二番戶

請求人 松山紡績株式會社

右代表者

淺田廣太郎

大阪市東區淡路町五丁目十四番地特許辨理士

右代理人 江田邦太
被請求人 福島紡績株式會社

右代表者

八代祐太郎

同 市東區北濱五丁目六十三番屋敷特許辨理士
同 市東區北濱五丁目六十三番屋敷特許辨理士

右代理人 淺村三郎
同 平岩義一

右當事者間ノ第五〇三六九號商標登録無効審判請求事件ニ付大正元年八月二十日當局ニ於テ爲シタル審

決ニ對シ抗告審判請求ヲ爲シタルニ依リ審決スルコト左ノ如シ

主文 抗告審判請求人申立相立タス

審判竝ニ抗告審判費用ハ抗告審判請求人ノ負擔トス

申立ノ要領

抗告審判請求人申立ノ要領ハ原審決ハ之レヲ破毀シ第五〇三六九號商標ノ登録ハ無効ナラ
ス審判竝ニ抗告審判費用ハ抗告審判被請求人ノ負擔トスト審決相成度其理由ハ本件登録商標第五〇三
六九號ト抗告審判被請求人ノ專用スル登録第五九七一號商標トハ商標構成ノ資料ヲ異ニシ其圖形ニ於
テモ二者單ニ精粗ノ差違ニ止マラス登録第五九七一號商標ハ扇面ト稱スルヨリハ寧ロ圓形ノ一部ヲ切
リ取りタルカ如キ形狀ニシテ若シ扇トスレハ『要』以上ヲ現ハシタルモノナルニ反シ登録第五〇三六九
號商標ハ『要』以下ヲモ現ハシタル扇ノ形狀ヲ畫キテ成リ互ニ混同誤認ノ虞ナク又假ニ此兩商標ハ單ニ
精粗ノ差アルニ止マルトスルモ其精粗ハ即チ商標ノ外觀上ニ於ケル非類似ノ證タルモノニシテ登録第
五九七一號商標ハ十數本ノ線ニ依リテ扇ノ地紙ナルカ又ハ骨ナルカヲ區別シ難キ圓形ノ一部分ヲ切リ
取りタル如キモノヲ現ハシ登録第五〇三六九號商標ニアリテハ僅々數本ノ線ニ依リテ扇ノ地紙、親骨、子
骨、要等ヲ一目瞭然ニ現ハセリ又登録第五九七一號商標ハ圖形及夥多ノ文字ノ結合ヨリ成レルニ反シ
登録第五〇三六九號商標ニアリテハ單ニ圖形ノミヨリ成リ爲メニ右兩商標ハ圖形カ扇面ト云フ抽象的
觀念上ニ於ケル同一アリト云フニ過キスシテ商取引上混同ノ虞ナシ抗告審判被請求人カ原審ニ於テ扇
面ト記セル注文書ヲ此混同ニ關スル證據トセルモコハ既往ニ於テ混同シタルノ事實ヲ主張シタルモノ
ニ非ス若シ概念ノ同一ヲ以テ商標カ類似スルモノトセハ登録第八九三四號、同第一七七五六號、同第一
八〇一九號、同第二一〇六四號、同第二四四二三號、同三四九〇一號、同三五五九〇號商標等ハ悉ク類
似商標ナリト云ハサルヘカラス又既ニ外觀上類似セサル以上稱呼上ノ同一ハ本件審決ノ理由ト爲スニ

足ラスト主張シ原審判ニ於テ抗告審判請求人ノ提出シタル答辯書ヲ援用セリ

抗告審判被請求人申立ノ要領ハ抗告審判請求人申立相立タス抗告審判費用ハ抗告審判請求人ノ負擔ト
スト審決相成度其理由ハ商標ノ類似ナルヤ否ヤヲ決スル標準ハ現ニ兩商標カ取引上混同誤認ヲ生シタ
ルコトアルヲ要セス其虞アルヲ以テ足ル而シテ登録第五九七一號商標ハ『フ』ノ字形ヲ九箇配列シ其左
端ニ一條ノ細斜線ヲ施シ下部ニ三角狀ノ山ノ字ヲ置キ開キタル扇形ニ爲シタルモノヲ其要部トシ登録
第五〇三六九號商標ハ『マツ山』ノ文字ヲ以テ開キタル扇形ヲ描キテ之レヲ其要部ト爲セルコト明白ナ
リ從テ右兩商標ハ微差ナキニ非サルカ如シト雖モ取引上世人ノ最モ注目スヘキ部分ハ何レモ開キタル
扇ノ圖形ニアリ即チ其思想及外觀ニ於テ二者互ニ類似ス又抗告審判請求人ハ第八九三四號登録商標外
六箇ノ登録商標ヲ援用スレトモ其内一箇ハ被請求人ノ專用ニ係リ他ハ登録第五九七一號商標ノ登録出
願以後ノ出願ニ屬スルモノニシテ之レニ依リテ抗告審判請求人ノ本件商標カ抗告審判被請求人ノ登録
第五九七一號商標ニ類似セストノ結論ヲ生スヘキモノニ非ス又商標ノ稱呼ハ總テ其主要部分ヨリ生ス
ヘキモノニシテ右兩商標ハ何レモ扇面又ハ扇形印ニ外ナラスト主張シ原審ニ於テ提出シタル審判請求
書及甲號各證ヲ援用セリ

審決ノ理由

抗告審判請求人ノ專用スル登録第五〇三六九號商標ハ明治四十四年十二月十四日ノ出願ニ
係リ同四十五年二月五日登録ヲ受ケ『マツ山』ノ三字ヲ變體ニ現ハシ開キタル扇面ノ圖形ヲ描キテ成リ
商品綿絲ニ使用スルモノナリ而シテ抗告審判被請求人ノ專用スル登録第五九七一號商標ハ明治二十七
年五月二十八日ノ出願ニ係リ同年十月八日登録ヲ受ケ『フ』ノ字ヲ九箇配列シ其左端ニ一條ノ細斜線ヲ
引キ下部ニ山ノ字ノ變體ナルモノヲ書キテ開キタル扇面ノ圖形ヲ描キ周欄ヲ附シ文字ヲ加ヘテ成リ之
レヲ同一商品ニ使用スルモノナリ仍テ按スルニ右兩商標ハ仔細ニ之レヲ觀察スレハ周欄又ハ附記ノ文

字ノ有無及圖形ノ構造ニ於テ差異ナシトセサルモ其商標ノ要部ハ孰レモ扇形ノ圖形ナルカ故ニ時ト場
所トヲ異ニシ商品ヲ撰擇取引スル場合ニ於テ商標上ノ稱呼及各商標ニ就テノ概念ノ一致ノ爲メ商取引
上互ニ混同誤認ノ虞アルモノニシテ兩商標ハ互ニ相類似スルモノト認ム而シテ登錄第五〇三六九號商
標ノ登錄出願ハ登錄第五九七一號商標ノ登錄出願ヨリ後ナルヲ以テ登錄第五〇三六九號商標ハ商標法
第三條第一項ニ該當シ同法第十一條ニ依リテ其登錄ハ無効ト爲スヘキモノトス右ノ外猶當事者間ニ論
争スルトコロアリト雖本件審決ニ必要無キヲ以テ説明セス
仍テ主文ノ如ク審決ス

大正二年三月二十八日於特許局

審判長 特許局事務官 宿利英治
同 村上隆吉
同 三浦惠一

第四百三十八號

京都市下京區四條通小橋西入ル眞町二十六番戶

請求人 佐野チヨ

右第八三一四三號商標登錄願拒絕再査定不服抗告審判請求事件ニ付審決スルコト左ノ如シ

主文 請求人ノ申立相立タス

申立ノ要領 請求人ハ原査定ハ不服ニ付審理ノ上本願商標ハ登錄スヘキモノト審決アリタシト申立テ其
理由ノ要領ハ原査定ニ於テハ本願商標ハ森下博カ藥劑及其他ノ商品ニ使用スル爲メ商標權ヲ有スルモ

ノト同一ニシテ彼レカ此等商品中ノ丸藥ノ容器トシテ金屬製ノ箱ヲ使用シ其箱ノ表面ニ本願商標ト同
一ノ商標ヲ使用セル事實ハ世人ノ周知スル所ナリ其商標使用ノ目的ハ素ヨリ其容器内ノ商品ヲ表彰セ
ントスルニ在リテ容器其モノ、商標トシテ使用セルニハアラサルモ本願商標ハ請求人ニ於テ藥品ノ容
器及其他ノ容器類ニ使用スルコトヲ目的トスルモノ、如ク此點ニ於テ世人ヲシテ其包容スル商品ハ森
下博ノ商標仁丹ヲ以テ表彰スル商品ヲ包容スルモノナリト誤認セシメ世人ヲ欺瞞スルノ虞アリト説明
セラレタリ然レトモ本願商標ヲ使用スヘキ商品中諸種ノ容器ハ空虛ノ儘販賣スルモノニシテ包容品ナ
ク容器其モノカ商品ナリ從テ世人ヲ欺瞞スルノ虞ナキノミナラス却テ世人ヲ益スルモノナリ何トナレ
ハ森下博ノ爲セル如ク容器ヲ藥品ト同封シ之カ爲メニ一定ノ價ヲ藥價ニ加算シタル定價ヲ附シテ販賣
スレハ營業者ノ爲メニハ好都合ナルモ容器ノ高價ナルハ怪ムニ足ラス需要者ニ在リテハ迷惑ノ外ナシ
此等ノ容器ヲ藥品ト分離シテ一般世人ノ需要ニ應スレハ低價ヲ以テ供給セラルレハナリ故ニ本願商標
ハ登錄ヲ受クルコトヲ得ヘキモノナリト云フニ在リ
審査官答辯ノ要領ハ本願商標ノ登錄ヲ受クルコトヲ得サルモノナルコトハ原査定ニ於テ説明シタル所
ノ如シト云フニ在リ

審決ノ理由 本願商標ハ森下博ノ第三三二四九號登錄商標ト同一ナリ而シテ同人カ該登錄商標ヲ藥劑ニ
使用セルコト竝ニ同人カ藥劑ノ金屬製容器ニ該登錄商標ヲ表出シテ藥劑ト共ニ之ヲ販賣セルコトカ請
求人ノ本件商標登錄出願ノ日タル明治四十五年四月十二日ニ先タツ久シキ以前ヨリ世人ノ周知スル所
ナルノミナラス請求人カ森下博ノ執レル容器販賣ノ手段ヲ非難シ以テ本件商標登錄出願ノ理由ト爲セ
ルニ徵スレハ右世人周知ノ事實ヲ本件商標登錄出願前ヨリ請求人ニ於テ了知セルコト明カナリ故ニ請
求人カ其主張セル如ク本願商標ヲ藥劑ノ金屬製容器ニ表出シテ之ヲ販賣セントスルハ單ニ森下博ノ販

賣セル前示容器ト同一ノ外觀ヲ有スル容器ヲ製作シテ之ヲ販賣セントスルモノニシテ請求人ノ營業ニ係ル商品ヲ表彰スル爲メニ本願商標ヲ使用セントスルモノニアラスト認メサルヲ得ス從テ本願商標ハ商標法第一條第一項ニ該當セサルヲ以テ登録ヲ受クルコトヲ得サルモノトス
仍テ主文ノ如ク審決ス

大正二年四月十五日於特許局

審判長 特許局事務官 宿利 英治
同 村上 隆吉
同 田中 鐵二郎

第三百七十一號

廣島市西地方町二百四十四番屋敷 請求人 前田 常次郎
大阪市東區北濱五丁目六十三番屋敷特許辨理士 右代理人 淺村 三郎
同 市東區北濱五丁目六十三番屋敷特許辨理士 同 平岩 義一
同 市西區西道頓堀五丁目十七番地 被請求人 立井 勤藏
同 市北區眞砂町二十二番地特許辨理士 右代理人 齋藤 秀岳
右當事者間ノ第三六二五三號商標權利確認審判請求事件ニ付明治四十五年四月二十二日當局ニ於テ爲シタル審決ニ對シ抗告審判請求ヲ爲シタルニ依リ審決スルコト左ノ如シ
主文 原審決ヲ破毀ス

抗告審判被請求人カ商品藥劑ニ使用スル甲第二號證商標ハ抗告審判請求人ノ專用スル登録商標第三六二五三號ノ權利範圍ニ屬ス

審判及抗告審判費用ハ抗告審判被請求人ノ負擔トス
申立ノ要領 請求人申立ノ要領ハ原審決ノ理由ハ「請求人専用ノ登録第三六二五三號商標ハ明治四十二年八月二十六日ノ出願ニ係リ縦長方形欄内上部ニ薔薇花ノ折枝ヲ相抱擁セシメ下部ニ結ヒタル布片ヲ配置シ上部ニmナル歐文字ヲ記入セル寶珠ヲ現ハシ之レヨリ光線ヲ發射セシメ妙法湯其他ノ文字ヲ加ヘテ成リ其要部ハ光線ヲ發射セル寶珠ノ圖形ニ在リト認ム請求人ハ右商標ノ主要部分ハ妙法湯ノ三字ニアリト主張スレトモ妙法湯ナル文字ハ請求人カ前記登録商標ノ登録出願當時ニ在リテ既ニ賣藥ノ方名トシテ普通ニ使用セラレタルモノナルコトハ本件ニ關シ審判長ヨリノ照會ニ對シ山梨縣知事ノ回答ニ徴シ明カニシテ何等特別顯著ナルモノニ非サルカ故ニ獨立シテ商標タルノ價值無シ然ルニ本件甲第二號證商標ハ井桁内ニ橘花ノ紋ヲ現ハシ其上ニ山形ヲ配置シ身延山ノ三字ヲ分記シ身延妙法湯其他ノ文字圖形ヲ加ヘテ成リ從テ其要部ハ井桁内ニ橘花ノ紋ヲ現ハシ之レニ山形ヲ配置シタル圖形ニ在リト認ム爲メニ兩商標ハ其主要部ヲ異ニシ類似商標ニ非サルモノト認定ス」ト云フニ在リ然レトモ其審決ハ左ノ三理由ニ於テ失當ナリ一、事實ノ誤解 請求人専用ノ登録第三六二五三號商標ハ明治四十一年十一月八日ノ登録出願ナルニ係ハラス原審決ニ於テハ明治四十二年八月二十六日ノ出願ナリト認定セラレタルハ事實ヲ誤解セルモノト云ハサルヲ得ス從テ明治四十二年八月二十六日頃ニ於テ假リニ妙法湯カ賣藥ノ方名トシテ普通ニ使用サレタリトスルモ之レカ爲メニ直チニ本件登録商標ノ主要部分タル妙法湯ノ文字カ賣藥ノ方名トシテ普通ニ使用サレタリトノ理由タルヘカラスニ、非職權調查事項 請求人ノ本件登録商標ノ主要部分タル妙法湯カ賣藥ノ方名トシテ使用セラレタリヤ否ヤハ審判官ノ職權

調査事項ニ屬セス之レ商標法及同法ノ準用セル特許法上其根據無ケレハナリ從テ原審判ニ於ケル審判官ハ當事者ノ申立及提出ニ係ル證據ニ依リ審理スヘキモノトス而シテ被請求人カ提出セル答辯書(明治四十五年四月二十日附)ニ徵スルモ被請求人ハ妙法湯ナル文字カ明治四十一年十一月八日即チ本件登録商標ノ登録出願ノ日前ヨリ賣藥ノ方名トシテ普通ニ使用セラレタリトハ主張セサリシ處ナリ然ルニ審判長自カラ職權的調査ヲ遂ケ甲第八號證即チ山梨縣知事ノ回答書ヲ唯一ノ證據ト爲シ此回答書ハ請求人ニ明示セス從テ何等反駁ノ餘地ヲ與ヘス請求人ニ對シ敗訴ノ審決ヲ下サレタルハ當事者ノ申立テサル事物ヲ當事者ニ歸セシメタル不法アルヲ免レス三、不當ノ認定 甲第八號證中第二第三項ハ何レモ本件登録商標ノ登録出願後ノ事實ニ關シ本件審判ノ證據タル價值無シ同證第一項ニハ「妙法湯ナル賣藥ハ明治四十一年三月十二日山梨縣下南巨摩郡身延村二百三十四番戸赤松イノカナル者ニ免許セル處同年十一月二十九日廢業セリ」ト記載セラレアリト雖モ(一)其四十一年三月十二日ハ請求ノ本件登録商標ノ出願日ニ先ツコト僅カニ八月ニ過キス(二)赤松イノカノ營業日時ハ僅々約八箇月ナリ且其營業狀態ハ不明ナリ故ニ斯ル同一營業ノ免許ヲ以テ妙法湯ハ直チニ賣藥ノ方名トシテ普通ニ使用セラレタリト云フヲ得ヌ要之請求人ノ本件登録商標ノ主要部分ハ「妙法湯」ノ文字ニシテ被請求人ノ使用スル甲第二號證商標ノ主要部分モ亦同一文字ニ外ナラス從テ甲第二號證商標ハ請求人ノ登録第三六二五三號商標ノ範圍ニ屬スルコト明ナリ被請求人ハ自己ノ有スル登録商標ニ關シ云爲スレトモ本件ハ甲第二號證商標カ請求人專用ノ登録第三六二五三號商標權ノ範圍ニ屬スルコトノ審決ヲ求ムルニアリテ被請求人ノ此點ニ關スル主張ハ其當ヲ得ヌ又被請求人ハ妙法湯ナル文字ハ賣藥ノ方名トシテ周知ナリト云ヘ雖被請求人提出ノ證據ニ依リテハ何等首肯スルニ足ルモノ無キノミナラス周知ノ問題ハ本件審判ニ何等關係無シ又被請求人ハ乙第五號及六號證ヲ以テ本件登録商標ノ文字「妙法湯」ハ公知ニ屬セサルヲ

論スレトモ妙法湯カ公知ナリト云フコトト妙法湯カ普通名稱ナリト云フハ其意義ヲ異ニス普通名稱トハ單ニ山梨縣ノ一員ハ賣藥ノ鑑札ヲ受ケタリトノ事實ニ依リテ決セラレヘキモノニ非スト云ヒ原審ニ於テ提出シタル甲第一號證乃至第六號證ヲ援用シ更ニ甲第七號證並ニ第八號證ヲ提出セリ
 請被求人申立ノ要領ハ抗告審判請求人申立相立タス審判費用ハ全部請求人ノ負擔トスト審決相成度其理由ハ請求人専用ノ登録第三六二五三號商標ハ縱長方形欄内上部ニ薔薇花ノ折枝ヲ相抱擁セシメ下部ニ結ヒタル布片ヲ配置シ上部ニ「M」ナル歐文字ヲ記入セル寶珠ヲ現ハシ之レヨリ光線ヲ發射セシメ之レニ妙法湯其他ノ文字ヲ書記セルモノニシテ其要部ハ光線ヲ發射セル寶珠等ノ圖形ニアリト認ムルヲ至當トス何トナレハ妙法湯ノ三字ハ賣藥ノ方名トシテ周知ニ屬スルモノナレハナリ而シテ被請求人カ明治四十二年八月二十六日ヲ以テ出願シ同年九月二十五日ヲ以テ登録ヲ得タル商標ハ乙第二號證商標公報第六七三號並ニ乙第三號證袋ニ示ス如ク井桁内ニ橘花紋ヲ表ハシ其上ニ山形ヲ配置シ身延山ノ三字ヲ分記シ之レニ身延妙法湯其他ノ文字ヲ書記セルモノニシテ其商標ノ要部ハ井桁内ニ橘花紋ヲ現ハシ之レニ山形ヲ配置シ身延山ト分記シテ成ル圖形ニアリ從テ二者類似商標ニ非スト認定セラレ、ヲ至當トス然ルニ請求人ハ原審決書中請求人専用ノ登録第三六二五三號商標ノ登録出願ノ日カ明治四十二年八月二十六日ナリト記載セラレタルヲ以テ原審決ハ事實ヲ誤解セルモノナリト云ヒ原審決ハ此誤レル前提ノ下ニ妙法湯ナル文字ハ請求人ノ商標登録出願當時ニ於テ既ニ賣藥ノ方名トシテ普通ニ使用セラレ云々ト結論セルハ誤謬ニ過キスト主張スレトモ請求人ノ商標登録出願カ明治四十一年十一月八日ナリモ其出願前既ニ妙法湯ナル文字カ賣藥ノ方名トシテ周知ニ屬セルコトハ乙號各證ニ依リ明瞭ニシテ妙法湯カ内務省官許ノ賣藥ナル事實ノ證スル處ナリ又請求人ハ被請求人カ妙法湯ナル文字カ明治四十一年十一月八日即チ請求人商標登録出願前ヨリ賣藥ノ方名トシテ周知ニ屬セリト主張セサリシニ係ハ

ラス審判長自カラ進ンテ職權調査ヲ遂ケタルカ如ク云フト雖モ被請求人ハ初メヨリ乙第五號證竝ニ第六號證ヲ以テ其出願前公知ニ屬セルヲ論セリ然ルニ請求人ハ山梨縣知事ノ回答書ヲ請求人ニ明示セス然モ之レヲ以テ唯一ノ證憑トシテ審決ヲ下シタルハ民事訴訟法第二百三十一條第一項ニ該當スルモノト爲スカ如キハ請求人ノ誤解ト云ハサルヘカラス即チ原審判官ハ被請求人ノ立證ヲ確メンカ爲メ特許法第八十四條ニ依リ職權ヲ以テ適宜證據調ヲ爲セルモノナリ又請求人ハ赤松イノカノ免許カ請求人ノ出願前僅カニ八箇月ナルノミナラス赤松イノカハ明治四十一年十一月二十九日廢業セルヲ以テ其營業日時八箇月ナルヲ以テ此間ノ消息ヲ以テ普通ノ方名ト看做スハ不當ナリト云フニ在リト雖赤松某ハ單ニ其一例ニ過キササルハ乙第五號竝ニ六號證ニ由テ明ナリ而シテ既ニ商標カ周知トナレル以上假リニ其モノカ登錄セラレタリトスルモ亦何人モ之レヲ使用スルニ支障アルコト無シ要スルニ妙法湯ナル文字カ普通名稱トナレルコトハ乙第五號及六號證ニ依リ明ナリト主張シ原審ニ於テ提出セル乙第一號乃至第六號證ヲ證據トシテ援用セリ

審決ノ理由 本係爭事件ハ被請求人ノ使用シタル甲第二號證カ請求人ノ專用ニ係ル登錄第三六二五三號商標權ノ範圍ニ屬スルヤ否ヤニ在リ然ルニ被請求人ハ甲第二號證ノ商標ヲ以テ被請求人カ明治四十二年九月二十五日登錄ヲ得タル登錄第三七九九號商標權ノ實施ナリト主張スレトモ右商標權ニ係ル商標ハ山形ノ下ニ井桁ノ内ニ橘ノ圖ヲ有スル紋章ヲ描キ其ノ上部及左右ニ身延山ト附記シタル目印ヲ記シ其ノ下ニ身延妙法ト書下シタルモノナリ然ルニ甲第二號證ノ商標ハ前記目印ノ下ニ身延ト横ニ小ク記シ其ノ下ニ妙法湯ト大ク書下シタルモノニシテ前記商標權ニ係ル商標ト相異ルカ故ニ其ノ商標權ノ實施ニ係ルモノト云フヲ得ス仍テ請求人ノ登錄第三六二五三號商標ヲ按スルニ右登錄商標ノ出願ハ明治四十一年十一月八日ニシテ其構成ヲ摘記スレハ縱長方形欄内上部ニ薔薇花ノ折枝ヲ相抱擁セシメ下

部ニ結ヒタル布片ヲ配置シ上部ニmナル歐文字ヲ記入セル寶珠ヲ現ハシ之レヨリ光線ヲ發射セシメ妙法湯其ノ他ノ文字ヲ加ヘテ成ルカ故ニ登錄第三六二五三號商標ト甲第二號證商標ハ圖形其ノ他個々ノ商標構成材料ニ於テ差違アリト雖妙法湯ナル最モ重ナル文字ニ於テ一致シ商品取引上混同誤認ノ虞アルカ故ニ二者互ニ類似スルモノト認ム然ルニ被請求人ハ妙法湯ナル文字ハ商品ノ普通名稱ニシテ且世人周知ノ商標ナルコトヲ主張シ之レヲ證スルカ爲メ乙第五號證ヲ提出シタルモ該證中内務省鑑札妙法湯ニ係ルモノノ日附ハ明治四十二年二月二十七日ニシテ請求人ノ本件登錄商標ノ登錄出願後ノ許可ナルヲ以テ右登錄商標出願當時ノコトヲ證スルニ足ラス又乙第六號證ヲ提出スルモ赤松イノカカ請求人ノ登錄商標ノ登錄出願ノ日ヨリ約八箇月前妙法湯ノ鑑札ヲ得タル事實ヲ認ムルヲ得ルモ妙法湯ナル藥品名カ商品ノ普通名稱ト爲リタリトノ證據トシテ不充分ナリ而シテ妙法湯ナル商標カ本件商標登錄出願前世人ニ周知セラレ又ハ公知ニ屬セリトスルモ右文字ノ使用カ本件商標權ニ屬セスト爲ス何等法律上ノ理由ナシ又原審ニ於テ山梨縣知事ノ回答ニ依リ妙法湯ナル文字カ請求人カ本件商標登錄出願當時賣藥ノ方名トシテ普通ニ使用セラレタルモノナリト認定シタルモ右回答ハ妙法湯ナル賣藥カ明治四十二年三月十二日赤松イノカナル者ニ免許セラレ同年十一月二十九日廢業明治四十二年二月二十七日鈴木善隆ニ免許同年六月二十三日廢業明治四十二年八月二十七日赤松イノカニ免許現ニ營業中ナル旨ヲ記スルニ止リ妙法湯ナル該文字カ賣藥ノ方名トシテ普通ナリトノ事實ヲ認ムルニ足ラス而シテ甲第二號證ノ商標カ登錄第三六二五三號商標ト類似スルコト前段所述ノ如キヲ以テ甲第二號證商標ハ登錄第三六二五三號商標權ノ範圍ニ屬スルモノト云ハサルヲ得ス尙其他當事者間ニ於テ申立テ又ハ證據トシテ提出シタルモノニ就キ陳述スル處アルモ審決ニ必要ナキヲ以テ説明セス

大正二年四月二十八日於特許局

〇三十二

審判長	特許局事務官	宿利英治
同	同	村上隆吉
同	同	三浦惠一

第三百八十八號

京都市建仁寺町四條下ル龜井町五番戸	請求人	田中豐吉
京都府加佐郡舞鶴町大字寺内三十八番戸	同	安福好太郎
大阪市東區北濱五丁目六十三番屋敷特許辨理士	右代理人	淺村三郎
同 市東區北濱五丁目六十三番屋敷特許辨理士	同	平岩義一
同 市東區北濱五丁目六十三番屋敷特許辨理士	同	藤江政太郎

右第七七八一八號聯合商標登錄願拒絕再查定不服抗告審判請求事件ニ付審決スルコト左ノ如シ

主文 請求人ノ申立相立タス

申立ノ要領 請求人ハ原査定ヲ破毀ス聯合商標登錄願第七七八一八號ハ之ヲ登錄スヘキモノトストノ審決アリタシト申立テ其理由ノ要領ハ第一、本願商標ハ第三七六一號登錄商標ノ聯合トシテ出願シタルモノナリ而シテ該登錄商標ハ三ツ菱ノ圖形ヲ以テ成リ明治四十二年六月六日ノ出願ニ係ルモノニシテ第三七一一四四號登錄商標ヨリ後願ニ屬スルカ故ニ之ト相類似セサルコト明カナリ從テ第三七六一號登錄商標其モノヲ採テ主要部分ト爲シ之ニ橢圓形ノ外廓ヲ附シ其内部ニ「シャンペンサイダー」及其

ノ他ノ文字ヲ附記シテ構成シタル本願商標モ亦第三七一一四四號登錄商標ニ類似スルモノニアラスト謂ハサルヲ得ス若シ本願商標ヲ第三七六一號登錄商標ノ聯合タルヲ得ストシテ其登錄ヲ拒絕セハ商標法第三條第三項ノ法意ニ違反ス第二、本願商標ハ第三七一一四四號登錄商標ニ類似セス兩商標ノ主要部ハ一ハ三ツ菱ノ圖形ニシテ他ハ三ツ矢ノ圖形ナリ商品「シャンペンサイダー」ニ對シテ橢圓形ノ商標ヲ使用スルコトハ普通ノ慣行ニシテ橢圓形ノ商標ハ「シャンペンサイダー」ニ對シテハ特別顯著ニアラス故ニ兩商標ハ相類似セスト「サイダー」其他酒類ハ主トシテ商標ノ稱呼ニ依リテ取引セラル、カ故ニ稱呼ヲ異ニスル兩商標ハ混同誤認セラル、ノ虞ナシ第三、本願商標ハ施色ヲ限定シタルモノナリ從テ施色ニ關シテ權利ヲ有セサル第三七一一四四號ト相類似セス橢圓形内茶褐色ノ地ニ赤色ニテ三ツ矢ヲ現ハシ濃藍色ニテ三ツ矢ノ文字及其他ヲ附記シタル商標カ世人ニ周知セラレタリトスルモ三ツ菱圖形ト三ツ矢圖形トハ顯著ナル差異ヲ有シ施色ノ如何ニ拘ハラズ異別ノ圖形ナリ既ニ主要部分ニ於テ相類似セサル以上ハ附記文字ニ於テ相似タル點アリトモ商標ハ相類似セス要スルニ本願商標ハ第三七一一四四號登錄商標ニモ審査官援用ノ施色商標ニモ類似セサルモノナリト云フニ在リ

審査官ハ本願商標ハ帝國鑛泉株式會社カ「シャンペンサイダー」ニ使用シ既ニ世人ノ周知スル商標ニ類似シ商標法第二條第五號ニ該當スルモノナルコト原査定ニ於テ論述シタル所ノ如シト答辯セリ

審決ノ理由 帝國鑛泉株式會社ノ第三七一一四四號登錄商標ハ橢圓形輪廓内ニ三ツ矢ノ圖形ヲ描キ横ニ三ツ矢ノ三字ヲ記シ橢圓形輪廓ニ沿フテ其内方ニ文字ヲ列記シタルモノナリ而シテ同會社カ該商標ノ輪廓内ノ地色ヲ淡黄色ト爲シ三ツ矢ノ圖形ニハ赤色ヲ施シ文字ニハ濃藍色ヲ施シテ之ヲ該登錄商標ノ指定商品タル「サイダー」ニ使用シ本件商標登錄出願ノ日タル明治四十四年十月二日以前ヨリ世人ニ周知セララルコトハ顯著ナル事實ナリ本件登錄願第七七八一八號商標ハ橢圓形輪廓内ニ三ツ菱ノ圖形ヲ描

〇三十三

キ横ニ三ツ菱ノ三字ヲ記シ椭圆形輪廓ニ沿フテ其内方ニ文字ヲ列記シ輪廓内ノ地色ヲ黃褐色ト爲シ三ツ菱ノ圖形ニハ赤色ヲ施シ文字ニハ濃藍色ヲ施スコトニ色ヲ限定シタルモノニシテ三ツ矢ノ圖形ト三ツ菱ノ圖形トハ其ノ觀ヲ異ニセリト雖モ商標全體ノ構成ト施色ノ配合トニ依リ本願商標ハ前示世人周知ノ商標ト混合誤認セラル、ノ虞アリ從テ之ニ類似セルモノトス而シテ本願商標ノ指定商品モ亦「サイダア」ナルヲ以テ本願商標ハ商標法第二條第五號ニ該當シ登錄ヲ受クルコトヲ得サルモノトス以上説明ノ如ク本願商標ハ其登錄ヲ受クルコトヲ得サルモノナルヲ以テ請求人ノ第三七六一號登錄商標ノ聯合ト爲スヘキモノナルヤ否ヤノ問題ヲ生スルコトナシ稱呼ニ依リ取引セラル、商品ト雖之ニ使用セラル、商標ノ外觀ニ依リ混同誤認セラル、ノ虞アルコト辯ヲ俟タス又本願商標ヲ第三七一一四號登錄商標ニ類似セリト認定シタルハ單ニ其形狀ノ椭圆形ナルニ因レルニアラサルコト前説明ノ如クナルヲ以テ椭圆形ノ商標カ請求人主張ノ如ク「サイダア」ニ慣用セラル、事實アリトスルモ之カ爲メニ前示認定ヲ覆ヘスヲ得ヘキモノニアラス

仍テ主文ノ如ク審決ス

大正二年六月二十五日於特許局

審判長 特許局事務官 村上隆吉
 同 田中鐵二郎
 同 村山小次郎

第四百六十八號

獨逸國レゼンス、スアルヒ

請求人

ヨット、ヨット、レー
 バットハ

東京市麴町區八重洲町一丁目一番地特許辨理士

右代理人

ウォルター、オーガス
 タス、デ、ハピラント

右第八四四七號商標登錄願拒絕再査定不服抗告審判請求事件ニ付審決スルコト左ノ如シ
 主文 原査定ヲ廢棄ス

登錄願第八四四七號商標(指定商品第五十一類文具)ハ第五〇八二六號登錄商標ノ聯合商標トシテ
 登錄スヘキモノトス

申立ノ要領 請求人ハ本願商標ハ登錄スヘキモノト審決アリタシト申立テ其理由ノ要領ハ本願商標ハ裝飾ヲ加ヘタル特殊ノ鍵ノ圖形ナレトモ第二六六四四號登錄商標ハ一種奇形ノ圖形ニシテ二箇ノ鍵ハ交又セラレ其頭部ハ遠ク相離レ鉤部ハ内方ニ向ヒ杆ハ傾斜シテ約直角ヲ成セリ從テ兩商標ハ外觀上相異レリ加之右登錄商標ハ交又鍵標若ハ二本鍵標ナル稱呼ヲ生スヘク之ヲ鍵標ト謂フハ不當ニシテ兩商標ハ稱呼ニ於テモ亦相異レリ故ニ右登錄商標ニ依リテ本願商標ノ登錄ヲ拒絕スルハ不當ナリト云フニ在リ

審查官答辯ノ要領ハ本願商標ハ稱呼上ニ於テ第二六六四四號登錄商標ニ類似シ商標法第三條第一項ヲ適用スヘキモノナルコト再審查査定書ニ詳論シタル所ノ如シト云フニ在リ

審決ノ理由 第二六六四四號登錄商標ハ頭部ニ於テ相離レ杆ニ於テ交叉シ把持部ニ於テ結合シタル二箇ノ鍵ヲ描キタル圖形ニシテ其形狀異様ナルヲ以テ單ニ一箇ノ鍵ヲ描キタル本願商標ノ圖形トハ外觀上容易ニ甄別セラル又其稱呼ニ於テモ前示登錄商標ハ本願商標ノ如ク鍵標ト稱スルモノトハ認メ難シ故ニ本願商標ハ前示登錄商標ト混同誤認セラル、ノ虞ナク之ニ類似スルモノニアラス從テ原査定ハ當ヲ

得ス其他ノ點ニ於テモ亦本願商標ノ登録ヲ拒絕スヘキ理由ナシ
仍テ主文ノ如ク審決ス

大正二年六月二十五日於特許局

審判長 特許局事務官

村 上 隆 吉

同 田 中 鐵 二 郎

同 村 上 小 次 郎

第四百七十號

大阪市西區京町堀通一丁目百十九番屋敷

請 求 人 吉 川 豐 助

同 市東區淡路町一丁目二十四番地特許辦理士

右 代 理 人 佐 々 木 高 吉

獨逸國ライプツエヒ、ブラウクウキツチ

被 請 求 人 ゼーセツヒ、チールガル
ン、アクチエン、ゲセルシヤ
フト

東京市京橋區加賀町八番地特許辦理士

右 代 理 人 村 山 崎 太 郎

右當事者間ノ第四〇六二號商標登録無効審判請求事件ニ付大正二年一月二十一日當局ニ於テ爲シタル
審決ニ對シ抗告審判請求ヲ爲シタルニ依リ審決スルコト左ノ如シ

主文 原審決ヲ破毀ス

抗告審判被請求人ノ申立相立タス

審判費用及抗告審判費用ハ抗告審判被請求人ノ負擔トス

申立ノ要領

抗告審判請求人申立ノ要領ハ原審決ヲ破毀シ抗告審判被請求人ノ申立相立タス審判費用並
抗告審判費用共抗告審判被請求人ノ負擔トストノ審決相成度其理由ハ原審決ニ於テハ白鷺ノ圖形ヲ有
スル第一六二九號登録商標ト鶴ノ圖形ヲ有スル第四〇六二號登録商標トハ外觀上相類似シ混同誤
認ノ虞アリト爲シタリト雖モ兩者ノ圖形ニハ著シキ相違アルノミナラス現ニ取引上ニ於テモ明ニ之ヲ
區別シテ誤認スルコトナシ然ルニ兩者ヲ混同誤認ノ虞アル類似商標ナリト爲セルハ商取引ノ實況ヲ無
視シ事實ニ遠カリタル認定ナリト謂フニ在リテ乙第三號證乃至第五號證及第六號ノ一乃至三ヲ提出
セリ

抗告審判被請求人申立ノ要領ハ抗告審判請求人ノ主張相立タス審判費用並ニ抗告審判費用ハ請求人ノ
負擔トスト審決相成度其理由ハ原審決書ニ記載サレタル如ク兩商標ハ共ニ三角形内ニ同向セル長頸鳥
ヲ其主要部トスルヲ以テ外觀上相類似スト謂フニ在リテ審判請求書ニ於ケル主張ヲ援用セリ

審決ノ理由 本件係爭兩商標ハ共ニ三角形内ニ長頸ノ水禽、水、草木及水草等ヲ配合シテ成ル圖形ナリト
雖モ其主要部分ハ長頸ノ鳥ニシテ一ハ白鷺他ハ鶴ナリ鶴ハ吾人ノ觀念ニ於テ顯著ナル圖形ニシテ鶴ノ
形狀ノ明瞭ナル以上白鷺ト混合スヘキニアラス又三角形ニ附シタル輪廓ニ於テモ差異アリ從テ綜合的
觀察ニ於テモ兩商標ハ外觀上混同誤認ノ虞アルモノニアラス即チ原審決カ商標法第三條第一項及同法
第十一條ヲ適用シ第四〇六二號ノ登録ヲ無効トシタルハ不當ニシテ抗告審判請求人ノ主張ハ其理由
ナシ

仍テ主文ノ如ク審決ス

大正二年六月二十八日於特許局

審判長 特許局事務官

村 上 隆 吉

特許局事務官 田中鐵二郎
馬場 穎一

第四百八十三號

東京市神田區駿河臺東紅梅町二番地 請求人 森田 尙
同 市京橋區木挽町九丁目七番地特許辨理士 右代理人 稻木繁太郎
同 市下谷區仲御徒町三丁目五十九番地 被請求人 日本蠶業株式會社

同 市日本橋區蠣殼町三丁目十一番地特許辨理士 右代理人 三上七十郎

右代表者 相馬 愛藏

右當事者間ノ第五一六八二號商標登錄無效審判請求事件ニ付大正二年二月十七日當局ニ於テ爲シタル審決ニ對シ抗告審判請求ヲ爲シタルニ依リ審決スルコト左ノ如シ

主文 抗告審判請求人ノ申立相立タス

抗告審判費用ハ抗告審判請求人ノ負擔トス

申立ノ要領

抗告審判請求人申立ノ要領ハ原審決ヲ破毀シ第五一六八二號商標登錄ハ無効トスヘキモノニアラス原審及抗告審判費用ハ被請求人ノ負擔トストノ審決相成度其理由ハ抗告審判請求人ノ第五一六八二號登錄商標ト抗告審判被請求人ノ第三九九四〇號登錄商標トハ第一圖形ヲ異ニシ第二稱呼ヲ異ニシ第三商標ノ圖形ニ於ケル寓意ヲ異ニスルヲ以テ兩者相類似セス又猫ノ圖形ハ第三九九四〇號ノ登

録ニ依リテ被請求人ノ獨占ニ歸シタルモノニアラサルコトハ第三九九四〇號ノ登錄前ニ第一五八八七號第二〇八三八號第三三一一三八號ノ登錄アリ其後ニ於テモ本件商標ノ外第五三六一九號第五四三三八號第五四五三九號ノ登錄セラレタルニ依リ明ナリ仍テ原審カ第五一六八二號登錄商標ヲ第三九九四〇號ノ類似商標ト認定シタルハ其當ヲ得スト謂フニ在リテ原審ニ於ケル一件書類及前記各號登錄ヲ援用セリ

抗告審判被請求人申立ノ要領ハ抗告審判請求人申立相立タス抗告審判費用ハ同請求人ノ負擔タルヘシト審決相成度其理由ハ第五一六八二號登錄商標ト第三九九四〇號登錄商標トハ圖形ハ同一ニアラスト雖モ特ニ顯著ノ觀ヲ呈スル猫ノ圖ニ於テ混同誤認ヲ免レス既ニ猫ヲ以テ兩商標ノ主要部トスル以上其稱呼モ亦全然別異ニアラス商標ノ圖形ニ於ケル寓意ノ相違ノ如キハ商標ノ類似ト否トヲ決定スル理由トナラス請求人ノ援用セル各號商標ハ被請求人商標以前ノ分ニ付テハ皆單純ナル猫ノ圖ニアラス圖形相違ス其以後ノ分ニ付テハ被請求人ノ權利ニ影響スルモノニアラスト云フニ在リテ原審ニ於ケル一切ノ書類及證據ヲ援用セリ

審決ノ理由

本件係爭兩商標ノ圖形ヲ見ルニ第三九九四〇號商標ニ在リテハ猫カ布片ヲ目ニ當テ居リ第五一六八二號商標ニ在リテハ數多ノ小鼠ヲ眺メ居リ且 THE IDEAL RATSbane TRADE MARK BATTRIN ナル文字ヲ附記シタルノ差異アレトモ其主要ノ部分ハ蹲踞シタル一匹ノ猫ノ圖形ニシテ外觀相紛ハシク原審決カ商品ノ取引上混同誤認ノ虞アリト認定シ請求人ノ第五一六八二號登錄商標ハ被請求人ノ第三九九四〇號ヨリ後願ニ屬スルヲ以テ商標法第三條第一項ニ違反シ其登錄ハ同法第十一條ニ依リ無効ト爲スヘキモノナリト爲シタルハ相當ト認ム而シテ稱呼及寓意ノ如何ニ付テハ既ニ圖形ニ於テ混同誤認ノ虞アリト爲シタル以上之カ爲メ商標類否ノ認定ニ影響ヲ及ホスヘキモノニアラス又第

一五八八七號登錄商標其他ニ付キ論争スル所アルモ本件ニ於テ之ヲ判斷スル必要ナシ
仍テ主文ノ如ク審決ス

大正二年六月二十八日於特許局

審判長 特許局事務官 村上隆吉

同 田中鐵二郎

同 馬場類一

第四百二十八號

大阪市南區西賑町十九番地

請求人 萩原辰藏

同 市東區淡路町一丁目二十四番地特許辦理士

右代理人 佐々木高吉

同 市南區西賑町十八番地

被請求人 稻葉潤吉

右當事者間ノ第三〇五七二號登錄商標權利確認審判請求事件ニ付大正元年十月四日當局ニ於テ爲シタル
審決ニ對シ抗告審判請求ヲ爲シタルニ依リ審決スルコト左ノ如シ

主文 原審決ヲ廢棄ス

抗告審判被請求人ノ申立相立タス

審判費用ハ原審及當審共抗告審判被請求人ノ負擔トス

申立ノ要領 抗告審判請求人ハ原審決ヲ廢棄シ抗告審判被請求人ノ請求ヲ却下ス審判費用ハ原審及當審
共抗告審判被請求人ノ負擔トストノ審決アリタシト申立テ其理由ノ要領ハ當審被請求人ノ原審ニ於ケ

ル審判請求ハ甲第二號證商標カ第三〇五七二號登錄商標ト類似ナリトノ請求ノ目的カ單一ナルヲ知ル
ニ由ナクシテ第三〇五七二號、第一九〇〇九號、第四六三九三號登錄商標及甲第一號證商標ノ權利ノ確
認ヲ求メントスルモノナルコト明カナリ甲第二號證商標カ第三〇五七二號登錄商標ノ範圍ニ屬スルヤ
否ヤノ確認ヲ求ムルモノニアラス第三〇五七二號登錄商標ハ敷島煙草ノ包裝ニ記載セルモノト類似セ
ス之ニ類似セリト爲スハ該商標ヲ煙草ノ包裝ト同様ナル包裝ニ現ハシタルモノヲ見タル後ノ判斷ナリ
當審被請求人カ煙草包裝ニ似タル包裝ヲ爲シテ石鹼ヲ發賣シタルハ明治四十五年四月以後ニシテ其以
前ニハ乙第二號證ノ如ク使用シタルモノナリ特ニ該登錄商標ニ在リテハ其名稱「敷島乃」ナルニ於テ且
其記載ノ配置カ敷島煙草ノ包裝ト異ルニ於テ甲第二號證商標ト類似セス其類似ヲ來セルハ之ヲ共ニ煙
草包裝ト同様ノ包裝ニ使用セルニ基クモノニシテ當審請求人ハ當審被請求人ヨリ先ニシテ其使用ヲ爲
シ當審被請求人ハ之ニ模シテ使用セルモノナリ故ニ假令當審被請求人ノ商標カ先ニ登錄ヲ受ケタルモ
ノナリトモ當審請求人ノ商標カ其登錄商標ノ權利範圍ニ屬スヘキニアラス又當審被請求人ノ使用セル
商標ハ相馬久吉ノ登錄ヲ無効ト爲シタル敷島ナル標章ニ敷島乃ナル文字ヲ變シテ使用シ尙且然ル次第
ニシテ第三〇五七二號證商標ノ如ク爲セハ益顯然タル區別アリト云フニ在リ

抗告審判被請求人ハ抗告審判請求人ノ申立相立タス抗告審判費用ハ抗告審判請求人ノ負擔トストノ審
決アリタシト申立テ其理由ノ要領ハ原審判請求ニ於テハ一定ノ申立トシテ甲第二號證商標カ第三〇五
七二號證商標ノ權利範圍ニ屬スルコトノ確認ヲ求メタリ第二九〇〇九號、第四六三九三號證商標
及甲第一號證商標ニ付テハ第三〇五七二號證商標權ヲ保全スル爲メ前記商標ノ登錄ヲ受ケタルコト
ノ事實ヲ陳述シタルニ過キス第三〇五七二號證商標ハ之ヲ敷島煙草ノ包裝ニ記載セルモノニ比スル
ニ圖形文字ノ配列殆ト同一ニシテ兩者相類似スル商標ト謂ハサルヘカラス第三〇五七二號證商標ヲ

一見スレハ直チニ敷島煙草ヲ聯想セシメ需要者ヲシテ敷島煙草石鹼トシテ購求セシムルニ至ル又該登錄商標ト甲第二號證商標トヲ對照スルニ甲第二號證商標ハ海面ニ松樹及岩石ヲ描キ海面ニ波狀ヲ描キ上部ニ霞ヲ薄抹シ松島、まつしほ等ノ文字ヲ附記シタルモノニシテ松ト敷トノ差異アリト雖圖形文字ノ配列書體等第三〇五七二號登錄商標ト外觀酷似シ離隔の觀察ニ於テ相類似スルノミナラス其色彩ニ於テ同一ナルトキハ需要者ヲシテ松ト敷トヲ甄別スルヲ得セシムルニ由ナク混同誤認ノ虞アルモノニシテ甲第二號證商標ハ第三〇五七二號登錄商標權ノ範圍ニ屬スト云フニ在リ

審決ノ理由 原審判請求ノ一定ノ申立ハ當審請求人ノ石鹼ニ使用スル甲第二號證商標カ當審被請求人ノ第三〇五七二號登錄商標權ニ撞着スルコトノ確認ヲ求ムト云フニ在リテ其理由トシテ主張シタル所ハ兩商標カ相類似シ之ヲ使用スル商品同一ナリト云フニ在リ而シテ第二九〇〇九號登錄商標及其他ノ商標ニ關スル主張ハ附隨ノ陳述タルニ過キサルト云フニ在リ而シテ第二九〇〇九號登錄商標ハ海面ニ於ケル波其海面ノ前後兩岸ニ叢生セル松樹及其海面彼岸ノ松樹ノ後方ニ於ケル霞ヲ描キタルモノニシテ甲第二號證商標ハ海面ニ於ケル波、其液面ニ散在セル數箇ノ岩及其岩ニ叢生セル松樹ヲ描キ海面ノ後方ニ薄キ霞ヲ現ハシタルモノナルモ其圖形ノ體樣兩商標ニ於テ相異ル所アリ加之第三〇五七二號登錄商標ニ在リテハ「敷島乃」及「しほ」ナル文字ヲ細字ニテ書シ甲第二號證商標ニ在リテハ「松島」ナル文字ヲ最モ人ノ注意ヲ惹キ易キ部分ニ大書シアルヲ以テ兩商標ハ彼此容易ニ甄別セラル、モノニシテ第三〇五七二號登錄商標ヲ甲第一號證ニ於ケルカ如ク施色シタル場合ニ於テ甲第二號證施色商標ニ之ヲ比較スルモ混同誤認セラル、ノ虞ナシ從テ兩商標相類似セサルモノトス故ニ兩商標相類似セリトノ主張ニ基ク當審被請求人ノ本件請求ハ理由無シ當審請求人主張ノ如ク甲第一號證及甲第二號證カ敷島煙草ヲ

聯想セシムルコトハ之ヲ認ムルヲ得レトモ是レ兩證カ其形狀及容積ヲ敷島煙草ノ包裝ト同一ニ作リタルモノナルニ因ルモノニシテ商標其モノニ相類似セサルコトハ前説明ノ如シ而シテ商品ノ販賣ニ關シ世人ノ注意ヲ惹ク爲メ商品ノ容器ヲ敷島煙草ノ包裝ト同一ノ形狀及容積ニ作り之ヲ石鹼ノ容器トシテ使用スルコトノ如キハ他ノ法令ノ保護ヲ受クルコトヲ得ヘキ場合ハ或ハ之アルヘシト雖モ商標權ノ範圍ニ屬スヘキモノト謂フコトヲ得ス從テ敷島煙草ノ聯想ヲ基礎トシテ兩商標類似ナリト論スル當審被請求人ノ主張ハ理由ナシ仍テ主文ノ如ク審決ス

大正二年六月二十八日於特許局

審判長 特許局事務官 村上隆吉
同 田中鐵二郎
同 馬場顯一

第四百八十五號

濱松市連尺町四十番地
東京市京橋區木挽町九丁目七番地特許辨理士
濱松市着町百六十一番地
豐橋市大字中八、百三番戶特許辨理士

請求人 廣田辰次郎
右代理人 稻木繁太郎
被請求人 相澤留造
右代理人 大橋勳

右當事者間ノ第五二〇四九號商標權利確認審判請求事件ニ付大正二年二月十七日當局ニ於テ爲シタル審

決ニ對シ抗告審判請求ヲ爲シタルニ依リ審決スルコト左ノ如シ
主文 抗告審判請求人申立相立タス

抗告審判費用ハ抗告審判請求人ノ負擔トス

申立ノ要領 抗告審判請求人申立ノ要領ハ原審決ヲ破毀シ甲第二號證ハ第五二〇四九號登錄商標ノ權利
範圍ニ屬ス且原審判及抗告審判ノ費用ハ共ニ被請求人ノ負擔トストノ審決ヲ求ム其理由ハ其一、請求
人ハ圖形及着色ヲ限定シテ明治四十五年四月十九日第五二〇四九號商標ノ登錄ヲ受ケ之ヲ「ラムネ」ニ
使用シ盛況ニ達シタルニ被請求人ハ右商標ニ類似セル甲第二號證ヲ作り之ヲ請求人顧客ニ販賣シテ不
正ノ利益ヲ得ンコトヲ企圖シタリ甲第二號證ハ赤地内ニ白色細線欄及中央ニ赤、白圓形ヲ畫キ其内ニ
五菱星ニ擬シタル變體ノ大字ヲ赤色ヲ以テ顯出セシメ其兩側ニ相對向スヘク白抜ノ文字ヲ顯ハシタル
モノニテ請求人商標ト其形狀大小及着色ヲ全然同一ナラシメ然カモ商標ノ主要點タル大ノ字ヲ五菱星
ニ仍テ類似セシメ尙且文字ノ配置マテモ類似セシメタルモノニシテ兩商標ハ離隔的觀察ニ於テ混同誤
認ヲ免レヌ現ニ昨夏屢次請求人顧客カ請求人商標ナリト誤認シテ甲第二號證ヲ商取引シタル實例アリ
其二、原審ニ於テ兩商標共ニ赤地ニ白抜シタルヲ認メナカラ類似セスト斷定シタルハ不當ナリ現行商
標法カ着色限定ノ法規ヲ設ケタルハ單ニ圖形ノ同一若ハ類似ニアラサル場合ト雖モ着色カ同一若ハ類
似タル場合ニハ之ヲ類似商標ト看做スヘキ法意ナリ第三、「ラムネ」ノ商標トシテ白地ニ赤色若ハ赤地
ニ白抜ニテ欄及文字等ヲ顯ハシタル着色ハ請求人ノ創始ニ係ルコト甲第三號證ニ依リ明ナリ被請求人
ハ請求人商標ヲ摸擬シタルモノトス其四、請求人商標ト甲第二號證ト類似シ取引市上一般顧客ノ迷惑
シツアルコト甲第四號證乃至甲第七號證ノ如シト云フニ在リテ原審ニ於ケル一件書類及甲第一號及
第二號證ヲ援用シ甲第三號證乃至甲第七號證ヲ提出セリ

抗告審判被請求人申立ノ要領ハ請求人申立相立タス抗告審判費用ハ請求人ノ負擔トストノ審決ヲ求ム
其理由ハ其一、請求人ノ第五二〇四九號登錄商標ト被請求人ノ使用スル商標ハ前者ハ九大印ノ稱呼ノ
下ニ後者ハ星印ノ稱呼ノ下ニ取引セラレ兩者混同ノ虞ナシ其二、兩商標ノ圖形ニ於テ請求人商標ハ輪
廓直線ニシテ唐草模様及羅馬字ヲ有セス被請求人商標ノ輪廓ハ曲線的ニシテ唐草模様及羅馬字ヲ配シ
タリ從テ兩者確然タル判別アリ其三、請求人商標カ赤色限定ヲ登錄サレタレハトテ白地ニ赤色ヲ以テ
現ハスコトヲ專用シタルニアラス商標ノ主體及副飾ノ相違アル以上赤色ヲ使用シタリトテ第五二〇四
九號登錄商標ノ權利範圍ニ屬スト謂フヘカラス其四、商標ノ主體ヲ中央ニ描出シ欄及ヒ文字模様ヲ上
下ノ空欄ニ配スルハ「ラムネ」封箋ニ於ケル永キ慣習ヨリ來ル圖案上ノ原則ナリ從テ「ラムネ」商標ノ甄
別法ハ其配置内ニ於ケル稱呼及圖形ノ差異ニ依ルヘク稱呼既ニ異ナル以上ハ圖形ニ依テ觀ルヘク圖形
ハ兩者確然タル差異アリ其五、市場取引上兩商標カ些ノ混同ナキコト乙第三號證乃至乙第六號證ニ依
リ明白ナリト云フニ在リテ乙第三號證乃至乙第六號證ヲ提出セリ

審決ノ理由 本件係爭兩商標ハ其全體ヨリ觀レハ共ニ長方形ニシテ其中央圓内ニ於テ一ハ大ノ字他ハ五
稜星形ヲ有シ其他ノ部分ニハ商品名、商標使用者ノ住所、氏名竝ニ其他世人ノ注意ヲ惹クニ足ラサル文
字及模様等ヲ記載シタルモノニシテ斯ノ如キ全體ノ構成ハ「ラムネ」瓶ノ封緘紙票トシテ久シキ以前ヨ
リ一般ニ使用セラル、コト顯著ナル事實ナリ故ニ本件兩商標ノ類否ハ其中央ニ於ケル圓内ニ大ノ字ヲ
記シタルモノト圓内ニ星ノ圖形ヲ描キタルモノトノ比較ニ依ラサルヘカラス而シテ此兩者ハ字劃圖形
ニ於テ判然タル區別ヲ有ス請求人ハ其申立第一點ニ於テ被請求人商標ノ五稜星ノ圖形ハ大ノ字ノ變體
ナルカノ如ク主張セリト雖其五稜星ハ判然タル星形ニテ大ノ字ノ變體ナリト認ムルコトヲ得ス故ニ兩
商標ハ其離隔的觀察ニ於テモ差異明瞭ニシテ混同誤認ノ虞ナシト認ム又商標ノ稱呼ニ於テモ一ハ九大

印若ハ大印ト呼フヘク他ハ星印若ハ丸星印トモ謂フヘク兩者混同ノ虞ナシ又請求人ハ赤色ニ限定シテ登録ヲ受ケタルヲ以テ赤色ハ其專用ニ屬スル如ク主張セリト雖着色ノ如何ハ商標ノ類否ノ認定ニ關シ要素ヲ成スコト勿論ナルモ着色限定ノ登録アリタル爲メ其色ニ付專用權アリト爲スコトヲ得ス而シテ本件兩商標ハ圓内ニ大ノ字ヲ記シタル部分ト圓分ニ五稜星形ヲ描キタル部分トノ比較ニ於テノミナラス其商標ノ全體ノ比較ニ於テモ共ニ之ニ赤色ヲ施シタルカ爲メニ相類似スル程度ニ達スルモノニアラスト認ム從テ甲第二號證ハ第五二〇四九號登録商標ノ權利範圍ニ屬セス仍テ主文ノ如ク審決ス

大正二年六月三十日於特許局

審判長 特許局事務官 村上隆吉
同 田中鐵二郎
同 三浦惠一

第四百五十九號
第四百六十號
第四百六十一號

大阪市東區南久寶寺町四丁目九十一番地 請求人 清水政兵衛
同 市東區瓦町一丁目五番地特許辨理士 右代理人 廣井代藏
英吉利國ハッダース、フールド在メルサムミルス 被請求人 有限責任ジョナス、ブルック兄弟商會

横濱市山下町二十九番地

右代表者

ヨハン、アンドレア
ス、ハルムゼン

同 市山下町二十四番地特許辨理士

右代理人 カール、フォークト

右當事者間ノ第五〇二七〇號、第五二四九三號、第五二六三號商標登録無効審判請求事件ニ付大正元年十一月二十日當局ニ於テ爲シタル審決ニ對シ抗告審判請求ヲ爲シタルニ依リ審決スルコト左ノ如シ

主文 抗告審判請求人ノ申立相立タス

抗告審判費用ハ抗告審判請求人ノ負擔トス

申立ノ要領 當審請求人ハ原審決ヲ破毀ス審判費用及抗告審判費用ハ抗告審判被請求人ノ負擔トストノ審決アリタシト申立テ其理由ノ要領ハ本件第五〇二七〇號、第五二四九三號及第五二六三號登録商標ノ主要部カ齒磨用刷子ナルコトハ明カニ認識シ得ラル、ノミナラス其自然ノ稱呼カ「ブラッシュ」標若ハ齒「ブラッシュ」標ナルコト亦疑ナシ而シテ當審被請求人ノ第九七三六號登録商標ノ主要部ハ熊手ニシテ其自然ノ稱呼ハ熊手標ナリ故ニ本件三商標ト第九七三六號登録商標トハ主要部及自然ノ稱呼ヲ異ニス加之本件三商標ト第九七三六號登録商標トハ附記ノ文字ニ於テモ相異レリ第五〇二七〇號及第五二四九三號登録商標ハ外圓及之ニ接續セル圖形ニ於テ聊第九七三六號登録商標ト構成ヲ同フセルカ如シト雖モ是レ僅ニ商標ノ一部ニ止マレリ又第五二六三號登録商標ハ大小二重ノ圓形ヲ描キ中央ニ二條ノ横斜線ヲ劃シテ帶狀布片ヲ描キ其兩端ヲ上下ニ折曲ケ其中央部ニ一本ノ齒磨用刷子ヲ横斜シテ現ハシ且帶狀布片外ノ空地ニハ蟲形曲線ヲ無數ニ描キタルモノナルニ第九七三六號登録商標ハ中央ノ主要部ヲ異ニセル外尙帶狀布片及蟲形曲線ヲ有セサル等全ク圖形ノ構成ヲ異ニセリ故ニ本件三商標ハ第九

七三六號登錄商標ト商品取引上混同誤認セラル、コトナシ加之第九七三六號登錄商標ハ商標公報ノ記載ニ依ルモ『主要部熊手』トアルカ故ニ其商標權ハ熊手ノミニ在リテ附記ノ文字及圖形ニ及ハス又本件三商標ハ「レース」絲、「カタン」絲及綿絲一切ニ付權利アルモノナルニ第九七三六號登錄商標ハ綿絲ノミニ付キ權利アルモノナルカ故ニ「レース」絲及「カタン」絲ニ付テハ到底本件三商標ノ登錄ヲ無効ト爲スヘキ理由ナシ其他原審ニ於ケル答辯ヲ援用スト云フニ在リ

當審請求人ハ抗告審判請求人ノ申立相立タス抗告審判費用ハ抗告審判請求人ノ負擔トストノ審決アリタシト申立テ其理由ノ要領ハ本件三商標ト第九七三六號登錄商標トハ中央ノ圖形ヲ異ニシ且附記ノ文字ヲ異ニセリト雖本件三商標ニ於ケル齒刷子ハ第九七三六號登錄商標ニ於ケル熊手ノ丁字形ヲ直線形ニ爲シタルカ如ク容易ニ混同誤認セラルルノ虞アルノミナラスBrushナル文字ヲ記シテ熊手ト齒刷子トヲ區別セントスルモ英語ヲ解セサル顧客ハ之ヲ甄別スル能ハス且圖形全體ノ構成、資料、圖形中ノ區劃及圓内緣ノ裝飾等盡ク類似ニシテ混同誤認ノ虞甚シ而シテ當審被請求人ノ第九七三六號登錄商標ハ明治三十年九月二十日ノ登錄ニ係リ本件三商標ハ明治四十五年一月二十九日及其以後ノ登錄ニ係ルヲ以テ其間第九七三六號登錄商標ハ商品需要者ニ周知セラレ小差異ヲ施スモ顧客ハ良ク之ヲ判別スルヲ得ス從テ類似商標タルヲ免レスト云フニ在リ

審決ノ理由 商標ノ主要部分カ相類似スル場合ニ於テハ其商標ハ相類似スルモノナルコト勿論ナリ然レトモ假令主要部分ハ類似セサルモ全體ノ外觀ニ於テ混同誤認セラルルノ虞アル商標モ亦類似商標タルコトヲ免レサルモノトス又第九七三六號登錄商標ハ明治二十一年ノ商標條例及同二十五年ノ商標條例施行細則ニ依リ登錄ヲ受ケタルモノナルヲ以テ其規定ニ從ヒ商標ノ要部ヲ指定シ要部ハ熊手ノ圖形ナル旨商標公報ニ登載セラレタルナリ然レトモ該條例第一條第二項ニ於テ商標ハ特別著明ナル圖形、字

體又ハ其結合ヲ以テ要部ト爲スヘシト規定シ該施行細則第七條第一號及第二號ニ於テ商標ノ明細書ニハ商標ノ要部及商標全部構造ノ説明ヲ記載スヘキ旨ヲ規定セルヲ以テ該條例及施行細則ニ於テモ所謂要部ノミヲ商標ト謂フノ趣旨ニアラサルコト明カナリ故ニ第九七三六號登錄商標ニ付テモ其要部ノミニ依ラスシテ其全體ニ依リ商標ノ相類似セルヤ否ヤヲ判定スルコトヲ妨ケサルモノトス仍テ該登錄商標ト當審請求人ノ本件三商標トヲ比較スルニ第九七三六號登錄商標ハ圓形輪廓ノ内部ヲ平行直線ヲ以テ大小五欄ニ區劃シ中央欄内ニ一箇ノ熊手ノ圖形及FIRSTナル文字ヲ現ハシ中央欄ニ接セル上下欄ニモ歐文字ヲ記シタルモノナリ而シテ第五〇二七〇號登錄商標ハ圓形輪廓ノ内部ヲ平行直線ヲ以テ大小五欄ニ區劃シ中央欄内ニ一箇ノ齒磨用刷子ノ圖形及BRUSHナル文字ヲ現ハシ中央欄ニ接セル上下欄内ニモ歐文字ヲ記シタルモノニシテ第九七三六號登錄商標ニ比シ中央欄ニ於ケル圖形ヲ異ニシ中央欄及其上下欄ニ於ケル文字ヲ異ニセリト雖區劃ノ割合並ニ圖形及文字ノ排列ヲ均フシ商標全體ノ外觀混同誤認セラレ易ク從テ兩商標相類似ス第五二四九三號登錄商標ハ施色ヲ限定シタルニ止マリ其構成ハ第五〇二七〇號登錄商標ト同一ナルヲ以テ第九七三六號登錄商標ニ類似セルコト別ニ説明ヲ要セス又第五一二六三號登錄商標ハ圓形輪廓内ニ曲折セル帶狀布片ヲ描キタルノ點ニ於テ第五〇二七〇號登錄商標ト異レリト雖其布片ノ緣線ニ依リ輪廓内部ヲ區劃シ第五〇二七〇號登錄商標ニ於テ平行直線ヲ以テ圓形欄内ヲ五欄ニ區劃セルニ酷似セリ而シテ齒磨用刷子ノ圖形及BRUSHナル文字ヲ現ハセルコト該圖形及文字ノ排列並ニ其他ノ歐文字ノ排列ハ第五〇二七〇號登錄商標ニ於ケルト均シ故ニ第五〇二七〇號登錄商標カ第九七三六號登錄商標ニ類似セルト同一ノ理由ニ依リテ第五一二六三號登錄商標モ亦第九七三六號登錄商標ニ類似ス第五一二六三號登錄商標ニ於ケル布片ノ兩先端ノ曲折及細短多數ノ蟲形曲線ノ如キハ人ノ注意ヲ惹クニ足ラサルヲ以テ之ニ依リテ第九七三六號登錄商標トノ類

似ヲ免ル、コトヲ得ヘキモノニアラス以上説明ノ如ク本件三商標ハ其外觀ニ於テ第九七三六號登録商標ニ類似セルカ故ニ稱呼ノ差異ニ依リテ類似ヲ免レ得ヘキモノニアラス又「レース」絲及「カタン」絲ハ綿絲ニ外ナラサルヲ以テ綿絲ト同一商品ナリ而シテ當審被請求人ノ第九七三六號登録商標ハ明治三十年六月二十四日ノ出願ニ係リ綿絲ヲ指定商品トシ當審請求人ノ本件三登録商標ハ明治四十四年十二月二十一日及其以後ノ出願ニ係リ「レース」絲、「カタン」絲及其他ノ綿絲ヲ指定商品トセルヲ以テ當審請求人ノ本件三商標ノ登録ハ商標法第三條第一項ニ違反シ同法第十一條ニ依リ之ヲ無効ト爲スヘキモノトス

仍テ主文ノ如ク審決ス

大正二年六月三十日於特許局

審判長 特許局事務官 村上隆吉
同 田中鐵二郎
同 村山小次郎

第四百五十號
第四百五十一號
第四百五十二號
第四百五十三號
第四百五十四號

英吉利國ハッダース、フールド在メルサムミルス

請求人

有限責任ジョナス、ブルック兄弟商會

右代表者

トーマス、ジュリアス
ハースト

右代理人 カール、フォーグト
被請求人 清水政兵衛
同 市東區五町一丁目五番地特許辨理士 右代理人 廣井代藏

右當事者間ノ第五〇二六九號、第五二五四五號、第五二五四四號、第五二四九四號、第五二二六二號商標登録無効審判請求事件ニ付大正元年十一月十六日當局ニ於テ爲シタル審決ニ對シ抗告審判請求ヲ爲シタルニ依リ審決スルコト左ノ如シ

主文 請求人ノ申立相立タス
抗告審判費用ハ請求人ノ負擔トス

申立ノ要領 請求人ハ原審決ヲ廢棄シ第五〇二六九號、第五二五四五號、第五二五四四號、第五二二六二號及第五二四九四號商標登録ヲ無効トス審判費用ハ原審及當審共被請求人ノ負擔トストノ審決アリタシト申立テ其理由ノ要領ハ被請求人ノ本件五商標ハ之ヲ請求人ノ第九七三六號登録商標ニ比スルニ「ブラッシュ」ノ形狀ヲ異ニセルニ過キスシテ圖形ノ構成ハ類似ナリ假リニ熊手ト「ブラッシュ」ナリトスルモ請求人ノ商標ハ丁字形ニ描キ被請求人ノ商標ハ柄ノ先端ニ齒「ブラッシュ」ヲ附シタルモノニシテ類似意匠ニ成レル類似商標ナリ且「ブラッシュ」ト熊手トニ付テノミナラス商標全體ノ構成資料及外觀カ同意匠ニ出テ全體ノ上ニ於テ相類似シ之ヨリ生スル稱呼ノ如キハ問フヲ要セス尙第五二四九四號登録商標ニ在テハ周欄ノ内部ヲ分割シ文字及中央ノ圖形ヲ現ハシタル意匠ニ於テ請求人ノ商標ニ異ル所ナシ

又甲第一號證ハ請求人カ製品ヲ帝國内ニ輸入スルニ際シ多年使用セル外箱ニシテ請求人ノ商標ヲ中央ニ現ハシ其周圍ニ歐文字ヲ記載シ箱ノ左側ニ二葉ノ商標ヲ貼付シ箱ノ内部商品ノ上被ニモ箱ノ表面ト同一ノ標章ヲ添付セリ被請求人モ亦甲第二號證ノ如ク右ト同一ノ構造ニ成レル外箱ヲ用ヒ其左側ニ二枚ノ商標ヲ貼付シ内部ニ外箱表面ノ標章ト同一ノモノヲ附セリ即チ被請求人ハ丁字形ノ圖形ヲ一直線ニ爲シタルニ過キスシテ世人ヲ欺瞞スルモノナリ故ニ被請求人ノ本件五商標ハ商標法第二條第三號乃至第五號及第三條第一項ニ該當シ其登録ヲ無効ト爲スヘキモノナリト云フニ在リ

被請求人ハ請求人ノ申立相立タス抗告審判費用ハ請求人ノ負擔トストノ審決アリタシト申立テ其理由ノ要領ハ被請求人ノ本件五商標ノ「ブラッシュ」ト請求人ノ商標ニ於ケル熊手トハ圖形ノ構成外觀稱呼及其物品ノ用途ノ何レヨリ觀ルモ類似ニアラス尙第五二四九四號登録商標ニ在テハ其要部ハ交叉「ブラッシュ」ニシテ請求人ノ商標ニ於ケル一本ノ熊手ト異レリ又被請求人ノ本件五商標ト請求人ノ商標トハ全體ノ構成ヲ異ニセリト云フニ在リ

審決ノ理由 請求人ノ第九七三六號登録商標ノ中央ニ描ケル熊手ノ圖形ト被請求人ノ第五〇二六九號登録商標ノ中央ニ於ケル齒「ブラッシュ」ノ圖形トハ其形狀ヲ異ニシ容易ニ甄別セラル又第九七三六號登録商標ハ圓形輪郭内ヲ平行横直線ヲ以テ大小五欄ニ區劃シ中央欄内ニ熊手ノ圖形ト HILLS ナル文字ヲ現ハシ中央欄ニ接セル上下欄内ニ歐文字ヲ記載シタルモノニシテ第五〇二六九號登録商標ニ於ケル圓形ノ圖形ハ内部ニ如上ノ區劃ヲ設ケタルコトナク單ニ齒「ブラッシュ」ノ圖形ト BRUSH ナル文字及其他ノ歐文字ヲ現ハシタルモノナルカ故ニ第九七三六號、登録商標ト第五〇二六九號登録商標ニ於ケル圓形ノ圖形トモ亦相類似セス又第五九〇二六九號登録商標ハ其全體ニ就テ觀レハ前示圓形ノ圖形ノ周圍ニ歐文字ヲ配置シ其外方ニ方形輪郭ヲ設ケタルモノナルカ故ニ圓形輪郭及其内部ニ於ケル構成ヲ以テ

全體ト爲セル第九七三六號登録商標ニ類似セサルコト勿論ナリ請求人ノ商標ニ於ケル中央ノ圖形カ熊手ナルコトハ圖形自體ニ依リ明カニシテ「ブラッシュ」又ハ齒「ブラッシュ」ト誤認セラル、ノ虞ナク從テ「ブラッシュ」標又ハ齒「ブラッシュ」標ナル稱呼ヲ生スルモノニアラス故ニ第五〇二六九號登録商標ハ如何ナル點ヨリ觀察スルモ第九七三六號登録商標ニ類似セス第五二五五號、第五二五四號及第五一二六二號登録商標ハ第五〇二六九號登録商標ニ施色ヲ限定シテ登録ヲ受ケタルニ止マリ之カ爲メニ第九七三六號登録商標トノ類似ヲ惹起スルコトナシ第五二四九四號登録商標ニ於ケル中央ノ圖形ハ齒「ブラッシュ」ヲ交叉シタルモノナルカ故ニ第九七三六號登録商標ノ中央ニ於ケル一本ノ熊手ノ圖形ト著シキ差異アリテ一見容易ニ甄別セラル第五二四九四號登録商標ハ圓形輪郭内ヲ平行横直線ヲ以テ大小五欄ニ區劃シ中央欄内ニ圖形及歐文字ヲ現ハシ中央欄ニ接セル上下欄内ニ歐文字ヲ記セルコト第九七三六號登録商標ニ於ケルカ如シト雖中央ニ於ケル圖形カ兩商標ニ於テ著シク相異レルコト前示ノ如クナルカ爲メ兩商標ハ其全體ノ外觀ニ於テモ亦容易ニ甄別セラル從テ被請求人ノ本件五商標中請求人ノ第九七三六號登録商標ニ類似スルモノ一モ之無シ甲第一號及第二號證ハ以テ請求人ノ主張ヲ證スルニ足ラス故ニ請求人ノ第九七三六號登録商標ニ類似セリトノ主張ニ基キ被請求人ノ本件五商標ノ登録ヲ無効ト爲サンコトヲ求ムル本件請求ハ失當ナリ

仍テ主文ノ如ク審決ス

大正二年六月三十日於特許局
審判長 特許局事務官

村 上 隆 吉
田 中 鐵 二 郎
同 同
村 山 小 次 郎

第四百五十五號

五十四

英吉利國ハッダース、フールド在メルサミル

請求人

有限責任ジョナス、ブルック兄弟商會

右代表者

トーマス、ジュリアス、ハースト

横濱市山下町二十四番地特許辨理士

右代理人

カール、フォグト

京都市上京區竹屋町小川東入東竹屋町四百二十二番地

被請求人

澤村 治三郎

同 市下京區堺町通二條下ル杉屋町特許辨理士

右代理人

寺尾 次郎 吉

右當事者間ノ第五一八六一號商標登録無効審判請求事件ニ付大正元年十一月六日當局ニ於テ爲シタル審決ニ對シ抗告審判請求ヲ爲シタルニ依リ審決スルコト左ノ如シ

主文 請求人ノ申立相立タス

抗告審判費用ハ請求人ノ負擔トス

申立ノ要領 請求人ハ原審決ヲ廢棄シ商標第五一八六一號登録ヲ無効トス抗告審判費用ハ被請求人ノ負擔トストノ審決アリタシト申立テ其理由ノ要領ハ本件第五一八六一號登録商標ヲ請求人ノ第九七三六號登録商標ニ比較スルニ附記ノ文字及中央ノ圓形ニ於テ少シク趣ヲ異ニセルモ全體ノ構成上相類似セリ請求人會社ハ絲製造所トシテ世界ニ著名ニシテ多年其製品ヲ帝國內ニ輸入シ世人ニ周知セラレ本件登録商標ハ請求人ノ登録商標ヲ模擬シタルモノナリ特ニ小形ナル絲卷ノ兩端ニ商標ヲ貼付シテ之ヲ販賣スルトキハ兩商標ノ識別シ難キコト勿論ナリ被請求人ノ商標ハ中央ノ帯形ノミヲ主要部分トスルモ

ノニアラスシテ商標全體ヲ主要部分トスルモノナリ被請求人ノ商標ノ中央ノ圓形ハ帯ナルニ請求人ノ商標ノ中央ノ圓形ハ熊手ナルノ差異アレトモ共ニ農具又ハ其類似品ニシテ且其圓形ノ差異ハ商標ノ一部ノ差異ニ過キス兩商標ハ假令當業者ニ於テ之ヲ甄別シ得ルトスルモ一般需要者ハ之ヲ混合誤認スルノ虞アリ故ニ本件第五一八六一號登録商標ハ商標法第二條第三號乃至第五號及第三條第一項ニ該當シ其登録ハ之ヲ無効ト爲スヘキモノナリト云フニ在リ

被請求人ハ本件請求ヲ棄却ス抗告審判費用ハ請求人ノ負擔トストノ審決アリタシト申立テ其理由ノ要領ハ本件兩商標ハ主要部分ノ圓形及稱呼ヲ異ニシテ唯附隨部分ニ於テ多少類似ノ點アリト雖之カ爲メニ世人ノ混同誤認ヲ惹起スルノ虞無シト云フニ在リ

審決ノ理由 請求人ノ第九七三六號登録商標ノ中央ニ於ケル圓形ハ熊手ヲ描キタルモノニシテ被請求人ノ第五一八六一號登録商標ノ中央ニ於ケル帯ノ圓形トハ容易ニ甄別セラレ請求人ノ商標ニ於ケルHIT、BESTSナル文字ト被請求人ノ商標ニ於ケルBROOMナル文字トモ亦容易ニ甄別セラル而シテ請求人ノ商標ハ平行横直線ヲ以テ圓形輪廓内ヲ五欄ニ區劃シ之ニ圓形及文字ヲ配置シタルモノナルニ被請求人ノ商標ハ圓形輪廓内ニ如上ノ區劃ヲ設クルコト無ク帯ノ圓形BROOMナル文字及TRADE MARKナル文字ヲ現ハシタルニ止マルヲ以テ商標全體ニ付テ觀ルモ兩商標ハ「カタン」絲其他ノ綿絲ヲ取扱フ當業者ハ勿論此等商品ノ需要者ニ依リテモ混同誤認セラル、ノ虞ナク從テ相類似スルモノニアラス商標ヲ小形ナル絲卷ノ兩端ニ貼付シタル場合ニ於テモ亦兩商標ハ混同誤認ノ虞無キモノト認ム故ニ兩商標相類似セリトノ主張ニ基キ本件第五一八六一號商標登録ヲ無効ト爲サンコトヲ求ムル本件請求ハ不當ナリ請求人ハ尙絲卷ヲ容レタル箱二箇ヲ提出シ之ヲ比較シテ論スル所アレトモ二箇ノ箱ノ上面ニ於ケル商標ノ中央ニ於ケル圓形ノ相互間ニ甄別シ易キコトハ前説明ノ如ク又請求人ノ箱ニ於ケル商標ハ其

五十五

全體ノ構成ニ於テハ第九七三六號登録商標ト異リ欄ノ區劃ヲ缺キ圖形及文字ノ配列ヲ異ニシ同一商標ナリト謂フヲ得ス從テ二箇ノ箱ノ上面ニ於ケル商標ヲ其全體ヨリ觀察シテ比較シ之ニ依リテ被請求人ノ箱ノ上面ニ於ケル商標ノ全體カ第九七三六號登録商標ニ類似セルコトヲ斷定セントスルハ失當ナリ又二箇ノ箱ノ上面ニ於ケル商標ノ周圍ニ記載シタル文字及其排列ハ第九七三六號登録商標及第五一八六一號登録商標ノ構成分ニアラスシテ被請求人ノ絲卷ノ一端ニ於ケル五欄ニ區劃シタル商標ハ第五一八六一號登録商標ト全體ノ構成ニ於テ相異レルヲ以テ絲卷及箱ノ現品ニ基ク請求人ノ主張ハ理由ナシ

仍テ主文ノ如ク審決ス

大正二年六月三十日於特許局

審判長 特許局事務官 村上隆吉
同 田中鐵二郎
同 三浦惠一

第四百九十三號

東京市日本橋區小傳馬町三丁目二十一番地 請求人 平山利三久
同 市日本橋區吳服町二番地特許辨理士 右代理人 杉田金之助
同 市神田區駿河臺東紅梅町二番地 被請求人 森田尚
同 市京橋區木挽町九丁目七番地特許辨理士 右代理人 稻木繁太郎

右當事者間ノ第四七二五四號商標登録無効審判請求事件ニ付大正二年二月十七日當局ニ於テ爲シタル審決ニ對シ抗告審判請求ヲ爲シタルニ依リ審決スルコト左ノ如シ

主文 抗告審判請求人申立相立タス

抗告審判費用ハ抗告審判請求人ノ負擔トス

申立ノ要領 抗告審判請求人申立ノ要領ハ原審決ヲ取消ス抗告審判被請求人ノ申立相立タス審判費用ハ原審及抗告審トモ抗告審判被請求人ノ負擔トスト審決相成度其ノ理由ハ抗告審判請求人ハ被請求人ノ登録第五三六一九號商標ハ甲第一號證商標提出ノ當時即明治四十五年六月十八日出願シタルモノト爲サ、ルヘカラサルコトヲ原審ニ於テ詳論セリ然ルニ原審決ハ單ニ此點ニ關シ甲第一號證商標ハ明治四十四年十一月四日提出ニ係ル出願番號第六九三九一號商標登録願ニ對スル訂正ニシテ適法ト認メラレタルモノナレハ其ノ出願ハ訂正書提出ノ日ニ非サルコト論ヲ俟タスト説明シ其ノ何カ故ニ論ヲ俟タサルヤ不明ナリト云フニアリテ原審ニ於ケル主張ヲ援用セリ
抗告審判被請求人答辯ノ要領ハ抗告審判請求人ノ申立相立タス抗告審判費用ハ請求人ノ負擔トストノ審決相成度其理由ハ甲第一號證ハ洋裝人立セル猫カ兩手ニテ鼠ヲ捧持セル圖形ヲ畫キタルモノナリ又甲第二號證ハ均シク洋裝セル猫カ鼠ヲ捧持セル圖形ヲ畫キタルモノナリ從テ兩商標カ相類似スルモノタルハ議論ノ餘地ナキ所ナリ而シテ出願又ハ抗告審判請求中ニ爲シタル商標見本ノ訂正ハ其ノ出願ノ要旨ヲ變更セサル程度ニ於テ爲シタルモノナルヲ以テ本體ニ何等影響ヲ及ホスヘキモノニアラスト云フニアリ

審決ノ理由 抗告審判請求人カ商品殺鼠劑ニ使用スル爲明治四十四年五月八日登録ヲ出願シ同年七月十日登録ヲ受ケタル第四七二五四號登録商標ハ上半身ニ洋裝シテ人立セル猫カ兩手ニテ鼠ヲ捧持セル狀

ヲ書キタルモノニシテ被請求人カ明治四十三年十一月四日登録ヲ出願シ同四十五年七月三日登録ヲ受ケタル第五三六一九號登録商標ハ洋装人立ノ猫カ兩手ニ鼠ヲ捧持セル狀ヲ畫キ之ニ THE IDEAL PATSBANE PATTRIN ナル文字ヲ附記セルモノナリ右商標ハ記載文字ノ有無猫ノ尾ノ長短及其ノ洋装ノ全身ナルト半身ナルトノ差異アリト雖モ共ニ洋装人立セル一匹ノ猫カ兩手ニテ鼠ヲ捧持セル狀ニシテ外觀上相類似シ混同誤認ヲ生スヘキ虞アリ抗告審判請求人ハ商標見本ノ適法ナル訂正ハ商標法施行細則第二十一條ニ依リ準用セラル、特許法施行細則第十條第一項及第三項ニ規定セル如ク見本ノ不明瞭若クハ不完備ナル場合ニ限リ之ヲ爲スヲ得ルモノナリ然ルニ被請求人ハ最初ノ見本カ何等不明瞭若クハ不完備ノ點ナキニ拘ラス明治四十五年六月十八日商標見本ヲ第一號證ノ如ク訂正シタル後登録ヲ受ケタルモノナルヲ以テ其訂正ハ不適法ナリ從テ被請求人ノ第五三六一九號登録商標ハ此訂正書提出ノ日ニ出願シタルモノト看做スヘク請求人ノ第四七二五四號商標ヨリ後願ニ屬スト主張スレトモ特許法施行細則第十條第三項ハ出願人自ラ見本ノ訂正ヲ爲ス場合ニ關スル規定ニシテ特許局長又ハ審判長カ訂正ヲ命スル同條第一項ノ場合ト異リ出願ノ要旨ヲ變更セサル範圍ニ於テハ自由ニ訂正ヲ爲スヲ得ルノ趣旨ナリトス故ニ商標登録ヲ出願シタル者カ自ラ其見本ヲ訂正スル場合ニ於テハ其商標ノ要旨ニ於テ變更ナキ以上ハ其訂正ハ適法ニシテ商標登録ノ出願日ニ變更ヲ來スノ結果ヲ生スルモノニアラス而シテ訂正前ニ於ケル被請求人ノ商標見本ト訂正後ノ商標見本トヲ比較スルニ單ニ猫ノ下半身ヲ洋装セルト否ト及尾ノ長短ノ差アルニ過キスシテ其商標ノ要旨ヲ變更セサルモノト認ム從テ其訂正ハ適法ニシテ被請求人ノ第五三六一九號登録商標ハ明治四十三年十一月四日ニ出願シタルモノト謂フヘク明治四十四年五月八日ノ出願ニ係ル第四七二五四號商標ヨリ先願ニ屬スルモノトス而シテ兩商標ハ相類似シ同一商品ニ使用スルモノナルヲ以テ第四七二五四號商標ノ登録ハ之ヲ無効ト爲スヘキモノトス

仍テ主文ノ如ク審決ス

大正二年七月二日於特許局

審判長 特許局事務官 村上隆吉
 同 田中鐵二郎
 同 馬場 穎一

第五百四號

東京市日本橋區本町四丁目十四番地

請求人 合名會社島久商店

同 市日本橋區吳服町二番地特許辨理士

右代理人 島田久兵衛

獨逸國來因河畔ビーブリッヒ

被請求人 カルレ、ウント、コムバニ
 一、アクチエン、ゲゼルシャ
 フト

横濱市山下町二十四番地特許辨理士

右代理人 カール、フォーグト

右當事者間ノ第五二二五三號商標登録無効審判請求事件ニ付大正二年三月十四日當局ニ於テ爲シタル審決ニ對シ抗告審判請求ヲ爲シタルニ依リ審決スルコト左ノ如シ
 主文 抗告審判請求人ノ申立相立タス
 抗告審判費用ハ抗告審判請求人ノ負擔トス

申立ノ要領 抗告審判請求人申立ノ要領ハ原審決ヲ取消シ抗告審判被請求人ノ申立相立タス審判費用並ニ抗告審判費用ハ抗告審判被請求人ノ負擔トスト審決相成度其理由ハ「ローゼンバッハ、ツベルクリン」ナル名稱ハ「ローゼンバッハ」ノ發明ニ係ル特殊ノ「ツベルクリン」ヲ指稱スルモノニシテ該名稱カ第五二一五三號登錄商標出願前本邦ニ於テ周知セラレタルコトハ原審以來抗告審判請求人ノ主張スル所ニシテ此名稱ヲ附シタル藥劑ノ製造販賣ハ何人ト雖モ獨占スルヲ得サルモノナリ「特許法第六條第二號」抗告審判被請求人ハ一手販賣ヲ云々スルモ是レ契約當事者間ノ關係ニ止マリ第三者ニ對シテハ何等ノ效力ナシ又其名稱ニ付商標トシテ登錄セラレサル以前ニ既ニ其藥劑ヲ指稱スル名稱トシテ周知セラレ、ニ於テハ之ヲ普通名稱ニアラスト謂フヲ得ス何人ト雖モ該名稱ヲ獨占スルヲ得サルモノナリ甲第十號證及乙號證ニ據レハ數多ノ内外醫師數多ノ内外藥種商皆該藥劑ヲ指稱スルニ該名稱ヲ用ヒタリ又抗告審判請求人及被請求人ノ夫々有スル第五二一五三號及第五二四〇七號登錄商標並ニ友田商店ノ第四八八三四號登錄商標ニハ何レモ該名稱ノ記入セラル、ヲ見レハ該名稱ハ一般ニ使用セラレタルモノト云フヘク即特殊「ツベルクリン」ノ普通名稱ト云ハサルヘカラス加之本件商標ハ抗告審判請求人カ抗告審判被請求商會ノ製造販賣ニ係ルロ氏「ツベルクリン」ニ使用スルモノナリ決シテ請求人自ラ製造シタル商品ニ使用スルニアラス然ルニ原審決ニ於テ抗告審判請求人ノ第五二四〇七號登錄商標ハ Roschbach Tuberkulin ナル文字ニ因リテ相類似セリトノ理由ニ基キ本件第五二一五三號商標登錄ヲ無効ト爲シタルハ不當ナリト陳述セリ

抗告審判被請求人申立ノ要領ハ抗告審判請求人ノ申立相立タス審判費用及抗告審判費用ハ抗告審判請求人ノ負擔トスト審決相成度其理由ハ「ローゼンバッハ、ツベルクリン」ナル名稱ハ既往並ニ現在ニ於テ抗告審判請求人ノ專用商標トシテ悉知セラレ未タ嘗テ普通名稱トシテ知ラレタルコトナシ「ローゼン

バッハ、ツベルクリン」ナル藥劑ハ抗告審判被請求人ノ發明者ヨリ一切ノ權利ヲ讓渡セラレ他ノ窺竊ヲ許サ、ル方法ニヨリ獨占的ニ製造スルモノナルヲ以テ之ニ伴フ名稱モ亦專有的ナリ「ツベルクリン」ト「ローゼンバッハ、ツベルクリン」トハ區別アリ若シ「ローゼンバッハ、ツベルクリン」カ何人ニモ容易ニ製造セラレ從テ其製造方法、其製品及其名稱カ世人ニ周知セラルル時ニ及ンテ茲ニ初メテ普通名稱ナリト斷定スルヲ得ンモ未タ普通名稱ト稱スルヲ得スト陳述シ原審ニ於ケル一切ノ書類ヲ援用セリ

審決ノ理由 「ツベルクリン」ナル名稱カ抗告審判被請求人ノ第五二四〇七號商標登錄出願前ヨリ結核症ニ用ユル特定ノ藥劑ノ普通名稱ナルコトハ顯著ノ事實ナルノミナラス本件當事者間ニ爭ナキ所ナリト雖「ローゼンバッハ、ツベルクリン」ナル名稱ハ判然「ツベルクリン」ナル名稱ヨリ區別セラルル別名稱ナリ而シテ抗告審判請求人ハ「ローゼンバッハ、ツベルクリン」ナル名稱ハ「ローゼンバッハ」ノ發明ニ係ル特殊ノ「ツベルクリン」ヲ指稱スル名稱トシテ該登錄商標ノ出願前既ニ周知セラレ且一般ニ使用セラレタルモノナルヲ以テ何人モ之ヲ獨占スルヲ得ス從テ該特殊「ツベルクリン」ノ普通名稱ナリト主張セリト雖周知ノ名稱ハ必スシモ普通名稱ナリト云フヲ得ス普通名稱ニアラサル特別ノ名稱ヲ表示スル文字カ商標トシテ登錄セラレアル場合ニ其商標カ名聲ヲ博スルニ至リタルトキハ其名稱ハ世上ニ喧傳周知セラレヘシ然レトモ之カ爲ニ其名稱カ普通名稱ト爲ルモノニアラス其名稱ハ依然トシテ特別ノ名稱ナリ若シ此場合ニ其名稱カ直チニ普通名稱トナルモノナラハ何人モ自由ニ其名稱ヲ使用スルヲ得テ登錄商標ハ保護ヲ失フニ至ルヘキ不當ノ結果ヲ生スヘシ故ニ周知ノ名稱ト普通ノ名稱トハ之ヲ混同スヘカラス多數ノ營業者カ其各自ノ營業ニ係ル同一ノ商品ニ同一名稱ヲ使用スル場合ニハ其名稱ハ即チ其商品ノ普通名稱ナリト雖他人カ商品ヲ製造シ之ニ特定ノ名稱ヲ附シテ販賣スル場合ニ之ヲ取次キ販賣スルコトノ如キハ商標法ノ意義ニ於テハ之ヲ其名稱ヲ該商品ニ使用スルモノト謂フヲ得ス若シ之ヲ其名

稱ヲ該商品ニ使用スルモノト謂フヲ得ヘシトスレハ普通名稱ニアラサル特別名稱ヲ表示スル文字カ商標トシテ登録セラレアル場合ニ於テモ其登録商標ヲ附シタル商品ヲ取次キ販賣スル者ハ其名稱及商標ヲ該商品ニ使用スルモノナリト謂ハサルヘカラサルカ如キ從テ取次販賣者ノ多數ナル場合ニハ其特別名稱ハ變シテ普通名稱ト爲リ何人モ自由ニ之ヲ同一商品ニ使用シ得ルニ至ルカ如キ不當ノ結果ヲ生スルニ至ルヘシ而シテ抗告審判被請求人カ「ローゼンバッハ」ノ發明ニ係ル特殊「ツベルクリン」ヲ製造シ之ニ「ローゼンバッハ、ツベルクリン」ナル名稱ヲ附シテ販賣セルコト竝ニ抗告審判請求人ハ單ニ該製品ヲ取次キ販賣セルモノニシテ自家ノ製品ニ該名稱ヲ表示スル文字ヲ商標トシテ使用スルニアラサルコトハ抗告審判請求人ノ認ムル所ナリ「補充抗告審判請求書第四項」故ニ抗告審判請求人ハ該名稱ヲ該商品ニ使用スルモノト謂フヘカラス合資會社友田商店ノ第四八八三四號商標登録ハ既ニ抹消セラレタルノミナラス其登録アリシ事實ノミニ依リテハ友田商店カ該商標ニ記載シアル名稱ヲ指定商品ニ使用シタルコトノ證據ト爲スニ足ラス其他抗告審判請求人ノ提出援用セル證據ニ依ルモ「ローゼンバッハ、ツベルクリン」ナル名稱ノ周知セラレタルコトヲ證シ得ルニ止マリ抗告審判被請求人以外ノ者カ該名稱ヲ「ツベルクリン」ニ使用シタル事實ヲ認ムルヲ得ス故ニ「ローゼンバッハ、ツベルクリン」ナル名稱ハ抗告審判被請求人ノ製造ニ係ル特殊「ツベルクリン」ヲ指稱スル爲メニ抗告審判請求人ノミカ既往及現在ニ於テ使用スル特別名稱ニシテ其名稱カ世人ニ周知セラレ、ト否トヲ問ハス之ヲ該藥劑ノ普通名稱ナリト云フヲ得ス而シテ抗告審判被請求人ノ第五二四〇七號登録商標ハ此特別名稱ヲ表示スル「Tuberkulin Rosenbach」ナル文字ヲ記シ其商標ヲ使用スル商品ヲ結核症ニ用ユル藥劑ト指定シ明治四十四年十二月十九日其登録ヲ出願シタルモノナルヲ以テ指定品タル前示特殊ノ「ツベルクリン」ニ「Tuberkulin Rosenbach」ナル文字ヲ商標又ハ其一部分トシテ使用スルノ權利ハ該登録商標權ニ專屬スルモノナリト

ス然ルニ抗告審判請求人ノ第五二一五三號登録商標ハ Rosenbach Tuberkulin ナル文字ヲ有スルヲ以テ第五二四〇七號登録商標ト混同誤認セラレルノ虞アリテ相類似スルモノトス且其商標ヲ使用スル指定商品ハ第五二一五三號登録商標ノ指定商品ト同一ニシテ明治四十五年三月十五日ノ出願ニ係リ後願ニ屬スルヲ以テ第五二一五三號商標登録ハ商標法第三條第一項ニ違反シ同法第十一條ニ依リ之ヲ無効ト爲スヘキモノトス
仍テ主文ノ如ク審決ス

大正二年七月十二日於特許局

審判長 特許局事務官 村上隆吉
同 田中鐵二郎
同 三浦惠一

第四百三十號

東京市日本橋區本石町二丁目十七番地 請求人 藤井長次郎
同 市京橋區西紺屋町三番地特許辨理士 右代理人 岡崎正也
瑞西國スーガ郡カン町及同國ヴォー郡ヴェウエー町 被請求人

右代表者
ダブルユー、テシー、
ビルソン
六十三

右當事者間ノ第四二二三四號商標登錄無效審判請求事件ニ付大正元年十月七日當局ニ於テ爲シタル審決ニ對シ抗告審判請求ヲ爲シタルニ依リ審決スルコト左ノ如シ

主文 原審決ヲ破棄ス

抗告審判被請求人ノ申立相立タス

審判費用及抗告審判費用ハ抗告審判被請求人ノ負擔トス

申立ノ要領

抗告審判請求人ハ原審決ヲ破棄シ被請求人ノ申立ヲ却下ス審判費用ハ總テ被抗告人ノ負擔トスヘキ旨ノ審決ヲ求ムト申立テ其理由トシテ本件商標ハ別件抗告審判番號第四二五號ノ原審ニ於テ

有效ト認メラレタル請求人所有ノ第九六六七號商標ノ聯合商標ニシテ其名稱ハ等シク花人形トシテ市場一般ニ公認セラレ抗告審判被請求人所有ノ搾乳婦印商標一名通稱人物印トハ明カニ區別セラレ來リタルモノニシテ且其圖形竝ニ觀念ヲモ異ニスルカ故ニ原審ニ於テ本件商標ヲ無効ナリト審決セラレタルハ失當ナリト主張シ原審提出ノ書面及證據ノ全部竝ニ別件抗告審判番號第四二五號事件ノ一切ノ證據及事實關係ヲ援用シテ同事件ニ付テノ證人日比野房吉及川井敬次郎ノ訊問調書ヲ乙第二十九號證及第二十號證トシテ提出セリ

抗告審判被請求人ハ本件抗告ハ之ヲ棄却ス抗告費用ハ抗告人ノ負擔トストノ審決ヲ求ムト申立テ其理由トシテ被請求人所有ノ商標ハ人形印ニシテ請求人ノ商標登錄前ヨリ廣ク知ラレ從テ人形印ナル語カ其稱呼タルコトハ數多ノ書證ニ依リ明確ナリ又兩者ノ圖形モ仔細ニ觀察スルトキハ一ハ搾乳婦ニシテ一ハ唐人形ナルヲ以テ多少ノ差アルコトハ勿論ナレトモ隔離的觀察上彼是紛ハシキコト明瞭ナリ從テ證據圖形ノ綜合上二者混同ノ虞アルコト明ナリト主張シ原審ニ於ケル事實關係其他請求理由ニ付テ

ハ原審提出書類全部竝ニ原審ニ於ケル甲號證全部及抗告審判事件第四二五號抗告ノ理由ニ於ケル陳述全部ヲ援用シテ乙第二十九號證及第三十號證ハ請求人提出ニ拘ハラヌ被請求人ノ利益ノ爲メニ援用セリ

審決ノ理由

請求人所有ノ登錄第四二二四號商標ハ中央ニ花輪ヲ描キ一人ノ唐子其中ニ立チ右手ヲ舉

ケテ「ミルク」ノ罐ヲ捧ケタル圖ヲ描キ上部ニ花人形印煉乳ト書シ下部ニ Condensed milk 及 Flower & Doll Brand 其他ノ羅馬字ヲ記シテ成レルモノナリ今被請求人ノ依テ以テ本件商標ノ無効ヲ主張セントスル同人所有ノ登錄第九四八七號及同第九四八八號商標ト對照スルニ先ツ其圖形ニ於テ第九四八七號ハ中央ニ一人ノ搾乳婦カ頭上ニ牛乳容器ヲ載セテ左手ヲ以テ之ヲ支持シ右手ニモ同一容器ヲ提ケル圖形ヲ描キ上部ニ MILKMAID BRAND 下部ニ Anglo-Swiss Condensed Milk Co. 等ト書シテ成レルモノナリ從テ其圖形ニ於テ兩者判然區別シ得何トナレハ兩商標ノ要部タル搾乳婦ノ圖形ト唐子ノ圖形トハ其形狀竝ニ觀念ヲ異ニスレハナリ次ニ第九四八八號商標前記第九四八七號商標ト異ナル所ハ唯搾乳婦ノ左右ニ賞牌ノ圖形ヲ描ケルヲ最トシ其他附記文字ノ小差アルノミナリ從テ本件商標カ其圖形ニ於テ第九四八七號商標ト判然區別シ得ルト一般第九四八八號商標トモ全然區別アルモノナリ從テ被請求人所有ノ二商標ト本件商標トハ圖形ニ於テ類似セス次ニ被請求人ハ自己所有ノ商標ト本件商標トハ其稱呼ニ於テ類似スト主張スレトモ被請求人ノ商標ハ人物印ト呼ハルルコト多ク小數ノ場合ニ於テ人形印ト呼ハルルコトアルハ證人日比野房吉及川井敬次郎ノ證言ニ依リテ明ナリ而シテ本件商標ノ稱呼ハ其商標自體ニ明記セル如ク花人形印ナリ依テ按スルニ被請求人商標ノ人物印ナル一稱呼ト本件商標ノ花人形印ナル稱呼トヲ比較スルニ兩者明瞭ナル區別アリテ何等混同ノ虞ナキモノナリ更ニ被請求人商標ノ他ノ稱呼ナル「人形印」ト本件「花人形印」ナル稱呼トヲ比較スルニ「花」ノ有無ニ依リテ確然區別シ得ルモノナリ現

ニ事實上ニ於テモ花人形印ヲ單ニ人形印ト稱フルコト無キハ證人川井敬次郎ノ供述ニ依リテモ明ナリ
從テ彼是混同ノ虞ナキモノナリ前述ノ如ク被請求人所有ノ商標ト本件商標トハ其圖形ニ於テ明瞭ナル
區別アルノミナラス其稱呼ニ於テモ亦確然區別シ得ルモノナリ從テ原審ニ於テ本件商標ヲ商標法第二
條第一項ニ違反シタルモノト爲シタルハ不當ナリ尙ホ被請求人ハ本件商標ヲ以テ商標法第二條第五項
ニ該當スルヲ以テ其登録ヲ無効トスヘキモノナリト主張スレトモ既ニ前説ノ如ク被請求人所有ノ商標
ト本件商標ト同一又ハ類似セサルモノナル以上該條項該當ヲ主張スルヲ得ス
仍テ主文ノ如ク審決ス

大正二年七月二十三日於特許局

審判長 特許局事務官 村上隆吉
同 同 三浦惠一
同 馬場穎一

第四百十二號

英吉利國パリーミングハム市グレートキング街

請求人

ジョセフ、ルーカス、
リミッテッド

東京市京橋區明石町二十三番地特許辦理士

右代理人

ハリー、サミュエル、ピッカ
ルトン、プリンドリー

右第八三〇〇七號商標登録願拒絶再査定不服抗告審判請求事件ニ付審決スルコト左ノ如シ
主文 原査定ヲ廢棄ス

登録願第八三〇〇七號商標(指定商品第二十類自動車及其部分品但護謨「タイヤ」ヲ除ク)ハ之ヲ登録ス
ヘキモノトス

申立ノ要領 請求人申立ノ要領ハ第八三〇〇七號商標登録願ニ對スル原査定ハ不服ニ付登録スヘキモノ
ト審決アリタク其理由ハ原査定ニ於テハ第三一九七八號及第四八二八五號登録商標ト類似ニシテ指定
商品モ亦同一ナリトノ理由ニ依リ本願商標ノ登録ヲ拒絶セラレタルモ右兩登録商標ノ一ハ自轉車ニ使
用シ他ハ護謨「タイヤ」ニ使用スルモノナルヲ以テ請求人ハ指定商品中ヨリ此等ノ抵觸スル商品ヲ削除
シテ本願商標ノ登録ヲ請求スト云フニ在リテ指定商品ヲ自動車及其附屬品及部分品「但護謨「タイヤ」
ヲ除ク」ト訂正シ更ニ指定商品中ヨリ附屬品ヲ削除セリ

審決ノ理由 本願商標ハ初メ外國ノ登録商標トシテ登録ヲ出願シタルモノナルモ抗告審判請求中ニ於テ
外國ノ登録商標トスルコトヲ止メタルヲ以テ本願商標ノ指定商品カ原國登録商標ノ指定商品ト一致セ
サルノ點ハ之ヲ問フノ必要ナキニ至レリ而シテ原査定ニ於テ援用シタル登録商標トノ抵觸ハ指定商品
ノ訂正ニ依リテ之ヲ免ル、ヲ得タリ且訂正ニ依ル指定商品タル自動車及其部分品ニ付テハ其登録ヲ拒
絶スヘキ何等ノ原因モ存在セス仍テ該指定商品ニ付テハ本願商標ハ登録ヲ受クルコトヲ得ヘキモノト
ス請求人ハ大正二年四月十五日日本願商標ノ指定商品ヲ第六十三類燈器及其各部ト訂正スル旨申出タル
モ其以前ニ於テ既ニ本願ノ指定商品ヲ自動車及其部分品ト訂正シタルカ故ニ更ニ之ヲ第六十三類燈器
及其各部ト訂正スルコトハ出願ノ要旨ヲ變更スルモノニシテ不適法ナリ從テ本件商標ハ第二十類自動
車及其部分品ニ付登録ヲ受クルコトヲ得ヘキモノナルヤ否ヤヲ判定スヘキモノトス
仍テ主文ノ如ク審決ス

大正二年七月二十三日於特許局

審判長 特許局事務官 村上隆吉
同 田中鐵二郎
同 村山小次郎

第七十六號

大阪府東區粉川町番外九十番屋敷 請求人 春元 樽次
東京市京橋區山城町十四番地特許辨理士 右代理人 太田 資時
大阪府東區北濱二丁目百二十四番屋敷特許辨理士 同 砂川 雄峻
神戸市東町百二十四番地 被請求人 アルフレッド・シュール、
マックリュー
同 市中山手通六丁目二十八番地特許辨理士 右代理人 太田 保太郎
大阪府東區北濱五丁目六十三番屋敷特許辨理士 同 淺村 三郎

右當事者間ノ第二二一三六號商標登録無效抗告審判事件ニ付明治四十五年四月二十四日當局ニ於テ爲シタル審決ニ對シ大正元年十二月十八日大審院ニ於テ破毀差戻ノ判決アリタルニ依リ審決スルコト左ノ如シ

主文 抗告審判請求人ノ申立相立タス

抗告審判費用抗告審判ニ對スル出訴費用及出訴前ノ抗告審判費用ハ總テ抗告審判請求人ノ負擔トス
申立ノ要領 抗告審判請求人申立ノ要領ハ原審決ヲ取消シ抗告審判被請求人ノ申立相立タス審判費用並

ニ抗告審判費用ハ共ニ抗告審判被請求人ノ負擔トストノ審決ヲ求ム其理由ハ原審決カ本件所爭ノ禮和ナル文字ハ「カルロウイッ」商會ノ別商號トシテ廣ク使用セラレ又石鹼ニ印記シテ廣ク清國及日本ニ於テ世人ニ周知セラル被請求人ノ本件商標ハ商標法ニ所謂世人ヲ欺瞞スル虞アルモノナリト認ム而テ同法ニ世人ヲ欺瞞スル商標トハ單ニ商標自體ニ付之ヲ判スヘキモノニアラスシテ其商標カ世人ニ及ホス各般ノ事情ヲ綜合シテ判スヘキモノナリト判示セラレタルハ抗告請求人ノ服從スル能ハサル所ナルニ依ル更ニ抗告請求ノ理由ハ第一、本件無効審判ハ舊商標法第二條第三號ニ依ル請求ナレトモ同條ニ所謂世人ヲ欺瞞スル虞アルモノトハ商標自體ノ圖形若ハ文字カ世人ヲ欺瞞スルモノナラサルヘカラス然ルニ本件商標ノ如キハ其自體ニ於テ使用商品ニ對シ世人ヲ欺瞞スル虞ナシ第二、商標ノ效力ハ商標法ノ範圍ヲ出ツルコトナク商號ノ效力ハ商法ノ範圍ヲ出ツルコトナシ其效力ハ互ニ相箝制セス從テ本件商標カ訴外外國商館ノ別商號ト類似スルモ舊商標法第二條第三號ニ該當スルモノニアラス第三、訴外外國商館カ禮和若ハ禮和洋行ナル商號ヲ使用シタリトノ事實ハ之ヲ認メス假ニ其事實アリトスルモ登録ヲ經サル以上法律上ノ效力ナシ隨テ本件ニ關シテ商號トシテ其效果ナシ又登録ヲ經タル商號ト雖モ其效果ハ同市町村内ニ限ラル訴外外國商館ノ商號ハ登記シアリトスルモ抗告請求人カ大阪市ニ居住シテ全帝國内ニ使用スル商標ノ登録ニ對シ排除的效力ヲ及ホスヘキニアラス第四、登録商標カ普通ニ使用セララルル商號ト同一ナル場合ハ舊商標法第二條第六號ニ該當スル事實ナリ然ルニ本件商標ハ訴外外國商館ノ別商號ト同一ナリト主張シ其事實ニ基キ同條第三號ニ依リ本審判ヲ請求シタルハ不法ナリ但本件商標カ同條第六號ニ該當スルモノト認メス第五、商標法附則ニ舊法ニ依リ登録ヲ受ケタル商標ニ付テハ其存續期間内ハ本法第二條第六號乃至第八號ノ規定ヲ適用セストアリ故ニ舊法ニ依リ登録ヲ受ケタル本件商標ハ假リニ訴外外國商館ノ別商號ト同一ナリトスルモ之カ爲メ無効トナルヘキモノニ

アラス第六、元來抗告審判被請求人ノ主張ハ禮和ナル文字カ訴外國商館ノ別商號ナリト謂フニ在ルニモ拘ラス抗告審判ニ至リ該文字ハ世人ノ周知スル他人ノ標章ニシテ商標法第二條第五號ニ該當スト謂フハ全ク理由ヲ異ニスルモノニシテ此點ニ付テハ未タ審決ヲ經サルヲ以テ抗告審判ニ於テ之ヲ主張スルコトヲ得サルモノナリ加之禮和ナル文字カ他人ノ標章ナリトハ抗告審判請求人カ別商號ナリト申立テタル主張ニ反シ且乙第三號證ノ事實ニ反スルモノナリト謂フニ在リテ原審ノ立證方法ヲ援用セリ抗告審判被請求人申立ノ要領ハ抗告審判請求人ノ申立相立タス審判費用ハ原審及抗告審共抗告審判請求人ノ負擔トストノ審決ヲ求ム其理由ハ第一、本件登錄商標タル禮和ナル文字ハ「カルロウイッツ」商會ノ別商號トシテ廣ク使用セラレ且商品石鹼自體ニ印記シテ清國及日本ニ於テ世人ニ周知セラレタルモノナリ從テ商標法第二條第五號第八號及第三號ニ該當シ當然無効タルヘキモノトス第二、商標ト商號ノ效力ハ互ニ相嵌制スルコトナシトノ請求人ノ主張ハ正鵠ヲ得タルモノニアラス而シテ商法ハ商號ノ登記ヲ強制セス商標法第二條第八號ニハ他人ノ商號トアルノミニテ所謂商號ヨリ其意義廣シ又商標法ニ於テ他人ノ商號ハ商標トシテ之ヲ登錄セスト規定シタル以上商號ノ效力カ同一市町村内ニ限ルトノ問題ハ商標法上何等ノ關係ヲ有セサル事項ナリ第三、商標法第二條第三號ノ世人ヲ欺瞞スルモノトハ單ニ商標自體ノミナラス商標ト商品ノ關係ヲ綜合シテ論スヘキモノトス本件ノ如キ世人ハ抗告審判請求人ノ粗惡ナル石鹼ヲ見テ正シク「カルロウイッツ」商會ノ製品ナリト誤認妄信シ以テ其商標ハ世人ヲ欺瞞スル虞アルコト十分ナリトス第四、被請求人ハ本件商標ハ商標法第二條第五號ノ規定即チ世人ノ周知スル他人ノ標章ト同一又ハ類似ニシテ同一商品ニ使用スルモノナルコトヲ主張シ且又同條第八號及同條第三號ニ該當スルコトヲモ主張スルモノナリ第五、本件審判請求及其審決ハ所謂新舊商標法ノ過渡時代ニ屬ス被請求人カ審判ヲ請求シタル要旨ハ本件商標ノ登錄ヲ無効タラシムル點ニ存スルコト

ト當然ナリ原審決ニ於テモ本件商標ヲ以テ現行商標法第二條第五號ニ該當スト認メタルコト判文ニ依リ明瞭ナリトス故ニ被請求人カ抗告審判ニ於テ商標法第二條第五號ニ該當スルコトヲ理由トシテ開陳スルトモ不法ノ存スルコトナシ假ニ原審ニ於テハ審決ヲ經サリシモノトスルモ是レ理由ノ提出ニシテ請求ノ要旨ヲ變更スルモノニアラサルヲ以テ本審ニ於テ之ヲ主張スルモ何等不法アルコトナシ第六、商號ハ一面標章タルコトヲ失ハス標章ハ又一面商號タルヲ失ハス禮和ナル文字ハ訴外「カルロウイッツ」商會カ之ヲ石鹼ニ印記シ若ハ之ヲ石鹼ノ容器包裝等ニ貼付シテ廣ク販賣シタルモノナルカ故ニ之ヲ標章ナリト稱スルニ妨ナシト謂フニ在リテ原審ニ提出シタル甲號各證人訊問調書全部ヲ援用シ且甲第七號證及第八號證ヲ提出セリ

審決ノ理由 抗告審判被請求人カ甲第八號證ノ二トシテ提出シタル抗告審判第九〇號事件ノ證人杉江他次郎訊問調書ノ認證アル謄本ニ依レハ「カルロウイッツ」商會カ石鹼自體ニ禮和ナル文字ヲ印記シ又ハ石鹼ノ包紙容器等ニモ禮和ナル文字ヲ記載シテ販賣シタルコト竝ニ是等ノ事實ハ本邦内地ニ於テモ商人間ニテ知リ居ルコトヲ認定スルコトヲ得ヘク而シテ以上ノ事實ハ證人杉江他次郎カ「カルロウイッツ」商會神戶支店ニ入社當時即チ明治三十六年二月頃ヨリ以前ヨリ存スルコトヲ認定スルコトヲ得又抗告審判被請求人カ甲第七號證トシテ提出シタル抗告審判第九〇號事件ノ證人村田龜太郎訊問調書ノ認證アル謄本ニ於ケル同人ノ陳述中禮和ナル文字ヲ印記シタル石鹼ハ支那ニ於テ昔カラ販賣セラレ有名ニシテ誰ニモ知ラレ居ルコト其有名ナルコトハ二十年前ヨリ聞及ヘルコト竝ニ東京石鹼組合カ證人訊問ノ時即チ明治四十五年二月六日ヨリ十年前ニ於テ禮和ト印記シタル石鹼ヲ見本トシテ取寄セ之ヲ一般ノ組合同業者ニ閱覽セシメタルコトハ甲第七號證ニ依リ之ヲ事實ナリト認定ス是等認定ノ事實ヲ綜合シテ考フルトキハ抗告審判請求人カ禮和ナル文字ヲ商標トシ石鹼ニ專用スル爲メ明治三十七年

八月十六日ニ出願シタルヨリ以前ニ「カルロウイッツ」商會カ禮和ナル標章ヲ石鹼ニ使用シ其事實ハ帝國内ニ於テ周知セラレタルコトヲ認定スルヲ得則チ抗告審判被請求人カ前記日附ヲ以テ出願シ同年十月六日登録ヲ受ケタル本件第二一三六號登錄商標ハ商標法第二條第五號ニ規定スル世人ノ周知スル他人ノ標章ト同一ニシテ同一商品ニ使用スルモノニ該當シ其登録ハ同法第十一條ニ依リ之ヲ無効ト爲スヘキモノトス抗告審判請求人ハ原審ニ於ケル審判請求ノ理由ハ本件商標ノ禮和ナル文字ハ訴外「カルロウイッツ」商會ノ別商號ノ文字ト同一ナルヲ以テ世人ヲ欺瞞スル虞アリ從テ商標法第二條第三號ニ該當スト謂フニ在リ然ルニ當審ニ於テ本件商標ノ文字ハ世人ノ周知スル他人ノ標章ニシテ商標法第二條第五號ニ該當スト謂ヘルハ全ク理由ヲ異ニスルモノナリ此點ニ付テハ原審ノ審決ヲ經サルカ故ニ抗告審判ニ於テ之ヲ主張スルコトヲ得サルモノナリト主張スレトモ抗告審判被請求人カ世人周知云々ト主張スルハ抗告審判請求人ノ所謂理由ノ點ニ於テ擴張ヲ爲シタルニ過キスシテ審判請求ニ關スル事實ニ變更アリタルモノニアラス大審院ニ於テ本件ノ審判請求ハ舊商標法ノ施行中ニ提起セラレタリト雖モ審理中現行商標法施行セラレタルモノニシテ被上告人ハ原審ニ至リ登錄無効ノ理由ヲ擴張シテ商標法第二條第三號ノ外ニ第五號第八號ヲ主張シタルモ其請求ノ理由トセル事實ヲ一審以來變スルコトナキヲ以テ原審ヲシテ係爭商標カ商標法第二條第五號又ハ第八號ニ該當シ無効トナスヘキモノナルヤ否ヤヲ審査セシムル必要アルヲ以テ事件ヲ原審ニ差戻シテ更ニ審決ヲ爲サシムト判示セラレタルモ此趣旨ニ外ナラス從テ此點ニ於テ審決ヲ爲スニ支障ナキモノトス商標法第二條第五號ノ適用ニ關シテハ同號ニ規定スル所謂世人ノ周知トハ帝國内ニ於テ周知セラレタルコトヲ要シ外國殊ニ我經濟上勢力範圍内ニ於ケル事情ヲ斟酌スルノ餘地ヲ與ヘサルモノナルヤニ付テハ疑義ナキニアラスト雖モ本件ニ於テハ支那ニ於ケル事情ハ暫ク之ヲ措キテ考フルモ帝國内ニ於テ同業商人間ニ周知セラレタルコト村田龜太

郎、杉江他次郎ノ證言ニ徴シ之ヲ認ムルニ足ルヲ以テ商標法第二條第五號ヲ適用スルニ支障ナキモノトス抗告審判請求人ハ禮和ナル文字カ他人ノ標章ナリトノ主張ハ「カルロウイッツ」商會ノ別商號ナリトノ主張ニ反スルノミナラス又乙第三號證ノ事實ニ反セリト陳述スルモ禮和ナル文字カ「カルロウイッツ」商會ノ商號タルト否ト又乙第三號證ニ於テ爭點タリシ舊商標法第二條第六號ニ所謂普通ニ使用セラレル商號タルト否トハ本件審決ニ於テ判斷スル必要ナシ何トナレハ是等ハ禮和ナル文字カ標章タルコトト兩立スルコトヲ得サルモノニアラス禮和ノ文字カ標章タルヤ否ニ付テハ是等ト離シテ別箇ノ問題トシテ判斷スルコトヲ得レハナリ而シテ禮和ナル文字自身ニ付テハ是等ト離シテ別箇ノ江他次郎及村田龜太郎ノ證言ニ徴シテ考フルモ之ヲ認定スルニ十分ナリトス抗告審判被請求人ハ商標審判請求事件ニ付テハ證人訊問ニ依リ證據調ヲ爲スコトヲ得ルニモ拘ラス本件トハ別事件ノ證人訊問調書タル甲第七號證ヲ書證トシテ提出スルハ違法ナリ依テ異議ヲ申立ツ但異議ニ對シテハ決定ヲ爲スルノ主旨ニ非スト陳述シタルトモ「明治四十五年二月二十六日審問調書」證人訊問ニ依リ證據調ヲ爲スヤ否ヤニ付テハ本件ニ於テ更ニ證人訊問ヲ爲ス必要ヲ認メス又甲第七號證及甲第八號證ヲ書證トシテ提出スルハ違法ナリトノ主張ニ付テハ別事件ノ證人訊問調書ノ認證アル膽本ヲ書證トシテ採用スルコト別段ノ支障ナク違法ナリトスル理由アルヲ認メス本件抗告審判第七六號ニ對スル明治四十五年四月二十四日ノ審決ニ對シ大審院ニ於テ抗告審決破毀本局ニ差戻サレタル後抗告審判請求人ハ更ニ立證ヲ盡シ理由ヲ詳述スル爲メ口頭審判ヲ開廷センコトヲ申請シタルトモ本件ハ審決ヲ爲スニ熟シタルモノトス當事者ニ於ケル其他ノ主張ニ關シテハ之ヲ判斷スル必要ヲ認メス仍テ本文ノ如ク審決ス

大正二年七月二十四日於特許局

審判長 特許局事務官 村上隆吉
特許局技師 増島文次郎
特許局事務官 田中鐵二郎

七十四

第五百二十三號

大阪市東區難波北ノ町五十二番屋敷 請求人 蟹江大次郎
同 市東區北濱五丁目六十三番屋敷特許辨理士 右代理人 淺村三郎
同 市東區北濱五丁目六十三番屋敷特許辨理士 同 平岩義一
同 市東區北濱五丁目六十三番屋敷特許辨理士 同 藤江政太郎
京都市下京區岩上通繪樂師下ル宮本町三十四番戶 被請求人 北村岩太郎

右當事者間ノ第三八五二二號商標登録無効審判請求事件ニ付大正二年三月二十日當局ニ於テ爲シタル審決ニ對シ抗告審判請求ヲ爲シタルニ依リ審決スルコト左ノ如シ

主文 抗告審判請求人申立相立タス

抗告審判費用ハ抗告審判請求人ノ負擔トス

申立ノ要領 抗告審判請求人申立ノ要領ハ原審決ヲ破毀ス被請求人ノ所有スル第三八五二二號商標ノ登録ハ之ヲ無効トス審判及抗告審判費用ハ被請求人ノ負擔トスト審決相成度其理由ハ原審決ノ理由ニ於テ「剃刀不要」ノ文字ハ除毛劑ノ商標トシテ斬新ナル語句ヨリ成リ特別顯著ナリト認ム(二)被請求人ハ本件商標ヲ明治三十二年七月一日以前ヨリ善意ニ使用セルコト乙第一號證ノ一及證人三上金治ノ供述

ニ照シテ認定スルニ足レリト爲シタルハ不當ナリ元來「剃刀不要」ハ本件商標出願前ニ於テ取引セラレタル商品自體ノ名稱ナリ從テ之ヲ商標ト爲スモ商標法上毫モ特別顯著ニアラス又本件商標ハ出願前世人ニ周知セラレタル標章ナルコト甲第三號乃至第六號證ニ徴シテ明ニシテ審判番號第一九三三號事件ノ審決「甲第七號證」ニ依ルモ明ナリ而シテ商標法第三條第二項ノ規定ハ明治三十二年七月一日以前商標登録出願ノ當時マテ引續キ善意ニ其商標ヲ使用スル意思ヲ以テ之ヲ使用シタルノ事實アル場合ニ適用スヘキモノナリ然ルニ京都市賣藥同業者ニ付テ調査スルモ被請求人ハ明治三十二年七月一日以前ヨリ引續キ之ヲ使用セルノ事實ナシト謂ヘリ從テ本件商標ハ決シテ商標法第三條第二項ノ規定ニ該當スルモノニアラスト謂フニ在リテ原審ニ提出シタル甲號證全部ヲ援用セリ

抗告審判被請求人申立ノ要領ハ抗告審判請求人ノ申立相立タス抗告審判費用ハ請求人ノ負擔トストノ審決相成度其理由ハ原審ニ於ケル主張ノ通り本件係争ノ商標ハ商品名ヲ表示スル文字ニアラサルハ審判第一九三三號事件ノ審決ニ徴シテ明ナリ又「剃刀不要」ノ文字ハ他人ノ標章ニアラス被請求人カ從來ヨリ使用セル商標ナルヲ以テ請求人主張ノ如ク本件商標登録出願以前世人ニ周知セラレタル標章トシテ商標法第二條第五號ニ該當スルモノニアラス且被請求人カ本件商標ヲ明治三十二年七月一日以前ヨリ商標トシテ善意ニ使用セル事實ハ明治四十二年十月二十日特許局ニ提出セル證據ニ依リ明ナリト云フニアリ

審決ノ理由 請求人ハ被請求人ノ所有ニ係ル本件第三八五二二號登録商標「剃刀不要」ハ商品自體ノ名稱ニシテ商標トシテ特別顯著ナラスト主張スルモ其提出シタル證據ニ徴シ未タ「剃刀不要」ヲ以テ特定ノ商品ノ名稱ヲ謂ヒ表ハセルモノナリト認ムルニ足ラス假リニ商品ノ名稱トシテ使用セラレタルコトアリトスルモ之カ爲メ直ニ商標トシテ特別顯著ナラスト結論スルヲ得ス而シテ「剃刀不要」ノ文字及其稱

呼ハ除毛劑ノ商標トシテ十分ノ甄別力ヲ有シ特別顯著ナルモノト認ム次ニ請求人ハ本件商標ヲ被請求人カ明治三十二年七月一日以前ヨリ引續キ善意ニ使用セル事實ナシト主張スルモ被請求人カ本件商標ヲ明治三十二年七月一日以前ヨリ引續キ善意ニ使用スルモノナルコトハ乙第一號證ノ一及證人三上金治ノ供述ニ照シテ之ヲ認定スルニ足り其使用ノ惡意ナルヲ推定スルノ根據ナシ從テ本件登録商標カ假令請求人ノ主張スル如ク商標法第二條第五號證ニ該當ストスルモ同法第三條第二項ノ規定ニ依リ其登録ハ適法ナルモノトス

仍テ主文ノ如ク審決ス

大正二年七月二十六日於特許局

審判長 特許局事務官 村上隆吉
同 三浦惠一
同 馬場穎一

第五百三號

東京市日本橋區本石町三丁目八番地

同 市京橋區木挽町九丁目七番地特許辨理士

請求人 小林健次郎
右代理人 稻木繁太郎

右第六二〇九號商標登録願拒絕再査定不服抗告審判請求事件ニ付審決スルコト左ノ如シ

主文 抗告審判請求人申立相立タス

申立ノ要領 抗告審判請求人申立ノ要領ハ願書番號第六二〇九號商標登録願ニ對スル拒絕査定ハ不服ニ

付審判ノ上登録スヘシト審決相成度其理由ハ本願拒絕査定ノ要領ハ「ラヂウム」ナル原素ヲ包含セシメタル煙草ナルカ如ク世人ヲ欺瞞セシムル虞アリ依テ登録スヘカラスト謂フニ在リト雖モ是レ本請求人ノ首肯シ能サル所ナリ本願商標ハ Radium 及「ラヂウム」ト二段ニ記シ之ヲ煙草ノ商標トシテ登録ヲ請求スルモノナリ此文字ヲ撰擇シタル所以ハ近代「ラヂウム」ナル語カ世界ノ流行語トナリ從テ世人ノ記憶ニ存シ易キ爲ナリ元來「ラヂウム」ナル物性ハ稀有高價ノモノニシテ之ヲ煙草等ニ混入シテ販賣シ得ヘキモノニアラス從テ煙草ノ商標トシテ「ラヂウム」ナル語ヲ使用スト雖モ「ラヂウム」ヲ含有シタル煙草ナリト世人カ欺瞞セラルヘキモノニアラスト謂フニ在リテ本願一切ノ書類及雜誌發明ニ掲載セル近藤藥學博士ノ講演ヲ證據トシ且第五三〇八二號登録商標ヲ例證トスル旨申立タリ

審査官答辯ノ要領ハ「ラヂウム」屬元素ノ幅射線及「エマナチオン」ハ各種ノ疾病其他ニ奏效顯著ナルコト而シテ「ラヂウム」幅射線及「エマナチオン」ヲ放射スル「ラヂウム」屬化合物ニ付目下盛ニ研究ヲ進メツ、アルコトハ世人ノ熟知スル所ナリ故ニ假令「ラヂウム」ヲ含有セサル煙草ヲ表彰スル爲メニ「ラヂウム」ナル商標ヲ附スルトスルモ「ラヂウム」屬化合物ヲ含有セシメタル煙草ナルカノ如ク其品質ニ付世人ヲシテ錯誤ニ陥ラシムル虞アリ故ニ本願商標ハ商標法第二條第三號ニ該當シ登録スヘカラサルモノナリト認ム則チ請求人ノ申立ハ其理由ナキモノト認ムルヲ以テ請求人ノ申立相立タスト審決相成度ト謂フニ在リ

審決ノ理由 抗告審判請求人ハ「ラヂウム」ハ稀有高價ニシテ煙草ニ混入シテ販賣シ得ヘキモノニアラサルコトハ何人モ判斷シ得ル所ニシテ欺瞞セラルル虞ナシト謂フト雖モ「ラヂウム」屬化合物ノ效用ヲ發揮セシムルニ付テハ「ラヂウム」屬元素若ハ其化合物夫レ自身ヲ混入シテ始メテ其效果アルヘキヤ否ハ今日ニ於テ之ヲ斷定スルコト能サルモ其幅射線若ハ「エマナチオン」ノ作用カ效果ヲ奏スルコトハ現時

一般ニ認メラルル所ナルヲ以テ煙草カ其作用ヲ受ケ或程度ニ於テ「ラヂウム」ノ效果ヲ發揮スヘキモノナリト世人ヲシテ解釋セシムルコトナキヲ保シ難シ故ニ「ラヂウム」ハ稀有高價ニシテ之ヲ煙草ニ混入販賣シ得ヘキモノニアラスト謂フニミヲ以テ世人ヲ欺瞞スル虞ナシト謂フコトヲ得ス則チ抗告審判請求人ノ申立ハ其理由ナキモノトス仍テ主文ノ如ク審決ス

大正二年七月二十八日於特許局

審判長 特許局事務官 村上隆吉
特許局技師 增島文次郎
特許局事務官 田中鐵二郎

第五百三十五號

東京市京橋區南傳馬町一丁目十五番地
同 市京橋區木挽町九丁目七番地特許辨理士

請求人 網野哲一郎
右代理人 稻木繁太郎

右第二三七八號商標登錄願拒絕再査定不服抗告審判請求事件ニ付審決スルコト左ノ如シ
主文 請求人ノ申立相立タス
申立ノ要領 請求人ハ原査定ハ不服ニ付審理ノ上本願商標ハ登録スヘキモノト審決アリタシト申立テ其理由ノ要領ハ本願商標ハ上部ニ寶冠ヲ有スル橢圓形ノ尾錠内ニ特種ノ魚形ヲ畫キ其左右ニ布形及翼ヲ有スル怪獸ヲ畫キタルモノニシテ之ヲ帽子外七品ニツキ登録ヲ請求スルモノトス然ルニ第五三六八八號登錄商標ハ砂目ヲ有スル盾形内ニ二箇ノ連續セル刷子ヲ畫キ其直上ニ羽毛線ノモノト左右ニ鱗狀及翼ヲ有スル怪獸ヲ畫キタルモノニシテ本願商標トハ全然其商標ノ要素ヲ殊別スルノミナラス其外觀ニ於テモ亦全ク區別アルモノトス元來帽子ノ商標トシテ寶冠及怪獸ハ一般ニ使用セラレツ、アルモノニシテ決シテ第五三六八八號ノ獨占ニアラサルモノニシテ此事實ハ第五三六八八號ニ於ケル盾形ノ兩側ニ翼アル怪獸ヲ畫キタルモノカ明治四十五年六月二十七日ヲ以テ登録シアルニ拘ラス其後ニ於テ第五三六八八號カ明治四十五年七月六日付ヲ以テ登録セラレタルニ徴スルモ立證シ得ルモノトス故ニ原審ニ於テ單ニ翼アル怪獸ノ付記セル一事ヲ把ヘテ本願ヲ第五三六八八號ノ類似商標ト斷定シタルハ甚タ其當ヲ得サルモノトス加之本願ト第五三六八八號トハ其商標ノ要部ハ勿論其外觀ヲ全然甄別スルモノナルカ故ニ何レノ點ヨリ之ヲ見ルモ本願商標ヲ拒絕シタルハ其當ヲ得サルモノトス又第五三六八八號ハ單ニ帽子ノモノニ登錄アルニ拘ラス本願ハ帽子以外ニ七種ノ指定商品アルニ拘ラス之レヲ同一商品ナリト斷定シタルモ亦其當ヲ得サルモノトスト云フニ在リ

審査官答辯ノ要領ハ請求人ハ大正元年十月九日特許局ノ爲シタル指定商品訂正ニ關スル通知ニ對シ指定商品中ヨリ帽子ヲ削除セサル旨答申シタルモノニシテ從テ本願商標ト第五三六八八號商標トハ其指定商品ニ於テ相抵觸スルモノナリ而シテ兩商標カ其圖形ニ於テ相類似スルハ再審査査定書中記載スル所ノ如シト云フニ在リ

審決ノ理由 本願商標ト宮内良助ノ先願ニ係リ帽子ニ專用スル第五三六八八號登錄商標トハ共ニ上半身ハ鳥ニシテ翼ヲ立テ下半身ハ獸ニシテ尾ヲ舉ケタル怪異ノ動物カ左右兩側ニ立チテ相對向シ中央上部ニ於ケル冠ヲ摺ミ下方ニ布片ヲ纏ヒタル圖形ニシテ其外觀ニ於テ彼此混同誤認セラル、ノ虞アリテ相類似スル商標ナリトス中心ニ於ケル魚ノ圖形ト刷子ノ圖形トノ差異前示ノ冠ノ形狀ノ差異及其他ノ少

差異アリト雖以テ兩商標ヲ甄別シ易カラシムルニ足ラス寶冠及翼アル怪獸ノ圖形カ帽子ノ商標ノ構成部分トシテ一般ニ使用セラル、モノナリトノ請求人ノ主張ニ係ル事實ハ其引證スル第五三三七八號登錄商標ト第五三六八八號登錄商標トノ對照ニ依ルモ之ヲ肯定スルニ足ラス而シテ請求人ハ本願商標ヲ主トシテ帽子ニ使用セントスルモノニシテ若シ帽子ニ付登錄ヲ得サル場合ニハ其他ノ指定商品ノミニ付テ登錄ヲ得ンコトヲ希望スルノ趣旨ヲ以テ本件請求ヲ爲スモノニアラサルコトハ請求人陳述ノ全體ニ依リ明カナルヲ以テ本願商標ノ登錄ハ之ヲ拒絕スヘキモノトス

仍テ主文ノ如ク審決ス

大正二年七月二十九日於特許局

審判長 特許局事務官 村上隆吉
同 田中鐵二郎
同 馬場穎一

第五百三十四號

大阪市南區瓦屋町一番町二番屋敷

東京市京橋區錦屋町十番地特許辦理士

大阪市西區江戸堀下通三丁目十二番屋敷

同 市東區備後町二丁目三十六番地特許辦理士

請求人 山本壽

右代理人 内村達次郎

被請求人 秋山定一

右代理人 堤他彦

右當事者間ノ第五三八四三號商標登錄無效審判請求事件ニ付大正二年四月二十九日當局ニ於テ爲シタル

審決ニ對シ抗告審判請求ヲ爲シタルニ依リ審決スルコト左ノ如シ

主文 抗告審判請求人ノ申立相立タス

抗告審判費用ハ抗告審判請求人ノ負擔トス

申立ノ要領 當審請求人ハ原審決ヲ破毀ス抗告審判被請求人ノ申立相立タス審判費用ハ原審抗告審共ニ
抗告審判被請求人ノ負擔トストノ審決アリタシト申立テ其理由ノ要領ハ第一、當審被請求人カ明治四十四年十月一日出願シ且ツ使用シタル文字商標「ウィーク」ナルモノハ既ニ登錄トナレル第三一四四七號「ウィール」ナル文字商標ト其字劃及配置等頗ル近似シ外觀上極メテ相類似スルカ故ニ兩者ハ竝ヒテ別人ニ登錄セラレ得ヘキモノニアラス 本件登錄商標ハ「Week」ウィーク「二週」ト文字ヲ三段ニ横記シ且ツ特殊ノ欄ヲ設ケタルモノニ係リ毫モ前記「ウィール」登錄商標ト類似スル所ナシ然ルニ當審被請求人ハ自己ノ「ウィーク」商標カ外觀上「ウィール」登錄商標ト類似シ登錄ノ資格ヲ缺クモノナルコトヲ忘レ當審請求人ノ本件登錄商標ヲ嫉視スルノ餘リ自己カ受ケタル拒絕査定ノ理由ノ當否ヲ疑ヒ又特許局審査ノ統一ヲ缺クカ如ク云爲スルハ失當ナリ第二、當審被請求人カ「ウィーク」商標ヲ附シタル賣藥治淋劑ノ製劑ニ着手シタルハ明治四十二年十一月ニシテ其前既ニ明治四十年十二月ニ於テ登錄セラレタル第三一四四七號「ウィール」商標ト類似スルモノナルカ故ニ始メヨリ其權利ヲ侵害セスシテハ使用シ能ハサル筋合ナリ殊ニ明治四十四年十一月「ウィーク」商標ノ出願カ前記第三一四四七號登錄商標ニ類似ストノ理由ノ下ニ拒絕セラレタル以後ノ使用ハ惡意ノ使用タルコト疑ヲ容ル、ノ餘地ナク商標法ノ保護ヲ受ケ得ヘキモノニアラス如キ法律ノ保護ニ浴シ得サル不正當且ツ惡意ノ使用ヲ理由トシテ本件審判ノ請求ヲ爲スハ失當ナリ第三、商標法第二條第五號ニ世人ノ周知スル標章トハ客觀的ニ世人カ周知知了シタルコトヲ要シ主觀的ニ世人ニ周知セシメントシテ或手段ヲ試ミタルヲ以テ足ルモノニアラス

然ルニ當審被請求人カ立證セシ處ハ前者ニアラスシテ後者ナリ又證人ノ言ハ適確ニ世人カ周知シタル事實ヲ明白ナラシムルニ足ラサルノミナラス甲第四號證ノ一、二、三ハ明治四十三年ヨリ同四十五年ニ互ル約二年間ニ於ケル僅々三箇ノ注文端書ニ過キス而モ此等ニヨリテ直ニ周知ヲ斷セラレタルハ寧ロ其大膽ニ驚カサルヲ得ス第四、當審被請求人カ「ウィーク」商標ヲ使用シタルモノハ治麻劑中只洗滌用水劑ノミニ過キス此點ハ曩ニ抗告審判請求人ヨリ特ニ申請書ヲ以テ主張シタルニモ拘ラス原審決カ漫然一切ノ治麻劑ニ對シテ無効ノ審決ヲ下シ此點ニ對スル理由ヲ附セサリシハ粗漏ノ責ヲ免ル、能ハスト云フニ在リ

當審被請求人ハ抗告審判請求人ノ申立相立タス抗告審判費用ハ抗告審判請求人ノ負擔トストノ審決アリタシト申立テ其理由ノ要領ハ當審被請求人ノ登錄出願セシ「ウィーク」ナル商標カ「ウィール」登錄商標ニ類似スルモノナリトセハ「ウィーク」商標ノ使用ハ客觀的ニ不正ナリト斷スルヲ得ヘク該登錄出願事件ニ關與セラレタル審査官ハ兩者類似ナリト認定セラレタリ然レトモ當審被請求人ハ然カ信セサルヲ以テ再審査ヲ仰クノ意思ナリシモ營業ニ忙殺サレ爲メニ再審査請求期間ヲ懈怠セリ依テ今日之ニ對スル不服ヲ申立ツル途ナシト雖モ拒絕査定ハ確定判決ノ如ク既判效無キヲ以テ査定理由ノミヲ以テ確定的ニ兩商標ヲ類似ナリト斷スルハ早計ナリ善意惡意ハ使用者ノ意思ノ問題ナレハ假令最初出願ニ於テ拒絕査定ヲ受クルモ出願者ニ於テ類似セストノ確信ヲ有スルニ於テハ未タ主觀的ニ惡意ナリト云フヲ得ス商標カ周知セラレタリト云フニハ必スシモ或一定ノ地域内ノ凡テノ人ニ知ラルルコトヲ要セス只多數ノ不特定人ナルコトヲ以テ足ル原審ニ於ケル證據ニ依レハ當審被請求人ト取引ヲ爲セル市内數十ノ藥店ニ於テ本件商標ヲ附シタル商品カ販賣セラレタル事實ニシテ證人ノ證言セル如ク取引ヲ二年有餘繼續シタル點ヨリスルモ如何ニ多クノ商品カ世上ニ販布セラレタルカヲ推知スルヲ得ヘク是等ノ事

實ヲ綜合スルトキハ當審被請求人使用ノ商標カ商品ト共ニ本件登錄商標出願前ニ於テ客觀的ニ世人ニ周知サレタルコトヲ認ムルハ不當ニアラス又同一商品ハ丸藥、水劑、散藥等ノ如キ物理的性状ノ差異ヲ以テ區別ノ唯一ノ標準トナス假令物理的性状ノ異ナル商品ニアリテモ用途同一ナルモノハ之ヲ同一商品ナリト云フニ妨ケナシ同一病ニ對シテ使用スヘキ藥劑ニ同一若ハ類似ノ商標ヲ使用スルトキハ需要者ハ之レカ爲メ商品ヲ混同シ不測ノ損害ヲ被ルニ至ル之ヲ放任スルカ如キハ類似商標ノ登錄又ハ使用ヲ嚴禁シ以テ取引界ノ秩序ヲ維持スルコトヲ目的トスル我商標法ノ根本觀念ト相容レサル所ナリ本件登錄商標カ當審被請求人使用ノ商標ト類似ナルコトハ原審ニ於テ主張シタル所ノ如シト云フニ在リ

審決ノ理由 當審被請求人カ甲第一號ニ於ケル如ク「ウィーク」ナル文字ヲ瓶ニ現ハシ且其外裝ニ「ウィーク」ナル文字及 WEEK ナル歐文字ヲ現ハシ此等ノ文字ヲ治麻水劑ノ商標トシテ明治四十三年五月頃以來引續キ使用セルコトハ證人上原米次郎及宇治伊之助ノ訊問調書ニ依リ之ヲ認ムルヲ得又其商標使用ノ事實カ明治四十五年二月頃ニ於テ既ニ賣藥業者及該藥劑ノ需要者ノ多數ニ知ラル、ニ至リタルコトハ右二證人ノ訊問調書及甲第四號證ノ一乃至三ニ依リ之ヲ認ムルヲ得從テ當審被請求人ノ前示商標ハ明治四十五年二月頃ヨリ既ニ世人ニ周知セラレタルモノトス而シテ當審請求人ノ本件第五三八四三號登錄商標ハ「ウィーク」ナル文字及 WEEK ナル歐文字ヲ有スルヲ以テ前示ノ周知商標ト混同誤認セラル、ノ虞アリテ相類似シ其登錄出願ハ明治四十五年五月三日ナルヲ以テ其指定商品中ノ藥劑ノ一部タル治麻劑ニ付テハ商標法第二條第五號及第十一條ニ依リ其登錄ヲ無効ト爲スヘキモノトス當審請求人ハ第三一四四七號登錄商標ヲ援イテ論スル所アリト雖モ第三一四四七號登錄商標タル「ウィール」ナル文字ト當審被請求人ノ前示周知ノ商標タル「ウィーク」ナル文字及 WEEK ナル文字トハ藥劑需要者ニ於テ容易ニ甄別スルヲ得ヘク混同誤認ノ虞ナキヲ以テ相類似セス從テ曩ニ當審被請求人カ該周知商標

ノ登録ヲ出願シ該登録商標ニ類似セリトノ認定ニ依リ登録拒絶ノ査定ヲ受ケ其査定カ確定シタルノ事實アレハトテ爾後ニ於ケル使用ヲ以テ第三一四四七號登録商標權ノ侵害ナリト謂フヲ得ス故ニ此點ニ關スル當審請求人ノ所論ハ當ヲ得ス又當審請求人ハ同一商品ノ意義ニ付テ論スル所アリト雖モ商品カ商標法ノ意義ニ於ケル同一商品ナルヤ否ヤハ其商品ノ性質、形狀、用途等諸般ノ情態ヲ綜合シテ之ヲ判定スヘキモノナルヲ以テ同一疾病ニ對スル藥劑ニ付テハ丸藥、散藥及水藥ノ如キ相互間ニ於ケル狀態ノ差異及外用藥タルト内用藥タルトノ差異ノ如キハ以テ商標法上ノ意義ニ於ケル同一商品タルコトヲ妨クヘキモノニアラス從テ此點ニ關スル當審請求人ノ所論モ亦當ヲ得ス

仍テ主文ノ如ク審決ス

大正二年八月八日於特許局

審判長 特許局事務官 村上隆吉
同 田中鐵二郎
同 馬場顯一

第五百二十六號

大坂市南區鹽町通二丁目十一番屋敷 請求人 田中寅之助
東京市京橋區館屋町十二番地特許辨理士 右代理人 荒木虎太郎
獨逸國來因河畔ルトウツヒスハーフエン 被請求人 バイゲツシエ、アニリン、ウ
東京市麴町區八重洲町二丁目一番地特許辨理士 右代理人 ウオルター、オーガス
タス、デ、ハピラノド

右當事者間ノ第五三九九四號商標登録無效審判請求事件ニ付大正二年四月二十九日當局ニ於テ爲シタル審決ニ對シ抗告審判請求ヲ爲シタルニ依リ審決スルコト左ノ如シ

主文 抗告審判請求人ノ申立相立タス

抗告審判費用ハ抗告審判請求人ノ負擔トス

申立ノ要領 當審請求人ハ原審決ハ不當ナリトノ審決アリタシト申立テ其理由ノ要領ハ商標ノ類似トハ其全形體ノ相類スルカ又ハ其主要部分或ハ稱呼ノ相似タルトキヲ云ヒ商標全圖中ノ一部又ハ一小部ニ於テ類似スルモ之ヲ以テ商標法上ヨリハ類似ト見做スコトナシ本件ノ如ク當審被請求人ノ商標ニ於ケル一小部分カ當審請求人ノ商標ト類似スルヲ以テ無効トナストキハ全登録商標中相類似セサルモノナク過半ハ無効ニ歸スヘキモノニシテ此ノ如クナルトキハ特許局ノ審査登録ハ全然無意味ノモノトナリ一般人民ヲシテ不安ノ念ヲ抱カシメ特許局ヲ信賴スルコト能ハサルニ至ラン當審被請求人ノ商標第四二五三七號ハ市街上ニ三人ノ天使アリ一見天使印ノ商標ナリト認ムル外ナク其下方ニ於テ多大ノ注意ヲナスニアラサレハ認識サレサル一小部分ニ獅子及馬ノ如キモノヲ畫キアリテ是ハ輪廓又ハ裝飾ノ一部トモ見ルノ外ナク何人モ同商標ノ主要部分ニアラサルコトヲ知り得ヘシ即チ其全體ノ圖形及稱呼ニ於テ當審請求人ノ商標トハ全然相違スルモノナリ其他當審被請求人所有二十一箇ノ商標ハ各別ニ圖形模樣ヲ異ニシ何レモ人物、景色等ニシテ當審請求人ノ商標ト何等相關スル所ナキヲ以テ此等多數ノ商標ヲ一括シテ一事件ニ對スル無効審判ヲ仰クハ不法ナルコト論ナシ然カシ何レモ其一隅ニ獅子及馬ノ如キモノヲ畫キアルヲ以テ云々スルナランモ商標ノ主要部分及稱呼ニ於テ全ク相異リタルニ拘ラス全部中ノ一小部分ニ依リテ此ノ如キ主張ヲナシ得ヘキモノニアラサルヘシト云フニ在リ

ハ或登録ノ例ヲ引キ或程度マテノ類似ハ特許局ノ是認セル所ト成リ居レリトノ論ヲ立證セント企テタ
リ然レトモ知ラスヤ特許局ハ商標ニ付判断ヲ下スニ各商標ニ對シテ一々別ニ之ヲ論シ其判定ニ於テ決
シテ他ノ干渉ヲ許サ、ルコトヲ絶エス宣言セルノ事實アルヲ又當審請求人ハ商標第四二五三七號ニ於
テハ多大ノ注意ヲナスニアラサレハ認識サレサル一小部分ニ楯其他ノ圖形アル旨説明セントスト雖這
ハ不合理ノ辯明ナリト云ハサルヲ得ス當審被請求人ノ商標ヲ見タル者後ニ至リ當審請求人ノ商標ヲ見
ハ必スヤ斯ル商標ヲ曩キニ見タルコトアリシトノ追憶ヲ起シ當審被請求人ハ現ニ双方カ用ヒ居ル形式
ニテ相重ナリ居ル楯ノ圖形ヲ別箇ノ登録商標トシテ使用セリト斷定スルニ至ルヘシ當審請求人ハ楯ノ
圖形ハ主要部分ニアラス商標ノ一小部分タルニ過キスト論スト雖該圖形ハ請求人ノ主張セル如キ不必
要ノ部分ニアラス當審被請求人カ楯ノ形樣ニ重キヲ置ケルハ第四五七〇五號商標ニ於テ之ヲ知ルヘク
又他ノ多數ノ登録ニ同一ノ形樣ヲ用ヒシヲ見テモ明カナリト云フニ在リ

審決ノ理由 當審被請求人ノ第四二五三七號登録商標ハ二箇ノ楯形ヲ重ネ掛ケ其一方ニハ獅子他方ニハ
馬ヲ描キタル特殊ノ考案ニ成ル圖形ヲ商標構成ノ一部分ト爲シ明治四十三年四月二十二日登録ヲ出願
シ塗料及其他ノ商品ヲ指定商品ト爲セルモノナリ而シテ當審被請求人カ前示特殊ノ圖形ヲ構成ノ一部
分ト爲セル他ノ商標ヲ染料ニ使用シ其商標カ構成ノ一部分トシテ前示ノ特殊ノ圖形ヲ有スルコトカ第
四二五三七號商標登録出願前ヨリ既ニ世人ニ周知セラル、コトハ顯著ナル事實ニシテ前示特殊ノ圖形
ハ第四二五三七號登録商標出願前ニ於テ既ニ世人ヲシテ一見直チニ當審被請求人ヲ聯想セシムルニ足
リタルモノトス第四二五三七號登録商標ヲ其全體ヨリ觀レハ前示特殊ノ圖形ハ下方ニ少サク描カレ僅
カニ該商標ノ一小部分ヲ成セルニ過キスト雖前示ノ如ク世人ノ周知セル特殊ノ圖形ナルカ爲メ該登録
商標ニ在リテモ容易ニ世人ノ注意ヲ惹クニ足ルモノトス當審請求人ノ本件第五三九九四號登録商標ハ

該特殊ノ圖形ト同一ナル圖形ヲ以テ成レルヲ以テ第四二五三七號登録商標ト混同誤認セラル、ノ虞ア
リ從テ該登録商標ニ類似スルモノタルヲ免レス而シテ第五三九九四號登録商標ノ指定商品ハ第四二五
三七號登録商標ノ指定商品タル塗料ニ屬スル假漆外六種ノ商品ニシテ其登録出願ハ第四二五三七號商
標登録出願後ノ明治四十五年四月十二日ナルヲ以テ第五三九九四號商標登録ハ商標法第三條第一項及
第十一條ニ依リ之ヲ無効ト爲スヘキモノトス當審請求人ハ本件審判請求ヲ不適法ナリト論スレトモ一
箇ノ商標登録ヲ無効ト爲サンコトヲ請求スル場合ニ於テ其理由トシテ之ト牴觸スル先願商標ノ登録ノ
多數アルコトヲ主張スルハ毫モ不適法ニアラス
仍テ主文ノ如ク審決ス

大正二年八月八日於特許局

審判長 特許局事務官 村上隆吉
同 田中鐵二郎
同 馬場顯一

第五百十一號

姫路市東魚町三十三番地 請求人 野村文次
神戸市橋通二丁目七番邸特許辨理士 右代理人 飯田勇記
姫路市野里村八百八十八番地ノ一 被請求人 明珍宗之
大阪市北區絹笠町十番地特許辨理士 右代理人 清瀬一郎

右當事者間ノ第五二七三五號商標登録無効審判請求事件ニ付大正二年三月十七日當局ニ於テ爲シタル審決ニ對シ抗告審判請求ヲ爲シタルニ依リ審決スルコト左ノ如シ

主文 抗告審判請求人申立相立タス

抗告審判費用ハ抗告審判請求人ノ負擔トス

申立ノ要領

抗告審判請求人申立ノ要領ハ原審決ヲ廢棄シ第五二七三五號登録商標ヲ無効トス審判費用

ハ全審ヲ通シ被抗告人ノ負擔トストノ審決ヲ求ム其理由ハ(一)明珍火箸ナル稱呼ハ特種ノ形狀ヲ有スル火箸ノ普通名稱ナリ(二)普通名稱タル商品名ト特產地名トヲ表記シタル何等特別顯著ノ特徵ナキ本件商標ハ當然無効タルヘキモノナリ(三)假令普通名稱ニアラストスルモ姫路市内ニ特産スル一種ノ商品名ナリ其商品名ト特產地名トハ何等特別顯著ナルモノニアラストスルモ姫路市内ニ特産スル一種ノ商品名者間ニ慣用セラルル標章ナリ(五)抗告人ハ明治二十六年以來明珍屋ナル商號ヲ使用ス他人ノ商號ヲ登録ヘカラサルコトハ商標法第二條第八號ノ明定スル所ナリ此點ヨリ論スルモ本件商標ハ無効タルヘキモノナリト謂フニ在リ

抗告審判被請求人申立ノ要領ハ本件抗告ヲ棄却ス抗告審判費用ハ抗告審判請求人ノ負擔トストノ審決ヲ求ム其理由ハ(一)明珍火箸ノ人口ニ膾炙セラルルハ被抗告人家ノ火箸カ世ニ顯ハルル爲ニシテ明珍火箸ハ火箸ノ普通名稱ニアラスト(二)『姫路臣明珍』ナル商標ハ雅致掬スヘキ特別顯著ノモノナリ(三)本件商標カ同業者一般ニ慣用セラレタルモノニアラストハ原審ニ於テ詳述セル如クニシテ尙乙第七號ノ四ニ依ルモ明珍火箸ハ被抗告人家ノ外之ヲ製造スル者ナキコト明ニシテ從テ明珍火箸ナル名稱カ慣用セラルルノ事實ナシ(四)假ニ慣用セラレタリトスルモ被抗告人家カ明治初年以前ヨリ商標トシテ善意ニ使用シ來リタルコトハ抗告人モ爭サル所ニテ此點ヨリスルモ商標法第三號第二項ニ依リ其登録ハ正當ナ

リ(五)抗告人ハ明治二十六年以來明珍屋ナル商號ヲ使用スト謂フモ抗告人ハ明治三十五年四月十日始メテ火箸營業ヲ開業シタルモノニテ其以前明珍屋ナル屋號ナカリシコト乙第一號證ニ依リ明ナリト謂フニ在リ

審決ノ理由

(一)抗告審判請求人ノ提出セル證據ニ依テ見ルニ明珍火箸ナル名稱ノ存在スルコト若ハ抗告

審判請求人カ明珍火箸ナル名稱ヲ使用セルコトヲ認ムルニ足ルトスルモ明珍火箸ナル名稱ヲ以テ一種ノ商品ノ普通名稱ナリト爲スニ足ラズ(二)本件商標『姫路臣明珍』ノ五文字ハ一種ノ銘刻ノ書體ニシテ特別顯著ナラスト謂フコトヲ得ス(三)抗告審判請求人ハ『姫路臣明珍』ナル文字ハ同業者ニ慣用セラルル標章ナリト主張スルモ之ヲ認ムルニ足ル證據ナシ假ニ抗告審判請求人カ其商品ニ此文字ヲ使用シタル事實アリトスルモ之ヲ以テ直ニ本件文字カ商標法第二條第四號ニ所謂同一商品ニ慣用スル標章タル資格ヲ具備スルモノナリト謂フコトヲ得ス(五)抗告審判請求人カ明珍屋ナル商號ヲ用ヒタル事實ニ付當事者間ニ爭フ所アルモ原審ニ於テ申立サル新ナル事實及之ニ基ク理由ヲ主張スルモノナルヲ以テ本件抗告審判ニ於テ判斷スヘキ限ニアラスト

仍テ主文ノ如ク審決ス

大正二年八月二十一日於特許局

審判長 特許局事務官 村上隆吉

同 田中鐵二郎
同 三浦惠一

第五百十二號

姫路市東魚町三十三番地	請求人	野村文次
神戸市橋通二丁目七番邸特許整理士	右代理人	飯田勇記
姫路市野里村八百八十八番地ノ一	被請求人	明珍宗之
大阪市北區絹笠町十番地特許整理士	右代理人	清瀬一郎

右當事者間ノ第一八二一號商標權利確認審判請求事件ニ付大正二年三月十七日當局ニ於テ爲シタル審決ニ對シ抗告審判請求ヲ爲シタルニ依リ審決スルコト左ノ如シ

主文 抗告審判請求人申立相立タス

抗告審判費用ハ請求人ノ負擔トス

申立ノ要領 抗告審判請求人申立ノ要領ハ原審決ヲ廢棄シ被抗告人カ商品火箸ニ明珍火箸ナルコトヲ表彰スル爲メ甲第二號證ニ表記スル明珍ノ文字ハ被抗告人ノ有スル登録第一八二一號商標權ノ範圍ニ屬セス審判費用ハ全審ヲ通シテ被抗告人ノ負擔トストノ審決ヲ求ム其理由ハ(一)明珍火箸ナル稱呼ハ姫路名産特種火箸ノ普通名稱ナリ(二)本件登録商標ハ火ノ字明珍ト稱シ抗告人ノ商標ハ「カブト」明珍ト稱ス其稱呼ニハ兩者顯然タル區別アリ(三)明珍火箸ナル名稱ハ特種ノ火箸ニ附スル普通名稱ニアラストスルモ一種ノ商品名ヲ現ハスモノナルコト被抗告人ノ本件登録商標ノ指定商品「明珍火箸」トアルニ徴シテ明瞭ナリ然ラハ本件登録商標中ノ明珍ナル文字ハ特別顯著ナルモノニアラストシテ本件商標ノ要部ト看做スコトヲ得テ從テ請求人ノ標章會々明珍ノ文字アレハトテ爲ニ第一八二一號商標權ノ範圍ニ屬スヘキモノニアラサルコト明白ナリ(四)抗告人ハ明治二十六年以來明珍屋ナル商號ヲ公用ス故ニ明珍

ナル文字ヲ被抗告人カ商標トシテ専用スルコトハ商標法第二條第八號ノ禁止スル所ナリ則チ明珍ノ文字ハ其性質上商品火箸ニ對シ獨立シテ商標ノ要部ヲ構成スルコト能ハスト謂フニ在リ

抗告審判被請求人申立ノ要領ハ本件抗告ヲ棄却ス抗告審判費用ハ抗告審判請求人ノ負擔トストノ審決ヲ求ム其理由ハ(一)明珍ノ二字ハ商品ノ普通名稱ニアラスト(二)被請求人ノ第一八二一號商標ヨリ生スル自然ノ稱呼ハ明珍ナリ(三)同商標ノ主要部分カ明珍ノ二字ニアラルコトハ該商標自體ニ依リ明ナリ甲第二號證ニ明珍御火箸ト記シアル故ニ稱呼上被請求人ノ本件登録第一八二一號商標ト混同誤認ノ虞アルモノナリ(四)抗告人ハ明治二十六年以來明珍屋ナル商號ヲ公用スト主張スルモ抗告人カ明珍屋ト稱スル屋號ヲ使用セルハ明治三十六年七月以後其製造ノ火箸ヲ明珍火箸トシテ製造販賣スルノ方法トシテ惡意ニ此屋號ヲ稱ヘタルモノナリト謂フニ在リ

審決ノ理由 (一)明珍火箸ナル稱呼カ特種ノ商品ノ普通名稱ナリトノ抗告審判請求人ノ主張ハ其提出セル證據ニ依リテ之ヲ認ムルニ足ラヌ抗告審判請求人ノ提出セル甲號各證ニ依レハ請求人カ明珍火箸ナル文字ヲ用ヒタルコト若ハ明珍火箸ナル稱呼ノ世人ニ周知セラレタルコトヲ認ムルニ足ルトスルモ之ヲ以テ直ニ明珍火箸ノ文字ヲ以テ商品ノ普通名稱ナリト爲ス能ハス(二)抗告審判請求人ハ本件繫争兩商標ハ一ハ火ノ字明珍他ハ「カブト」明珍ト稱スト主張スレトモ斯ノ如キ稱呼カ商標自體ヨリ自ラ生スルモノト認メ難キノミナラス斯ノ如キ稱呼ノ取引上使用セララル證據十分ナラス甲第四三號證及甲第四四號證ヲ眞實ナリトスルモ抗告審判被請求人ノ商標登録後數年ヲ經タル後ニ於テ「カブト」明珍ナル稱呼ヲ使用シタルコトアルヲ證スルニ止マリ火ノ字明珍ナル主張ニ關シテハ一モ證據ノ存スルナシ(三)本件被請求人登録商標中ノ明珍ナル文字ハ前述シタル如ク商品ノ普通名稱ニアラサルノミナラス一種ノ書體ヲ以テ商標ノ中央部ニ之ヲ記シタルモノニシテ其字形ノミヲ以テスルモ十分ノ甄別力ヲ有シ之ヲ以

テ請求人ノ主張スル如ク商標ノ要部ニアラスト爲スヲ得ス(四)商號ニ關スル請求人ノ主張ニ付テハ假ニ其主張スル事實ヲ認ムトスルモ之カ爲メ商標ノ或一部カ其要部ヲ爲サストノ主張ノ理由トナルヘキ限ニアラス
仍テ主文ノ如ク審決ス

大正二年八月二十一日於特許局

審判長 特許局事務官 村上隆吉
同 田中鐵二郎
同 三浦惠一

第五百十三號

姫路市東魚町三十三番地 請求人 野村文次
神戸市橋通二丁目七番邸特許辨理士 右代理人 飯田勇記
姫路市野里村八百八十八番地ノ一 被請求人 明珍宗之
大阪市北區絹笠町十番地特許辨理士 右代理人 清瀬一郎
右當事者間ノ第四六九一七號商標登録無効審判請求事件ニ付大正二年三月十七日當局ニ於テ爲シタル審決ニ對シ抗告審判請求ヲ爲シタルニ依リ審決スルコト左ノ如シ
主文 抗告審判請求人申立相立タス
抗告審判費用ハ抗告審判請求人ノ負擔トス

申立ノ要領

抗告審判請求人申立ノ要領ハ原審決ヲ廢棄シ被抗告人ノ請求ヲ棄却ス審判費用ハ全審ヲ通シ被抗告人ノ負擔トストノ審決ヲ求ム其理由ハ原審決ニ於テ百翁宗之ナル名稱ハ明珍鍛若ハ其相續人ニ於テ鍛造シタルモノト誤解セシメ世人ヲ欺瞞スル虞アリトノ理由ニ依リ第四六九一七號商標登録ヲ無効トスト審決シタルトモ是レ(一)商標法第二條第三號ノ規定ヲ誤解セルモノナリ又(二)原審決ニ於テ商標法第三條第二項ハ同法第二條第三號ニ該當スル商標ニ付適用ナシト謂フモ本件商標カ同法第二條第三號ニ該當セサル以上同法第三條第二項ヲ適用シ得ヘキコト勿論ナリ(三)本件商標ハ商標法第二條第八號及同第五號ニ該當スルモノニアラスト謂フニ在リ
抗告審判被請求人申立ノ要領ハ本件抗告ヲ棄却ス抗告審判費用ハ抗告請求人ノ負擔トストノ審決ヲ求ム其理由ハ(一)抗告人ノ本件商標ハ被抗告人ノ商標トシテ世人ヲ欺瞞スル虞最モ甚シキモノナリ(二)抗告人ハ本件商標ハ明治三十二年七月以前ヨリ善意ニ使用セリト主張スルモ抗告人先代文次郎カ被抗告人方ヘ弟子入シタルハ明治三十三年四月ナレハ其以前ニ本件商標ヲ使用セル筈ナシ(三)本件商標ハ商標法第二條第五號及八號ニ該當セスト主張スルモ『百翁宗之』ナル商標ハ被抗告人家ノ商標ナルト同時ニ其氏名ニシテ被抗告人ノ商品ノ標章トシテ世人ニ周知セラレタルコト原審提出ノ證據ニ依リテ明ナリト謂フニ在リ

審決ノ理由

抗告審判被請求人ノ先代明珍鍛カ其製作シタル火箸ニ明治二十五年ニ於テ『八十一翁宗之作』明治二十六年ニ於テ『八十二翁宗之作』ト印刷シ明治四十四年其死亡ニ至ルマテ漸次年數ヲ累加シテ印刷シタルコトハ原審ニ於ケル再答辯書第二點第三點各前段等ニ徴シテ抗告審判請求人ニ於テ異議ナキ所ニシテ之ヲ事實ナリト認定ス抗告審判請求人ハ明珍鍛カ百歳マテ生存シタルヤ否ニ付異議ヲ有シ且甲第八號證ヲ否認スト雖モ前記ノ事實ハ之ヲ否認セサルノミナラス却テ採テ自己ノ主張ノ理由ト

爲シタリ而シテ明珍鍛カ明治二十五年八十一歳ノ當時ヨリ八十一歳翁宗之ト其年齢及稱呼ヲ印刷シ漸次年數ヲ増加シテ百歳以上若ハ九十八、九歳迄同一文字ヲ印刷シテ明珍火箸ヲ販賣シタルヲ以テ事實ナリト爲ス以上抗告審判請求人カ「百翁宗之」ナル商標ヲ印刷シテ火箸ヲ販賣スルニ於テハ恰モ其火箸ハ明珍鍛ノ製作ナルカノ如ク世人ヲシテ誤解セシムルモノニシテ世人ヲ欺瞞スル虞アルモノトス抗告審判請求人ハ商標法第二條第三號ニ於ケル世人ヲ欺瞞スル虞アル商標トハ商標自體ニ於テ世人ヲ欺瞞スヘキ虞アルモノヲ謂ヒ他ノ事情ニ依リ世人ヲ欺瞞スヘキ結果ヲ生スル虞アルモノヲ謂フニアラス本件商標自體ト商品火箸トハ何等關聯シタル意味アルニアラス然ラハ則チ本件商標カ商標自體ニ於テ何等世人ヲ欺瞞スヘキ虞ナキハ明ナル處ナリト主張スト雖モ明珍鍛カ特種ノ火箸ニ對シ約二十年來「翁宗之」ト印刷シテ多數ノ販賣ヲ爲シタル後他人カ百翁宗之ト印刷シテ販賣スルトキハ世人ハ其火箸ヲ以テ明珍鍛ノ製作ナリト誤解シテ之ヲ購入スヘク而シテ抗告審判請求人ハ請求人ノ數代前ニ宗之ナル者アリ百歳マテ生存シタル事實アリ依テ百翁宗之ナル文字ヲ使用スルニ至レリト主張スルモ之ヲ事實トシテ認ムルニ足ル證據ナシ依テ本件登錄商標「百翁宗之」ハ其商標自體ニ於テ世人ヲ欺瞞スル虞アルモノニシテ商標法第二條第三號ニ該當スルモノトス明珍鍛カ明治二十五年以來「翁宗之」ト印刷シ其死亡ニ至ルマテ引續キ漸次年數ヲ増加シテ其販賣スル明珍火箸ノ標章ト爲シタルコト事實ナル以上其販賣ハ約二十年以來引續キ行ハレタル所ニシテ該標章ハ世人ニ周知セラレタルモノトス抗告審判請求人ハ例ハ九十歳翁宗之ノ標章ハ明珍鍛ノ九十歳當時一年間ノ使用ニ外ナラスト主張スト雖モ八十一歳當時ヨリ引續キ「翁宗之」ト漸次數字ヲ増加シタル場合ニ各年數ノ文字ヲ表ハス數字ノ異ル爲メ年々異レル標章ヲ用ヒタルモノト認ムルコトヲ得ヌ又抗告審判請求人ニ於テ明珍鍛ハ百歳マテ生存セスト主張スルモ既ニ八十一歳當時ヨリ百歳ニ垂ントスル年齢マテ明珍鍛カ「翁宗之」

ナル標章ヲ用ヒタルコトヲ事實トスルコト前述ノ如クナル以上本件登錄商標「百翁宗之」ハ世人ノ周知スル他人ノ標章ト同一ナリト謂ハサルヘカラス而シテ明珍鍛ハ明治四十四年十一月十五日ニ死亡シタルト雖モ本件登錄商標ハ明治四十四年二月十五日ニ出願セラレ同年四月二十日ニ登錄サレタルモノナレハ本件商標登錄ハ商標法第二條第五號ニ依ルモ亦之ヲ無効トスヘキモノトス仍テ主文ノ如ク審決ス

大正二年八月二十一日於特許局

審判長 特許局事務官 村上隆吉
同 田中鐵二郎
同 三浦惠一

第四百七十一號

大阪府西成郡豐崎村大字北長柄百一番地
大阪市東區備後町二丁目三十六番地特許辦理士
東京市日本橋區吳服町二番地特許辦理士
名古屋市西區伏見町二丁目十四番地
東京市神田區五軒町五番地特許辦理士

請求人 三平株式會社
右代表者 香村文之助
右代理人 堤他彦
右複代理人 杉田金之助
被請求人 柴垣鐵次郎
右代理人 日山豐次郎

右當事者間ノ第四二一八七號登錄商標權利確認審判請求事件ニ付大正二年一月二十三日當局ニ於テ爲シタル審決ニ對シ抗告審判請求ヲ爲シタルニ依リ審決スルコト左ノ如シ
主文 原審決ヲ廢棄ス

請求人ノ第四二一八七號登錄商標ヲ請求人カ印刷表出シテ販賣シタル洋燈口金ニシテ一旦使用ニ供シタルモノヲ硫酸及鹽酸ノ混合液ニテ洗滌シ被請求人ニ於テ之ヲ販賣スルハ第四二一八七號登錄商標權ヲ侵スモノトス 審判費用及抗告審判費用ハ被請求人ノ負擔トス

申立ノ要領 請求人ハ第四二一八七號登錄商標ヲ印刷シタル洋燈口金ニシテ一旦使用ニ供シタルモノヲ硫酸及鹽酸ノ混合液ニテ洗滌シ被請求人ニ於テ之ヲ販賣スルハ第四二一八七號登錄商標權ヲ侵スモノトス 審判費用ハ原審及抗告審判共被請求人ノ負擔トストノ審決アリタシト申立テ其理由ノ要領ハ被請求人ノ販賣スル洋燈口金ハ被請求人カ洗滌加工シ市場ニ販賣スルモノナルニ依リ請求人カ最初販賣シタル物品トハ實質上相異シ請求人ノ商品ニアラス被請求人ハ該商品ニ請求人ノ商標ヲ現存シテ之ヲ販賣スル權限ヲ有セス從テ請求人ノ商標權ヲ侵害スルモノナリ請求人ノ商品ニシテ一旦需要者ノ手ニ歸シ經濟上ノ用途ニ從ヒ處分セラレ從テ請求人ノ商品タル本質ヲ喪失セシ物品ヲ買集メ之ヲ自己ノ商品トシテ販賣スル被請求人ノ如キハ請求人ノ意思ニ反シテ自己ノ商品ニ請求人ノ登錄商標ヲ現存シテ販賣スルモノニシテ請求人ノ商標ヲ他人カ使用スルモノナリ故ニ茲ニ問題ヲ生シ爭點ハ使用カ自己ナルヤ他人ナルヤニ存ス被請求人カ其商品ニ請求人ノ登錄商標ヲ印刷スルト既ニ印刷シタルモノヲ其儘利用スルトハ毫モ相異ル所ナシ被請求人ノ販賣スル物品ハ請求人ノ新製品ト異リ一旦使用ニ供セラレタルモノナレハ二者ノ品質ニ優劣ノ差異アリ請求人ハ如此劣等ナル物品ヲ自己ノ製造ニ係ル商品トシテ販

賣シタルコトナシト云フニ在リ

被請求人ハ本件審判請求ヲ却下ス審判費用及抗告審判費用ハ請求人ノ負擔トストノ審決アリタシト申立テ其理由ノ要領ハ商習慣ニ於テハ古物ヲ賣買スルニ之カ元製造人ノ意思如何ヲ確ムルノ必要ナキハ勿論之ニ制限ヲ附シテ發賣シタル例アルヲ聞カス其使用ニ堪ヘサルモノヲ買入レテ洗滌シ之ヲ洗口金トシテ販賣スレハトテ毫モ請求人ニ關係ナシ請求人ノ主張ハ相當ノ代價ヲ取リテ發賣シナカラ其品物カ尙使用ニ堪フルニモ拘ラス之ヲ洗滌スヘカラス洗滌スルナラハ即刻セル商標ヲ除去シ請求人ノ製品ニアラサル如クシテ販賣セヨト云フニ同シク甚タ不當ノ主張ナリ洗口金ニ印刷セル商標ノ現存スルヲ恐ル、ナラハ洗滌ノ際消失スヘキ方法ヲ以テ商標ヲ附シ置クヘシ商標權範圍確認ノ審判ハ請求人ノ主張スル如キ自己ノ商品ニ自己カ附シタル商標ニ關シ其處分行爲ノ正不正等ヲ定ムル爲メニ設ケタルモノニアラス洗口金ハ被請求人カ生産シタルモノニアラス依然請求人ノ商品ニシテ被請求人ハ請求人ノ商品ノ古物トシテ販賣セルナリト云フニ在リ

審決ノ理由 被請求人ハ本件審判請求ハ不適法ニシテ却下スヘキモノナリト抗辯セルヲ以テ先ツ此點ニ付テ案スルニ本件請求ハ請求人ノ第四二一八七號登錄商標ヲ請求人カ印刷表出シテ販賣シタル洋燈口金ニシテ一旦使用ニ供シタルモノヲ硫酸及鹽酸ノ混合液ニテ洗滌シ被請求人ニ於テ之ヲ販賣スルハ請求人ノ第四二一八七號登錄商標權ヲ侵スモノナルコトノ確認ヲ求ムルニ在リ請求人ハ一定ノ申立ニ於テ被請求人ノ行爲カ請求人ノ商標權ノ範圍ニ屬ストノ審決ヲ求ムト陳述シ其用語正確ナラスト雖其一定ノ申立ノ趣旨カ前示ノ如ク被請求人ノ行爲カ請求人ノ商標權ヲ侵スモノナルコトノ確認ヲ求ムルニ在ルハ口頭審理ノ際ニ於ケル請求人ノ陳述ニ依リテ明ニシテ被請求人ニ於テモ異議ヲ挿マサル所ナリ抑商標權ハ商標ヲ指定商品ニ使用スル權利ナルコト商標法第五條第二項ニ依ルモ明ニシテ該權利ハ商

標自體指定商品及使用ノ三點ニ付成立スルモノナリ從テ商標權範圍確認ノ問題モ此三點ノ全部若ハ一部ニ付發生シ得ルコト當然ナリト謂ハサルヘカラス詳言スレハ甲者ノ登錄商標ト乙者ノ無登錄商標トノ間ニ於ケル商標權範圍確認ノ問題ハ獨リ第一、甲乙兩者ノ商標自體カ同一若ハ相類似スル程度ノモノナルヤ否ヤニ付キ争アル場合ニ於テノミ生スルモノニアラスシテ第二、甲者ノ商品ト乙者ノ商品トカ商標法ニ於ケル商品類別上ノ意義ニ於テ同一ト云フヘキ程度ノモノナルヤ否ヤニ付争アル場合及第三、乙者ノ行為カ商標ヲ商品ニ使用スルモノト稱スヘキ程度ノモノナルヤ否ヤニ付争アル場合ニ於テモ亦生スルモノトス本件ニ於テハ指定商品洋燈口金ニ請求人ノ自ラ印刻表出シタル第四二一八七號登錄商標カ其洋燈口金ノ硫酸及鹽酸ノ混合液ニテ洗滌セラレタル後ニ於テモ尙其儘其洋燈口金ニ殘存スルコト及其洋燈口金カ洗滌ノ後ニ於テモ依然トシテ洋燈口金ナルコトニ付テハ當事者双方ニ於テ争ナシ故ニ本件ニ於テハ商標自體カ口金洗滌ノ前後ニ於テ同一ナルハ勿論其商品モ亦商標法ニ於ケル商品類別上ノ意義ニ於テハ洗滌ノ前後ヲ通シテ同一商品ナルコト言フ俟タス從テ本件ニ於ケル當事者所争ノ要點ハ硫酸及鹽酸ノ混合液ヲ以テ洗滌シタル洋燈口金ヲ之ニ印刻表出セル第四二一八七號登錄商標ノ殘存セル儘被請求人カ販賣スルハ商標法上被請求人ニ於テ該登錄商標ヲ洋燈口金ニ使用スルモノト謂フヘキ程度ノモノナルヤ否ヤニ在リテ請求人ノ一定ノ申立ノ趣旨ハ被請求人ノ行為カ請求人ノ第四二一八七號登錄商標權ニ牴觸シ其權利範圍ヲ侵スモノナルコトノ確認ヲ求ムルニ在ルカ故ニ其請求ハ前示第三ノ場合ニ該當ス從テ本件審判ヲ不適法ナリトシテ其却下ヲ求ムル被請求人ノ抗辯ハ理由ナシニ請求人ノ當審ニ於ケル請求ハ原審ニ於ケル請求ノ要旨ヲ變更シタルモノナルヤ否ヤニ付テ案スルニ請求人ノ原審ニ於ケル一定ノ申立ハ被請求人ノ販賣スル甲第二號證物品ニ使用スル商標ハ請求人ノ第四二一八七號登錄商標權ノ範圍ニ屬ストノ審決ヲ求ムト云フニ在リテ一見當審ニ於ケル一定ノ申立

ト相齟齬セルカ如キ嫌ナキニアラスト雖原審ニ於ケル一定ノ申立ニ於テ登錄商標權ノ範圍ニ屬スト云ヘルハ登錄商標權ノ範圍ニ牴觸シ其權利ヲ侵スト云フノ趣旨ナルコト當審ニ於ケル一定ノ申立ニ關シ前ニ說示シタル所ニ依リ自ラ明カナルヘク又商標ハ其レ自體ノミニテハ商標權ヲ侵スモノニアラスシテ商標ヲ同一商品ニ使用スルコトカ商標權ヲ侵スモノナルヲ以テ請求人カ原審ニ於ケル一定ノ申立ニ於テ被請求人ノ販賣スル甲第二號證ニ使用スル商標カ請求人ノ商標權ノ範圍ヲ侵スコトノ確認ヲ求ムト云ヘルハ被請求人カ甲第二號證洋燈口金ヲ販賣スル行為カ甲第二號證ニ表出セル商標ヲ甲第二號證ノ物品タル洋燈口金ニ使用スルモノニシテ請求人ノ商標權ヲ侵スモノナリトノ確認審決ヲ求ムルノ趣旨ナルコト原審ニ於ケル請求理由ノ全體ニ徵シテ之ヲ認ムルヲ得而シテ甲第二號證ニ表出セル商標カ請求人ノ第四二一八七號登錄商標ト異ル所ナキコト及甲第二號證物品ト第四二一八七號登錄商標ノ指定商品トカ商標法ニ於ケル商品類別上ノ意義ニ於テ同一商品ナルコトハ本件當事者間ニ争ナキ所ナルカ故ニ請求人ノ原審ニ於ケル請求人ノ一定ノ申立ト當審ニ於ケル請求ノ一定ノ申立トハ其趣旨ヲ同フスルモノナリ加之當審ニ於ケル請求ノ理由ト原審ニ於ケル請求ノ理由トモ亦相異ル所ナシ從テ請求人ハ當審ニ於テ請求ノ要旨ヲ變更シタルモノニアラス仍テ本案ノ争點タル請求人ノ第四二一八七號登錄商標ヲ請求人カ印刻表出シテ販賣シタル洋燈口金ニシテ一旦使用ニ供シタルモノヲ硫酸及鹽酸ノ混合液ニテ洗滌シ被請求人ニ於テ之ヲ販賣スルハ被請求人カ該登錄商標ヲ洋燈口金ニ使用スルモノナリト謂フヘキモノナルヤ否ヤニ付テ案スルニ甲者カ自己ノ登錄商標ヲ自己ノ製造ニ係ル商品又ハ其商品ノ容器若ハ包裝ニ表出シテ其商品ヲ販賣スル場合ニ於テ其商品ヲ請賣スル乙者ハ其商品ニ甲者ノ登錄商標ヲ使用スルモノト謂フヘカラサルコト勿論ナリト雖モ第一、乙者カ其容器若ハ包裝ノ内容タル商品ニ代フルニ甲者ノ製造ニ係ラサル商品ヲ以テシ其儘

之ヲ販賣シ其商品カ商標法ニ於ケル商品類別上ノ意義ニ於テ甲者ノ製造ニ係ル商品ト同一ナルトキ又ハ第二、乙者カ商品ヲ取替ヘタル後丙者カ容器若ハ包装ニ甲者ノ登録商標ノ現存スル儘其商品ヲ販賣スルトキハ第一ノ場合ニ於ケル乙者ノ行為及第二ノ場合ニ於ケル丙者ノ行為ハ孰レモ甲者ノ登録商標ヲ甲者ノ商品ト同一ナル商品ニ使用スルモノト謂フヘキモノナルコト商標ノ性質特ニ商標法第五條第二項及第二十三條第一項第一號ノ規定ニ照シテ明カナリ本件ニ於ケル問題ハ商品タル洋燈口金ニ直接ニ登録商標ヲ印刻表示シタル場合ニ關スルモノニシテ商品ノ容器若ハ包装ニ關係ヲ有セスト雖商標ヲ直接ニ商品ニ表出スルト商品ノ容器若ハ包装ニ表出スルトハ商品ノ性質若クハ其他ノ事情ニ依ル便宜ニ基クニ止マリ商標ヲ商品ニ使用スルモノタルノ點ニ於テハ何等相異ル所ナシ而シテ洋燈口金ハ之ヲ其用途ニ從ヒテ使用スルトキハ口金ノ大部分ニ油煙固着シテ暗褐色ヲ呈シ其用途ニ從ヒテ使用シタルモノナルコトカ一見明瞭ト爲ルニ至ルモ更ニ硫酸及鹽酸ノ混合液ヲ以テ之ヲ洗滌スルトキハ口金ノ實質ヲ溶解シ從テ其實質ニ附着セル油煙ヲ口金ヨリ洗滌シ去リ口金ハ未タ其用途ニ從ヒテ使用セラレタルコトナキモノナルカノ如キ外觀ヲ呈スルニ至ル然カモ之ト同時ニ其實質ノ溶解減耗ニ依リ實質薄弱ト爲リ品位劣等ト爲ル之ヲ洗滌前ノ口金ニ比スレハ品位ノ劣等ナル口金ヲ新タニ製造シタルト同一ノ結果ヲ生ス即チ洗滌後ノ口金ハ最早請求人ノ生産、製造、加工、撰擇、證明、販賣若ハ取扱ニ係ル商品ナリト謂フコトヲ得ス換言スレハ請求人カ第四二一八七號登録商標ヲ以テ表彰セントスル所ノモノナリト謂フコトヲ得ス然カモ其口金ハ未タ其用途ニ從ヒテ使用セラレタル口金ナルカノ如キ外觀ヲ呈セルト第四二一八七號登録商標カ其儘現存セルトニ因リテ一般需要者ヲシテ第四二一八七號登録商標權者ノ販賣スル商品ナリト誤認セシムルニ足ルヘシ故ニ被請求人カ如上ノ洗滌シタル口金ヲ第四二一八七號登録商標ノ現存スル儘販賣スルハ被請求人ニ於テ該登録商標ヲ洋燈口金ニ使用スルモノト謂ハサルヘ

カラス被請求人ハ洗滌シタル口金ヲ取引商人ニ對シ洗口金トシテ即チ古物トシテ販賣セルカ故ニ普通慣行ノ古物販賣ト異ル所ナシト抗辯セリト雖如上ノ事實ヲ認ムヘキ證據ナキノミナラス假リニ其實質アリトスルモ口金ノ洗滌ニ依リ品質劣等ナル口金ノ新タニ製造セラレタルト同一ノ結果ヲ生スルニ至リ且其口金カ洗滌前ノ商品ニ比シ商標法ニ於ケル商品類別上ノ意義ニ於テ同一ナルコト前説明ノ如クナルノミナラス商標ノ使用ハ取引商人ノ外一般需要者ニ對シテ商品ヲ表彰スルモノナルヲ以テ其抗辯ハ理由ナシ

以上ノ理由ナルヲ以テ前説示スルカ如キ被請求人ノ販賣行為ハ請求人ノ第四二一八七號登録商標權ニ牴觸シ其權利範圍ヲ侵スモノトス
仍テ主文ノ如ク審決ス

大正二年九月二十六日於特許局

審判長 特許局事務官 村上隆吉
特許局技師 増島文次郎
特許局事務官 田中鐵二郎

第三百八十六號

英吉利國バリーミンガム市プロムリー街

請求人

東京市麴町區八重洲町一丁目一番地特許辦理士

右代理人

ゼー、ライセツト、サッドル、
エンド、モーター、アクセツ
ソリス、コムパニー、リ
ミテツト
ウォルター、オーガス
タス、デ、ハピラント

東京市京橋區築地三丁目十四番地特許辨理士
同 市赤坂區溜池町五番地

右複代理人 長島 鷺太郎
被請求人 合資會社二葉屋

右代表者

猪俣 泰作
平澤 均治

同 市神田區猿樂町三丁目三番地特許辨理士

右代理人

右當事者間ノ第三一八二〇號商標登錄無效審判請求事件ニ付明治四十五年四月二十六日當局ニ於テ爲シタル審決ニ對シ抗告審判請求ヲ爲シタルニ依リ審決スルコト左ノ如シ

主文 原審決ヲ破毀ス

抗告審判被請求人ノ專用スル第三一八二〇號商標ノ登錄ハ之ヲ無効トス

審判及抗告審判費用ハ抗告審判被請求人ノ負擔トス

申立ノ要領 抗告審判請求人申立ノ要領ハ原審決ヲ廢棄シ更ニ被請求人ノ專用スル第三一八二〇號商標登錄ハ無効トス審判及抗告審判費用ハ被請求人ノ負擔トストノ審決ヲ求ム其理由ハ(一)被請求人專用ノ商標ハ普通ニ使用セラル、氏名ヲ普通ノ書體ニテ記載シタルモノニテ舊商標法第二條第六號ニ該當ス(二)前記商標ハ承諾ナクシテ他人ノ氏名ヲ有スルモノニテ商標法第二條第八號ニ該當ス(三)請求人會社ハ自轉車用附屬品ニ其商號ヲ付シ盛ニ本邦ニ輸入販賣シタルヲ以テ本件商標ヲ付セル自轉車用附屬品ハ請求人會社ノ商品ナルコトヲ誤認セシメ世人ヲ欺瞞スル虞アルモノニシテ商標法第二條第三號後段及舊法第二條第三號後段ニ該當ス(四)本件商標ハ其登錄出願前ニ於テ請求人會社カ其製造品ニ對シ「ライセツト」ナル標章ヲ付シ本邦ニ輸入販賣シ世人ノ周知ニ屬スルモノナリ而シテ同一商品ニ使用スルモノナルヲ以テ商標法第二條第五號ニ該當ス(五)被請求人カ本件商標ノ登錄ヲ出願シタル意思ハ請求

人ノ製造ニ係ル自轉車用器具ヲ輸入シ其販賣ニ係ル商品ニ使用セントシタルモノナリ然ルニ請求人ハ被請求人ニ對シ甲第三號證E號仕入書ニ依リ商品ヲ輸出シ被請求人ハ之ヲ輸入販賣シタルノミニテ其後被請求人ニ對シ輸出販賣セシメタルコトナク又其後商品ノ一手販賣ヲ依託シタルコトナキヲ以テ被請求人カ其商標ヲ使用シ販賣セントスル商品ナシ從テ本件商標ノ登錄ハ商標法第一條第一項及第十五條ノ規定ニ違反スト謂フニ在リ

抗告審判被請求人申立ノ要領ハ請求人ノ抗告相立タス抗告審判費用ハ請求人ノ負擔トストノ審決ヲ求ム其理由ハ(一)請求人主張ノ第一點ニ付テハ舊商標法ハ現行商標法施行ノ結果當然廢止セラレタルヲ以テ舊法違反ヲ以テ本件ノ理由ト爲スコトヲ得ス(二)第二點ニ付テハ係爭商標ハ舊商標法時代ニ登錄セラレタルモノナレハ假ニ承諾ヲ經スシテ登錄ヲ受タリトスルモ商標法附則第二項ニ依リ本件商標權存續期間内ハ之ヲ理由トシテ登錄無効ヲ主張スルヲ得ス且本件商標ハ登錄後三箇年ヲ經過シタルヲ以テ商標法第十八條ニ依ルモ此理由ヲ以テ審判請求ヲ爲スコトヲ得ス(三)本邦顧客ハ未タ請求人會社ノ存在ヲ知ラス故ニ「リセツト」ナル羅馬字ニ依リ直ニ請求人會社ヲ連想スルモノニアラス單ニ「リセツト」印ナルヲ知リ他物ト識別シ得ルノミ從テ請求人會社ノ製造物ト誤認シ爲ニ欺瞞セラルル程度ニ達シタリト謂フヘカラス(四)被請求人ハ請求人ノ主張スル本件商標ハ世人ノ周知スル所ナリトノ事實ハ之ヲ否認ス殊ニ周知ノ理由ハ原審ニ於テ主張セサリシモノニテ當審ニ於テ始テ申立タルハ違法ナリ(五)被請求人ハ自轉車及其構成各部分品ノ表彰ヲ爲ニ本件登錄ヲ受ケタリ而シテ登錄出願ノ際ニ於テハ或ハ輸入ノ商品ニ或ハ自己製作ノ同一商品ノ表彰ヲ目的トセシモノニテ必シモ請求人製作ノ商品ノミニ關セス殊ニ被請求人自ラ工場ヲ有シ自轉車及其構成部分品ヲ製作シ本件其他ノ商標ヲ使用スル以上商標法第一條第一項ノ所謂商品表彰ノ爲メ專用スル意思ナキモノト謂フヘカラス殊ニ請求人カ原審ニ於テ申立テシ

事項中ニハ本項ニ關スル事實ナク當審ニ於テ之ヲ提出シタルハ違法ナリト謂フニ在リ

審決ノ理由 本件係爭商標ハ「ライセツト」ナル文字ヲ羅馬字ヲ以テ綴リタルモノナリ此文字ハ請求人會社ノ商號ノ一部ニシテ請求人會社カ其製作販賣セル商品ニ使用スル標章ト同一ナリ而シテ此標章ヲ付シタル商品ハ本件商標登録出願ノ日即チ明治四十年十一月十六日以前ニ於テ本邦ニ輸入セラレタルコト證人横山利藏ノ證言及甲第三號證A乃至D號仕入書ニ依リ明ナリ又其輸入商品ハ本件商標登録出願以前ニ於テ更ニ本邦各地ニ於テ販賣セラレタルコト及「ライセツト」ノ文字ヲ印刷シタル注入所ノ書面ノ各同業者ニ配布セラレタルコト亦證人横山利藏ノ證言ニ依リ明ナリ即チ請求人ノ標章ハ本件商標登録出願以前ニ於テ世人ノ周知スルモノトス故ニ本件商標ハ商標法第二條第五號ニ該當シ同法第十一條ニ依リ其登録ヲ無効トスヘキモノトス

被請求人ハ請求人ノ主張スル世人周知ノ理由ハ原審ニ於テ主張セス當抗告審ニ於テ始メテ申立タルモノニテ違法ナリト主張スレトモ請求人ハ明治四十五年四月十八日付上申書ニ於テ原審審決前此理由ヲ申立且立證致度旨上申シタルモノニシテ原審ニ於テ申立ナカリシモノト認ムルヲ得ス殊ニ審判請求書理由第一段ニ於テ「ライセツト」ハ被請求人カ舊商標法ノ下ニ其登録ヲ出願セシ時既ニ普通ニ使用サレ又請求人會社ノ特殊製品ニ對スル特稱トシテ一般ニ知ラレ居リシナリ云々トアルニ依リ請求人ハ初ヨリ世人周知ノ事實ヲ申立タルモノナルコト明ナリ故ニ此點ニ關スル被請求人ノ主張ハ其當ヲ得サルモノトス

本件登録商標ノ指定商品ハ自轉車、自動車並ニ各構成部分トス而シテ請求人會社ノ商品ニシテ「ライセツト」ナル標章ヲ付シ本件商標登録出願前本邦ニ輸入販賣セラレタル事實ノ立證セラレタルハ自轉車構成部分品ノ數種ニ過キス然レトモ「ライセツト」ナル標章ハ「ゼ、ライセツト、サッドル、エンド、モータ

ー、アクセッソリース、コムバニー、リミテット」即チ請求人會社ノ標章トシテ周知セラレタルモノナリ而シテ請求人會社ハ自轉車及自動車ノ構成部分品ヲ製作販賣スルモノナルコト其商號ヨリ容易ニ知り得ヘキ所ナルヲ以テ若シ請求人會社以外ノ者カ自轉車、自動車ノ構成部分品ニ此標章ヲ使用スルニ於テハ世人ハ之ヲ以テ請求人會社ノ製作販賣ニ係ル商品ナリト誤認スヘク從テ商標法第二條第三號後段ニ該當スルヲ以テ自轉車、自動車構成部分品全部ニ付本件商標ノ登録ヲ無効トセサルヘカラス又自轉車、自動車ニ付キテハ本件商標ヲ付シタル自轉車、自動車ハ單ニ請求人會社ノ製作ニ係ラサル部分品ヲ以テ構成セラレタルヤ果タ亦請求人會社ノ製作ニ係ル部分品ヲ以テ構成セラレタルヤ其構成上識別ニ困難ニシテ世人ハ兩者ヲ混同誤認スヘシ從テ商標法第二條第三號後段ニ該當スルヲ以テ自轉車、自動車ニ付テモ亦本件商標ノ登録ヲ無効トセサルヘカラス即チ指定商品全部ニ付本件商標ノ登録ヲ無効トセサルヘカラス

抗告審判請求人ハ抗告審判繫屬中其申立ヲ訂正シテ「被請求人ノ専用スル第三一八二〇號商標登録ハ指定商品「サッドル、リム」及「バチル」ニ對シテハ無効トス」ト爲シ更ニ訂正シテ始メ如ク「被請求人ノ専用スル第三一八二〇號商標登録ハ無効トス」ト爲シタリ抗告審判被請求人ハ是レ請求ノ一部ヲ拋棄シテ更ニ申立ヲ爲シタルモノナレハ違法ナリト主張スレトモ商標法ニ於テハ斯ノ如キ訂正ヲ違法ナリトスル規定ナキノミナラス寧ロ商標法施行細則第二十一條ニ準用セル特許法施行細則第十條第三項ニ依リ其訂正ハ違法ニアラス蓋シ其二回ノ訂正ハ共ニ其要旨ヲ變更シタルモノト認ムル能サレハナリ從テ此點ニ關スル被請求人ノ主張ハ其當ヲ得サルモノトス

仍テ主文ノ如ク審決ス

大正二年九月二十六日於特許局

第五百七十二號

神戸市仲町三十三番地

請求人 合名會社鶴谷商會

右代表者

鶴谷忠五郎

項世澄

臺灣臺北市建成街三丁目三十九番地

同 右兩名代理人

清水連郎

東京市日本橋區本石町一丁目五番地特許辨理士

右第五〇三七號商標登錄願拒絕再査定不服抗告審判請求事件ニ付審決スルコト左ノ如シ

主文 抗告審判請求人申立相立タス

申立ノ要領 抗告審判請求人申立ノ要領ハ願書番號第五〇三七號商標登錄願拒絕再査定ハ不服ニ付審判

ノ上登録スヘシト審決相成度其理由ハ再査定ニ於テ玻璃壘ノ内容物品ノ一定セサル以上本願商標ハ世人ヲ欺瞞スル虞アルモノト謂サルヲ得スト爲ササルハ請求人ノ服スル能サル所ナリ内容物品トシテ壘

ニ入ルルモノハ人造自來血ニ限ルヲ以テ内容品ハ決シテ不定ニアラスト謂フニ在リ

審決ノ理由 本件請求人ハ人造自來血ヲ玻璃壘ニ容レテ販賣スルモノニシテ本件商標ハ此人造自來血ヲ

容ル玻璃壘ニ限り之ヲ使用セントスルモノナルコト本件請求書及原査定不服理由書ニ徴シテ明ナリ即

百六

審判長 特許局事務官 村上隆吉

同 田中鐵二郎

同 三浦惠一

テ請求人ノ商品ト人造自來血ニシテ玻璃壘ハ其容器ニ過キス此ノ如キ場合ニ於テ玻璃壘ヲ以テ商標法第一條ニ所謂商品換言スレハ請求人ノ生産、製造、加工、撰擇證明取扱又ハ販賣ノ營業ニ係ル商品ナリト謂フコトヲ得ス從テ本件請求人カ玻璃壘ヲ以テ指定商品トシ本件商標ノ登録ヲ出願シタルハ商標法第一條ニ反スルモノトス

仍テ主文ノ如ク審決ス

大正二年十月二十二日於特許局

審判長 特許局事務官 村上隆吉

同 田中鐵二郎

同 三浦惠一

第五百七十九號

大阪市東區北久寶寺町三丁目八番地

請求人 野村七兵衛

同 市東區道修町五丁目一番地特許辨理士

右代理人 近藤貞三

右第八一〇〇號商標登錄願拒絕再査定不服抗告審判請求事件ニ付審決スルコト左ノ如シ

主文 抗告審判請求人申立相立タス

申立ノ要領 抗告審判請求人申立ノ要領ハ願書番號第八一〇〇號商標登錄願拒絕再査定ハ不服ニ付審判

ノ上登録スヘシト審決相成度其理由ハ本件商標ハ第三一八五五號登錄商標トハ稱呼上ヨリモ將亦隔觀

的ニ見ルモ容易ニ甄別シ得ルモノニシテ商取引上毫モ混同ノ虞ナキコト明ナリト謂フニ在リ

百七

審決ノ理由 按スルニ他人ノ肖像、氏名其承諾ナクシテ之ヲ商標トシテ登録ヲ受クル能サルコト商標法二條第八號ノ規定ナル所ニシテ其立法ノ主旨ハ人格ヲ尊重スルカ爲メニ外ナラス死者ノ肖像、氏名ハ特別ノ規定ナキヲ以テ自由ニ之ヲ商標權ノ目的ト爲シ得ル如シト雖モ人逝テ墳土未タ乾カサルニ當リ其肖像、氏名ヲ以テ恣ニ商標權ノ目的タラシムルコト之ヲ善良ノ風俗ニ稽テ深ク忌マサルヘカラス殊ニ本件ノ如キ内外ニ尊崇セラル、故乃木大將ノ肖像氏名ヲ採テ以テ商標權ノ目的ト爲シ之ヲ商品ニ包裝ニ專用セントスルハ善良ノ風俗ニ反スルモノト爲サ、ルヲ得ス則チ本件出願ハ商標法第二條第三號前段ニ該當スルモノナリトス
仍テ主文ノ如ク審決ス

大正二年十月二十二日於特許局

審判長 特許局事務官 村上隆吉
同 田中鐵二郎
同 馬場穎一

第五百五十四號

岡山市下石井百十番地 請求人 田中鹿子吉
同 市東中山下二十七番地特許辨理士 右代理人 藤田和孝
神戸市楠町四丁目百七十九番地 被請求人 瀧川辨藏
東京市京橋區館屋町十番地特許辨理士 右代理人 内村達次郎

同 市京橋區館屋町十番地特許辨理士

同

小谷鐵次郎

右當事者間ノ第五四二六九號商標登録無効審判請求事件ニ付大正二年六月二十八日當局ニ於テ爲シタル審決ニ對シ抗告審判請求ヲ爲シタルニ依リ審決スルコト左ノ如シ

主文 抗告審判請求人ノ申立相立タス

抗告審判費用ハ抗告審判請求人ノ負擔トス

申立ノ要領 當審請求人ハ原審決ヲ破棄シ抗告審判被請求人ノ請求ヲ却下ス審判費用ハ原審及當審共抗

告審判被請求人ノ負擔トストノ審決アリタシト申立テ其ノ理由ノ要領ハ本件ハ當審被請求人ノ第四一〇一六號登録商標及其他ノ聯合登録商標ト當審請求人ノ第五四二六九號登録商標トノ類似ヲ理由ト爲セルモ原審ニ於テ特ニ第四一〇一六號ト第五四二六九號トヲ以テ最モ類似セルモノトシテ争ヒタルカ故ニ茲ニ此二商標ノ非類似ナルヲ説明スレハ足ルト信シ他ニ論及セス桃牌商標ト桃形獅鼓商標略稱桃形商標トハ稱呼上大ナル差異アリ若シ多少ノ近似アリトスルモ此程度以上ノ近似ハ世間一般ノ商標ニ見ル所ナリ外觀上ノ對比ニ於テモ第四二九三八號、第四四二〇七號、第四五一四七號登録商標ノ如ク近似セルモノアリ本件第五四二六九號登録商標ハ他ノ登録商標ノ聯合商標トシテ登録ヲ受ケ殊ニ施色ノ限定及記載文字ニ於テ第四一〇一六號登録商標ト差異アリ原審決ニ於テハ桃ノ圖形ヲ以テ商標構成ノ要部ト爲シ他ノ圖形及文字ヲ附記及附景ト認メタレトモ桃ノ圖形ハ商標構成唯一ノ要部ニ非ス獅鼓其ノモノ要部ニシテ他ハ副景ナリ又副景中ニ於テモ Best Match ナル文字ハ殆ント主景ヲ爲セリ何ソ此二商標ヲ類似ナリト謂フヲ得ンヤ故ニ本件商標登録ヲ無効トスヘキ理由ナシト云フニ在リ
當審被請求人ハ抗告審判請求人ノ申立相立タス抗告審判費用ハ抗告審判請求人ノ負擔トストノ審決アリタシト申立テ其ノ理由ノ要領ハ桃牌商標ト桃形商標トカ稱呼上類似スルコトハ明白ナリ又兩商標ハ

共ニ世人ノ注意ヲ誘起スル主要部分カ桃ノ圖形ニ在ルヲ以テ外觀上相類似ス殊ニ其ノ色ノ限定ニ依レハ一層酷似ス故ニ本件商標登錄ハ商標法第三條第一項ニ違反セリト云フニ在リ

審決ノ理由 當審被請求人カ明治四十二年十一月一日出願シ同四十三年五月十二日登錄ヲ受ケタル第四一〇一六號登錄商標ハ桃果ノ圖形ヲ以テ成リ文字及周欄ヲ附記シタルモノニシテ其自然ノ稱呼カ桃標ナルコト論ヲ俟タス當審請求人カ明治四十五年四月二十九日出願シ大正元年八月一日登錄ヲ受ケタル本件第五四二六九號登錄商標ハ地色ヲ赤色ニ中央桃形ヲ黃色ニ限定シ且桃形内ニ赤色及藍色ノ小班點ヲ撒布シタル爲メ中央ノ圖形ハ明カニ桃果ノ圖形ト爲リ且ツ其桃果ノ圖形ハ該商標ニ於テ著シク世人ノ注意ヲ惹クニ足レリ從テ本件登錄商標ハ第四一〇一六號登錄商標ト混同誤認セラレ易シ當審請求人ハ獅子及太鼓ノ圖形ニ依リテ兩商標カ容易ニ甄別セラレヘキモノナルカ如ク論セリト雖モ第四一〇一六號登錄商標ヲ見慣レタルモノハ第五四二六九號登錄商標ニ於ケル桃ノ圖形ノ爲メニ注意ヲ惹カレ該登錄商標ニ於ケル獅子及太鼓ノ圖形ヲ自然看過スルヲ普通トス第五四二六九號登錄商標ニ於ケル其ノ他ノ圖形及文字等ハ附記ニ過キスシテ論スルニ足ラヌ又當審被請求人カ當審請求人ノ使用スル外函標ナリトシテ提出シ當審請求人カ其ノ使用ノ事實ヲ原審ニ於テ認メタル甲第十一號證ニハ中央ニ桃形ト大書シアルヲ以テ本件第五四二六九號登錄商標カ取引上桃形標ト稱呼セラレ、コトヲ認ムルヲ得而シテ桃形標ナル稱呼ト桃標ナル稱呼トハ混同誤認セラレ易シ故ニ該登錄商標ハ外觀上ニ於テモ又稱呼上ニ於テモ當審被請求人ノ第四一〇一六號登錄商標ニ類似スルモノトス而シテ兩商標ハ共ニ燐寸ヲ指定商品ト爲セルカ故ニ本件第五四二六九號商標登錄ハ商標法第三條第一項ニ違反シ同法第十一條ニ依リ之ヲ無効トナスヘキモノトス當審請求人ハ尙本件登錄商標カ他ノ登錄商標ノ聯合商標トシテ登錄セラレアルコトヲ理由トシテ論スル所アリト雖既ニ本件登錄商標カ當審被請求人ノ先願商標ニ類似シ且ツ

指定商品ヲ同フスル以上ハ假令當審請求人ノ同一商品ニ專用スル他ノ登錄商標ニ類似スルトモ之カ爲メニ本件商標登錄ヲ維持シ得ヘキモノニアラス
仍テ主文ノ如ク審決ス
大正二年十月二十八日於特許局

審判長 特許局事務官 村上隆吉
特許局技師 增島文次郎
特許局事務官 田中鐵二郎

第五百九十四號

神戸市中山手通二丁目七番屋敷ノ二十九

請求人 三浦長三

右第七五八五號商標登錄願拒絕再査定不服抗告審判請求事件ニ付審決スルコト左ノ如シ
主文 原査定ヲ破毀ス

登錄願第七五八五號商標ハ之レヲ登錄スヘキモノトス
申立ノ要領 請求人申立ノ要領ハ登錄願第七五八五號ニ對スル大正二年八月二十八日付ノ拒絕査定ハ不服ニ付審判ノ上登錄スヘシト審決相成度其ノ理由ハ本願商標ハ「天丹」ノ二字ヨリ成リ第三七二二一號登錄商標ハ「天藥」ノ二字ヨリ成ルモノナリ斯クノ如キ商標ノ類否ハ商標文字中ノ一字カ同一ナリトノ事實ニ依テ決スヘキニアラスシテ大體ノ形狀カ一般人ヲ誤ラシムヘキ程度ニ於テ酷似スルヤ否ヤノ點ニ就キテ決スヘキモノナリ然ルニ「天丹」ト「天藥」トハ何レモ「天」ノ字ヲ用ヒタリト雖モ大體ニ於テ此

二箇ノ商標ハ類似シタルモノト見ルヲ得ス又『藥』ト『丹』トハ孰レモ藥品ノ名稱中ニ用キラルル文字ナリト雖モ『天丹』ト『天藥』トヲ商標トシテ使用シタル場合ニ其ノ形狀ニ於テ又其ノ發音ニ於テ同一ナリトノ感覺ヲ與フルノ點ナシ從テ此二商標ヲ比較スルニ當リ恐ク何人モ之ヲ同一ナリト誤認スルコトナカルヘク取引上毫モ混同ノ虞アルモノニアラスト謂フニ在リ

審査官答辯ノ要領ハ請求人ノ申立相立タスト審決相成度其ノ理由ハ『丹』ナル文字ハ之ヲ或他ノ文字ノ下ニ聯結シテ用ウルトキハ直ニ其ノ藥品ノ表示タルコトヲ了解セシム即チ此文字ハ藥品タルノ意味ヲ極メテ調法ニ表示スル文字ナルカ故ニ『天丹』ト『天藥』トハ管ニ外形上ノミナラス觀念上ヨリスルモ取引上混同ヲ生スルノ虞アルモノト認メサルヲ得スト謂フニ在リ

審決ノ理由 本願商標ハ『天丹』ナル二文字ヨリ成リ第三七二二一號登錄商標ハ『天藥』ナル二文字ヨリ成ル今此兩商標ノ類否ニ就テ案スルニ其ノ外觀ニ於テハ孰レモ『天』ナル文字ヲ用ヒタリト雖モ『丹』ト『藥』トハ其ノ文字著シク相違スルヲ以テ『天丹』『天藥』ノ二文字ノ結合ヨリ成ル兩商標ハ全體ニ於テ其ノ間明ニ甄別アルモノト認ムヘク其ノ稱呼ニ於テモ亦互ニ相紛ラハシキモノニアラス又『丹』ト『藥』トハ素ヨリ同意語ニアラス唯丹ナル文字ハ往々藥劑ノ名稱ニ使用セラルト雖モ此一事ヲ以テ直ニ『天丹』ト『天藥』トノ間ニ觀念上混同ヲ惹起スル虞アリト認定スルハ正鵠ヲ得タルモノニアラス
右ニ述フルカ如ク『天丹』『天藥』ノ兩商標ハ其ノ外觀稱呼ニ於テ又其ノ觀念上ヨリ見ルモ互ニ相類似スルモノニアラス從テ取引上混同誤認ヲ生スル虞ナシ
仍テ主文ノ如ク審決ス

大正二年十一月一日於特許局

審判長 特許局事務官 村上隆吉

特許局技師 增島文次郎
特許局事務官 田中鐵二郎

第五百九十號

臺灣臺北廳大加納堡大稻埕得勝外街七十一番戶

請求人 陳朝駿

右第三六〇一號商標登錄願拒絕再査定不服抗告審判請求事件ニ付審決スルコト左ノ如シ
主文 原査定ヲ破毀シ更ニ審査ニ付ス

申立ノ要領 抗告審判請求人申立ノ要領ハ願書番號第三六〇一號商標登錄願拒絕再査定ハ不服ニ付審判ノ上登錄スヘシト審決相成度其理由ハ審査官カ商標法第三條第一項適用ノ基本ト爲シタル第二九八〇號登錄商標ト本件商標ヲ對照スルニ前者ハ燕カ長旒ヲ啄ミテ飛翔シアル圖ニテ後者ハ鶯哥カ長旒ヲ擢ミ翼ヲ展ヘタル圖ナリ又前者ハ白地枠内ニ黑繪ヲ以テ燕ヲ現ハシ後者ハ赤黃染分ノ地ニ黃色紅翅ノ鶯哥ヲ現ハシタルモノナリ從テ圖形色彩ノ點ニ於テ全ク相類似セサルモノナリト謂フニ在リ

審査官答辯ノ要領ハ請求人ノ申立相立タスト審決相成度其理由ハ係爭兩商標ハ一ハ長旒ヲ擢ミ一ハ之ヲ啄ミタル差アリト雖モ兩商標ハ鳥カ布片ヲ翻シ居ル點ニ於テ相類似スルモノナリ又着色ニ關シテハ本願商標ハ着色ヲ限定スルモノニアラサルヲ以テ理由ト爲スニ足ラスト謂フニ在リ

審決ノ理由 按スルニ第二九八〇號登錄商標ハ燕カ歐文文字ノ表記ヲ有スル布片ヲ啄ミテ飛翔セル圖ナリ本願商標ハ鶯哥カ歐文文字及漢字ノ表記ヲ有スル布片ヲ擢ミテ羽搏タントセル形ヲ表ハセリ燕ト鶯哥ハ共ニ小鳥ナリト雖モ一ハ燕ニシテ一ハ鶯哥ナルコト明瞭ナル圖形ニシテ兩者混同誤認セラル、

程度ニ在リト謂フヘカラス其兩鳥ノ姿勢ニ於テモ一ハ飛翔シ一ハ羽搏タントスル形ニシテ其間甄別アリ之ヲ綜合シテ考フルトキハ本件兩商標ハ互ニ類似スルモノト謂フコトヲ得ス
抗告審判請求人カ曩ニ提出セル査定不服理由書ニ依レハ本願商標ハ他人ノ依囑ニ依リ從來使用シタル商標ナリト謂フヘク果シテ然ラハ抗告審判請求人ハ本願商標ニ付商標權者タリ得ヘキモノナルヤ更ニ審査ヲ要スルモノアリ又本願商標中ニハ他人ノ商號ヲ含ムヲ以テ商標法第二條第八號ノ適用ニ關シ更ニ審査ヲ要ス尙ホ抗告審判請求人ノ申立ニ徵スレハ本願商標ニ付テハ色彩ヲ限定セントスル意思ナルカ如シ此點ニ付テモ亦審査ヲ要ス是等ノ諸點ニ付テハ未タ十分ナル審査ヲ經サルヲ以テ更ニ審査セシムル必要アルモノトス
仍テ主文ノ如ク審決ス

大正二年十一月六日於特許局

審判長 特許局事務官 村上隆吉
特許局技師 增島文次郎
特許局事務官 田中鐵二郎

第五百五十八號

神戸市御幸通八丁目五十五番屋敷 請求人 日野筆吉
同 市山本通四丁目二十二番屋敷特許辨理士 右代理人 足立進三郎
佛蘭西國巴里市ヅヴァント街十八番 被請求人 ウィクトル、クロート

神戸市橋通二丁目七番地特許辨理士

右代理人 飯田勇記

右當事者間ノ第三〇三二五號登録商標權利確認審判請求事件ニ付大正二年七月三日當局ニ於テ爲シタル審決ニ對シ抗告審判請求ヲ爲シタルニ依リ審決スルコト左ノ如シ

主文 抗告審判請求人申立相立タス

抗告審判費用ハ抗告審判請求人ノ負擔トス

申立ノ要領 抗告審判請求人申立ノ要領ハ原審判ヲ排斥シ本件請求人カ商品化粧水ニ使用スル「ヒノー」ナル標記カ本件被請求人ノ有スル登録商標第三〇三二五號ノ權利範圍ニ屬セス審判費用ハ被請求人ノ負擔トスト審決相成度其ノ理由ハ一被請求人ノ有スル第三〇三二五號登録商標ハ單ニ「FED. PINAUD」ト記シテ成ルモノナリ然ルニ外國文字ハ我國ニ於テハ其ノ稱呼ヲ有セサルヲ以テ苟モ「ヒノー」ナル日本文字ヲ附記シ其ノ稱呼ヲ明カニセサル以上ハ前記商標ハ斯ル西洋文字ヲ列ネタル形狀ヲ以テ商標權ノ範圍ト爲シタルニ過キス從テ本件請求人ノ使用スル「ヒノー」ナル商標トハ其ノ形狀上ノ對照ニ於テノミ混同誤認ノ虞アリヤ否ヤヲ鑑別スヘキモノニシテ特別ニ佛語ノ「訓ミ方」ヲ取り彼我稱呼ノ類似ヲ認ムルハ失當ナリ(二假リニ本件被請求人ノ有スル前記登録商標ハ商標上日本ニ於テ之ヲ「ヒノー」ト稱スルヲ至當ナリトシ本件請求人ノ使用スル商標「ヒノー」ト發音上類似スルモノト爲シ得可シトスルモ元來本件請求人ノ使用スル「ヒノー」ナル商標ハ其ノ氏名「日野」ヲ普通ニ使用スル方法ニ於テ表示シタルモノナリ「日野」ヲ「ヒノー」ト引伸ハシテ發音スルコトハ殊ニ關西地方ニ於ケル現今普通ノ稱呼タルノミナラス一般ニ「日野」ヲ「ヒノー」ト呼フモ亦俗間敢テ之ヲ怪マス故ニ原審判ニ於テ「日野」ハ「ヒノー」ト記スヘク「ヒノー」ト記スルヲ以テ普通使用ニ反スルモノト爲シタルハ失當ナリト謂フニ在リ
抗告審判被請求人申立ノ要領ハ抗告審判請求人ノ申立相立タス審判費用ハ抗告審判請求人ノ負擔トス

ト審決相成度其ノ理由ハ一我商標法上ニ於テハ外國ノ文字モ亦之ヲ文字トシテ認メラレタルモノニシテ決シテ一箇ノ圖形トシテ認メラレタルモノニアラス加之商標ノ稱呼ナルモノハ法律上斯々稱呼スヘシト命スルモノニ非スシテ事實上自然ニ生スルモノナリサレハ本件商標カ事實上市場ニ於テ「ビノー」ト稱呼セラル、以上ハ本件商標ノ稱呼ハ即チ「ビノー」ト謂ハサル可カラス(二)且假リニ請求人ノ主張スルカ如ク「日野」ヲ「ヒノー」ト稱スルハ關西地方ニ於ケル普通ノ稱呼ナリトスルモ商標ハ地方的ノモノニアラスシテ全國的ノモノナルヲ以テ全國ニ於テ「ヒノー」ト發音スルニ於テハ其ノ發音ニ從ハサル可カラサルヤ論ナシ殊ニ「ヒノー」ナル文字ヲ「ヒノー」化粧水若ハ其ノ他ノ商品ヲ表示スルカ爲メ商標ノ體様ニ倣ヒ標記スルハ商標法第六條ニ所謂普通ニ使用セラル、方法ヲ以テ表示スルモノニアラスト謂フニ在リ

審決ノ理由 請求人ハ外國ノ文字ヨリ成ル商標ハ特ニ之ニ日本文字ノ振假名ヲ附記スルニアラスンハ我國ニ於テ其ノ稱呼ヲ有セサルヲ以テ商標權ノ範圍ハ其ノ形ニノミ限ラルヘキモノナリト主張スルモ千九百年十二月十四日菲律賓悉及千九百十一年六月二日華盛頓ニ於テ改正セラレタル工業所有權保護ニ關スル千八百八十三年三月二十日ノ巴里同盟條約第六條ノ規定ニ徵シ考フルトキハ外國文字ヲ以テ我商標法上單ニ圖形ニ過キストノ主張ハ其ノ當ヲ得ス外國文字ト雖トモ或範圍内ニ於テハ商標法上文字トシテ認メサル可カラサルモノニシテ少クトモ羅馬字ノ如キハ我商標法上文字トシテ認ムヘキモノトス本件登錄商標第三〇三二五號ノ如キハ即チ其ノ一例ナリ既ニ文字商標タル以上ハ自ラ生スヘキ稱呼ナカルヘカラス然ルニ本件登錄商標カ我國市場ニ於テ「ビノー」ナル稱呼ヲ有スルコトハ顯著ナル事實ナリ而シテ「ビノー」ト「ヒノー」トハ稱呼上相類似ス從テ前審ニ於テ本件登錄商標ト請求人カ商品化粧水ニ使用スル「ヒノー」ナル文字トノ間ニ稱呼上ノ類似ヲ認メタルハ不當ニアラス又請求人ノ主張スル

カ如ク其ノ姓「日野」ハ關西地方ニ於テハ「ヒノー」ト伸ハシテ發音セラル、コト普通ナリトスルモ被請求人ノ提出ニ係ル甲第一號證及甲第二號證ニ示スカ如ク「ヒノー」ナル文字ヲ使用スルコトハ商標ノ體様ニ從ヒテ使用シタルモノニシテ商標法第六條ニ所謂普通ニ使用セラル、方法ヲ以テ自己ノ氏ヲ表示シタルモノト認ムヘカラス以上ノ理由ニ依リ請求人カ甲第一號證及甲第二號證ニ示スカ如ク「ヒノー」ナル文字ヲ商品化粧水ニ使用スルコトハ化粧水ノ標章トシテ使用スルモノニシテ「ビノー」トハ其ノ稱呼類似スルヲ以テ被請求人ノ有スル第三〇三二五號登錄商標ノ權利ノ範圍ニ屬スルモノト認ム仍テ主文ノ如ク審決ス

大正二年十一月十七日於特許局

審判長 特許局事務官 村上隆吉
同 田中鐵二郎
同 中松真卿

第五百八十七號
第五百八十八號

東京市下谷區竹町二十七番地 請求人 井上健太郎
同 市芝區櫻川町二十番地特許辨理士 右代理人 手代木佑壽
同 市淺草區南元町十九番地 被請求人 宅間千吉
同 市京橋區木挽町九丁目七番地特許辨理士 右代理人 稻木繁太郎

右當事者間ノ第五六三二號第五一三四六號商標登錄無效審判請求事件ニ付大正二年七月二十九日當局

ニ於テ爲シタル審決ニ對シ抗告審判請求ヲ爲シタルニ依リ審決スルコト左ノ如シ
主文 原審決ヲ左ノ如ク變更ス

抗告審判請求人所有ノ第五六六三二號及第五一三四六號商標登錄ハ其指定商品中白毛、白髮及赤毛染ニ對シテハ之ヲ無効トス

審判費用ハ原審及當審共抗告審判請求人ノ負擔トス

申立ノ要領 當審請求人ハ原審決ヲ廢棄ス抗告審判被請求人ノ申立相立タス審判費用ハ抗告審判被請求人ノ負擔トストノ審決アリタシト申立テ其理由ノ要領ハ當審請求人ハ當審被請求人ノ被相續人宅間末吉ヲ染髮料製造人トシテ雇入レ而シテ鈴木大吉ヨリ讓受ケタル白髮赤毛染營業ヲ同人名義ト爲シ其經營ヲ一任シタルモノニシテ共同營業ト爲シタルモノニアラス當審請求人單獨ノ營業ナリ從テ其商品ヲ表彰スヘキ商標モ亦當審請求人ニ於テ獨占的使用權ヲ有ス故ニ本件登錄商標ハ商標法第二條第五號ニ該當スルモノニアラスト謂フニ在リ

當審被請求人ハ抗告審判請求人ノ申立相立タス且ツ白毛染ニ付テモ登錄ヲ無効トス抗告審判費用ハ抗告審判請求人ノ負擔トストノ審決アリタシト申立テ其理由ノ要領ハ當審請求人ノ第五六六三二號登錄商標ハ明治四十五年七月二十五日ノ出願ニ係リ第五一三四六號登錄商標ハ同年二月十七日ノ出願ニ係レリト雖出願前ニ於テ同一商標ヲ當審被請求人ノ先代宅間末吉カ白髮染及赤毛染ニ使用シ當審被請求人カ承繼使用シ來リタルモノナリ宅間末吉ハ當審請求人ノ雇人ト爲リシコトナシ假リニ之アリシトストモ宅間末吉カ別ニ自己ノ營業トシテ黑蝴蝶白髮染及赤毛染ヲ製造販賣シタル事實アリ又白髮染及白髮染ハ同一商品ヲ異レル文字ヲ以テ復記シタルニ過キス然ルニ原審決主文ニ於テ白毛染ヲ記セサルハ同一商品ナルカ故ニ復記スルノ要ナシトノ趣旨ナルヘシト雖無効ト爲スヘキ指定商品ノ確然タルコトヲ希望スト謂フニ在リ

ヲ希望スト謂フニ在リ

審決ノ理由 當審請求人ノ先代宅間末吉カ淺草區南元町十九番地ニ於テ明治四十一年十一月ヨリ自己ノ名義ヲ以テ毛髮染料製造販賣ヲ營業シ黑蝴蝶ナル文字ヲ商標トシテ其製品ニ使用シ手廣キ販賣ニ依リテ該商標カ明治四十三年中ニ於テ既ニ需要者間ニ周知セラル、ニ至リタルコト及ヒ同人ノ死亡ニ因リ當審被請求人カ明治四十五年六月五日營業ヲ承繼シ爾來之ヲ繼續セルコトハ甲第一、二號證甲第六號證一、甲第七、八、九號證甲第十號證一、二、三、甲第十一、十二號證及乙第二號證ニ依リ之ヲ認ムルヲ得當審請求人ハ右營業ハ雇人タル宅間末吉ヲ單ニ營業名義人ト爲シタルニ止マリ事實上ニ於テハ當審請求人ノ營業ナリト主張セリト雖證人吉川良治ノ供述ニ依レハ宅間末吉カ當審請求人ノ雇人ト爲リ當審請求人ノ住所ニ於テ毛髮染料ノ製造ニ從事シタル事實アルモ其製品ニハ「るりかつら」ナル商標ヲ使用シテ之ヲ販賣シ末吉ハ別ニ自己ノ住所タル前示ノ場所ニ於テ獨立シテ前示ノ營業爲シタルモノナルコトヲ認ムルヲ得從テ此點ニ關スル請求人ノ主張ハ不當ナリ而シテ當審請求人ノ第五六六三二號登錄商標ハ明治四十五年七月二十五日ノ出願ニ係リ黑蝴蝶ナル文字ヲ記載シテ草花及蝶等ノ附飾ヲ加ヘ第五一三四六號登錄商標ハ同年二月七日ノ出願ニ係リ黑蝴蝶ナル文字ヲ記載シタルモノニシテ之ヲ當審被請求人カ先代ヨリ引續キ使用セル前示ノ商標ニ比スルニ蝴蝶ト胡トノ文字ノ相違及附飾ノ有無ノ相違アルニ止マリ孰レモ類似商標タルコトヲ免レス故ニ其登錄ハ指定商品中ノ白毛、白髮、赤毛染ニ付テハ商標法第二條第五號及第十一條ニ依リ之ヲ無効ト爲スヘキモノトス白毛染ト謂ヒ白髮染ト謂ヒ又ハ赤毛染ト謂フモ孰レモ毛髮染料即チ毛髮ヲ黑色ニ染ムル資料タルニ外ナラス從テ商標法ニ於ケル商品類別上ノ意義ニ於テハ同一商品ニシテ其間ニ區別ヲ爲スヘキモノニアラス
仍テ主文ノ如ク審決ス

大正二年十二月三日於特許局

審判長 特許局事務官 村上隆吉
特許局技師 増島文次郎
特許局事務官 田中鐵二郎

第五百七十五號

姫路市堅町八番屋敷	請求人	杉本小三郎
大阪市東區瓦町一丁目五番地特許辨理士	右代理人	廣井代藏
姫路市中二階町五番地	被請求人	小野宇一郎
同 市堅町三十五番地	同	齋藤新藏
同 市驛前町二番地ノ十二	同	蒲田吉藏
同 市豆腐町三百四十四番地ノ一	同	辰巳源次

右齋藤新藏、辰巳源次、蒲田吉藏
代 理 人 山 内 香
大阪市南區順慶町四丁目七十三番地特許辨理士

右當事者間ノ第四七四九號商標登錄無效審判請求事件ニ付大正二年七月二十九日當局ニ於テ爲シタル審決ニ對シ抗告審判請求ヲ爲シタルニ依リ審決スルコト左ノ如シ
主文 抗告審判被請求人小野宇一郎ノ本件審判請求ハ之ヲ却下ス
審判費用中小野宇一郎ノ爲ニ生シタル費用ハ同人ノ負擔トス

前二項ノ外抗告審判請求人ノ申立相立タス
抗告審判費用ハ抗告審判請求人ノ負擔トス
申立ノ要領 當審請求人ハ原審決ヲ破毀シ抗告審判被請求人ノ請求ヲ排斥シ審判費用及抗告審判費用ハ抗告審判被請求人ノ負擔トストノ審決アリタシト申立テ其理由ノ要領ハ第一、本件審判請求ハ却下セラルヘキモノナリ即チ(一)當審被請求人ハ本件審判請求ヲ爲スニ付利害關係ヲ有セス從テ其ノ請求ハ不適法ナリ(二)當審被請求人中小野宇一郎ハ明治三十七年二月五日出生ニシテ審判請求ヲ代理人ニ委任シタル大正二年三月十二日ニ於テハ年齡僅カ十歳ナルヲ以テ行爲能力ヲモ訴訟能力ヲモ有セス從テ其審判請求ハ不適法ナリ第二、原審證人岡部龜吉ノ供述ハ總テ決定的ノ言辭ヲ用ヒスシテ推定のノ言辭ヲ用ヒ信憑シ難キノミナラス其證言セル如ク各種ノ異リタル菓子ニ當業者ノ各人カ城ノ商標ヲ使用シタリトハ如何ニシテモ信スルヲ得ス原審證人福岡吉太郎ノ供述モ亦矛盾多クシテ信シ難シト謂フニ在リ當審被請求人齋藤新藏、蒲田吉藏及辰巳源次ハ抗告審判請求人申立相立タス抗告審判費用ハ抗告審判請求人ノ負擔トストノ審決アリタシト申立テ其理由ノ要領ハ第一、本件商標ノ指定商品ト同一ナル商品ヲ製造販賣スル當審被請求人ハ何レモ本件商標專用權ニ依リテ制限セラレ且本件商標ハ登録出願前ヨリ現今ニ至ルマテ當審被請求人其他同業者一般ニ慣用スル商標ナルヲ以テ當審被請求人等ハ本件登録ニ對シ利害關係ヲ有ス又小野宇一郎カ未成年者ナル爲メ其審判請求カ不適法ナリト假定スルモ共同當事者ノ行爲ノ效力ニ影響ナシ第二、證人岡部龜吉ノ供述ノ趣旨ハ特種ノ菓子ノミニ限ラス且誰彼ノ差別ナク城ノ商標ヲ使用シタリト謂フニ在ルコト明白ナリ又證人福岡吉太郎ノ供述ニハ矛盾ノ廉ナシト謂フニ在リ
當審被請求人小野宇一郎ハ答辯書ヲ提出セス